

102号ピット (S P 1102) (第164図)

190は土師質土器の小皿である。口縁部は外反し、内外面は回転ナデが施されている。摩滅が激しく流れ込みと思われる。

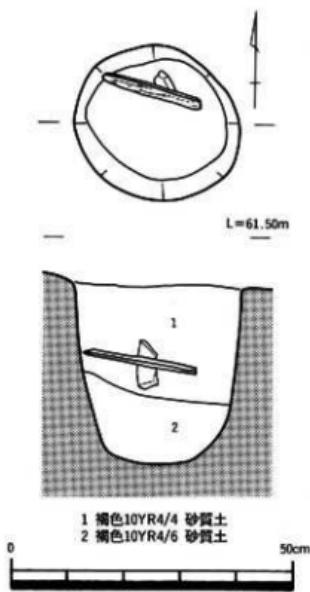
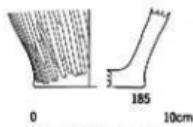
191はサヌカイト製の石鐵である。基部を欠損し、縁辺部に粗い調整加工を施している。両面ともに1次剥離痕を残している。

122号ピット (S P 1122) (第164図)

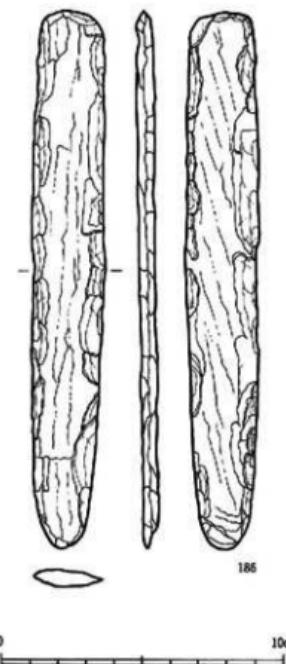
192は壺形土器の底部である。底部は上げ底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。体部外面はタテナデ、内面はヨコナデで調整される。

131号ピット (S P 1131) (第164図)

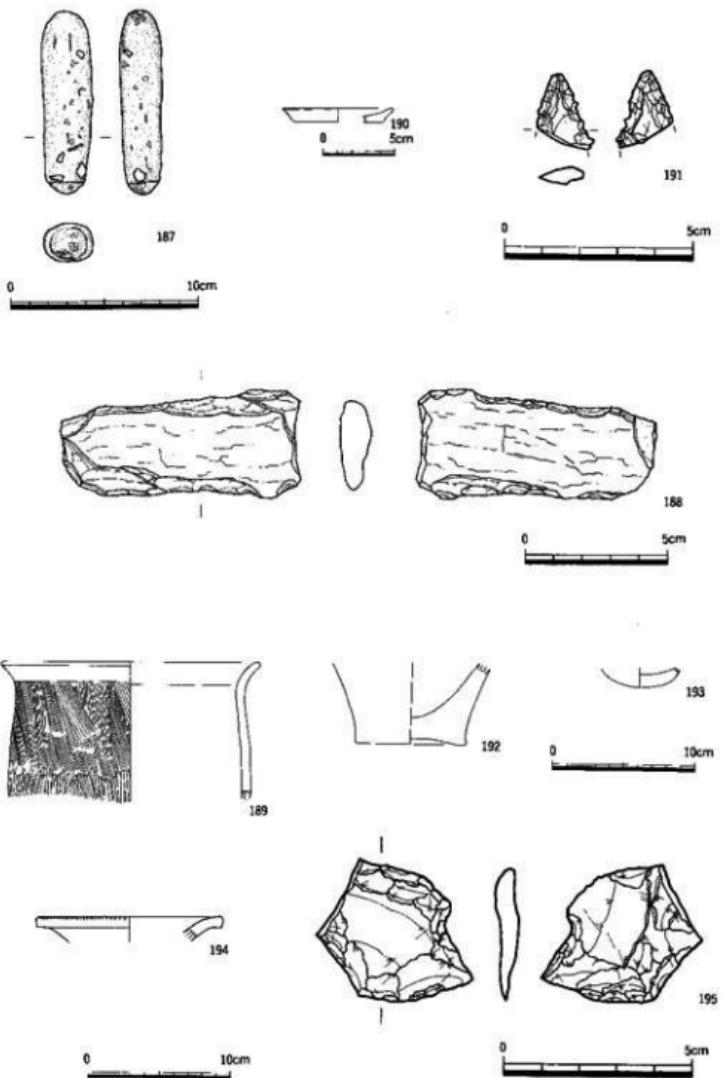
193は高杯の杯部底面の円板か、鉢の底部と思われる。



第162図 S P 1029実測図



第163図 S P 1029出土遺物実測図



第164図 柱穴出土遺物実測図(1)

153号ピット (S P 1153) (第164図)

194は壺形土器の口縁部の破片である。口縁端部は方形におさめ、端面上部に刻目文を施す。口縁部は頭部より緩やかに外反しながら立ち上がる。口縁部内外面はヨコナデで調整する。

158号ピット (S P 1158) (第164図)

195はサヌカイト製のスクレイパーと思われる。薄手の横長剝片を素材として用い、下端部に調整加工を施し刃部を作出している。形状からドリル未製品とも考えられる。

184号ピット (S P 1184) (第165図)

196は結晶片岩製の打製石庵丁である。薄手の剝片を素材として用い、両側縁両面に調整加工を施し刃部を作出している。

195号ピット (S P 1195) (第165図)

197は結晶片岩製の石縁である。素材として薄手の剝片を用いる。下縁部に抉りが認められる。一方の端辺を欠損している。

230号ピット (S P 1230) (第165図)

198はサヌカイト製の石鐵である。縁片には粗い調整加工を施し、基部に抉りは認められない。最大幅は体部上位にきており、凸基式と思われる。

264号ピット (S P 1264) (第165図)

199はサヌカイト製の石鐵の未製品である。縁辺部に粗い調整加工を施し、1次剝離痕が両面に残存している。

383号ピット (S P 1383) (第165図)

200は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は外唇しながら立ち上がる。外面はタテハケメ、内面はタテナデで調整される。

449号ピット (S P 1449) (第165図)

201は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ちあがる。外面はタテヘラミガキで調整される。

462号ピット (S P 1462) (第165図)

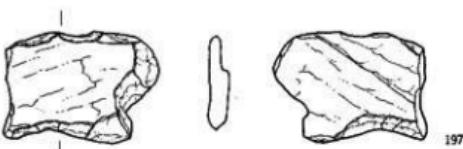
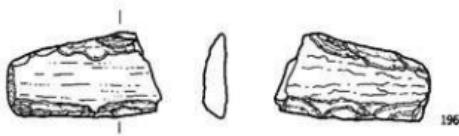
202は壺形土器の底部である。底部は上げ底を呈し、体部中位に向かい直線的に立ち上がる。外面はタテナデ、内面は指頭圧痕で調整される。

478号ピット (S P 1478) (第166図)

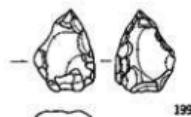
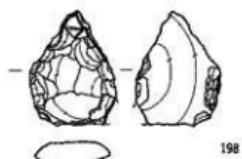
203は劔鉢車である。中央部は貫通した円孔が認められる。

481号ピット (S P 1481) (第166図)

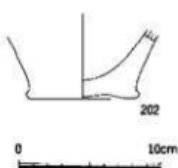
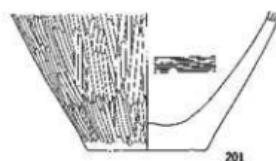
204は結晶片岩製のリタッヂド・フレイクと思われる。上部は欠損している。下部は研磨痕が認められる。



0 5cm



0 5cm



第165図 柱穴出土遺物実測図(2)

**482号ピット (S P 1482) (第166図)**

205はサヌカイト製の石鎌である。側縁部に調整加工を施し、1次剥離痕が両面に残る。基部に抉りは見られず、最大幅は基部の近くにあり凸基式と思われる。

**603号ピット (S P 1603) (第166図)**

206は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。

**688号ピット (S P 1688) (第166図)**

207は剥片である。石材はサヌカイトを使用している。背腹両面はネガティブな剥離面で構成されている。背面は一部自然面が残存している。

**780号ピット (S P 1780) (第166図)**

208は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がっている。体部外面はタテヘラミガキ、内面はタテナデで調整されている。

**887号ピット (S P 1887) (第166図)**

209は壺形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。調整は体部外面がタテナデ、内面はヨコナデである。

**890号ピット (S P 1890) (第167図)**

210は壺形土器の底部である。底部は平底を呈している。

211は紡錘車である。形状は方形状を呈し、中央部には貫通した円孔が認められる。外面には櫛描直線文が施されており、土器からの転用品と思われる。

**940号ピット (S P 1940) (第166図)**

212は壺形土器の破片である。口縁端部は上下に拡張し、口縁部は「く」の字状に外反する。端面は2条の凹線文を施す。口縁部は内外面ヨコナデで調整される。

**123号ピット (S P 10123) (第166図)**

213は壺形土器の口縁部の破片である。口縁端部を方形におさめ、口縁部は緩やかに外方に屈曲する。外面はヨコナデ、内面はタテナデで調整される。

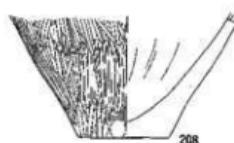
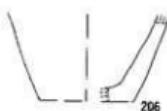
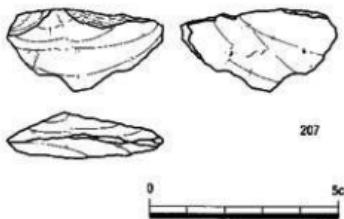
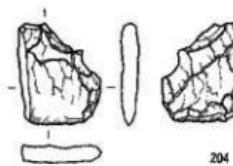
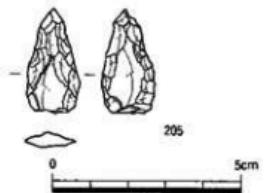
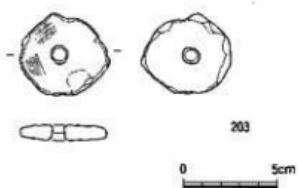
**136号ピット (S P 10136) (第167図)**

214は結晶片岩製の打製石庖丁である。薄手の剥片を素材として用い、両側縁両面に粗い調整加工を施し、刃部を作出している。短部に抉りは認められない。

**484号ピット (S P 10484) (第166図)**

215は壺形土器体部の破片である。体部外面には簾状文、竹管文2条が施されている。竹管文以下はヨコハケメで調整される。

216は壺形土器口縁部の破片である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部は緩やかに外方に屈曲する。



第166図 柱穴出土遺物実測図(3)

**487号ピット (S P 10487) (第167図)**

217は紡錘車である。形状は円形を呈し、中央部には円形の穿孔が施されている。

**491号ピット (S P 10491) (第167図)**

218は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。下半部を欠損している。研磨痕が全面に施される。

**534号ピット (S P 10534) (第168図)**

219は結晶片岩製の打製石庖丁である。薄手の剝片を素材とし、両側縁両面に調整加工を施し、刃部を作出している。

**573号ピット (S P 10573) (第168図)**

220はサヌカイト製の石鎌である。縁辺部に粗い調整加工を施している。裏面に1次調整痕が残存している。

**632号ピット (S P 10632) (第168図)**

221はサヌカイト製の石鎌である。縁辺部に粗い調整加工を施し、1次調整痕が残存している。最大幅は基部に近く凸基式と思われる。

222はサヌカイト製の楔形石器である。形状は三角形状を呈し、両側縁には裁断面が認められる。

223は菱形土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。体部外表面はタテヘラミガキ、内面はタテナナで調整される。

**661号ピット (S P 10661) (第168図)**

224は菱形土器の口縁部の破片である。口縁端部は方形におさめる。口縁部は緩やかに外方に傾いている。口縁部は内外面ヨコナナで調整する。

225は菱形土器の口縁部の破片である。口縁端部は方形におさめ、口縁部は外方に屈曲している。体部は5条の横描直線文、刺突文が施されている。口縁部内外面ヨコナナ、体部外表面はタテハケメで調整される。

226は菱形土器の口縁部の破片である。口縁端部は丸くおさめる。口縁部は緩やかに外方に屈曲している。

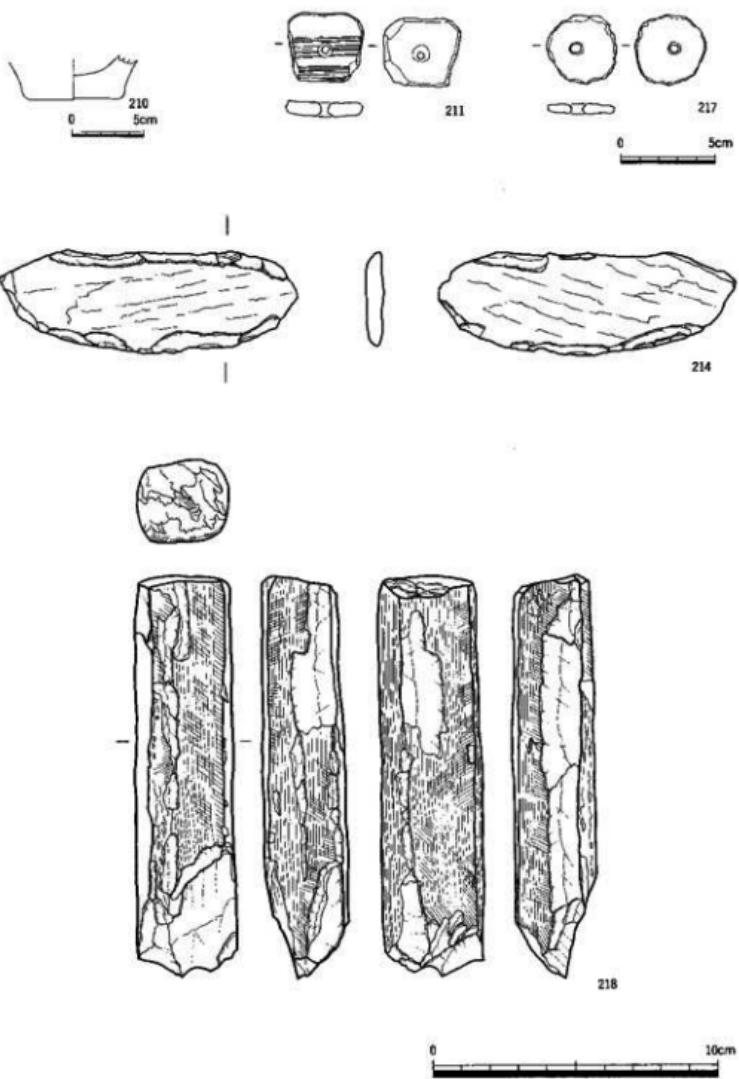
**664号ピット (S P 10664) (第169図)**

227は砂岩製の磨石である。偏平な丸石を素材として用いる。下部は欠損している。両面中央部には、研磨痕が認められる。側縁には敲打痕が施されている。

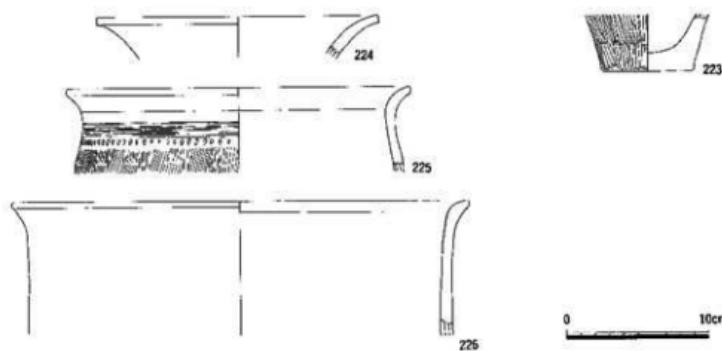
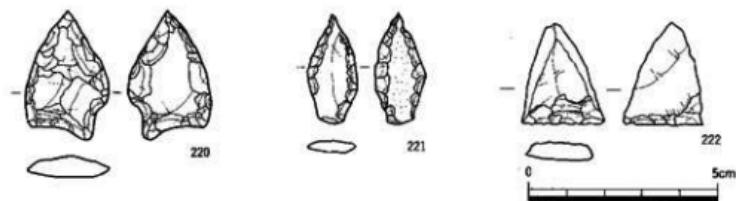
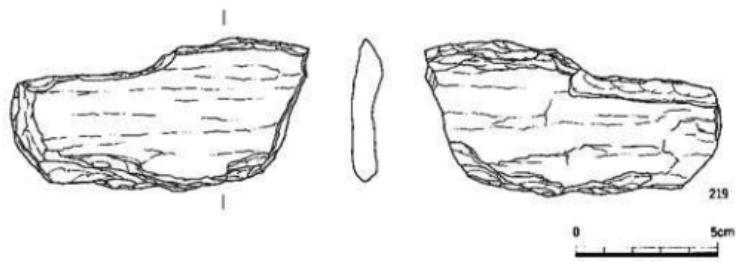
**677号ピット (S P 10677) (第169図)**

228は結晶片岩製の石製品である。薄手の剝片を素材として用いる。両端は欠損している。下縁部の両面に調整加工を施し、刃部を作出している。

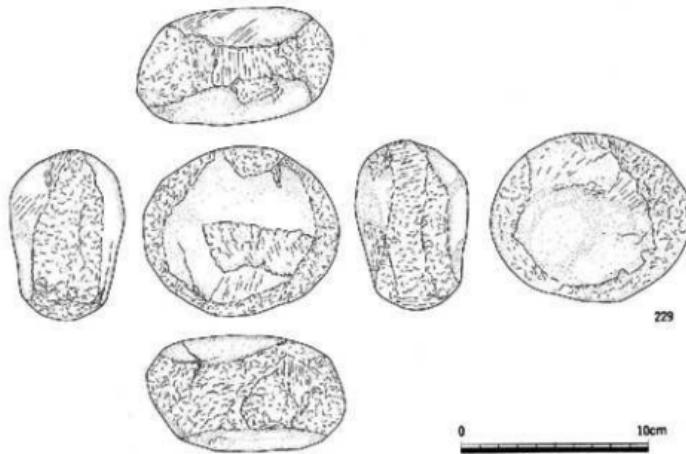
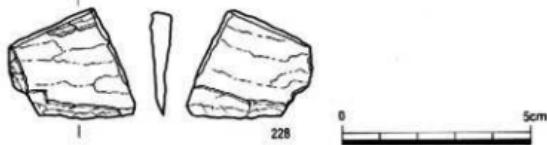
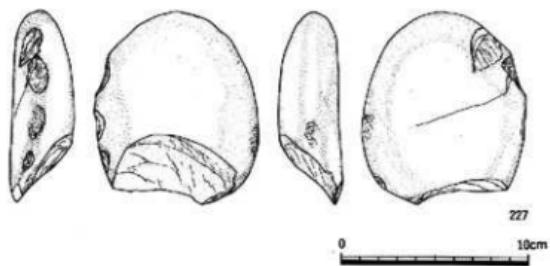
229は砂岩製の叩石である。偏平な丸石を素材として用い、側縁全面と表面に一部敲打痕が認められる。



第167図 柱穴出土遺物実測図(4)



第168図 柱穴出土遺物実測図(5)



第169図 柱穴出土遺物実測図(6)

808号ピット (S P 10808) (第170図)

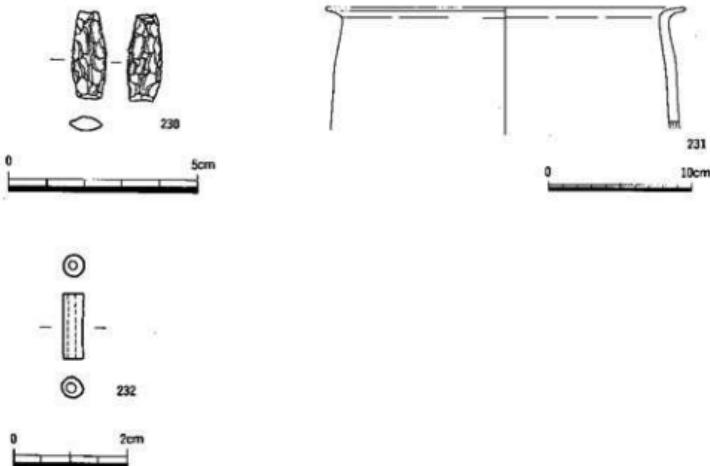
230はサヌカイト製の石製品である。両端部を欠損しており全体の形状は不明である。両面に丁寧な調整加工が施されている。

982号ピット (S P 10982) (第170図)

231は変形土器の口縁部の破片である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反している。

984号ピット (S P 10984) (第170図)

232は緑色凝灰岩製の管玉である。長さ1.15cm、直径0.38cm、孔径0.11cmを測る。形態は細型を呈している。



第170図 柱穴出土遺物実測図(7)

## 包含層出土遺物

### 弥生土器（第171～178図）

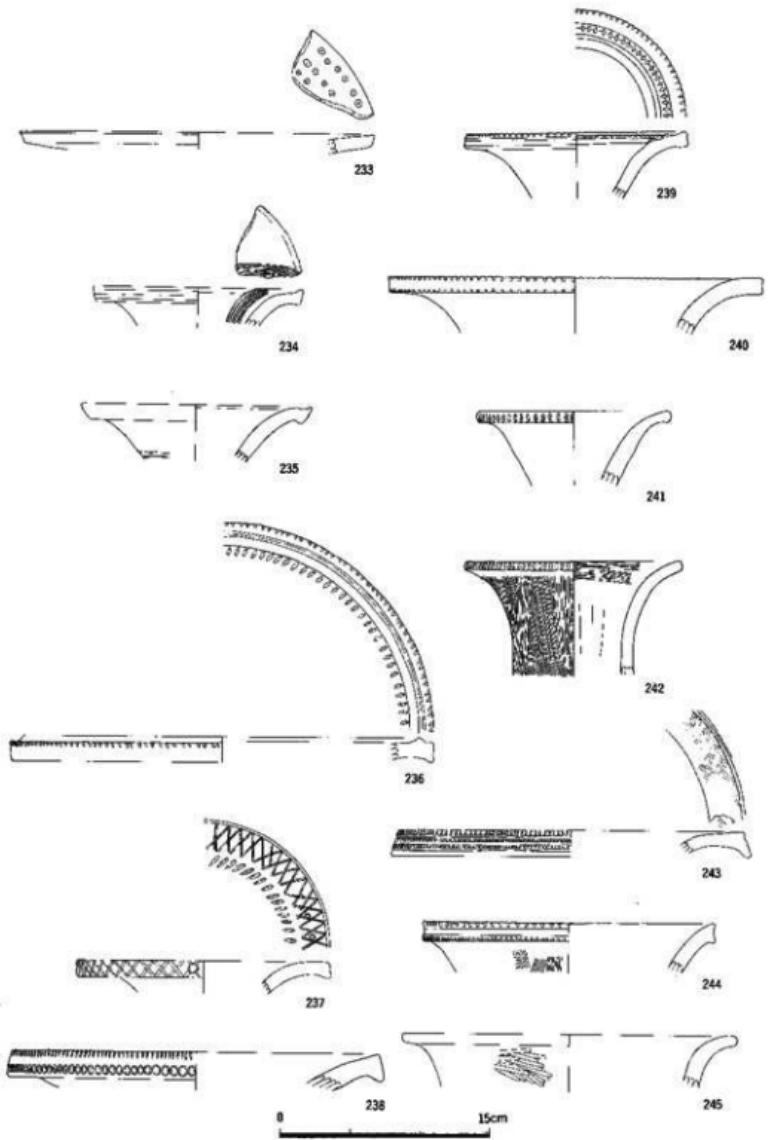
233～270は壺形土器である。233～249・251は筒状の頸部を持ち、口縁部は緩やかに外反する。233は口縁端部を上方にやや拡張し、口縁部内面に竹管文を施す。234～237・239・244は口縁端部を上下に拡張し、234は口縁部内面に櫛描直線文を施す。235は頸部外面に櫛描直線文を施す。236は口縁端部に刻目文、口縁部内面に貼付突帯、刺突文を施す。237は口縁端部に斜格子文と円形浮文、口縁部内面に斜格子文、円孔、刺突文を施す。239は口縁端部上位に刻目文を施し、口縁部内面に貼付突帯刻目文、貼付突帯を施す。244は口縁端部上下に刻目文を施す。238は口縁端部を下方に拡張し、端部上位に刻目文、下位に円形浮文を施す。240・242・247・248・249・251は口縁端部を方形におさめ、240は端部上下端に刻目文を施す。242は端部に刻目文を施す。249は頸部外面に櫛描波状文を4条施す。242・247・248は頸部外面をタテハケメで調整する。241は口縁端部を丸くおさめ、端部に刻目文を施す。243は口縁端部を下方に拡張し、端部に刻目文と凹線文を交互に3条施す。245は口縁端部を丸くおさめ、口縁部外面にヨコヘラミガキを施す。246は口縁端部を上方に拡張し、平坦におさめる。頸部には2条の貼付突帯を巡らし、刻目文を施す。250は口縁部を方形におさめ、屈曲して外方にのびる。252～264は壺形土器の頸部もしくは体部の破片である。252は櫛描波状文を4条施し、体部中位にかけてタテヘラミガキで調整する。253は頸部外面に櫛描直線文、その下に2条の刺突文を施す。254・255は頸部外面に櫛描直線文を施す。256は頸部外面に刺突文を施す。257は体部外面に矢羽根状沈線文を施す。258は体部外面に籠状文、櫛描波状文、櫛描直線文を施す。259は体部外面に櫛描直線文、波状文を施す。260は櫛描直線文と刺突文を交互に施す。261は体部外面に5条の櫛描波状文を施す。262は体部外面に櫛描波状文、櫛描直線文、刺突文を施す。263は頸部外面に指頭圧痕文突帯を2条、264は1条施す。265～270は底部である。265は平底、266～270はやや上げ底を呈する。265・266は体部外面にタテハケメ、267・270はタテヘラミガキで調整される。269は底部に穿孔を持つ。271～299は甕形土器である。271・272は口縁部に貼付突帯を施し、頸部に櫛描直線文を施す。271は口縁端部に刻目文を施す。273～317は口縁部は「く」の字状に外反する。このうち口縁端部は273・274・276・278・279・282・284～291・293～295・297・301～303・306が丸く、275・277・280・281・283・292・296・298～301・304・305・308～310が方形、307は上方にやや拡張し、311～317は上下に拡張する。273・274は頸部に櫛描直線文を施し、274はその下に刺突文を施す。275・276は口縁端部に刻目文、頸部に櫛描直線文、275はその下に刺突文を施す。277～284は口縁端部に刻目文、277・278は頸部に櫛描波状文を施す。304・308は体部中位、305は体部上位に刺突文を施す。

311は頸部外面に指頭圧痕突帯文を施す。314は口縁端部に凹線文を1条、316は2条施す。279・282・284～287は体部外面をタテハケメ、282は体部内面をヨコハケメで調整する。283は体部外面にタテハケメのちタテヘラミガキ、体部内面はヨコハケメで調整する。288・289は体部内外面ヨコハケメで調整する。295は体部外面にタテハケメ、体部内面はヨコヘラミガキで調整する。296・297は体部外面をタテヘラミガキ、頸部内面をヨコヘラミガキで調整する。298は体部内面をヨコヘラミガキで調整する。306・307は体部外向にタテハケメ、306は頸部内面をヨコヘラミガキで調整する。308は体部外面中位以下をタテヘラミガキ、体部内面タテヘラミガキで調整する。309は体部外面タテハケメ、体部内面ヨコヘラミガキで調整する。310は体部内面ヨコヘラミガキで調整する。312は体部内面をヨコヘラミガキで調整する。317は体部外面をヨコハケメで調整する。318～329は底部の破片である。318～321・326・327は平底を呈し、318・319は体部外面にタテヘラミガキ、321はタテハケメで調整する。322～325・328・329は上げ底を呈し、322・324・325は体部外面にタテヘラミガキで調整する。322・325～327は底部に穿孔を持つ。330は鉢形土器である。底部は上げ底を呈し、体部外面はヨコナデ、体部内面はヨコナデ後タテヘラミガキで調整する。331・332は高杯である。331は体部は皿状を呈し、口縁部は垂直に立ち上がる。口縁部には凹線文を2条施し、体部内外面はタテヘラミガキで調整する。333・334は蓋形土器である。333は頂部がへこみ、334は頂部が平坦である。335～349は紡錘車である。336がハケメ、337・338・340～342・346・349がヘラミガキで器面に調整をとどめている。

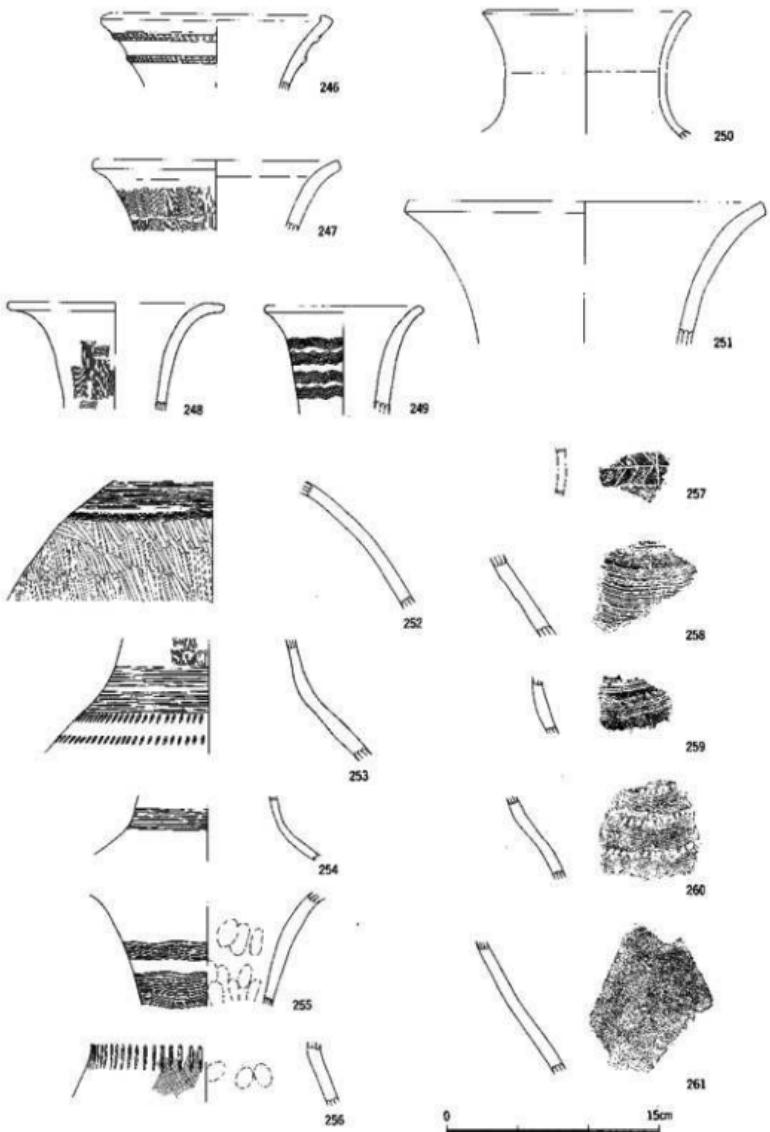
#### 石器（第179～221図）

350～406は石鏃である。石材はすべてサヌカイトを使用している。350～364は平基式である。365～389は凹基式であり、抉りのやや深いもの（369・372・378・379・386・387）と浅いもの（365～368・370・371・373～377・380～385・388・389）に分けられる。390～403は凸基式である。基部の短いもの（390～393・402）と基部の長いもの（394～401・403）に分けられる。403～406は有茎式の石鏃である。406は復元長3cmを越える大形のものと思われる。407～425はスクレイバーである。石材は407～423がサヌカイト、424・425は結晶片岩を使用している。主に横長剣片を素材として使用し、407～412・415～419・421～425が両面調整、413・414・420が片面調整により刃部を作出している。407・408・410・413・416～418・421～423は他の側縁にも調整痕が認められる。426～450は楔形石器である。石材は全てサヌカイトを使用している。426・429～432・436・437・439・440・445～449は一側縁に裁断面を持ち、427・428・433～435・438・444・450が二側縁に裁断面を持つ。下辺は両極打法により刃部を作出している。451・452はサヌカイトを石材として使用する石槍である。一次剥離痕を残すが両側面に丁寧に両面調整加工を施している。下部は欠損している。453・454は石劍

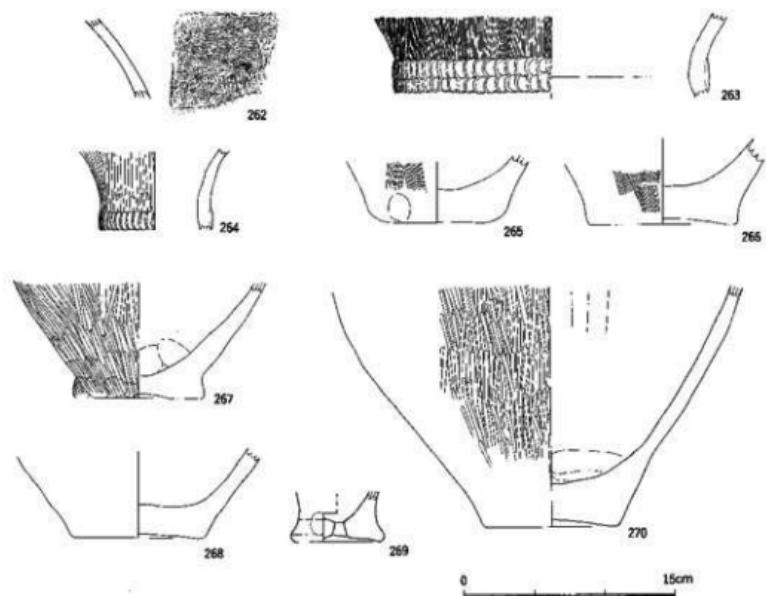
である。石材は結晶片岩を使用し、両面に丁寧な研磨痕を施している。刃部は側縁に両面調整を行った後研磨を施し作出している。下部は欠損している。455～551は石刀丁である。石材は455～549・551が結晶片岩、550がサヌカイトを使用している。455・470・471・478～480・510・511以外は全て欠損品である。抉りのない455～471・472～478・482・483・486～496・499～508と抉りのある479～481・484・485・509～523に分かれる。いずれも薄手の剝片を素材とし、一側縁に調整加工を加え刃部を作出している。550は一側縁に調整加工を加え、端部に抉りを持つ。551は片側に研磨痕を持ち、一側縁に調整加工を加え刃部を作出している。形状より磨製石斧の破損品の再利用と思われる。552～555は石鎌である。石材は552がサヌカイト、553～555は結晶片岩を利用している。552・553・555は両側縁に両面調整加工を施している。554は両側縁に片側より調整加工を施している。556・558は小形方柱状片刃石斧である。石材は全て結晶片岩を利用している。前面は長軸方向の擦痕、他の側面は斜行するものが認められる。556は体部に抉りを施している。557・559・560・564・565は柱状片刃石斧である。557以外は欠損品である。557は長軸方向の擦痕を主とするが、側縁に一部斜行するものが認められる。559は前面と側面に長軸方向と斜行する擦痕が認められる。側縁に自然面を残す。560は側縁に長軸方向の擦痕を施す。564は側縁に長軸方向の擦痕を施す。前面と背面には自然面と一部調整痕が認められる。565は全面に長軸方向の擦痕を施し、一部調整痕が認められる。561～563は太形船刃石斧である。全て欠損品である。石材は561がハンレイ岩、他は片岩が使用されている。561は下部に敲打痕が認められる。562は前面と側面に研磨痕、側縁には敲打痕が認められる。563は前面に敲打痕が認められる。566～569は扁平両刃石斧である。石材は全て結晶片岩が使用され、568以外は全面に研磨痕を施し刃部を作出している。570は環状石斧である。石材は結晶片岩を使用している。側縁に一部敲打痕を残している。571～574は円柱状石斧である。全て欠損品である。石材は571～573は結晶片岩、574はサヌカイトを使用している。両側縁両面調整により形を整えている。575～582は小形円柱状石斧である。575～581は結晶片岩、582はサヌカイトを石材として使用している。全て欠損品であるが、577～579は全面に研磨が施され、575・580～582は刃部を研磨により作出している。583は石鎌で、石材は結晶片岩を使用している。両面調整加工により刃部を作出している。584～586は石錐である。584・585は完形品、586は上下縁部を欠損している。石材はサヌカイトを使用し、丁寧な調整加工を施し刃部を作出している。587～592は叩石である。587がチャート、588は結晶片岩、他は砂岩を石材として使用している。側縁部には敲打痕が認められる。593～601は砥石である。石材は593・594・596・599～601が砂岩、595・597・598が結晶片岩を使用している。全ての石器に表裏2面の研磨痕が認められる。593・598・600は側縁部に敲打痕が認められる。



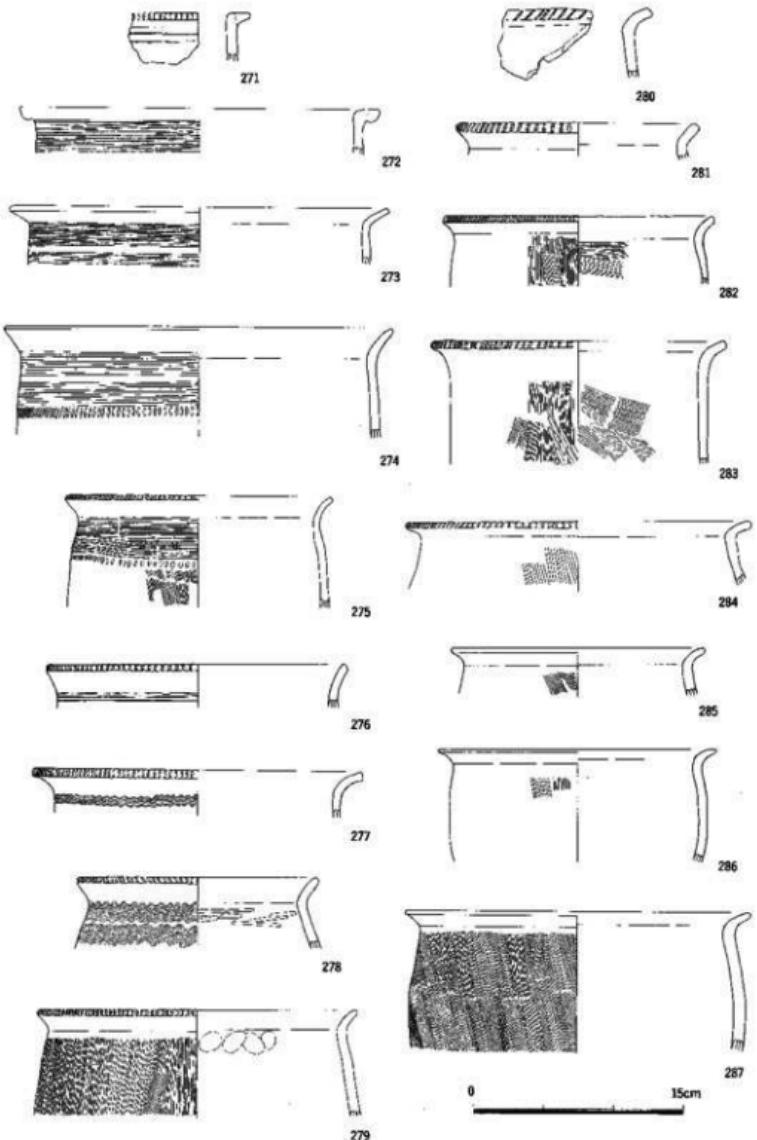
第171図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



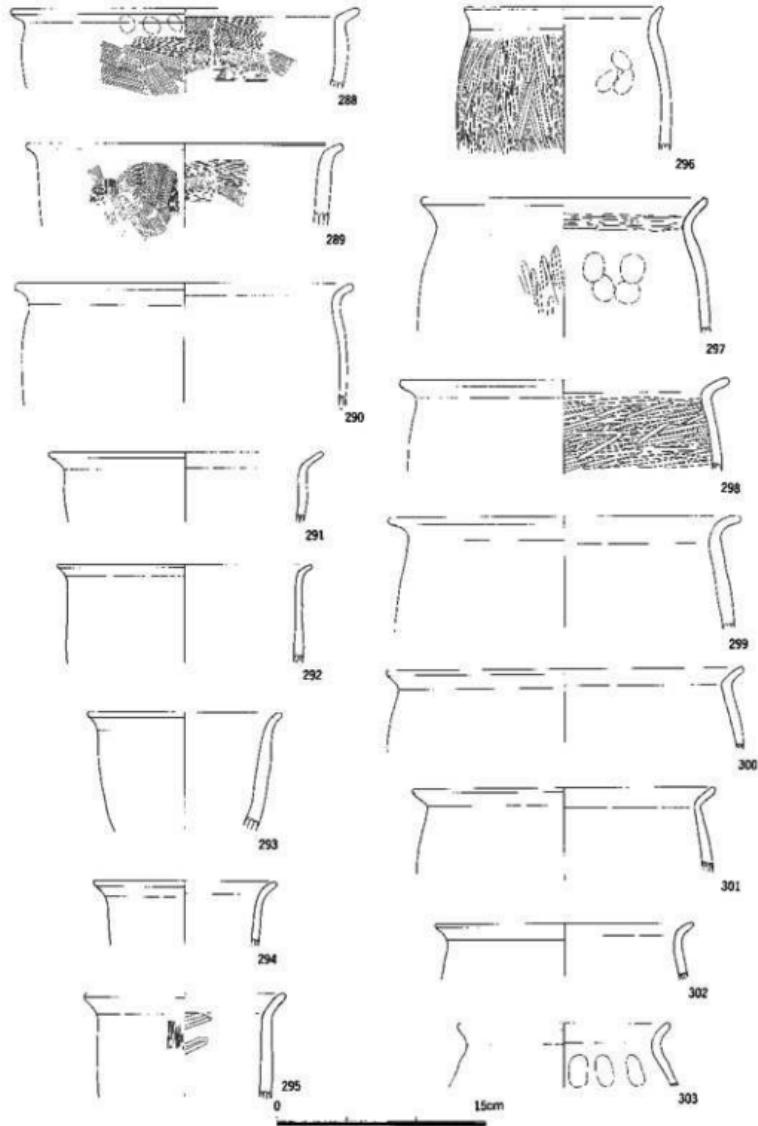
第172図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



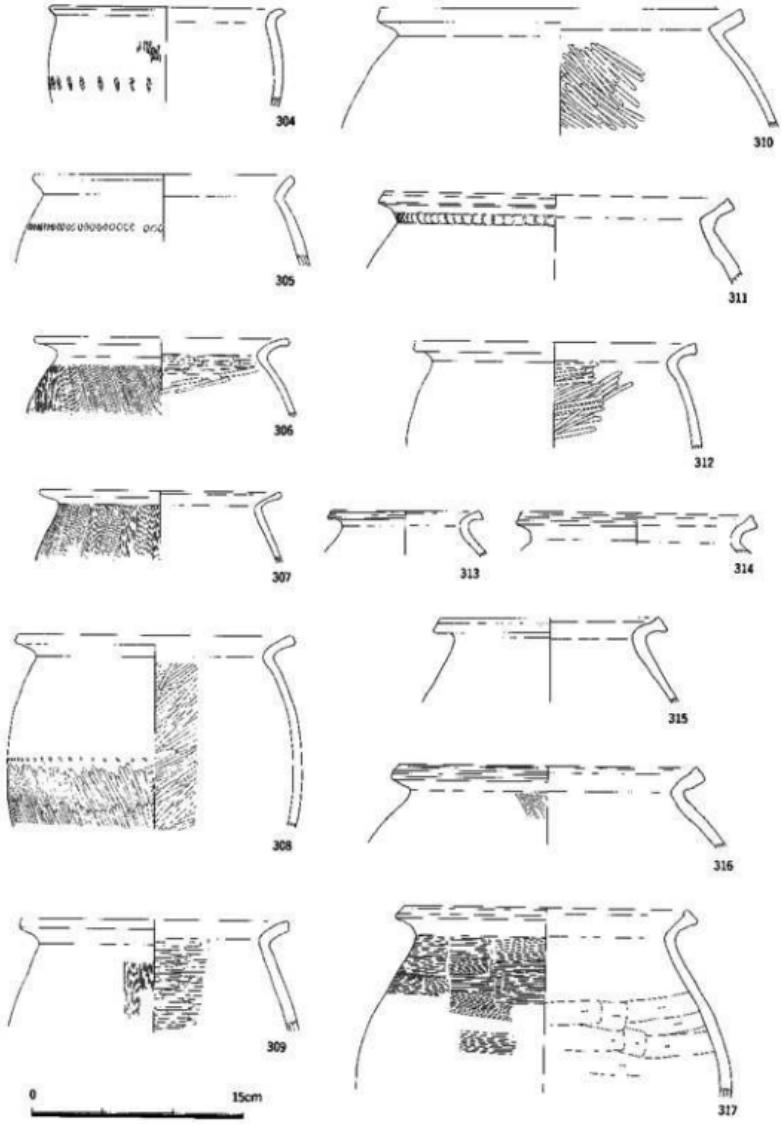
第173図 遺物包含層出土遺物実測図(3)



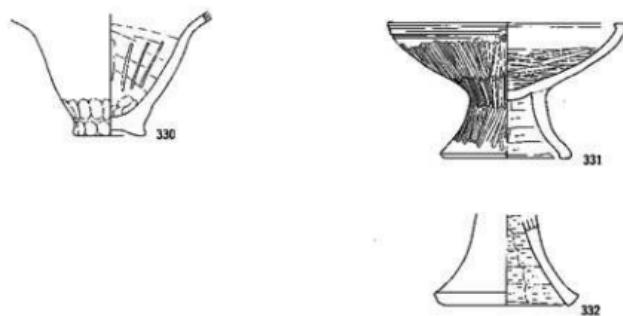
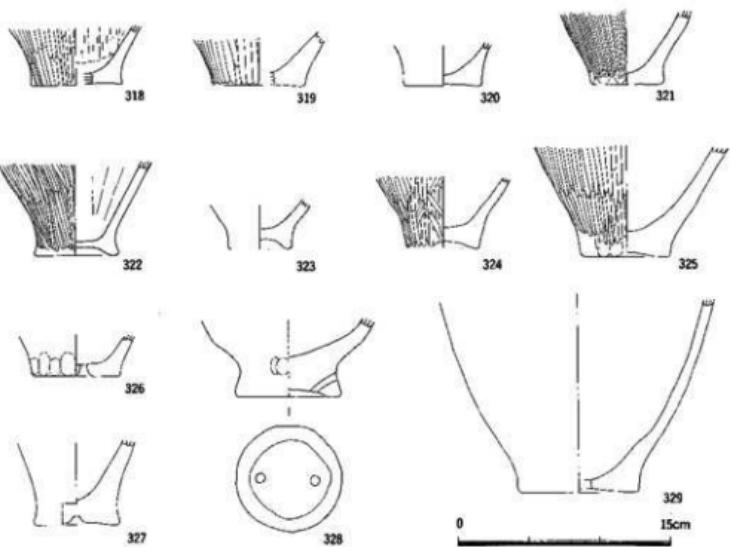
第174図 遺物包含層出土遺物実測図(4)



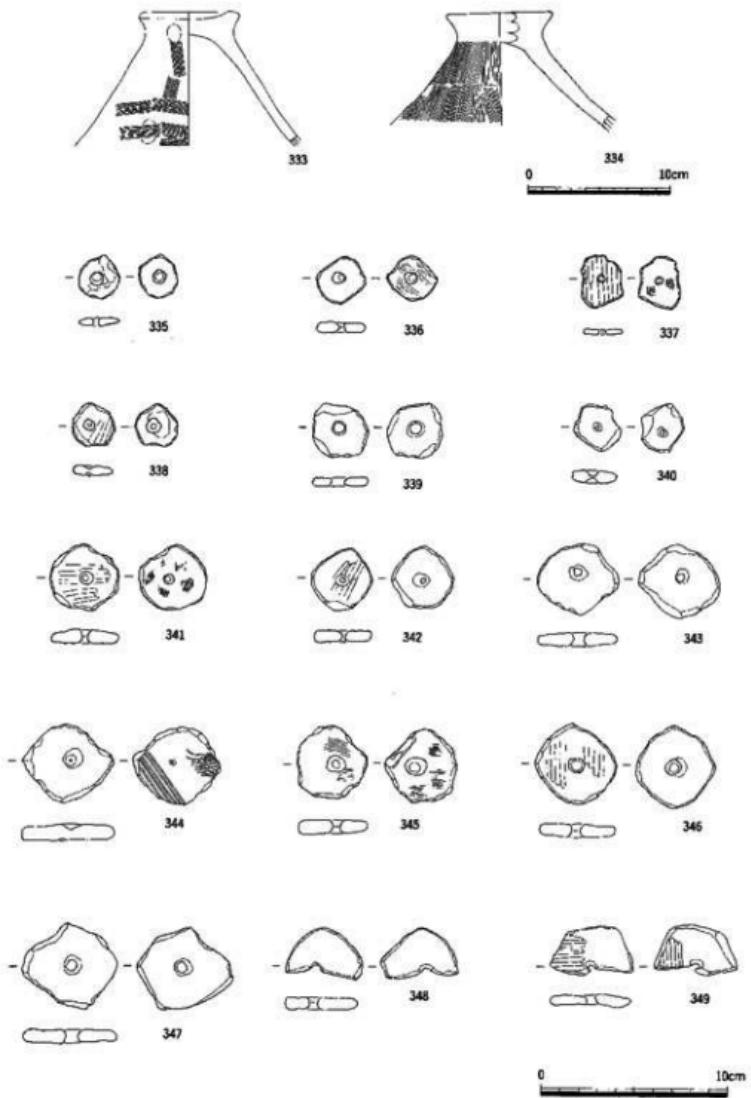
第175図 遺物包含層出土遺物実測図(5)



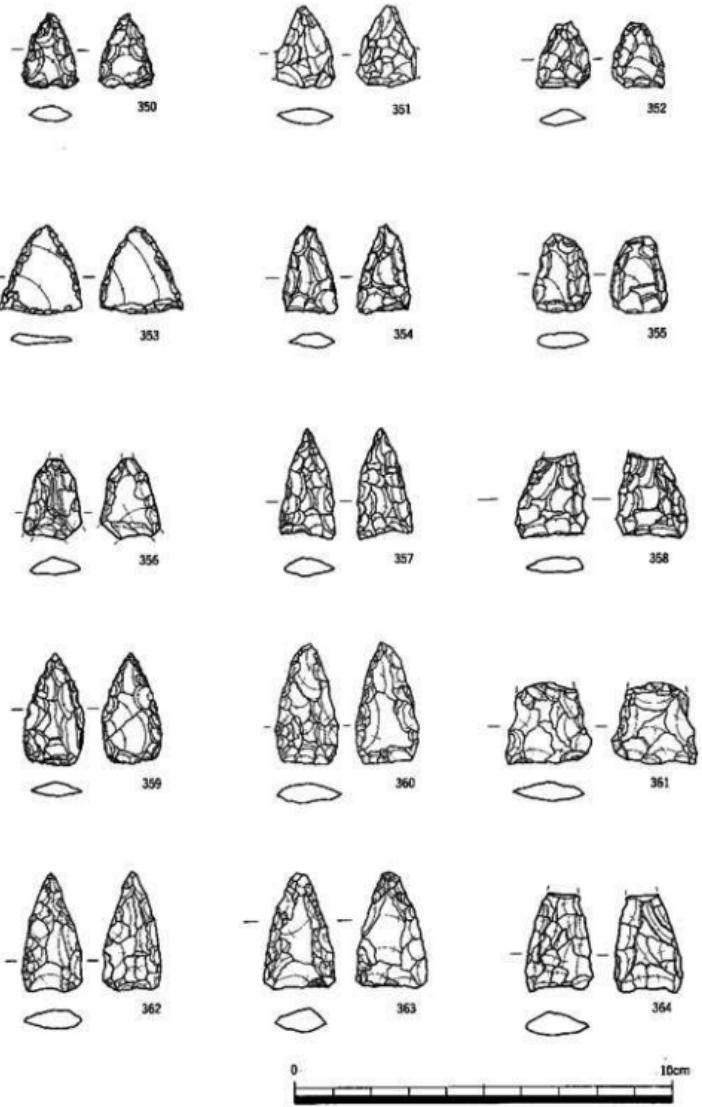
第176図 遺物包含層出土遺物実測図(6)



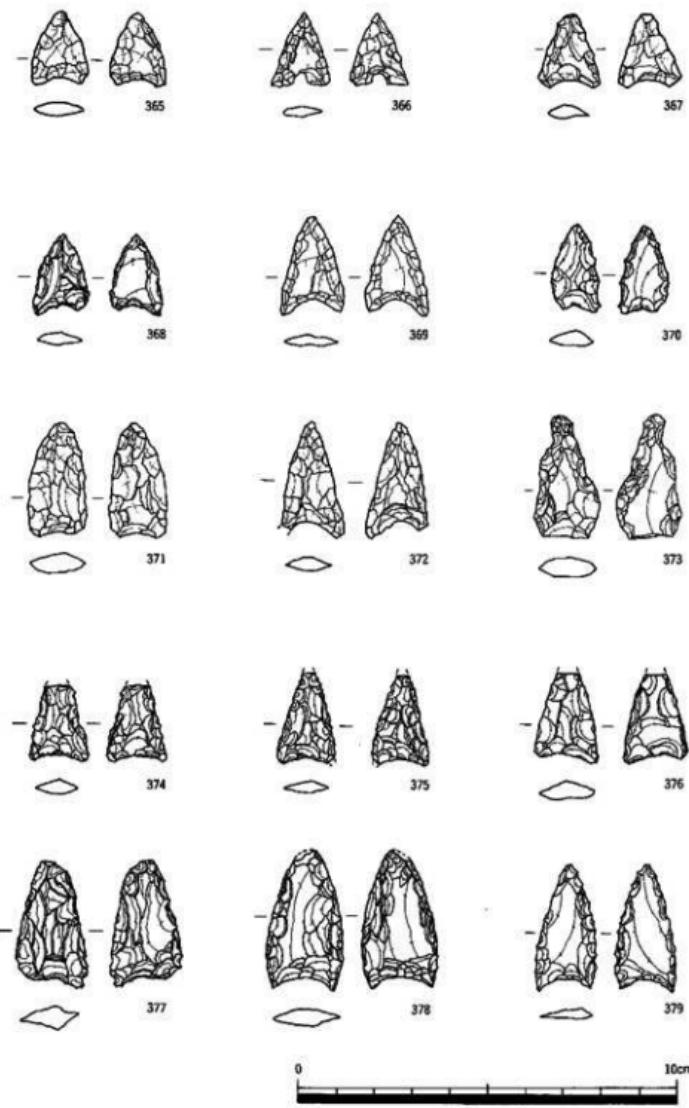
第177図 遺物包含層出土遺物実測図(7)



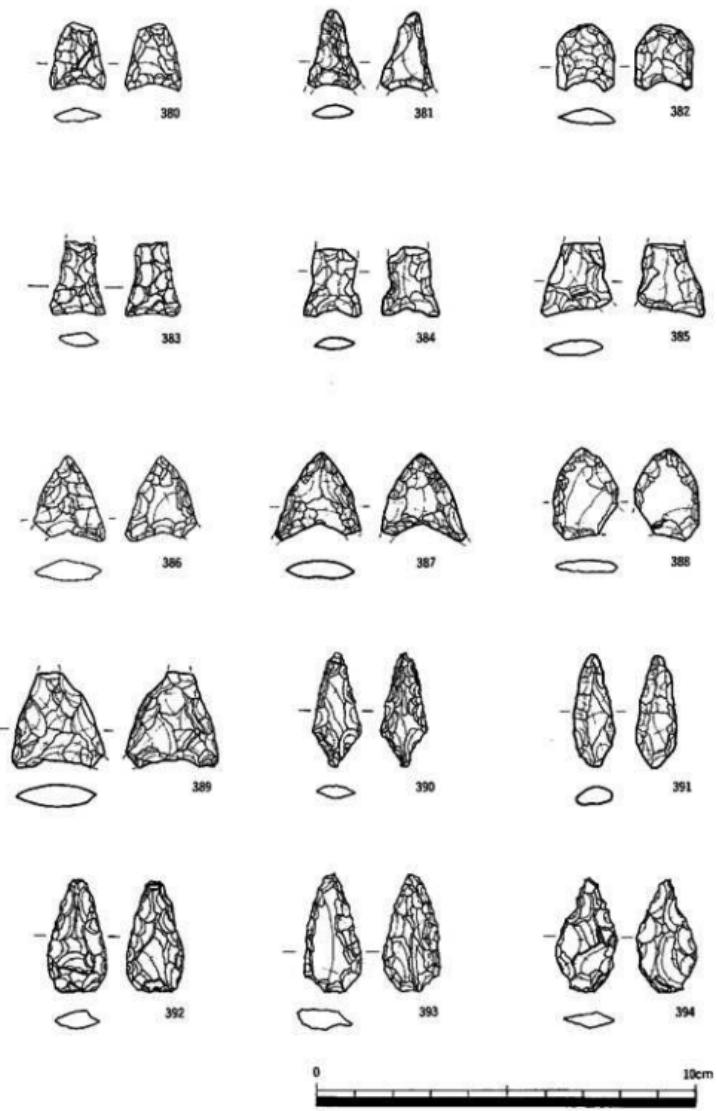
第178図 遺物包含層出土遺物実測図(8)



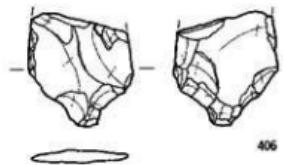
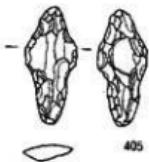
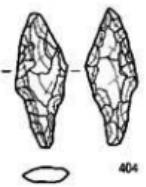
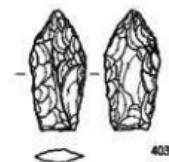
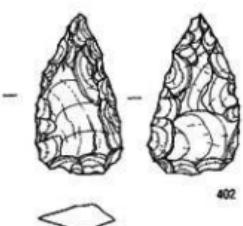
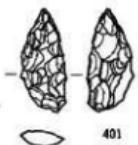
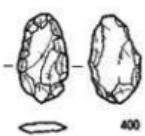
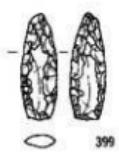
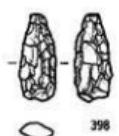
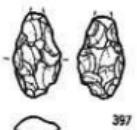
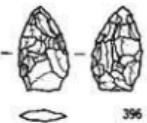
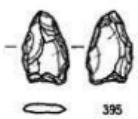
第179図 遺物包含層出土遺物実測図(9)



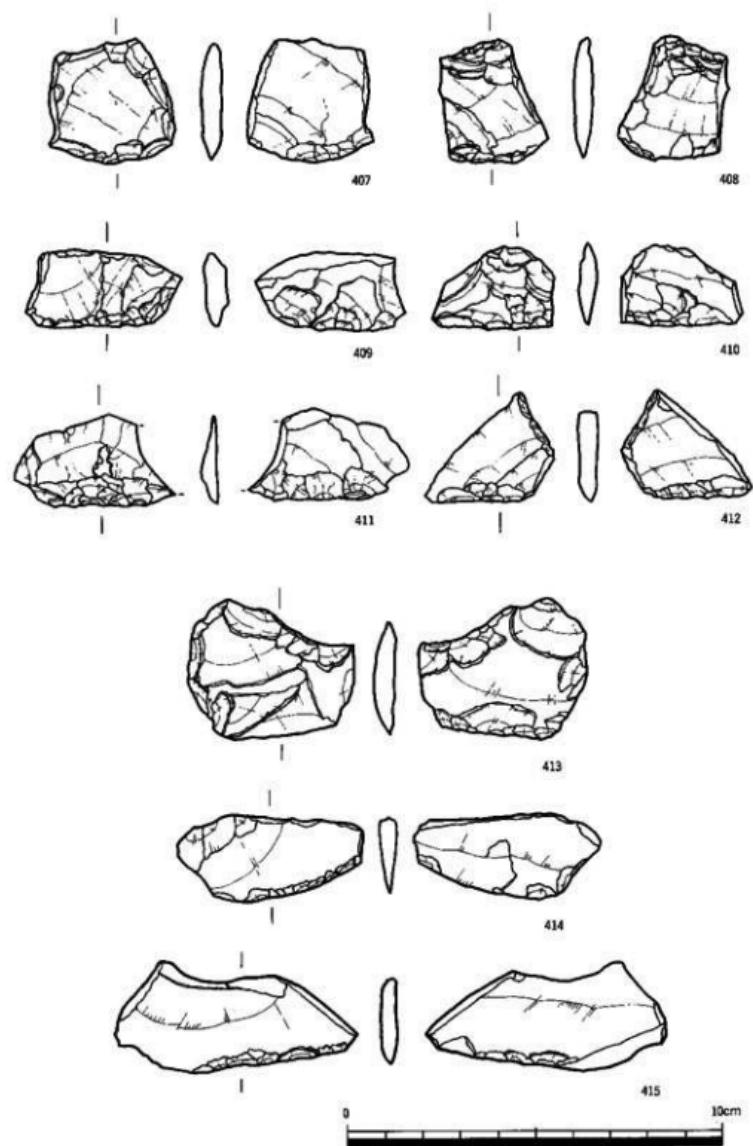
第180図 遺物包含層出土遺物実測図(10)



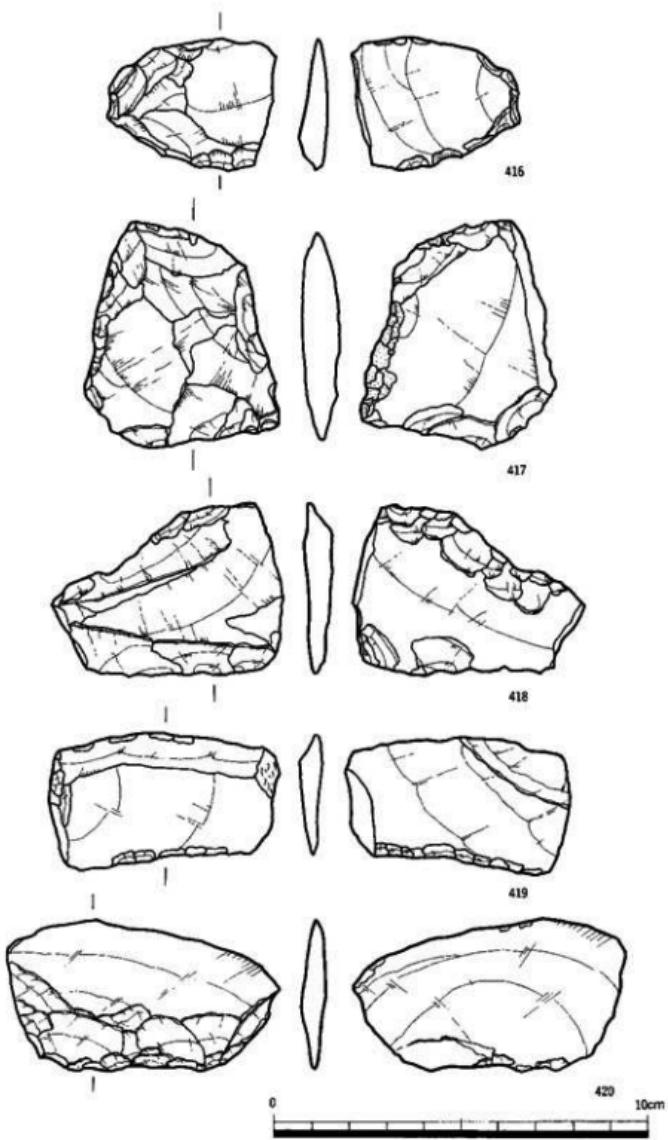
第181図 遺物包含層出土遺物実測図(II)



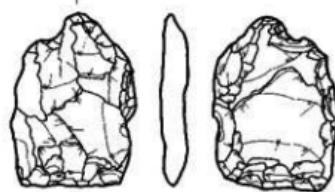
第182図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



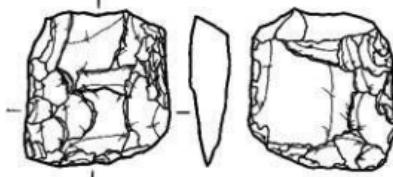
第183図 遺物包含層出土遺物実測図(3)



第184図 遺物包含層出土遺物実測図(4)



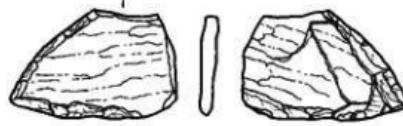
421



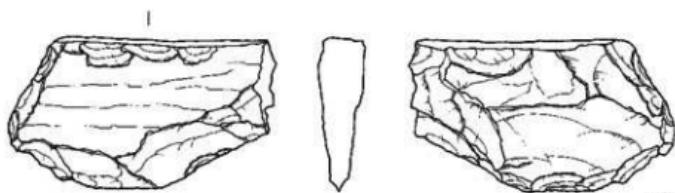
422



423



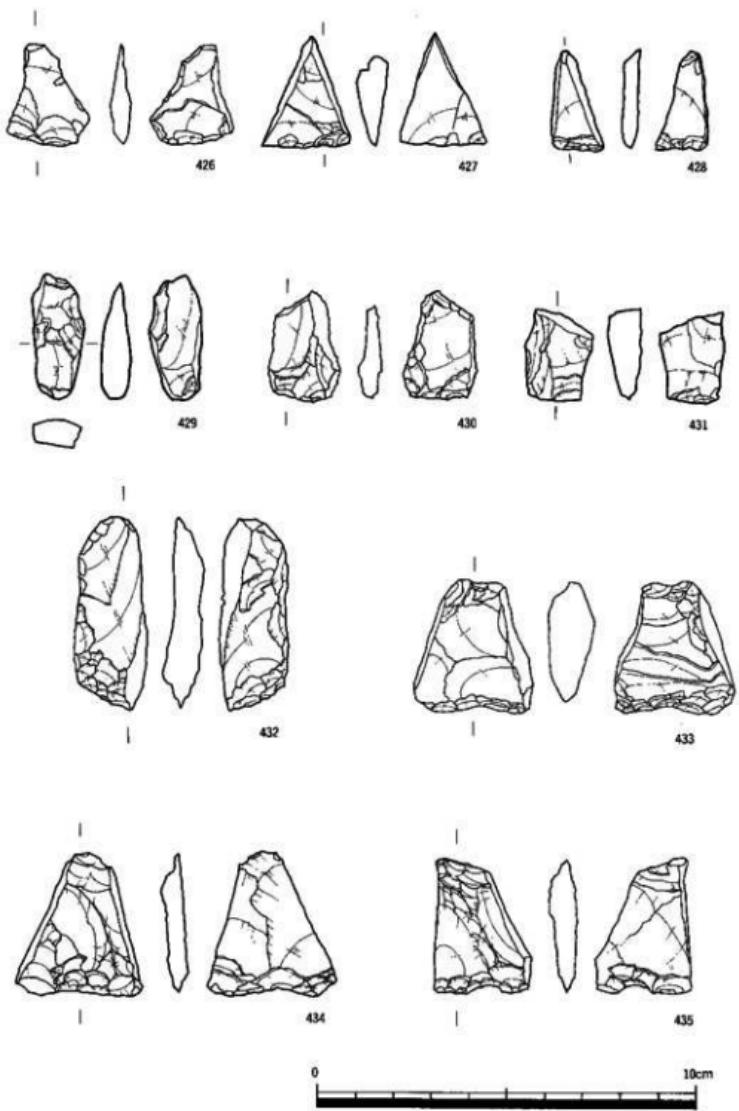
424



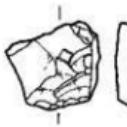
425



第185図 遺物包含層出土遺物実測図15



第186図 遺物包含層出土遺物実測図10



436



437



438



439



440



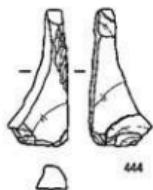
441



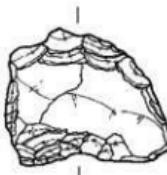
442



443



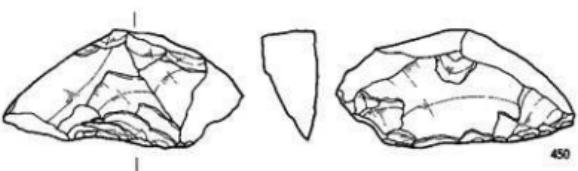
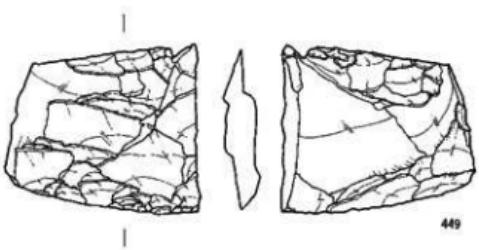
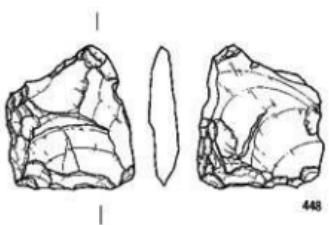
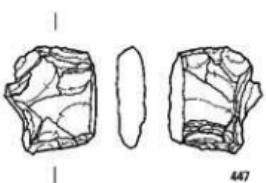
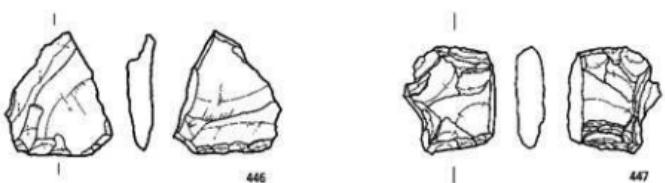
444



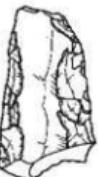
445



第187図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



第188図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



451



452

0

10cm



453

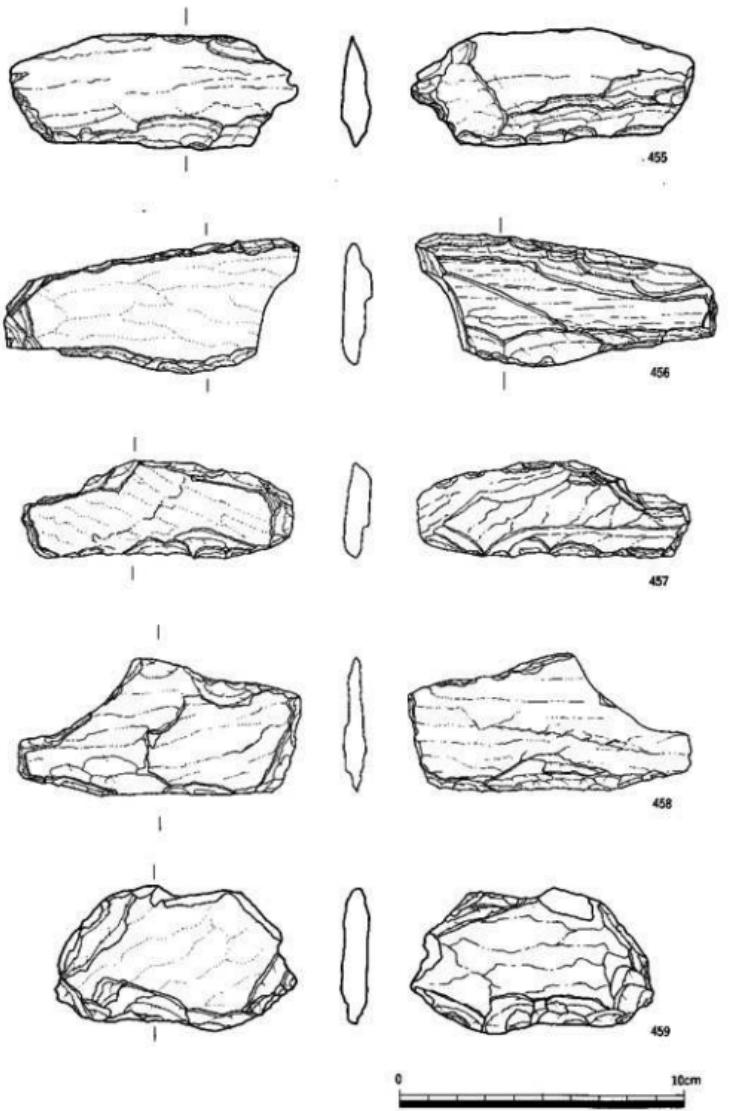


454

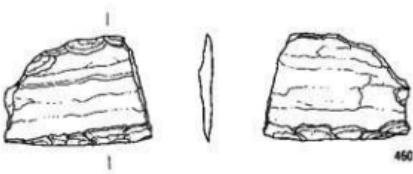
0

10cm

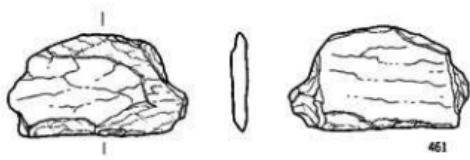
第189圖 遺物包含層出土遺物実測図19



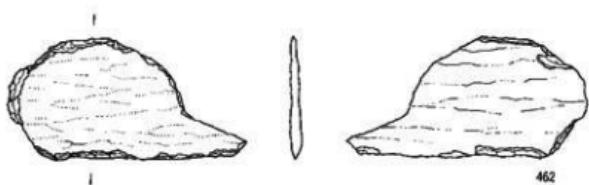
第190図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



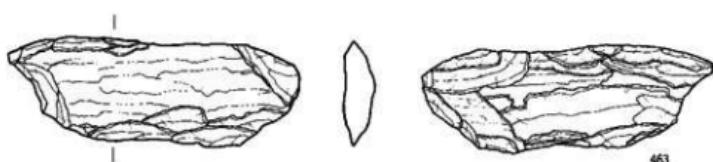
460



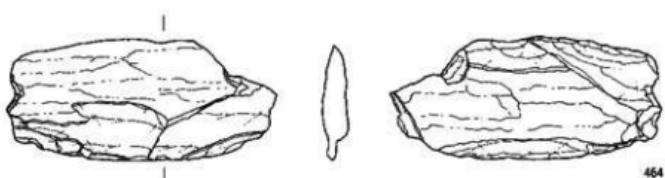
461



462



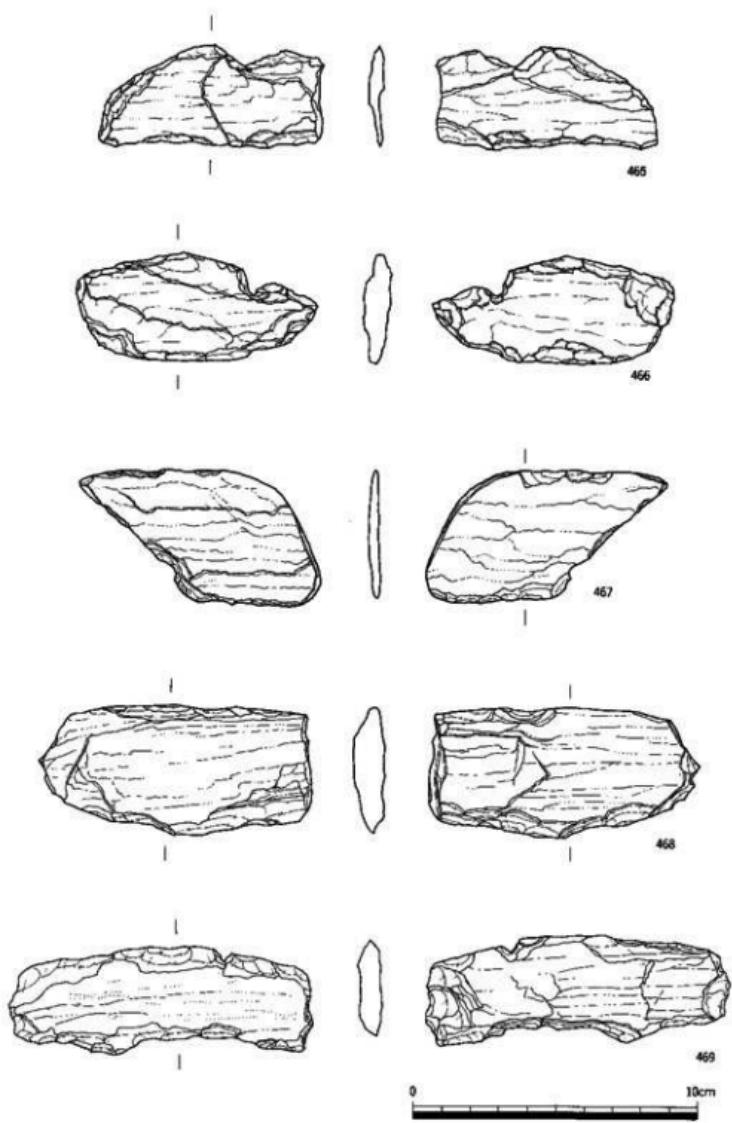
463



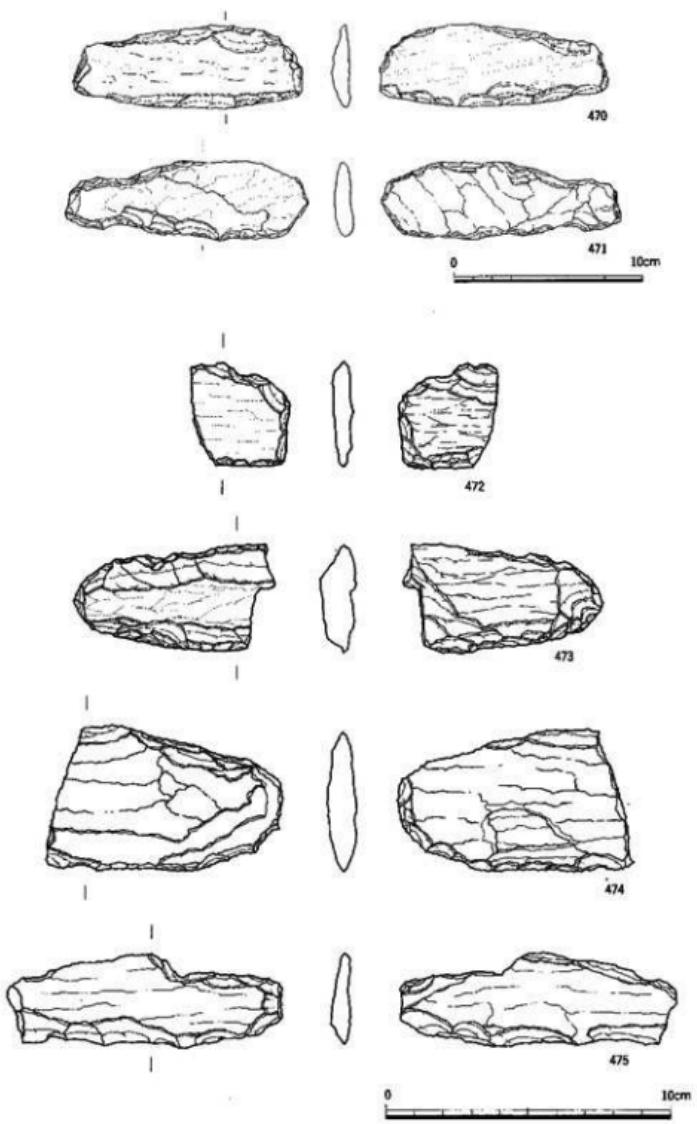
464



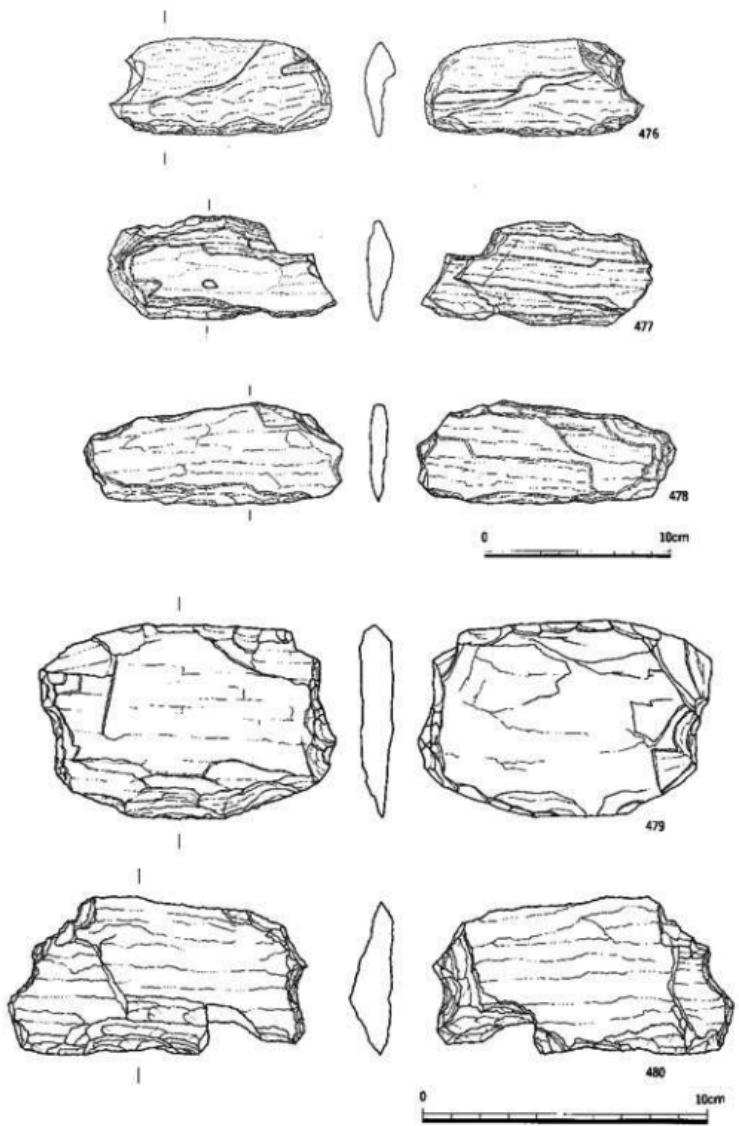
第191図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



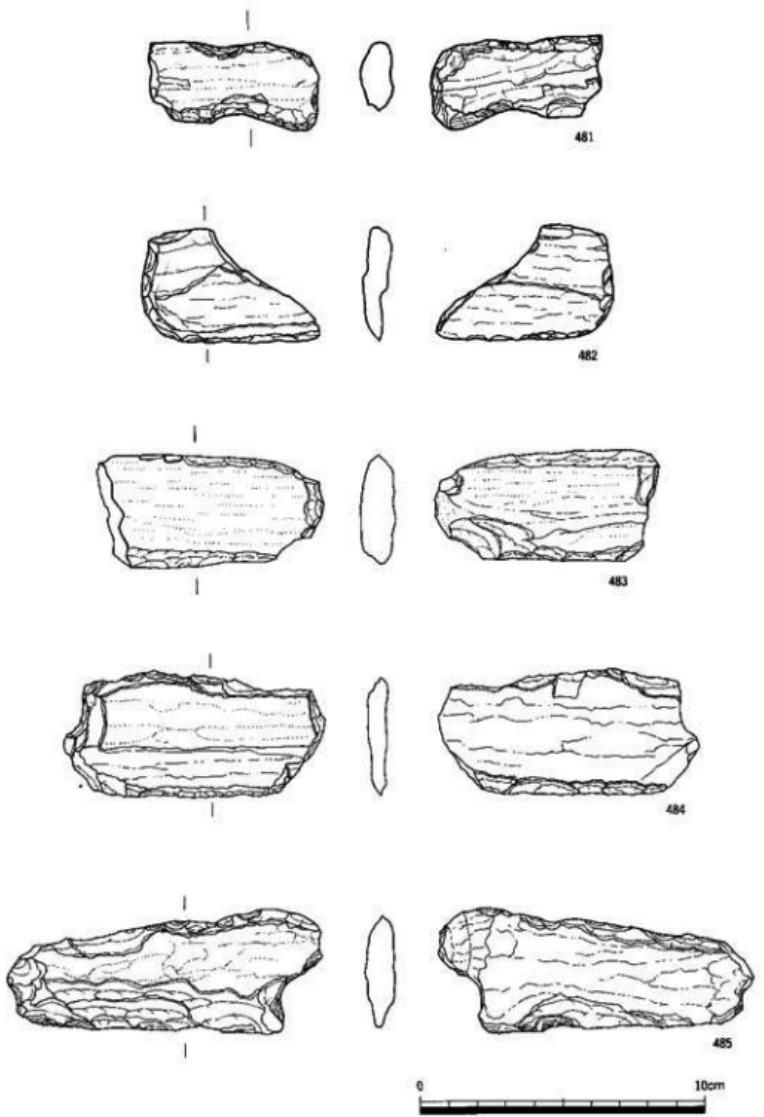
第192図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



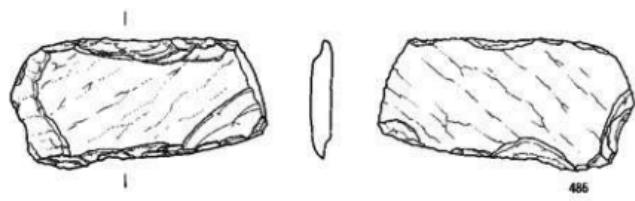
第193図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



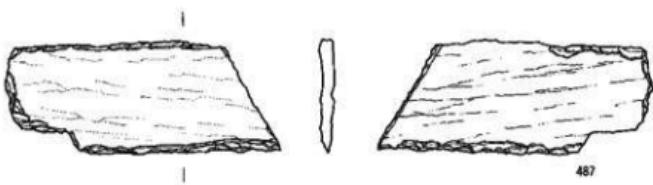
第194図 遺物包含層出土遺物実測図24



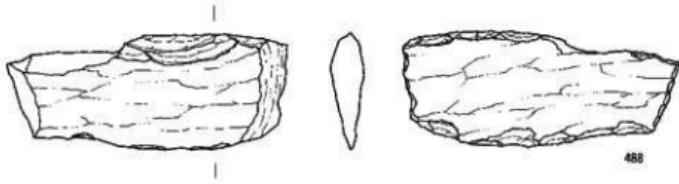
第195図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



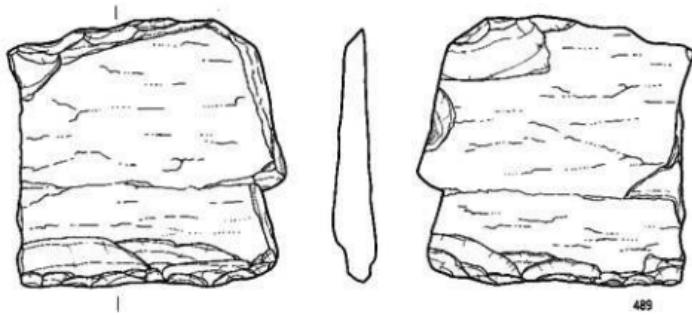
486



487



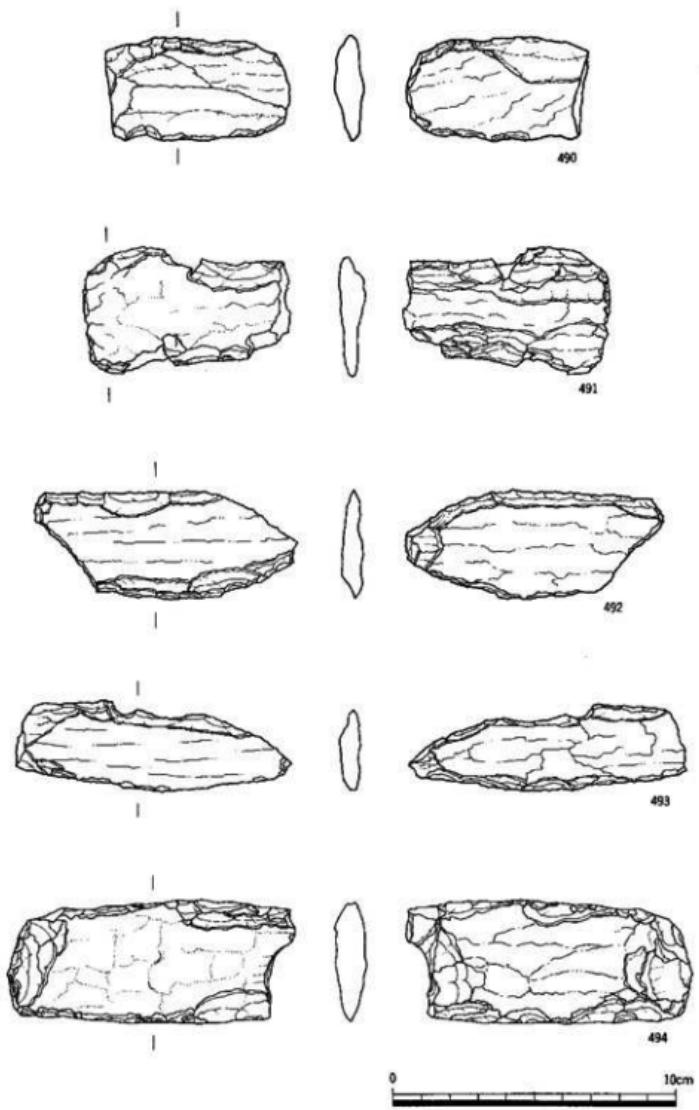
488



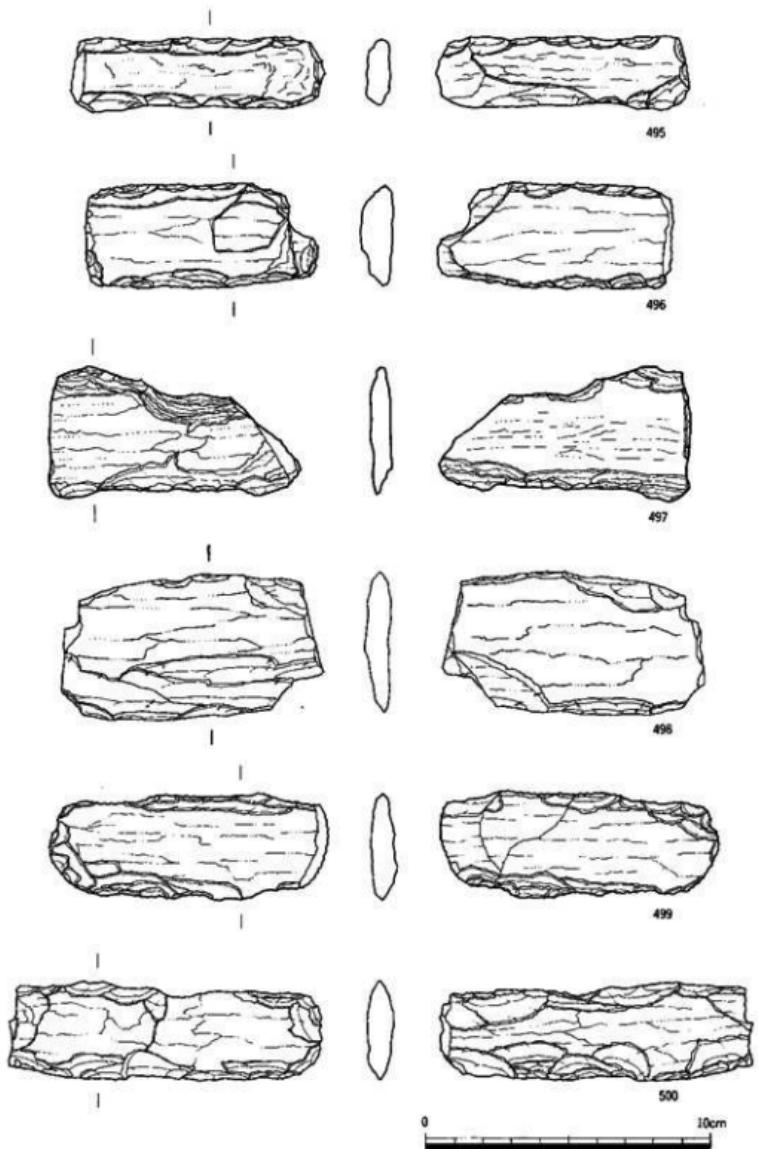
489



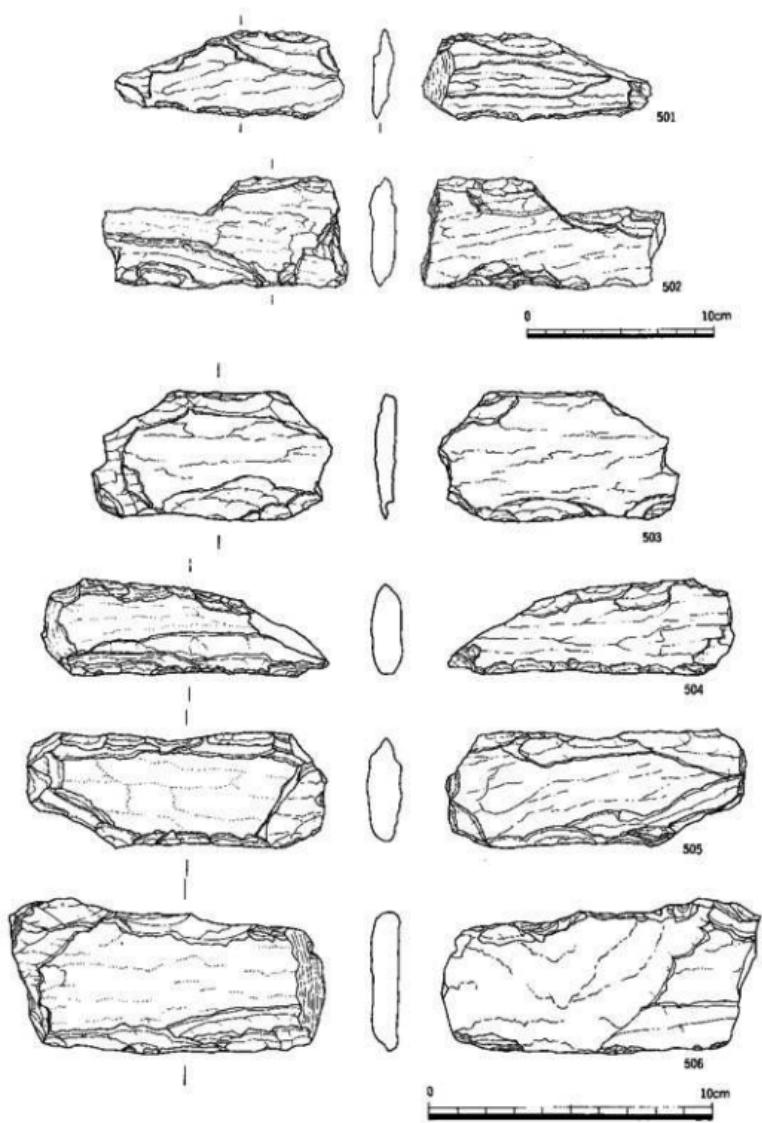
第196図 遺物包含層出土遺物実測図29



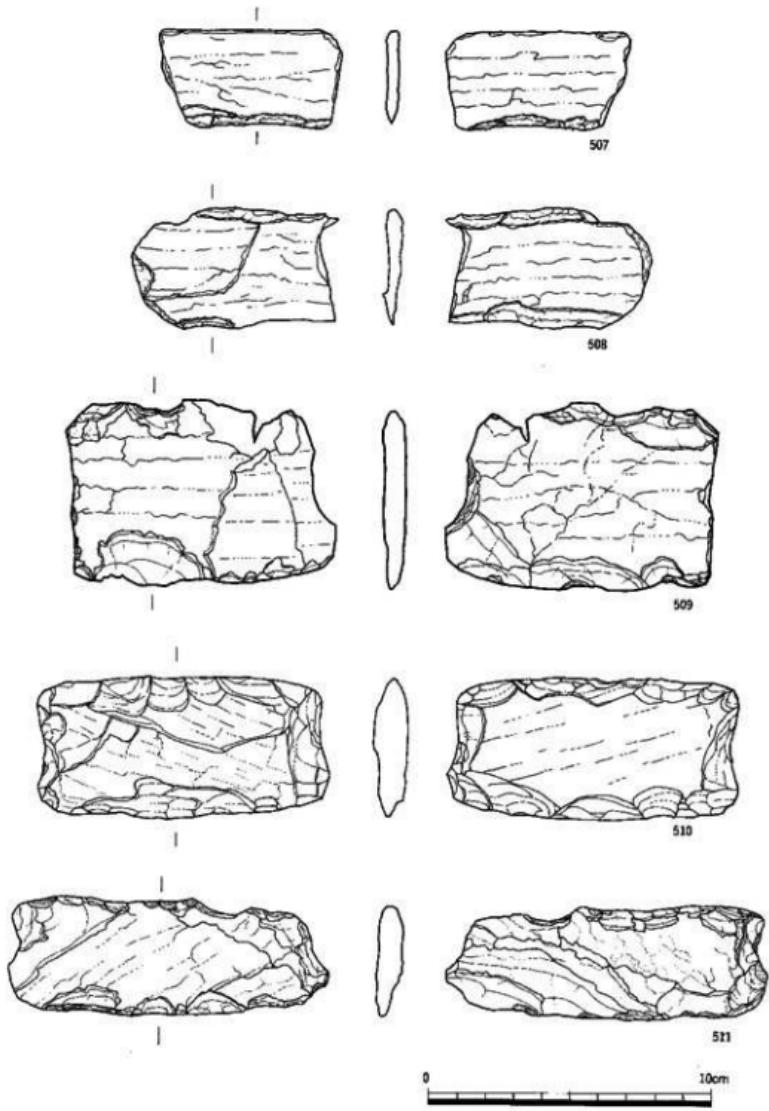
第197図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



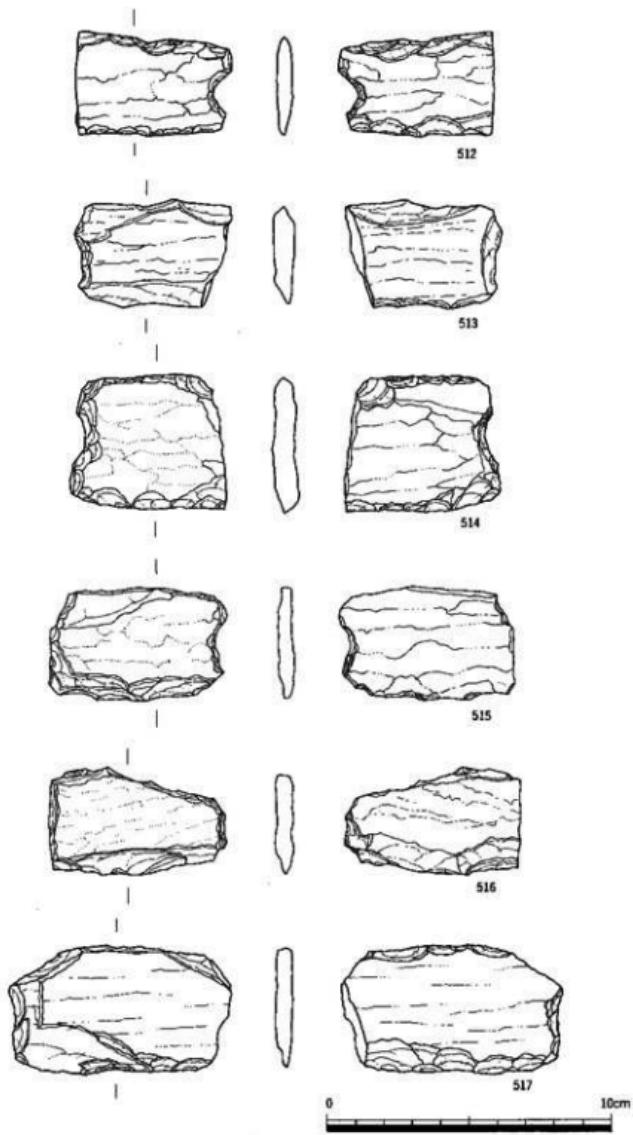
第198図 遺物包含層出土遺物実測図28



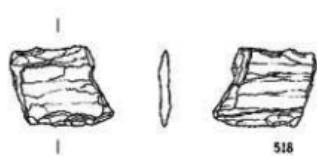
第199図 遺物包含層出土遺物実測図29



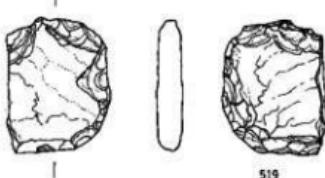
第200図 遺物包含層出土遺物実測図30



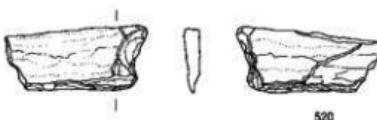
第201図 遺物包含層出土物実測図(3)



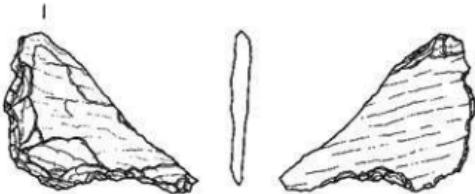
518



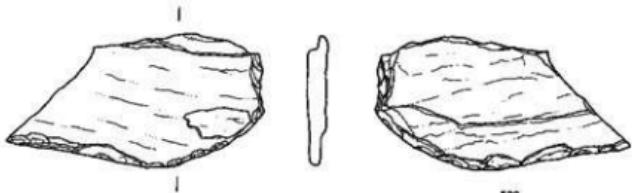
519



520



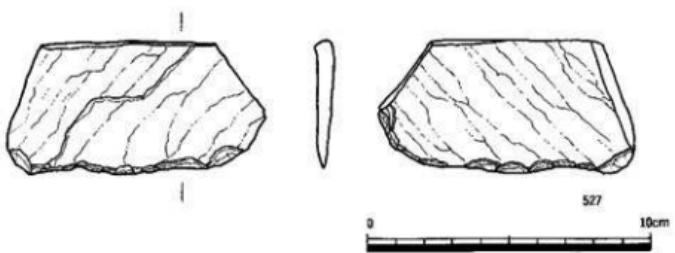
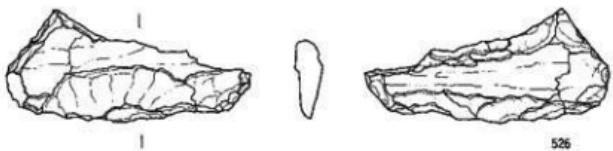
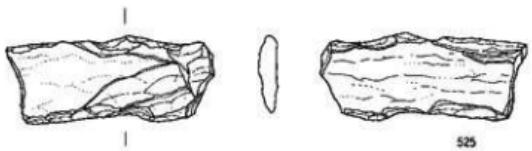
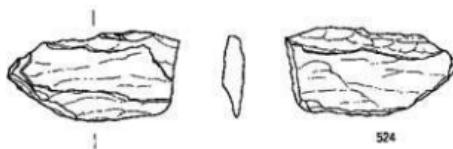
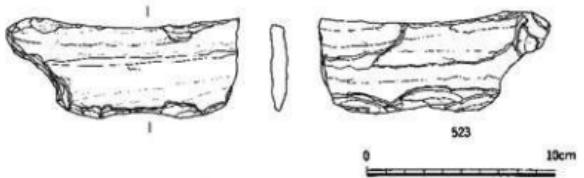
521



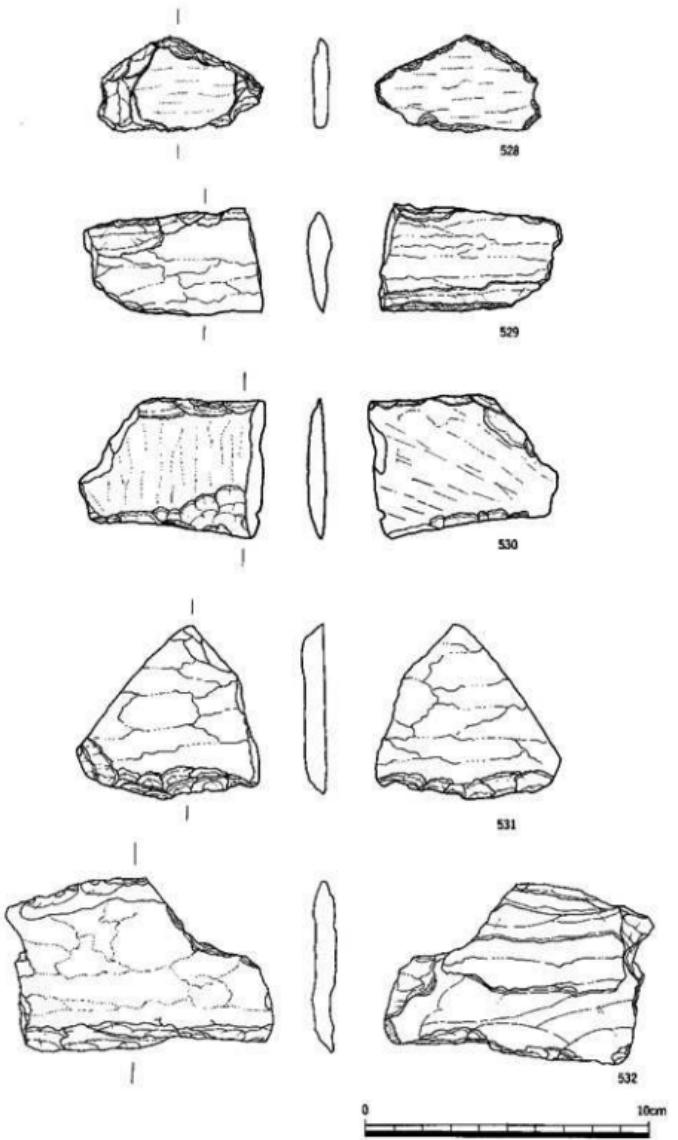
522



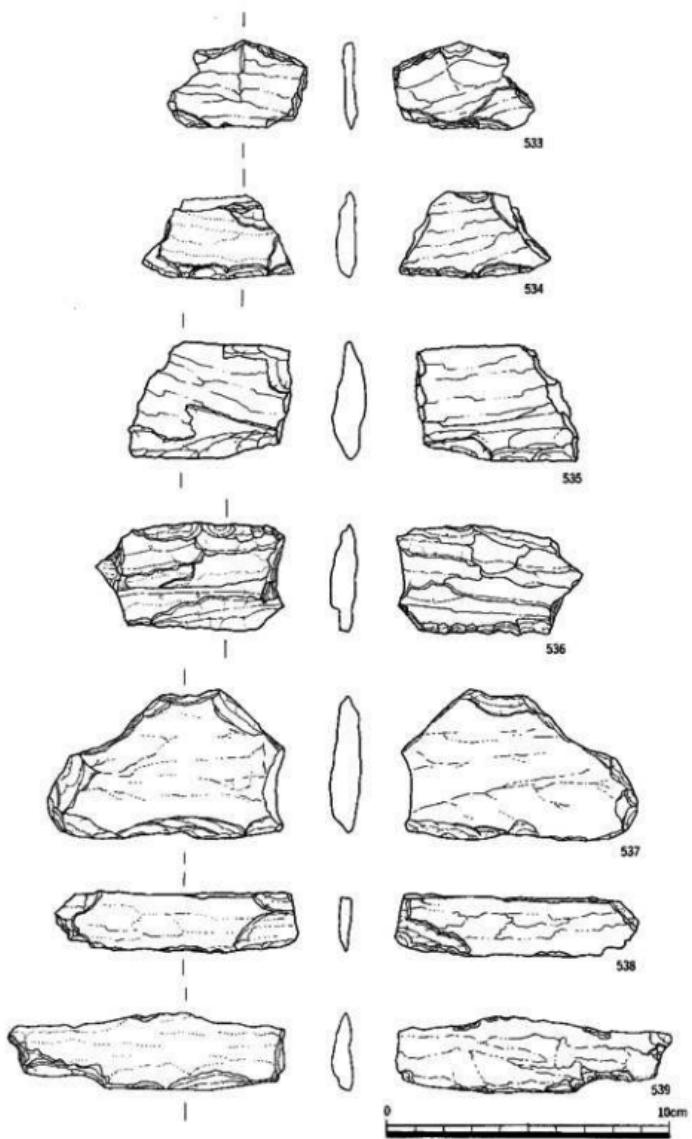
第202図 遺物包含層出土遺物実測図32



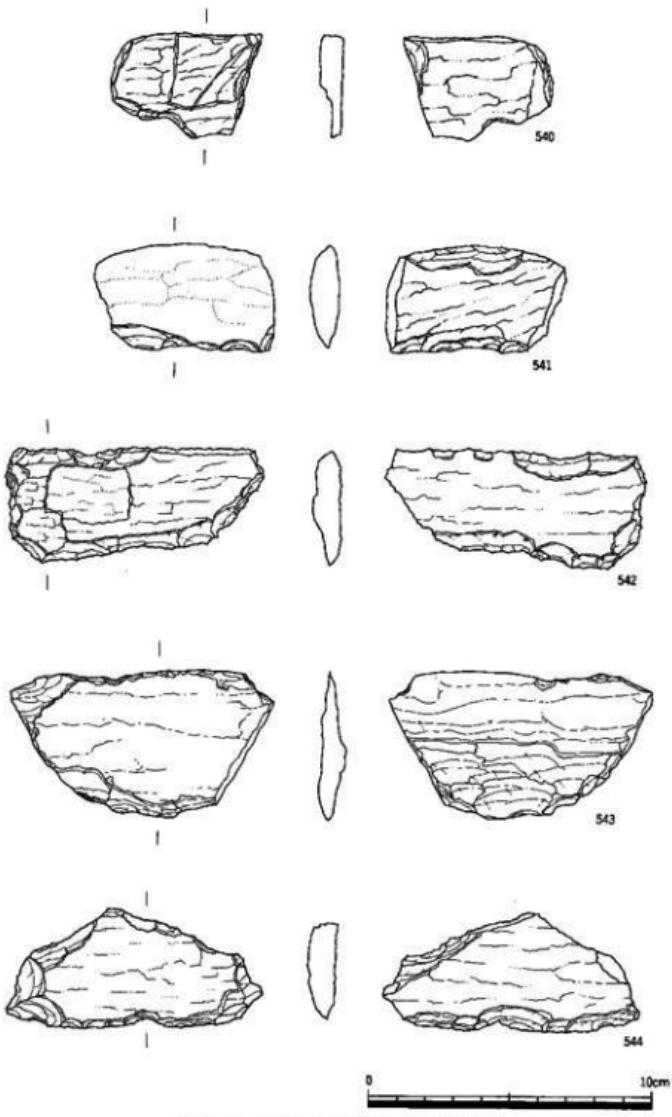
第203図 遺物包含層出土遺物実測図03



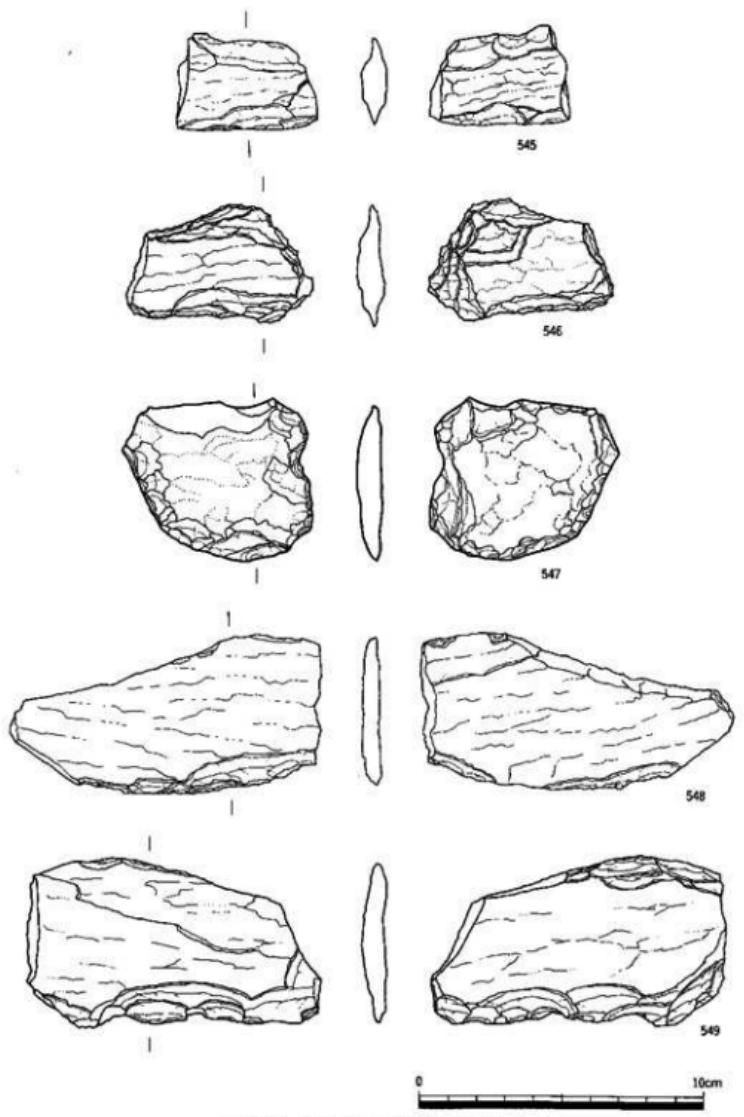
第204図 遺物包含層出土遺物実測図34



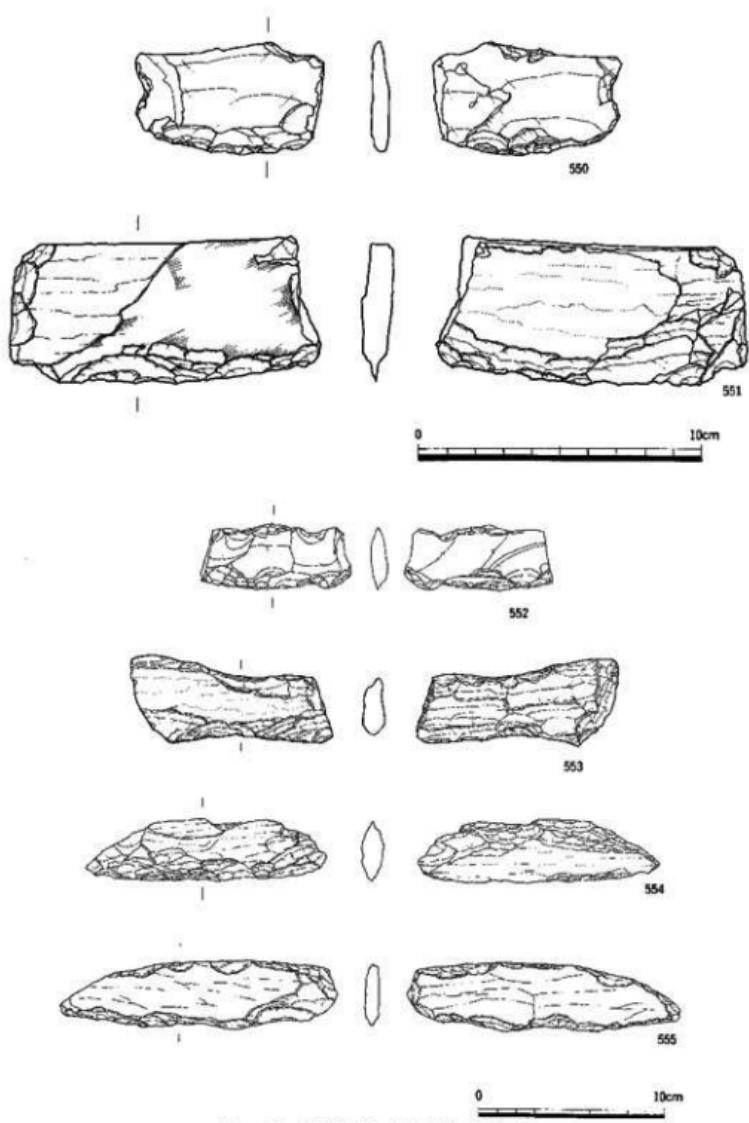
第205図 遺物包含層出土遺物実測図03



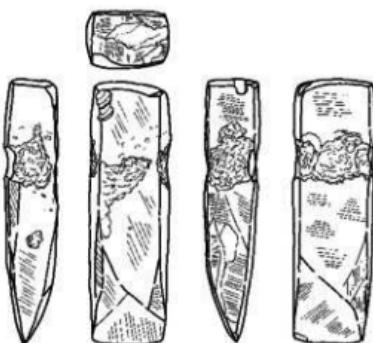
第206図 遺物包含層出土遺物実測図36



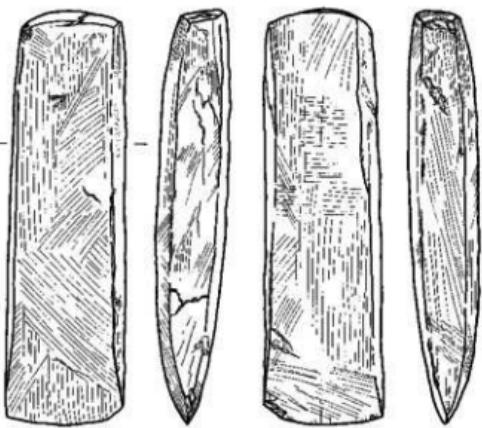
第207図 遺物包含層出土遺物実測図(3)



第208図 遺物包含層出土遺物実測図(3)



556



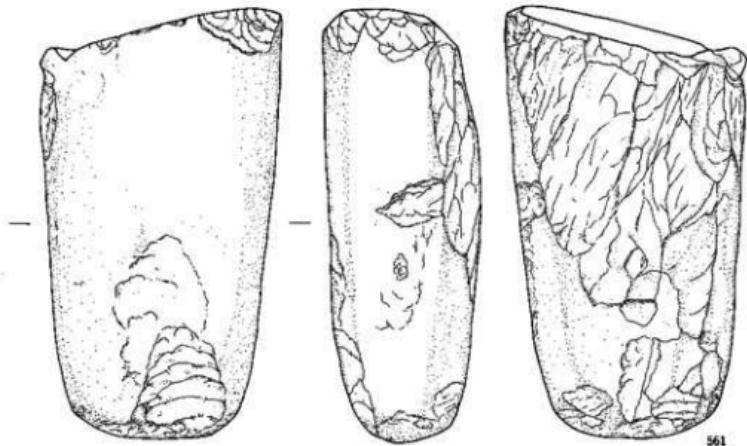
557



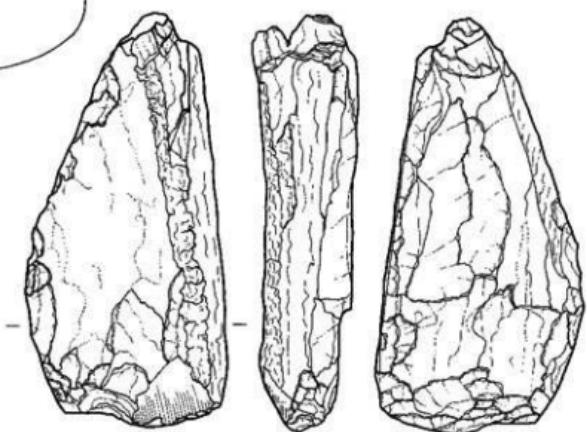
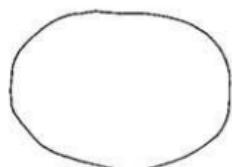
第209図 遺物包含層出土遺物実測図39



第210図 遺物包含層出土遺物実測図(40)



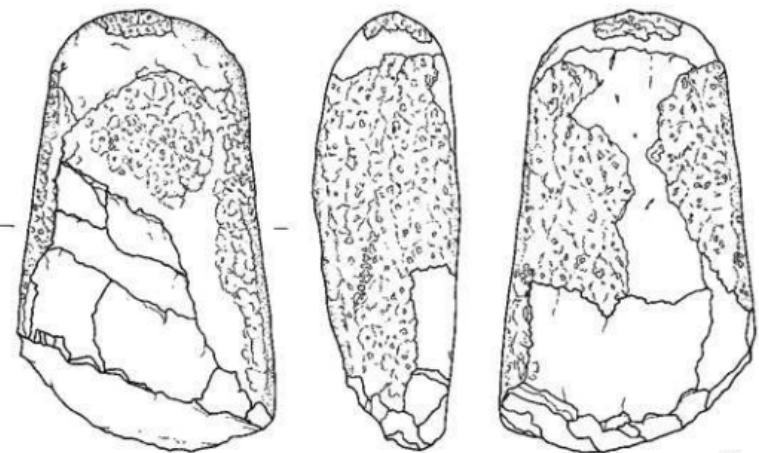
561



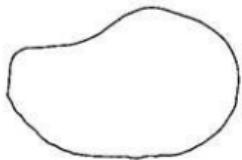
562



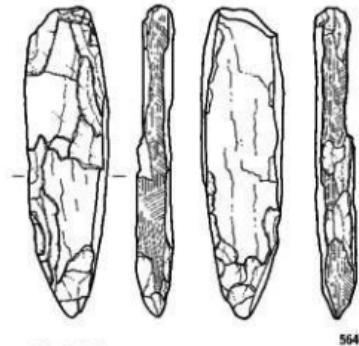
第211図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



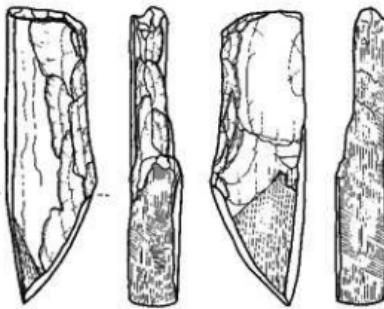
563



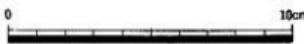
第212図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



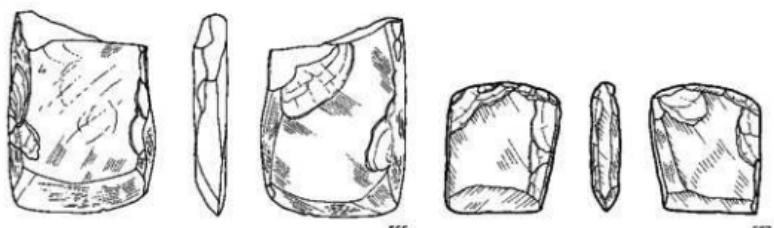
564



565

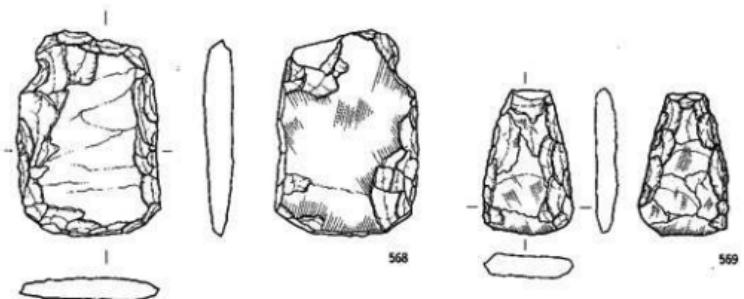


第213図 遺物包含層出土遺物実測図(3)



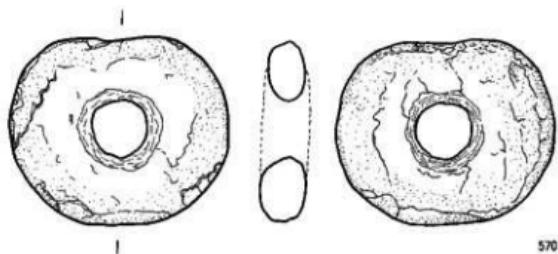
566

567



568

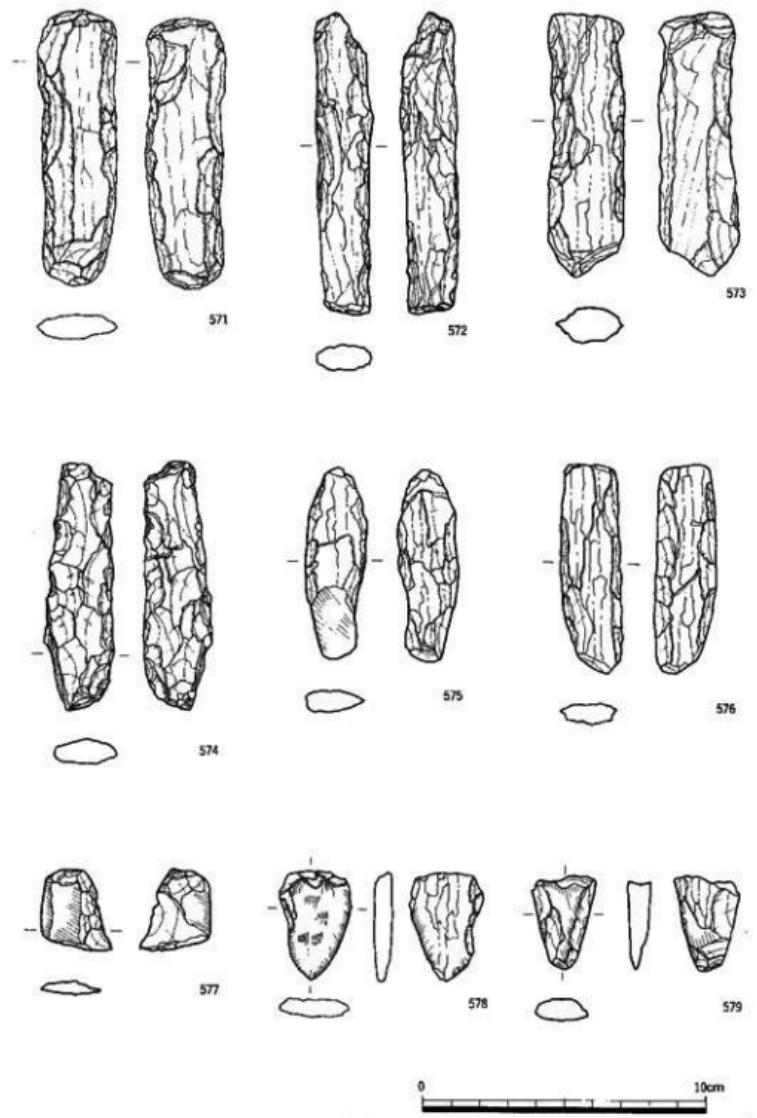
569



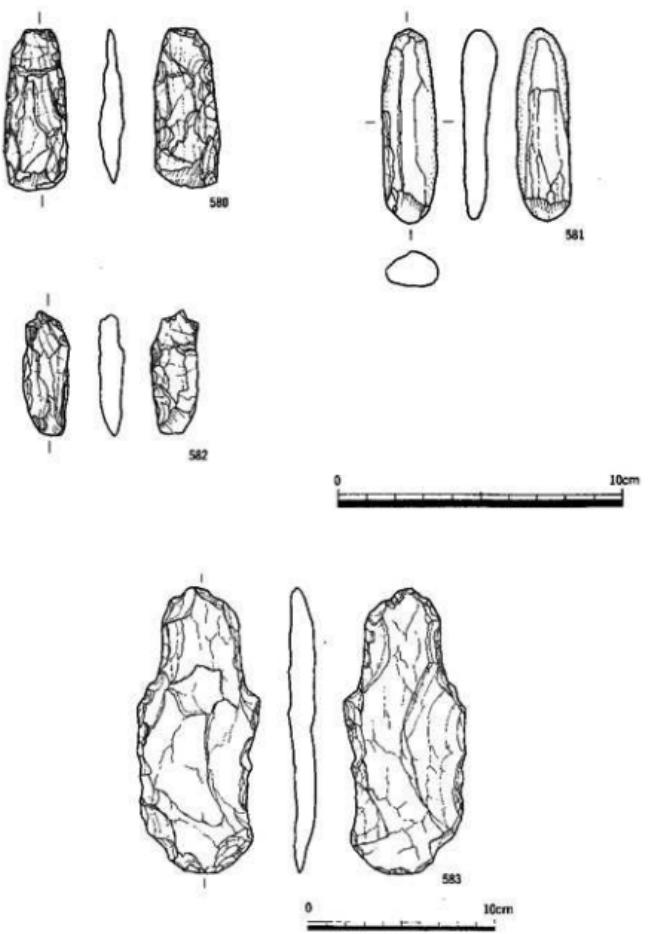
570

0 10cm

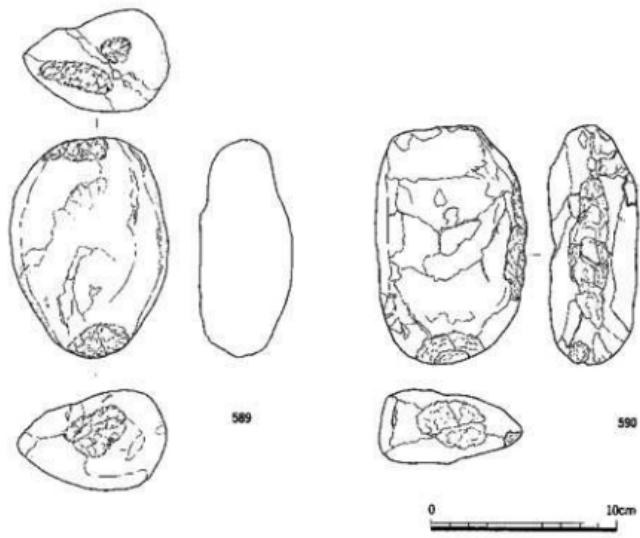
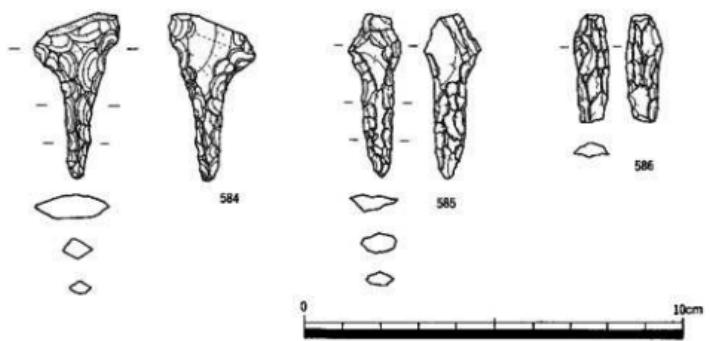
第214図 遺物包含層出土遺物実測図(4)



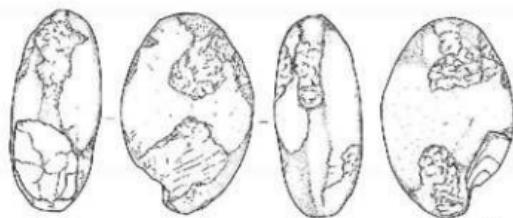
第215図 遺物包含層出土遺物実測図(4)



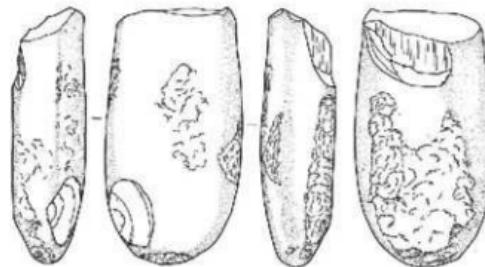
第216図 遺物包含層出土遺物実測図49



第217図 遺物包含層出土遺物実測図(47)



587



588

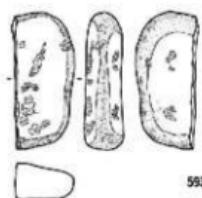


0 10cm

第218図 遺物包含層出土遺物実測図48



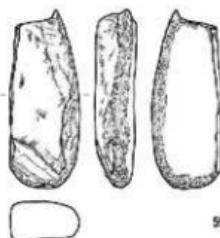
第219図 遺物包含層出土遺物実測図49



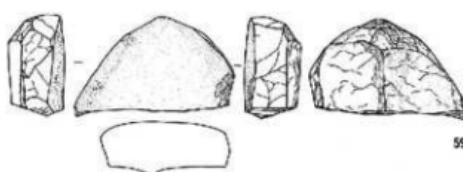
593



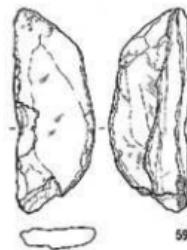
594



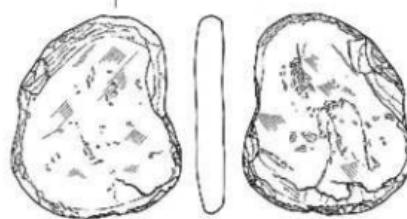
595



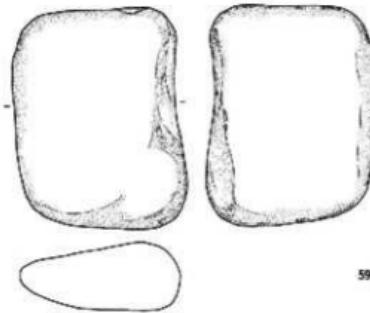
596



597



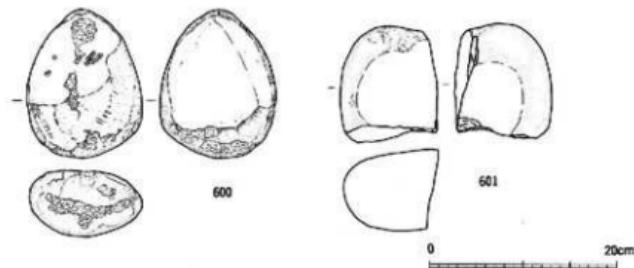
598



599

0 20cm

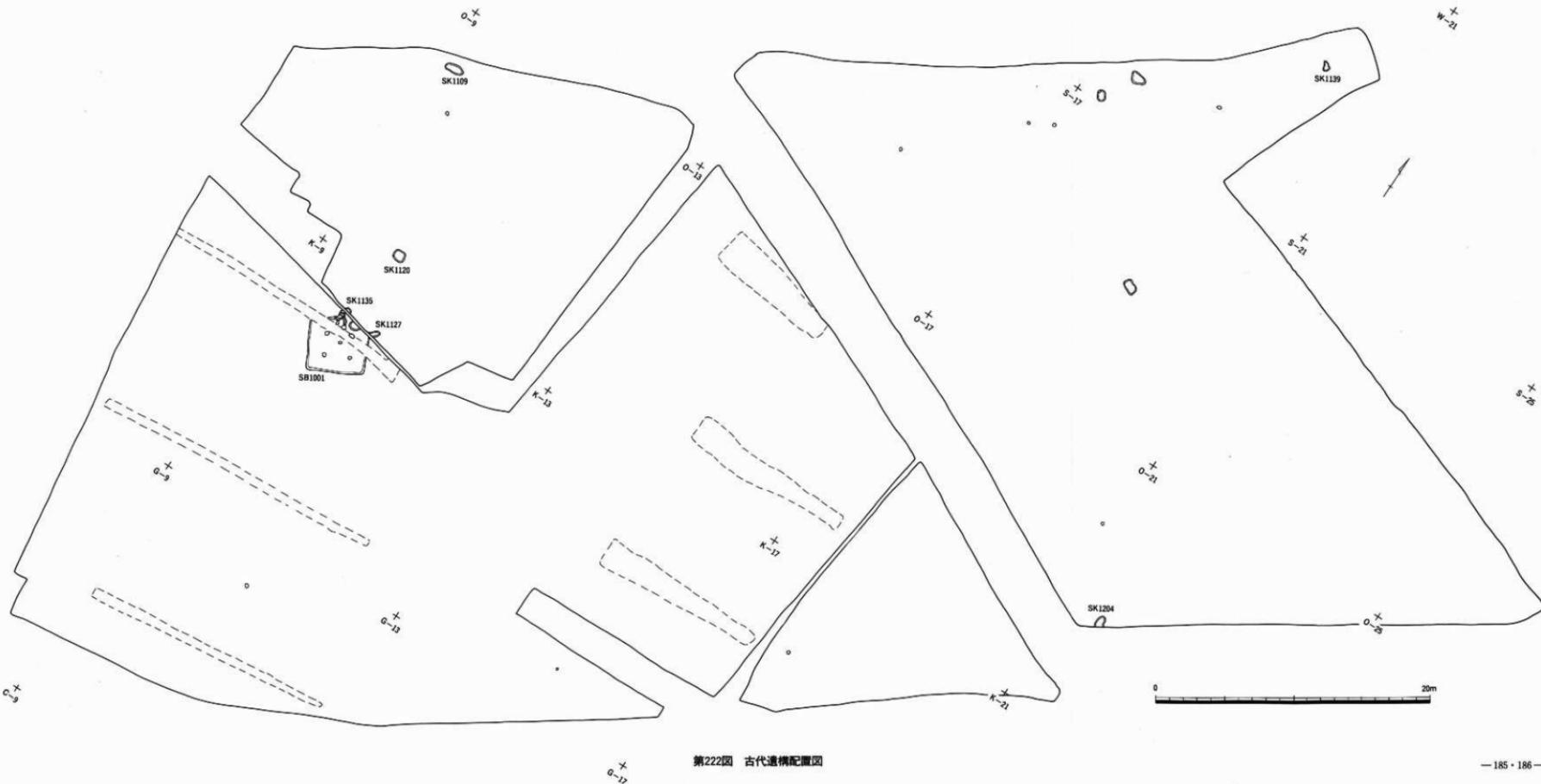
第220図 遺物包含層出土遺物実測図50



第221図 遺物包含層出土遺物実測図51

時 期	旧 石 器										新 石 器										石 材 量 計	
	器種	ナ形スイ	契形	圓	横長	刺	石	石	スイ	契形	石	石	石	石	石	磨	叩	研	石	石		
石材	サヌカイト	13	2	0	6	3	0	79	2	0	21	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0	
造構内 (ア ロ ッ ク)	チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
片	岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1	7	0	0	1	2	
砂	岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	
小計		13	2	0	6	3	0	79	2	0	21	3	12	0	0	16	1	7	0	0	5	
包	サヌカイト	11	3	2	5	7	1	36	2	1	57	17	25	2	0	1	1	0	0	3	0	
合	チャート	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
層	片	岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	96	3	26	1	0	1	
砂	岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6	
小計		12	3	2	5	7	1	36	2	1	57	19	25	2	2	97	4	26	1	3	6	
器種計		25	5	2	11	10	1	115	4	1	78	22	37	2	2	113	5	33	1	3	11	13
																					496	

第2表 日吉谷遺跡石材別石器組成表

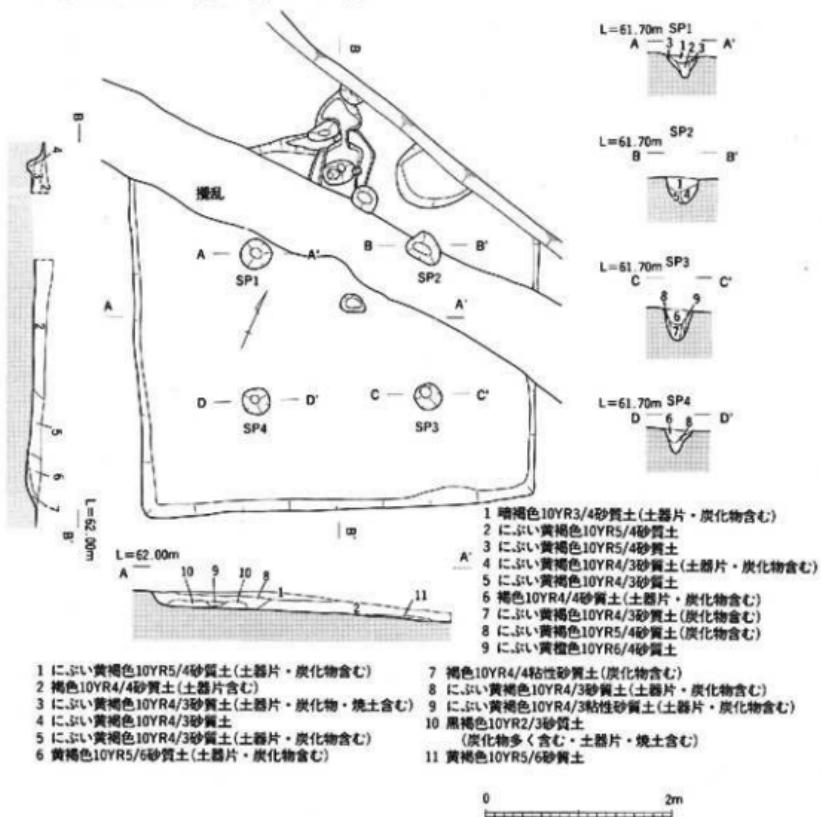


第222図 古代遺構配置図

#### (4) 古墳時代末～古代

##### はじめに

古墳時代末～古代にかけての遺構の密度は非常に薄い。遺構は主に調査区の北側にかけてまばらに展開している。主な遺構は竪穴住居跡1、土坑9が検出された。(第222図) この時代の注目される遺物は円面硯、黒色土器、土師器、須恵器等がある。特に円面硯は一般集落で比較的見られない遺物が出土している。

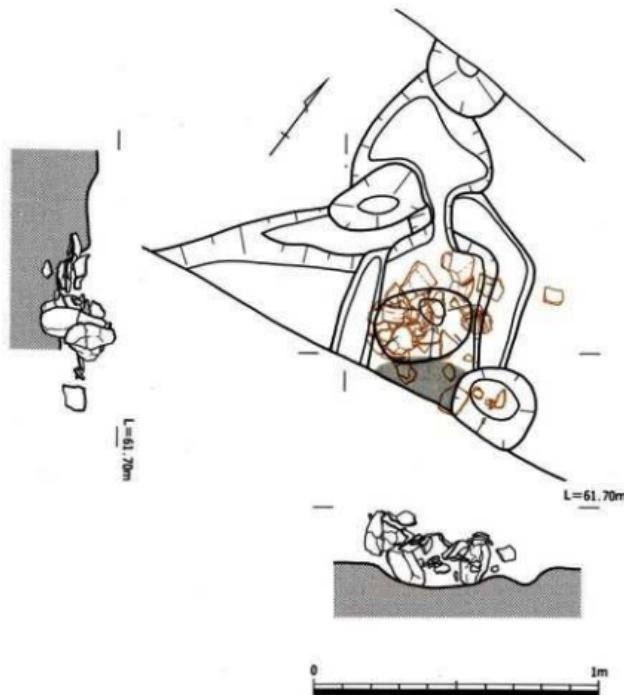


第223図 S B 1001実測図

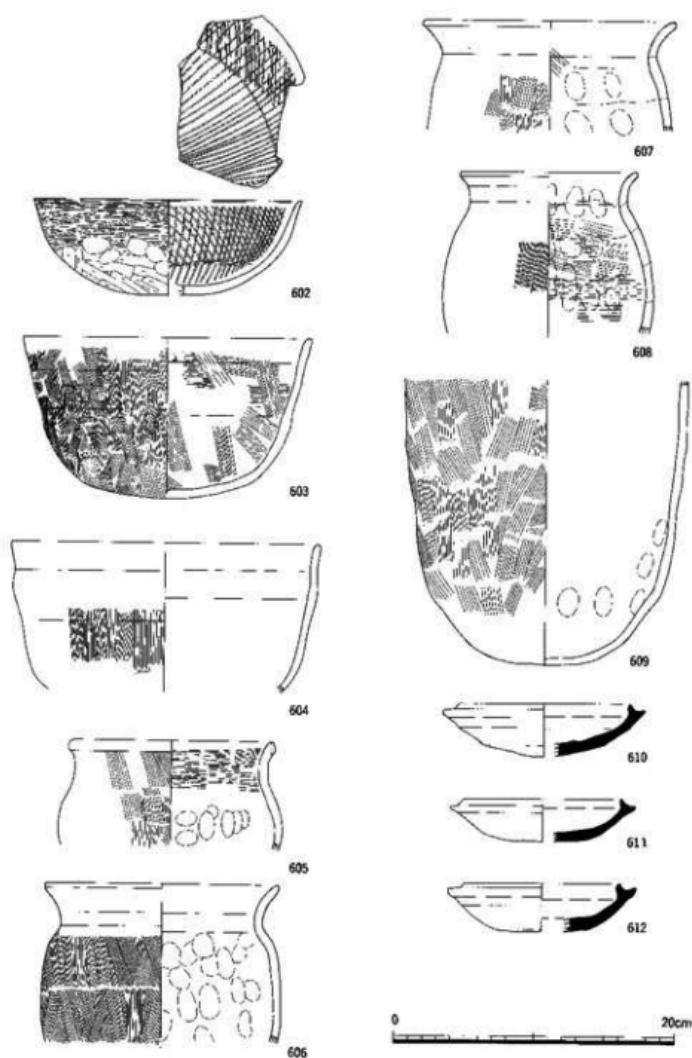
## 竪穴住居

### 1号竪穴住居 (S B 1001) (第223・224図)

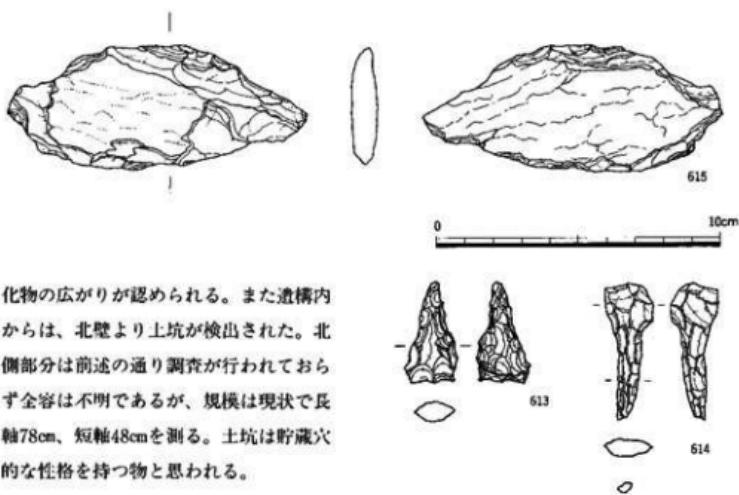
A調査区 I・J-9・10グリットから検出された竪穴式住居である。東から北への緩やかな斜面状に位置する。北側にはSK1033、南側にSK1014が位置している。造構の北側は東西方向に後世の濠堀により擾乱を受け、また北端は生活用道路の為、調査は行われなかった。平面プランは方形を呈し、規模は現状で長軸430cm、短軸410cm、深さ20cmを測る。主軸はN-25°-Wである。推定面積は、17.63m<sup>2</sup>である。内部構造としては、竈が北辺中央部に位置している。竈からは甕2点が倒壊した状況で検出された。床面は水平を呈し、壁面はやや急斜面である。埋土は4層に分層される。主柱穴は4基検出されている。柱心間距離はP1-2が138cm、P2-3が138cm、P3-4が150cm、P4-1が126cmを測る。床面南西部からは炭



第224図 S B 1001竪穴実測図



第225図 S B 1001出土遺物実測図(1)



第226図 S B 1001出土遺物実測図(2)

化物の広がりが認められる。また造構内からは、北壁より土坑が検出された。北側部分は前述の通り調査が行われておらず全容は不明であるが、規模は現状で長軸78cm、短軸48cmを測る。土坑は貯蔵穴的な性格を持つ物と思われる。

#### 出土遺物（第225・226図）

出土遺物は脊生土器、土師器、土師質土器、須恵器、石鐵、石錐、打製石底丁、石右が出土している。遺物は細片が多く実測可能遺物は14点である。

602は土師器の杯である。口縁端部はやや尖り気味におさめ、口縁部は外反する。体部はやや内湾気味に立ち上がる。体部外面上位はヨコヘラミガキ、中位～底部はヘラケズリで調整される。口縁部内面はヨコナデで調整される。体部内面上位～中位にかけて斜放射文、中位～底部にかけて放射状文が施されている。

603・604は土師器の鉢である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部はやや外反する。603は体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面はタテハケメ、体部内面は板ナデで調整される。604は体部はやや外方に傾きながら直線的に立ち上がる。口縁部は内面ヨコナデ、体部外面はタテハケメ、体部内面は板ナデで調整される。

605～609は土師器の壺である。口縁部は玉縁状を呈するタイプ(605)と丸くおさめるタイプ(606～608)がある。口縁部は頸部より緩やかに外反し、体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面はタテハケメで調整される。口縁部内面はヨコナデ、605・607・608が体部内面ヨコハケメの後指頭圧痕で調整される。606は指頭圧痕が認められる。607・608は体部内面に粘土紐の痕跡が認められる。609は底部の破片である。底部は丸底を呈し、体部は直線的に立ち上がっている。体部外面はタテハケメで調整される。

610~612は須恵器の杯である。口縁部は内傾して立ち上がり、端部は丸い。受け部はやや上方へ伸びている。小片であるが陶邑編年TK-217段階に位置付けられると思われる。

613はサヌカイト製の石鎌である。全面に丁寧な調整加工がみられ、基部は平である。

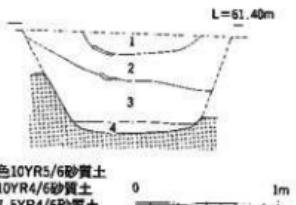
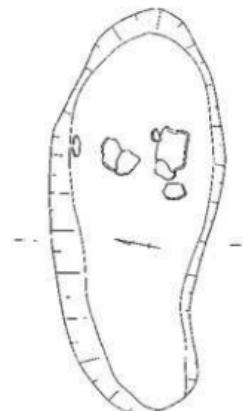
614は石錐である。石材はサヌカイトを用いている。

615は結晶片岩製の打製石庖丁である。両側面両面に調整加工を施している。

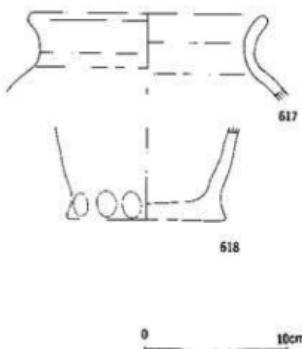
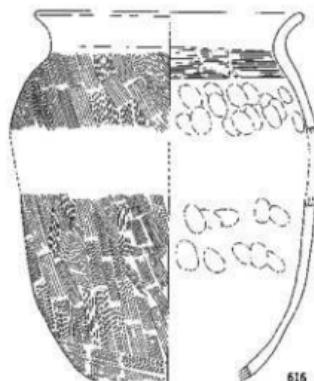
### 土坑

109号土坑 (SK 1109) (第227図)

E調査区の北側、N-8・9グリッドから検出され、本造構北側はSK 1110が位置している。本調査時に遺構上部を掘削しており、遺構上半部は推定ラインが引かれている。平面プランは隅丸長方形状を呈し、規模は現況で長軸150cm、短軸65cm、深さは70cmを呈する。床面は水平を



第227図 SK 1109実測図



第228図 SK 1109出土物実測図

呈し、壁面はやや急斜面である。埋土は4層に分層され、遺物は中央部やや東側上層1・2層の褐色砂質土より出土している。本遺構はレンズ状に堆積しているが、遺物が上層より出土しており、遺構面はやや上部に存在する事も考えられる。

#### 出土遺物（第228図）

出土遺物は土師器甕4点、土師器細片36点が出土している。実測可能遺物は4点のみである。

616・617は土師器甕であ

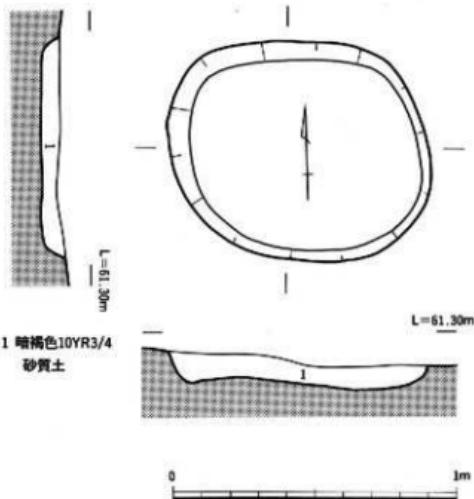
る。616は胸部中位と底部を

欠損しているがほぼ完形である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部内外面はヨコナテ、体部外面はタテハケメで調整する。頸部内面はヨコハケメ、体部内面には指頭圧痕が認められる。617は口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反する、口縁部内外面はヨコナテで調整される。

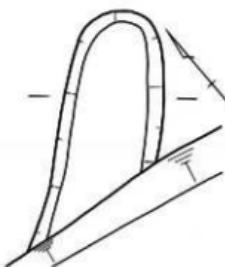
618は弥生土器の底部である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がる。

#### 120号土坑（SK 1120）（第229図）

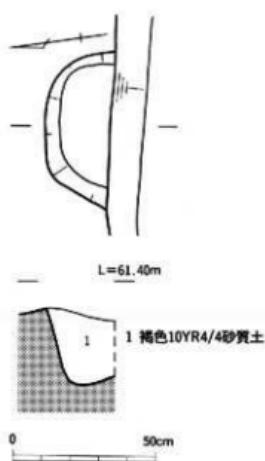
E調査区の南側、K-10グリッドに位置し、S P1154を切った状況で検出された。東側にはSK 1118、SK 1119、SK 1121、SK 1122が隣接している。平面プランは隔丸円形を呈し、規模は長軸90cm、短軸85cm、深さは8cmを測る。床面には凹凸は認められず、ほぼ水平で、



第229図 SK 1120実測図



第230図 SK 1127実測図

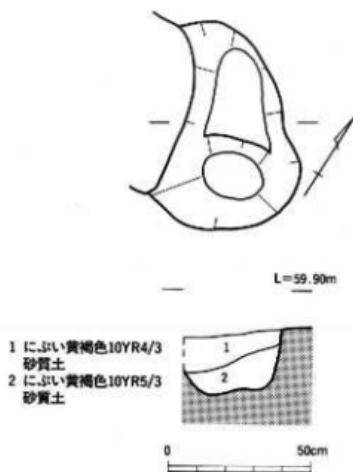


第231図 S K 1135実測図

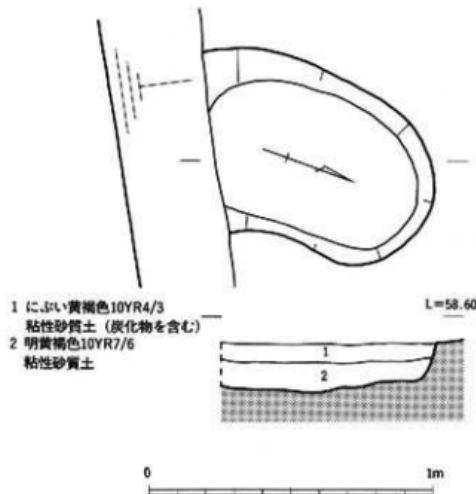
壁面は緩斜面である。埋土は暗褐色砂質土1層で、出土遺物は埋土中より土師器細片3点、サヌカイト片2点が出土している。遺物は細片のため実測可能遺物は認められない。

#### 127号土坑(S K 1127)(第230図)

E調査区の南端、J-10グリッドに位置し、東側はS K 1125、S K 1130が隣接している。遺構南側は調査区外に当たっており、調査が行われていないため南側の形状は不明である。平面プランは隅丸方形状を呈していると思われる。規模は現状で長軸70cm、短軸35cm、深さ10cmを測り、断面はU字状を



第232図 S K 1139実測図



第233図 S K 1204実測図

呈している。堆土は鈍い黄褐色1層で、遺物は埋土中より土師器細片が2点出土している。しかし遺物は細片のため実測可能遺物は認められない。

#### 135号土坑（SK1135）（第231図）

E調査区の南端、J-9グリッドに位置する土坑である。南側は調査区外のため検出できなかった。平面プランは隅丸方形形状を呈していると思われる。規模は現状で長軸50cm、短軸20cm、深さ23cmを測る。床面は中央部が盛り上り、側縁が下っているようである。埋土は褐色砂質土1層で、出土遺物は土師器細片が1点埋土中より出土しているが、細片のため実測可能遺物は認められない。

#### 139号土坑（SK1139）（第232図）

I調査区の北側、U-19グリッドに位置し、SK1138に切られた状況で検出された土坑である。平面プランは隅丸不整円形状を呈している。規模は現状で長軸70cm、短軸55cm、深さは20cmを測る。床面は北西部分に幅30cmにわたりテラス状の部分が認められ、南側にピット状の落ちがある。堆土は2層に分層され、出土遺物は埋土中より土師器細片が2点出土している。

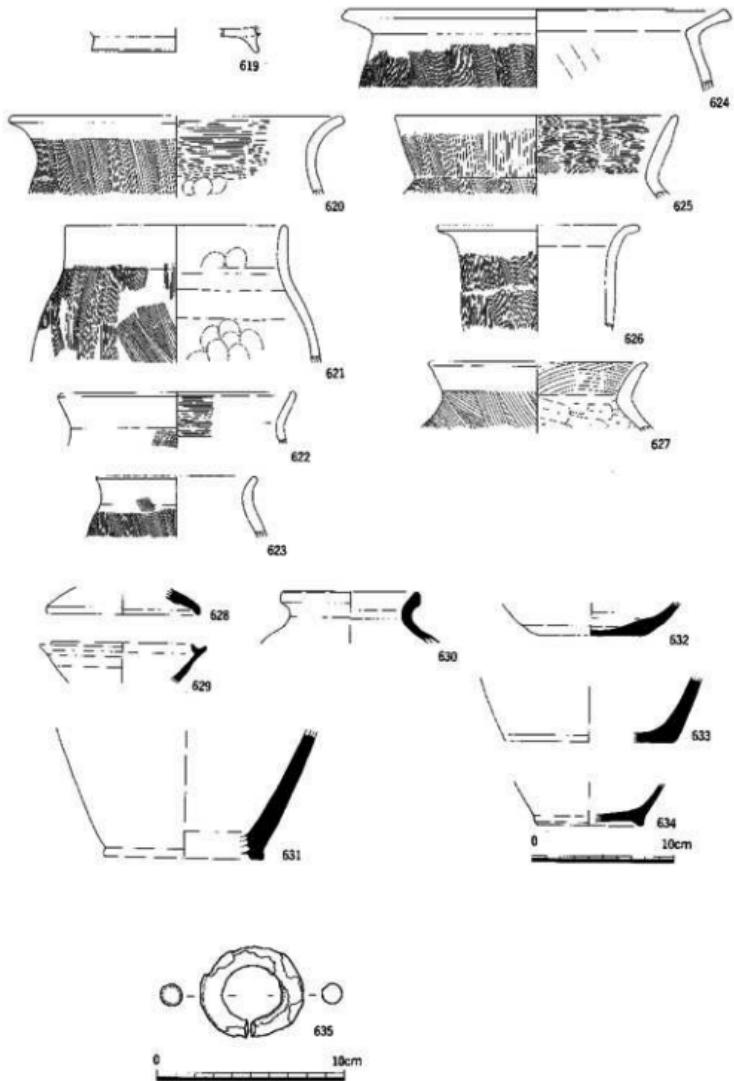
#### 204号土坑（SK1204）（第233図）

G・H調査区の南端、L-21グリッドから検出された土坑である。南側は調査区外に当たり調査が行われておらず、南側の形状は不明である。平面プランは隅丸方形を呈するものと思われ、規模は現状で長軸80cm、短軸60cm、深さ16cmを測る。床面は凹凸は認められず、壁面はやや急斜面である。埋土は2層に分層され、上層からは炭化物の混入が認められた。遺物は埋土中より土師器甕1点、石英1点が出土している。

#### 包含層出土遺物（第234図）

##### 土師器

619は高台杯橢の底部である。620～627は土師器の甕である。620・626は口縁端部を方形におさめ緩やかに外反する。621は口縁端部を丸くおさめ口縁部は直立する。622・624は口縁端部を方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。623・627は口縁端部を丸くおさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。体部外面はタテハケメで調整される。体部内面は620・622・625はヨコハケメで調整される。621は指頭圧痕が明瞭に認められる。627は口縁部内面にヨコハケメ、体部内面は板



第234図 遺物包含層出土遺物実測図

状工具のような物のヨコナデが認められる。

#### 須恵器

628は杯蓋である。629は杯身である。630は壺の口縁部の破片である。口縁端部は上下に拡張されている。631～634は底部の破片である。ほとんどが壺の破片になると思われる。631・634は底部に高台がついている。634は杯の可能性も考えられる。

#### その他

635は耳環である。

## (5) 中世

### はじめに

中世の遺構は主に調査区の南側を中心として展開している。主な遺構は掘立柱建物跡7、土坑38、不明遺構3が検出されている。(第235図) 主な出土遺物は土師質土器、瓦器碗、瓦質土器、東播系須恵器、備前焼、輸入貿易陶磁が出土している。以下、遺物と遺構の説明を行う。

### 掘立柱建物跡

#### 34号建物跡 (S A 1034) (第236・237図)

A調査区E・F-9・10グリッドに位置し、調査区の南側に位置する掘立柱建物跡である。遺構の南側は後世の濠堀による擾乱を受けている。北西端には柱穴が確認されておらず、北側に庇を持つ物と思われる。主軸はN-86°-Eで、梁間2間、桁行3間を数える。柱穴はP-1からP-15まで確認され、梁間4.5m、桁行7.5mを測る。柱穴間距離は梁間1.7~2.7m、桁行2.2~2.8mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈すものと梢円形状を呈するものが認められ、直径は20~50cm、深度は12~34cmを測る。出土遺物は埋土より出土している。P-2の柱穴からは土師質土器の土鍋と上釜、瓦質土器の上鍋の計10点が出土している。平面プランは円形を呈し、規模は長軸35cm、短軸30cm、深さ14cmを測る。埋土は褐色砂質土1層である。土器は柱穴中央部付近で上位から下位にかけ折り重なるように検出されている。出土状況を見る限りでは、廃棄された物と思われる。

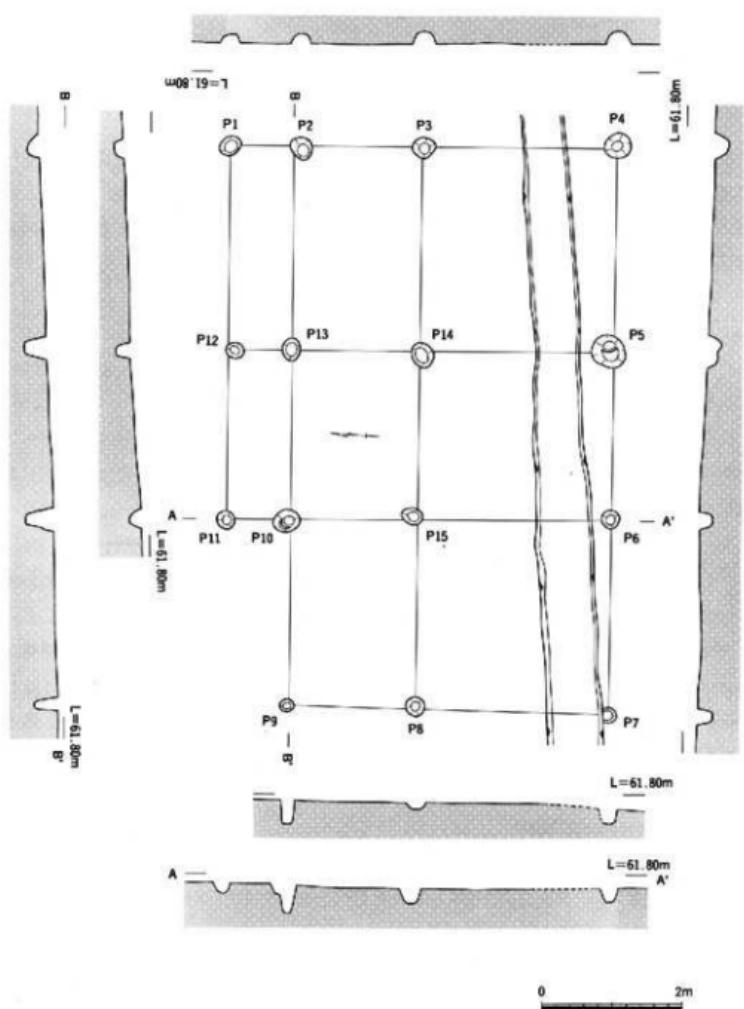
#### 出土遺物 (第238・239図)

出土遺物は土師質土器杯12点、土師質土器皿3点、土師質土器碗2点、土師質土器鍋5点、土師質土器羽釜7点、土師質土器細片34点、瓦器碗1点、瓦質土器羽釜1点が出土した。遺物は細片が多く実測可能遺物11点を図化した。

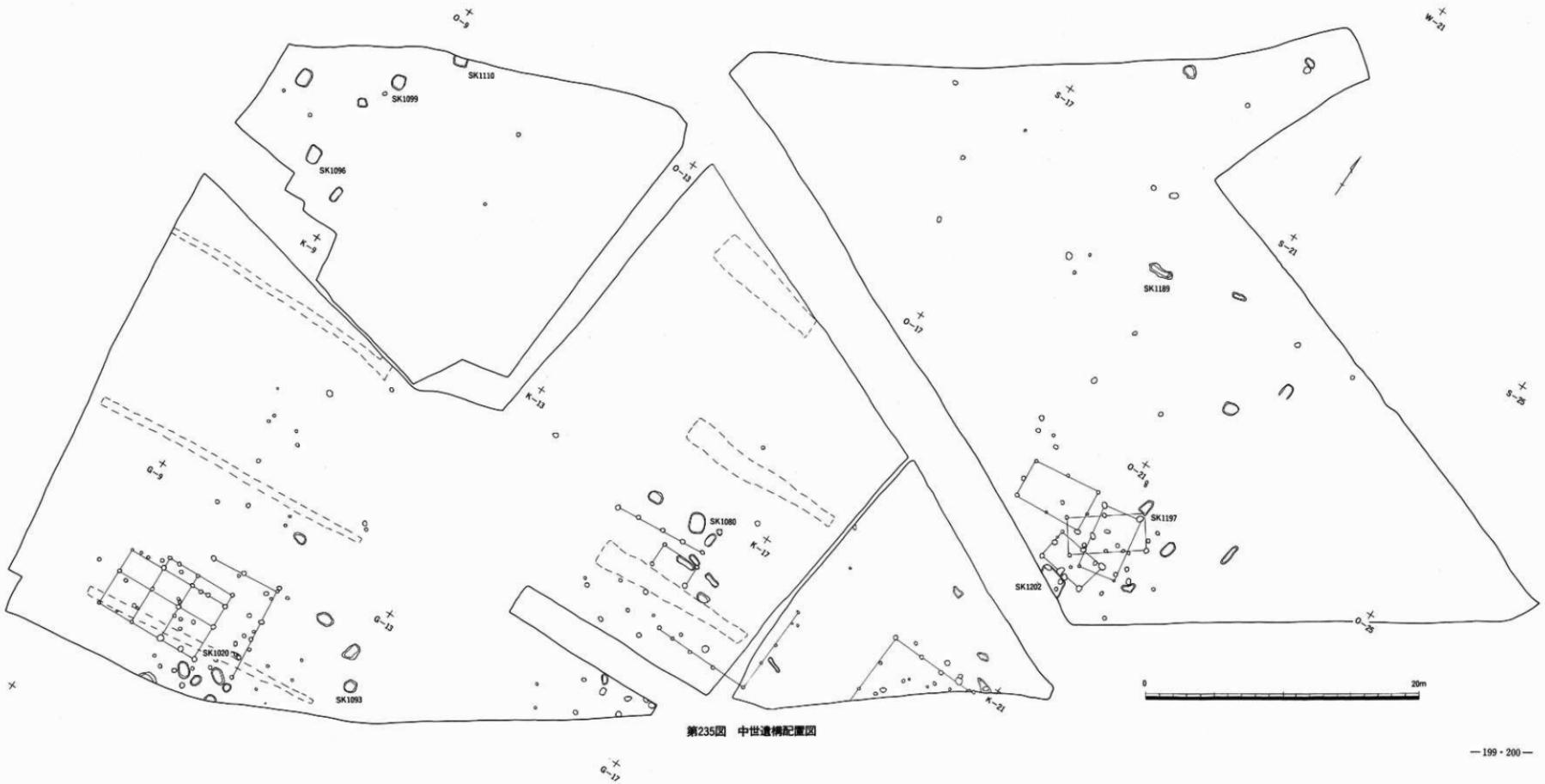
636はP-10から出土した、土師質土器の杯である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反し体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りである。

637はP-11から出土した土師質土器の小皿である。

638~642はP-2から出土した土師質土器の土鍋である。638・639は口縁端部を方形におさめ、口縁部はやや内湾しながら直線的に立ち上がる。口縁部は内外面ヨコナデの後指頭圧痕で調整される。640・641は口縁端部を方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反している。



第236図 SA 1034実測図



第235図 中世遺構配置図

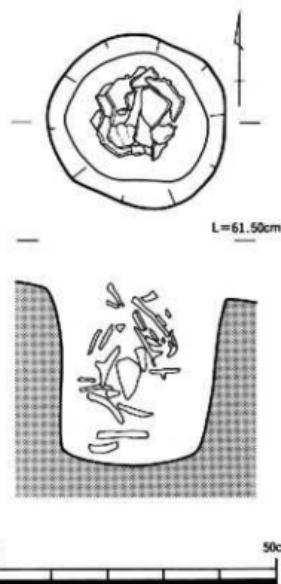
体部は内湾しながら口縁部に向かって立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面は指頭圧痕のちヨコナデで調整される。642は口縁端部を方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反する。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位から中位にかけて指頭圧痕のち粗いヨコナデ、中位から下位下半は格子目タタキで調整される。体部内面は指頭圧痕のちヨコナデで調整される。

643・644はP-2から出土した瓦質土器の土鍋である。643は口縁端部方形におさめ、口縁部はやや外方に傾きながら直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面は指頭圧痕で調整される。体部内面は指頭圧痕のちヨコナデを施す。644は口縁端部方形におさめ、口縁部は「く」の字状に外反する、口縁部は内外面ヨコナデを施す。

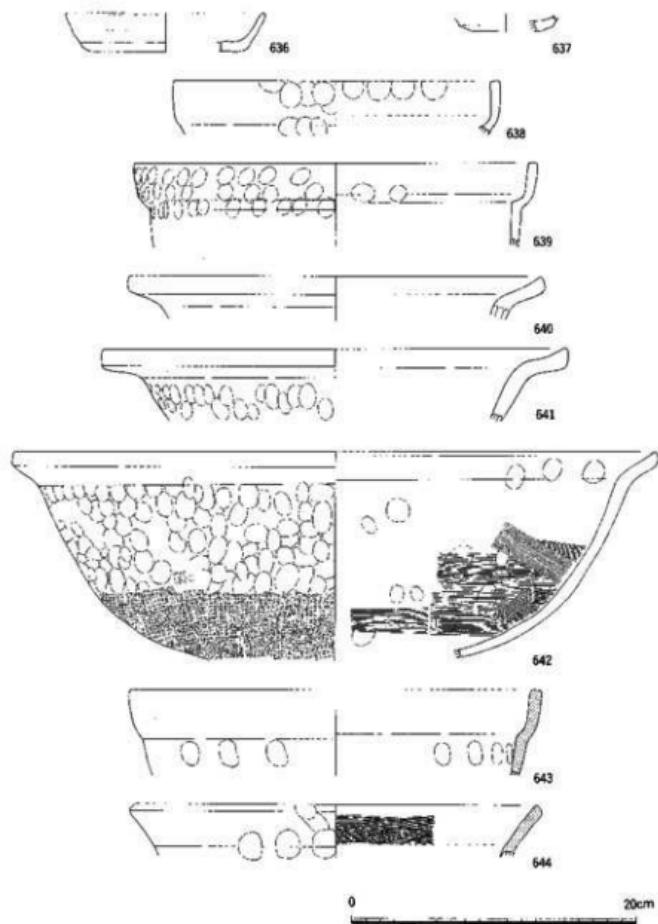
645～647はP-2から出土した土師質土器の羽釜である。このうち646と647は三足羽釜である。645は口縁端部方形におさめ口縁部内傾し、体部は内湾しながら立ち上がっている。断面台形状の鋸をやや上向きに付ける。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面は指頭圧痕を施している。646・647は口縁端部方形におさめ、口縁部はやや内湾する。体部は半球形状を呈している。口縁部内外面はヨコナデの後指頭圧痕、体部外面上位から中位にかけて指頭圧痕のちヨコナデで調整される。体部外面上位から下位は、格子目タタキが施されている。646は体部内面に指頭圧痕、647は指頭圧痕のちヨコナデで調整される。

### 35号建物跡（S A 1035）（第240図）

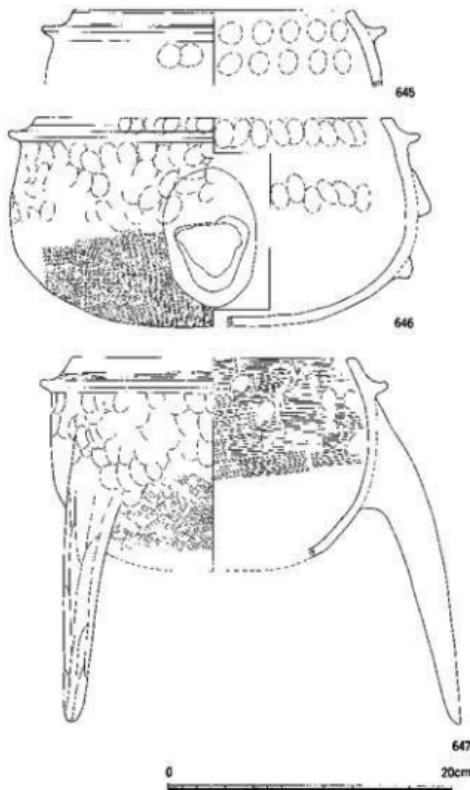
B調査区J-15・16グリッドから検出され、調査区の中央に位置する掘立柱建物跡である。造構南側は後世の漆堀による擾乱を受け、造構の全容は不明である。主軸はほぼ南北方向を示し、梁間1間、桁行1間以上を数える。柱穴はP-1からP-4まで確認されており、梁間2.8m、桁行1.7m以上を測る。柱穴間距離は梁間2.8m、桁行1.7mを測る。柱穴の平面プランは円形を呈しており、直径30～40cm、深度13～24cmを測る。遺物は埋土中より土師質土器細片が出土しているが、小片のため実測可能遺物は認められない。



第237図 S A 1034内 P-2実測図



第238図 S A 1034出土遺物実測図(1)



第239図 S A 1034出土遺物実測図(2)

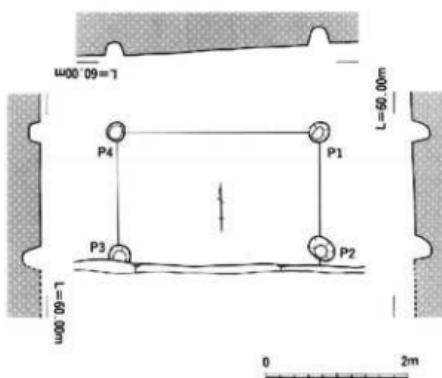
36号建物跡 (S A 1036) (第241図)

D調査区 I・J-19・20グリッドから検出され、調査区の南端中央部に位置する掘立柱建物跡である。造構の南側部分は調査区外に当たり、全容は不明である。主軸はN-4°-Eで、梁間3間以上、桁行3間以上を数える。柱穴はP-1からP-7まで確認されており、梁間4.5m以上、桁行6.6mを測り、柱穴間距離は梁間2.4-2.1m、桁行1.8-2.5mを測る。柱穴の平面プランは円形を呈するものと、梢円形を呈するものが認められ、直径20~38cm、深度8~41cmを測る。遺物は埋土より土師質土器細片が出土しているが実測可能遺物は認められない。

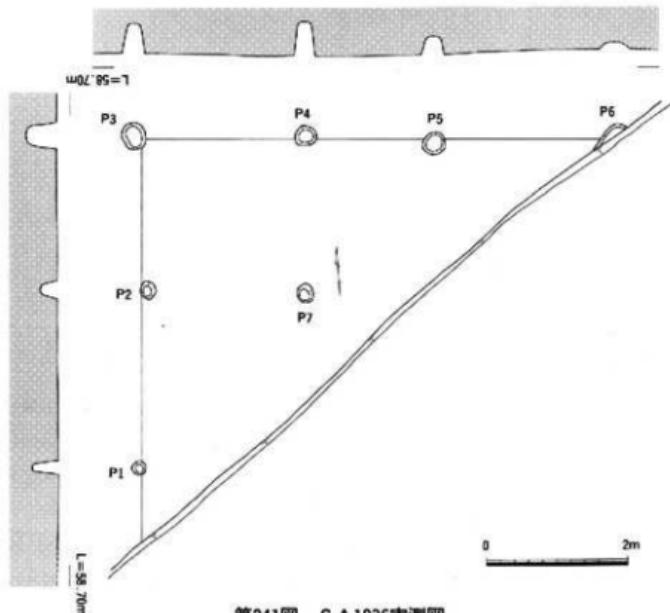
### 37号建物跡

(S A 1037) (第242図)

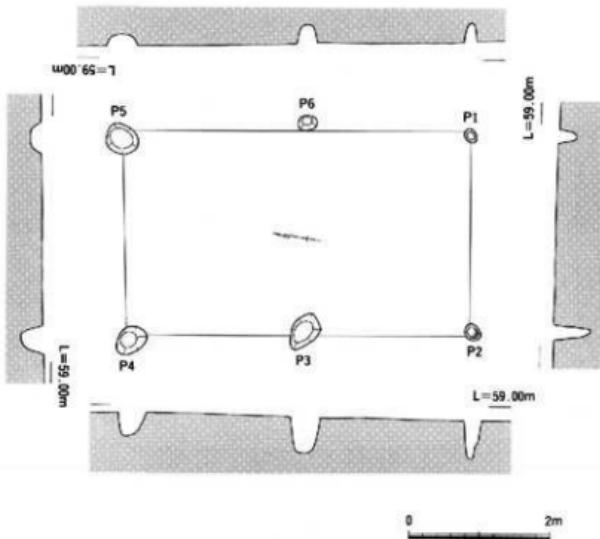
G 調査区 M・N-20・21グリッドから検出され、調査区の南端に位置する掘立柱建物跡である。主軸はN-10°-Wで、梁間1間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-6まで確認されており、梁間2.7m、桁行4.9mを測る。柱穴間距離は梁間2.7m、桁行2.3~



第240図 S A 1035実測図



第241図 S A 1036実測図



第242図 SA 1037実測図

2.6mを測る。柱穴の平面プランは円形と橢円形を呈し、規模は直径20~50cm、深度13~54cmを測る。遺物は埋土より土師質土器細片と瓦質土器細片が出土しているが、実測可能遺物は認められない。

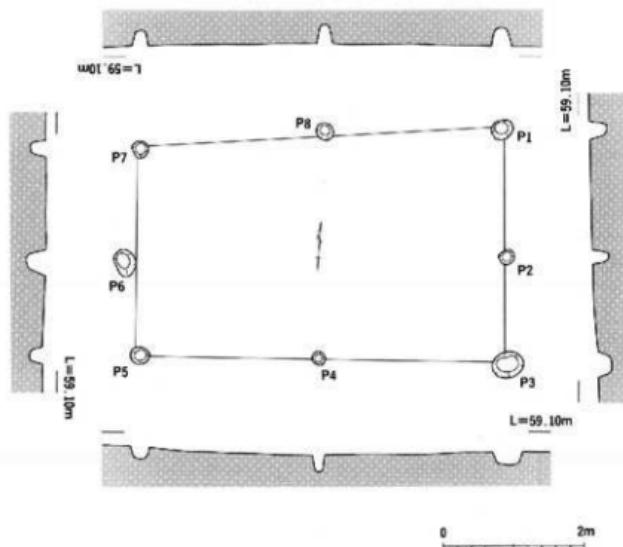
#### 38号建物跡（SA 1038）（第243図）

G調査区M・N-19・20グリッドから検出され、調査区の南端に位置する据立柱建物跡である。主軸はN-86°-Eで、梁間2間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-8まで確認されており、梁間3.2m、桁行5mを測る。柱穴間距離は梁間1.3~1.7m、桁行2.5mである。平面プランは円形を呈し、規模は直径17~43cm、深度17~28cmを測る。出土遺物は埋土より土師質土器杯、土師質土器細片が出土した。

#### 出土遺物（第244図）

遺物は土師質土器杯6点、土師質土器皿1点、土師質土器羽釜1点、土師質土器細片1点が出土した。実測可能遺物は1点のみであり図で示した。

648はP-6から出土した土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反す



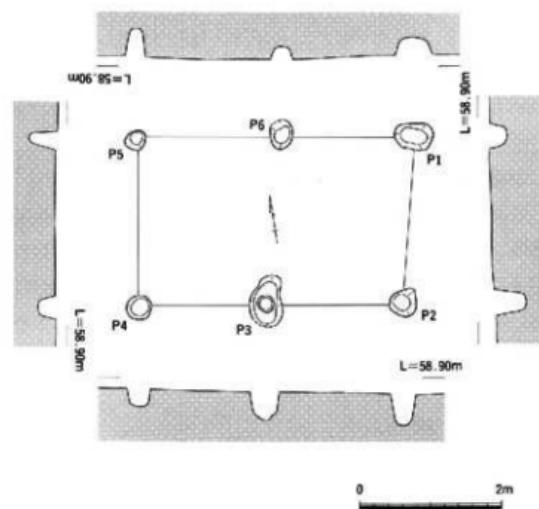
第243図 S A 1038実測図

る。体部はやや外反しながら立ち上がる。底部は回転糸切りである。内外面回転ナデを施す。

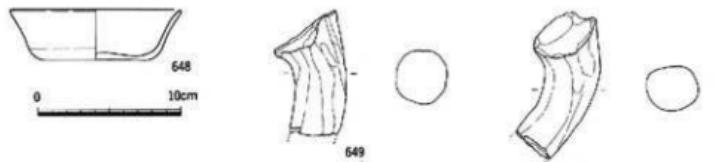
### 39号建物跡

(S A 1039) (第245図)

G 調査区 L・M-20・21グリッドから検出され、調査区の南側に位置する獨立柱建物跡である。主軸はN-83°-Eで、梁間1間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-6まで確認されており、



第245図 S A 1039実測図



第244図 S A 1038出土遺物実測図

梁間2.4m、桁行3.7mを測る。

柱穴間距離は梁間2.4m、桁行

1.7~1.9mを測る。柱穴の平面

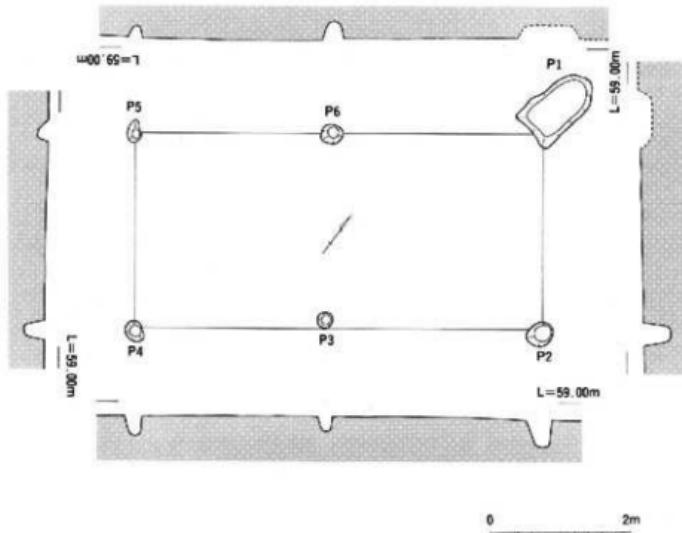
プランは円形を呈するものと、梢円形状を呈するものが認められ、直径は27~59cm、深度は17~43cmを測る。遺物は埋土より出土している。

第246図 S A 1039出土遺物実測図

#### 出土遺物（第246図）

遺物は土師質土器皿4点、土師質土器鍋2点、土師質土器細片14点が出土したが実測可能な遺物は2点のみである。

649・650はP-3から出土した土師質土器の足である。



第247図 S A 1040実測図

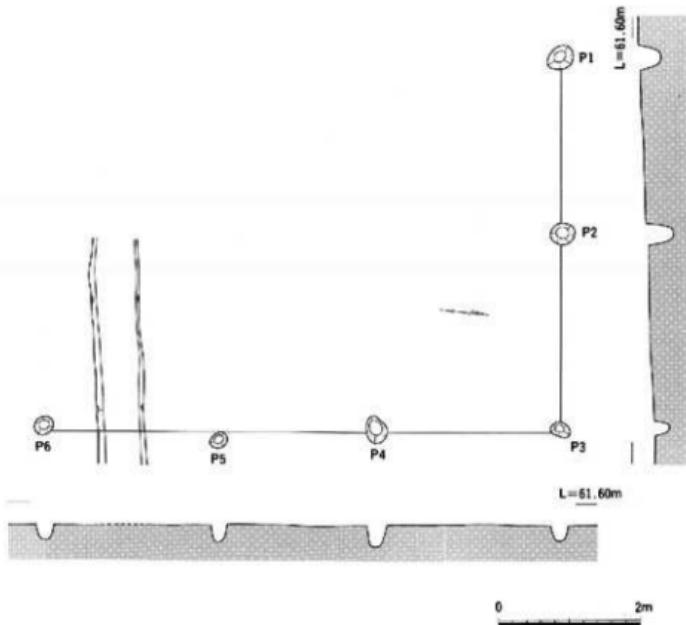
#### 40号建物跡 (S A 1040) (第247図)

G調査区L・M-20・21グリッドから検出され、調査区の南側に位置する掘立柱建物跡である。主軸はN-53°-Eで、梁間1間、桁行2間を数える。柱穴はP-1からP-6まで確認されているが、P-1はSK1197にあたり、柱穴を確認する事は出来なかった。梁間は3m、桁行5.7mを測る。柱穴間距離は梁間2.7~3m、桁行2.7~3mを測る。柱穴の平面プランは円形と橢円形を呈する物が認められる。規模は直径22~37cm、深度は15~38cmを測る。遺物は埋土より土師質土器Ⅲ1点、土師質土器細片4点が出土したが、実測可能遺物は認められない。

#### 柵列

##### 1号柵列 (S A 2001) (第248図)

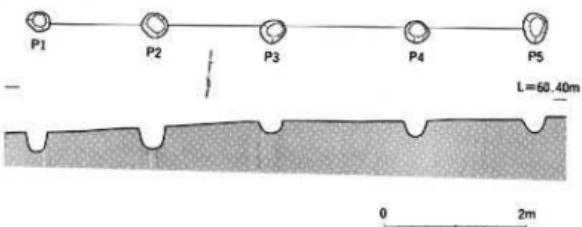
A調査区D・E・F-10・11グリッドから検出され、調査区の南側に位置し、S A 1033の北東側に位置する柵列である。掘立柱建物跡を形成する可能性も考えられるが、S A 1033に



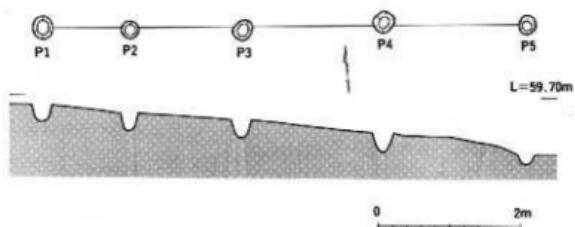
第248図 S A 2001実測図

付随する施設と考える。

柵列は東西方向と南北方向に延びており、東西方向で3穴2間、南北方向で4穴3間を検出した。主軸はN-6°-Wを示す。検出長は東西で5.16m、南北で7.14mを測り、柱穴間距離が東西で2.4~2.7m、南北で2.1~2.5mを測る。柱穴は円形を呈しており、直径25~40cm、深さ20~26cmを測る。遺物は埋土より出土している。



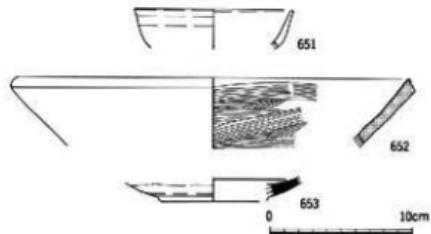
第250図 SA 2002実測図



第251図 SA 2003実測図

#### 出土遺物（第249図）

遺物は弥生土器細片2点、土師質土器細片20点、土師質土器杯4点、土師質土器皿2点、土師質土器小皿1点、土師質土器鍋1点、瓦質土器鉢1点、結晶片岩片3点、輸入貿易陶磁1点が出土した。遺物は細片が多く実測可能遺物3点を図化した。

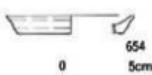


第249図 SA 2001出土遺物実測図

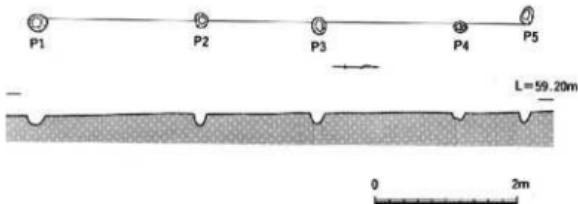
651は土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや外反する。

652は瓦質土器の鉢である。口縁端部は平坦におさめ、体部は直線的に立ち上がる。体部内面には横方向のハケメが施されている。

653は白磁の皿である。体部内面に施釉が認められる。見込み部分には沈線が認められる。



第252図 SA 2003出土遺物実測図



第253図 S A2004実測図

**2号柵列 (S A2002) (第250図)**

B調査区J-15・16グリッドから検出され、調査区のほぼ中央に位置する柵列である。S A1035の北側に位置する。5穴確認され、4間を検出した。検出長7.08m、柱穴間距離は1.6~2mを測り、主軸はN-85°-Eを示す。柱穴は円形を呈し、直径30~40cm、深さ21~30cmを測る。遺物は埋土より弥生土器細片が出土しているが、実測可能遺物は認められない。

**3号柵列 (S A2003) (第251図)**

B・D調査区I-16・17グリッドから検出され、調査区の南側に位置する柵列である。5柱穴からなり、4間を検出した。検出長6.42m、柱穴間距離は1.2~1.9mを測り、主軸はN-85°-Wを示す。柱穴は円形を呈し、直径21~30cm、深さは13~25cmを測る。出土遺物は埋土より、弥生土器細片と土師質土器小皿を出土している。

**出土遺物 (第252図)**

遺物は弥生土器細片19点、土師質土器小皿1点、サヌカイト片1点、結晶片岩片1点が出土した。遺物は細片が多く図化可能な1点を図で示した。

654はP-3から出土した土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ、体部はやや外反しながら立ち上がる。口縁部は外反する。底部は回転糸切りである。

**4号柵列 (S A2004) (第253図)**

D調査区I・J-17グリッドから検出され、調査区の西端に位置する柵列である。5柱穴からなり、4間を検出した。検出長6.78m、柱穴間距離は0.9~2.28mを測り、主軸はN-5°-Eを示す。柱穴は円形を呈し、直径18~25cm、深さは7~16cmを測る。遺物は弥生土器細片と、土師質土器細片が出土しているが、図化可能な遺物は認められない。

## 土坑

20号土坑 (SK 1020)

(第254図)

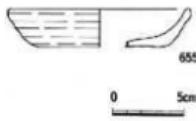
A調査区の北側、E-11

グリッドに位置する土坑で

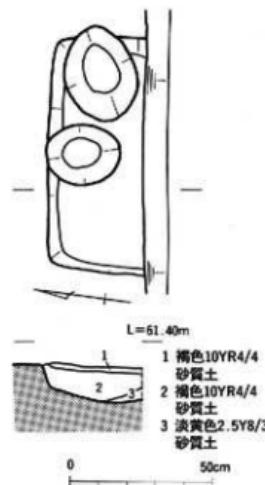
ある。遺構南側部分は後世の漆塗によって擾乱を受けている。遺構内は2基のピットによって切られた状況で検出された。平面プランは方形状を呈していると思われる。規模は現況で長軸95cm、短軸35cm、深さ12cmを測り、床面には凹凸は認められず、壁面は急斜面である。埋土は3層に分かれ、遺物は埋土中より出土している。

出土遺物 (第255図)

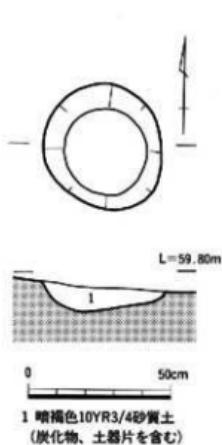
出土遺物は弥生土器細片7点、土師質土器皿1点、土師質土器細片7点が出土している。遺物は細片のため実測可能遺物は1点のみである。



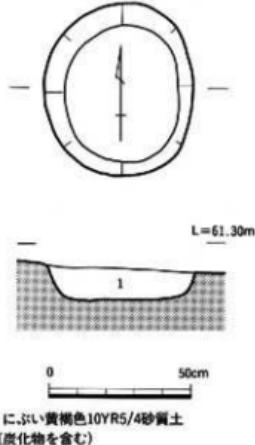
第255図 SK 1020出土遺物図



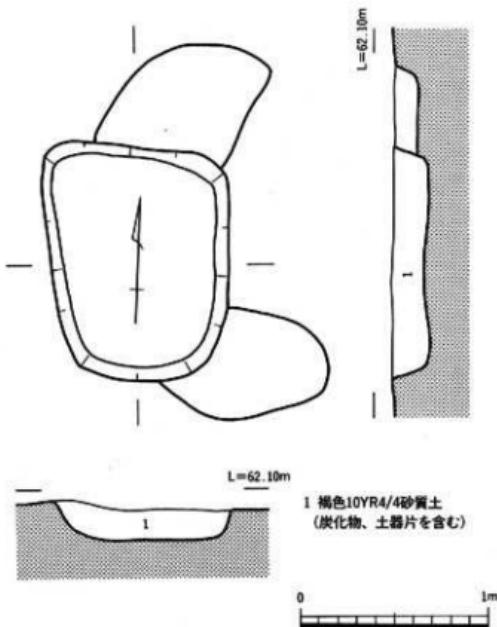
第254図 SK 1020実測図



第256図 SK 1080実測図



第257図 SK 1093実測図



第258図 S K 1096実測図

655は土師質土器の皿である。底部は回転糸切りが見られ、体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁端部は丸くおさめやや内湾する。

#### 80号土坑 (S K 1080) (第256図)

B調査区のはば中央、J-16グリッドに位置する土坑である。北側にS K1063、西側にはS K1062が、東側にはS K1067、S K1069が検出されている。平面プランは不整円形状を呈している。規模は長軸45cm、短軸35cm、深さ9cmを測る。床面は東側から西側に緩やかに傾斜し下っている。壁面は緩斜面である。埋土は暗褐色砂質土1層で炭化物を混入している。遺物は埋土より土師質土器細片が1点出土しているが、実測可能遺物は出土していない。

#### 93号土坑 (S K 1093) (第257図)

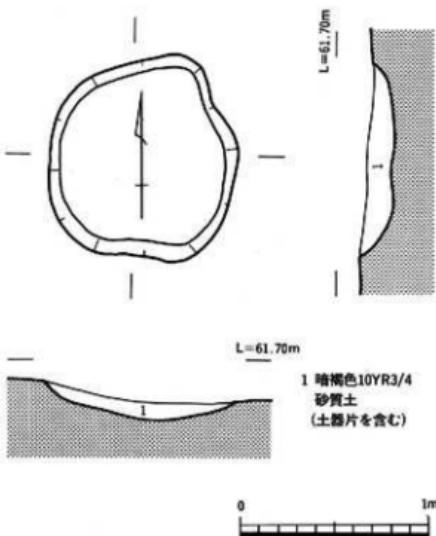
A調査区の南端、D-10グリッドに位置する土坑である。西側にはS K1019、S K1092が検出されている。平面プランは隅丸不整円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸58cm、深さは11

cmを測る。床面は水平であり、壁面は緩斜面である。埋土は鈍い黄褐色砂質土1層で炭化物を混入している。出土遺物は土師質土器小皿1点、土師質土器細片1点が埋土より出土しているが、細片のため実測可能遺物は出土していない。

#### 96号土坑（SK 1096）

(第258図)

E調査区の西側、K・L-8グリッドに位置する土坑で、北側でSX1001、南側でSX1002を切った状況で検出された。平面プランは隅丸不整方形を呈し、規模は長軸125cm、短軸90cm、深さ20cmを測る。床面は水



第259図 SK 1099実測図

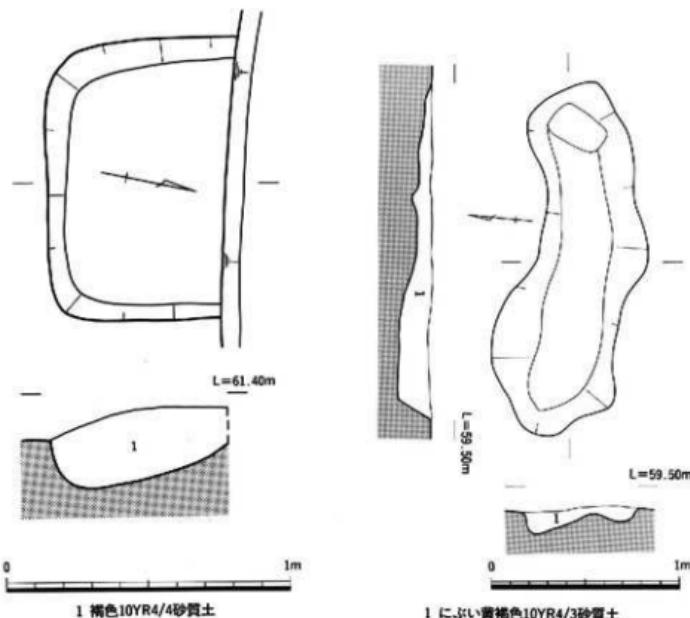
平を呈し、壁面は緩斜面である。埋土は褐色砂質土1層であり、炭化物を混入している。出土遺物は埋土中より土師質土器細片1点が出土しているが、細片のため実測可能遺物は認められない。

#### 99号土坑（SK 1099）(第259図)

E調査区の北西側、M-8グリッドに位置する土坑である。平面プランは隅丸不整方形を呈し、規模は長軸110cm、短軸105cm、深さ16cmを測る。床面には凹凸が認められ、壁面は緩斜面である。埋土は1層で暗褐色砂質土である。出土遺物は瓦器皿3点、土師質土器細片3点が出土しているが実測可能遺物は認められない。

#### 110号土坑（SK 1110）(第260図)

E調査区の北端、M-9グリッドに位置する土坑で、南側にはSK1109が検出されている。北側は調査区外のため調査が行われていないが、平面プランは隅丸方形を呈するものと思われる。規模は現状で長軸100cm、短軸70cm、深さ24cmを測る。床面は造構中央部に向かうにつれて盛り上がっていき、側縁が深い状況である。壁面は緩斜面である。埋土は褐色砂質土



1 棕色10YR4/4砂質土

第260図 SK 1110実測図

第261図 SK 1189実測図

1層であり、遺物は埋土中より土師質土器細片1点とサヌカイト片1点が出土している。

#### 189号土坑（SK 1189）（第261図）

F調査区の北側、Q-19グリッドに位置する土坑で、南側にSK 1192が検出されている。平面プランは隅丸不整方形を呈し、規模は長軸180cm、短軸60cm、深さ16cmを測る。床面には凹凸が認められ、中央部より側縁部が深い状況である。壁面は緩斜面である。埋土は純い黄褐色砂質土1層で、遺物は埋土より出土している。

#### 出土遺物（第262図）

出土遺物は弥生土器細片3点、土師質土器鍋1点、土師質土器細片4点、結晶片岩1点が出土している。

弥生土器は摩滅が激しく流れ込みと



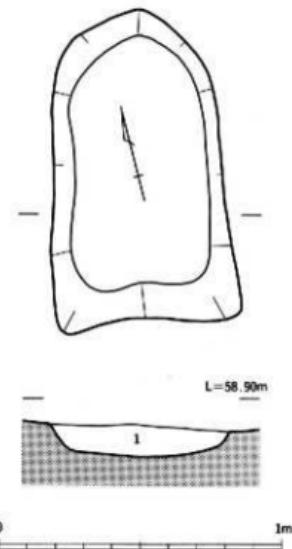
第262図 SK 1189出土遺物実測図

思われる。遺物は細片のため実測可能遺物は土師質土器の1点のみである。

656は土師質土器の土鍋である。口縁部は「く」の字状に外反し、端部を下方に拡張し、端面を平坦に仕上げる。

#### 197号土坑（SK 1197）（第263図）

G調査区の南側、N-21グリッドに位置する土坑である。平面プランは隅丸方形状である。規模は長軸105cm、短軸55cm、深さ10cmを測る。床面は水平で、壁面は緩斜面である。埋土は純い黄褐色砂質土で、粘性を持ち、炭化物を混入している。遺物は埋土より土師質土器細片が1点出土している。遺物は細片のため実測可能遺物は認められない。



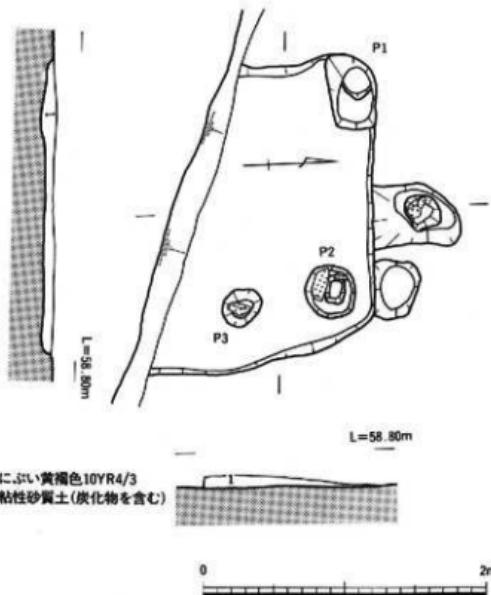
#### 202号土坑（SK 1202）（第264図）

G調査区の南端、L-20グリッドに位置する土坑で、SP 10720を切った状況で検出された。南側は調査区外に当たり調査が行われておらず全体の形状は不明であるが、隅丸方形を呈しているようである。規模は現状で長軸210cm、短軸120cm、深さ12cmを測る。床面は凹凸が認められるがほぼ水平で、壁面は緩斜面である。埋土は純い黄褐色砂質土で、粘性を持ち、炭化物を混入している。造構内にはピットが3基検出されており、P-1が長軸52cm、短軸32cmを測り、埋土は褐色砂質土で、炭化物を混入している。P-2は長軸40cm、短軸36cmを測り、根石と思われる結晶片岩片と土師質土器の杯が横に倒された状態で検出された。埋土は暗褐色砂質土で、炭化物を混入している。P-3は長軸28cm、短軸24cmを測り、根石と思われる結晶片岩片が置かれている。埋土は褐色砂質土1層で炭化物を混入している。P-2・P-3は、本造構に伴うものとも考えられるが、南側の調査が行われていないため、造構に伴う物かどうかは不明である。出土遺物は埋土中より出土した。

第263図 SK 1197実測図

#### 出土遺物（第265図）

出土遺物は弥生土器細片2点、土師質土器皿1点、土師質土器細片61点、サヌカイト片1点、結晶片岩1点が出土した。弥生土器は摩滅を受けて剥離が激しいので流れ込みと思われ



第264図 SK 1202実測図

る。実測可能遺物は土師質土器皿の1点のみである。

657はP-2より出土した土師質土器の杯である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反する。底部はヘラ切り後板ナデである。



第265図 SK 1202出土遺物実測図

#### 柱穴出土遺物

##### 20号ピット (S P 1020) (第266図)

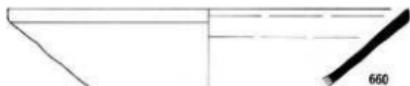
658は土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや内湾する。内外面回転ナデを施す。

##### 49号ピット (S P 1049) (第266図)

659は土師質土器の杯である。口縁端部丸くおさめ、体部は直線的に立ち上がる。内外面回転ナデを施す。



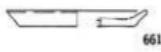
658



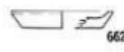
660



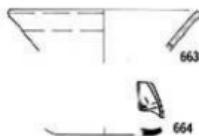
659



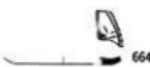
661



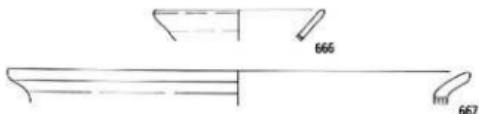
662



663



664



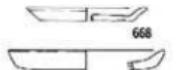
666



667



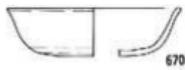
665



668



669



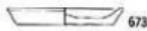
670



671



672



673



674



第266図 柱穴出土遺物実測図(1)

**54号ピット (S P 1054) (第266図)**

660は東播系須恵器のこね鉢である。口縁端部はやや上方に拡張する。口縁部の形態と体部の形状より12世紀後半から13世紀初頭に位置付けられるものと思われる。

**78号ピット (S P 1078) (第266図)**

661は土師質上器の皿である。口縁端部丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部は底部より直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りを施す。

**98号ピット (S P 1098) (第266図)**

662は土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ口縁部はやや外反する。内外面回転ナデを施す。

**101号ピット (S P 1101) (第266図)**

663は瓦器椀である。口縁端部丸くおさめ口縁部はやや外反する。内外面には本来暗文が施されているのであろうが、内外面摩滅のため調整不明である。

664は同安窯系の青磁皿である。内外面ともに施釉が施されている。内面には模描きによる文様が施されている。森田・横田編年のI-1か2類<sup>(1)</sup>に当たるものと思われる。

**123号ピット (S P 1123) (第266図)**

665は土師質土器の椀である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。

**126号ピット (S P 1126) (第266図)**

666は土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部はやや外反する。内外面には回転ナデが施されている。

667は土師質土器の土鍋である。口縁端部方形におさめ、口縁部「く」の字状に外反する。

**127号ピット (S P 1127) (第266図)**

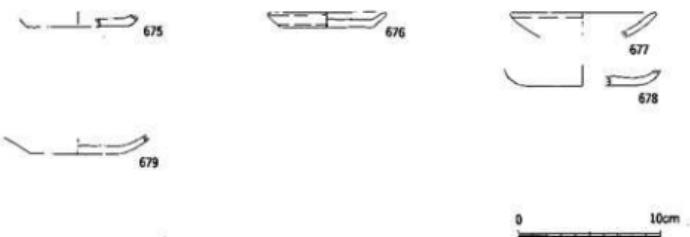
668-669は土師質上器の皿である。668は口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反する。体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りを施す。内外面には回転ナデを施す。669は口縁端部丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部は直線的に立ち上がる。底部は回転糸切りを施す。

**132号ピット (S P 1132) (第266図)**

670は土師質土器の杯である。口縁端部を丸くおさめ口縁部はやや外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。底部は回転ヘラ切りを施す。

**138号ピット (S P 1138) (第266図)**

671は瓦質土器の底部の破片である。底部は平底を呈し、体部は直線的に立ち上がっていいる。調整は外面上位に格子目タタキ、その下にはヘラケズリが施されている。



第267図 柱穴出土遺物実測図(2)

**205号ピット (S P 1205) (第266図)**

672は瓦器柄である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反している。体部はやや内湾しながら立ち上がる。底部には退化した貼り付け高台がつく。調整は口縁部内外面ヨコナデ、外面は体部にユビヲサエ、内面には横方向の粗い暗文が施されている。森島分類のIII-3期<sup>(2)</sup>に当たるものと思われる。

**284号ピット (S P 1284) (第266図)**

673は土師質土器の皿である。口縁端部丸くおさめ、口縁部は外反し、体部は直線的に立ち上がる。底部は回転糸切り。外面は回転ナデを施している。

**285号ピット (S P 1285) (第266図)**

674は土師質土器の皿である。口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反し、体部は直線的に立ち上がる。外面には回転ナデを施している。

**759号ピット (S P 1759) (第267図)**

675は土師質土器の皿の底部の破片である。底部は回転ヘラ切りを施している。

**960号ピット (S P 1960) (第267図)**

676は土師質土器の皿である。口縁端部を丸くおさめ、口縁部は外反。体部は直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切り。外面には回転ナデが施される。

**727号ピット (S P 10727) (第267図)**

677-678は土師質土器の杯である。677は口縁部の破片で、口縁端部丸くおさめ、口縁部は外反する。外面は回転ナデを施す。678は底部の破片である。

**756号ピット (S P 10756) (第267図)**

679は土師質土器の皿の底部の破片である。体部は底部より直線的に立ち上がる。底部は回転ヘラ切りの後イタナデを施している。

## 包含層出土遺物（第268～270図）

680～682、684は土師質土器の杯である。体部が直線的に伸びる681,682,684と、やや内湾しながら立ち上がる680がある。口縁端部はやや外反する680と、やや内湾する681,684がある。底部は680がヘラ切り、681が回転糸切りである。

683～697は土師質土器の皿である。体部が直線的に立ち上がるものの683,685,686,688,690,691,693,696と、やや外反気味に立ち上がるものの687,689,692,694と、直立気味に立ち上がる695がある。底部は687～691が回転ヘラ切り、692,693,697が回転糸切りである。

698,699は土師質土器の鍋である。698は口縁部を「く」の字状に外反、口縁端部は拡張し半坦におさめる。699は口縁部はやや内湾し、口縁端部は凹面を呈し、丸くおさめる。

700～705は土師質土器の羽釜である。口縁部が直立する701,702と、口縁部が内湾する700,703～705がある。断面三角形の鉢を上向きに付ける700,705、断面三角形の鉢を下向きに付ける701～704がある。

706～709は鍋ないし羽釜の脚部である。調整はユビヲサエを施した後ヘラで形を整えたと見られる。断面は円形を呈する。

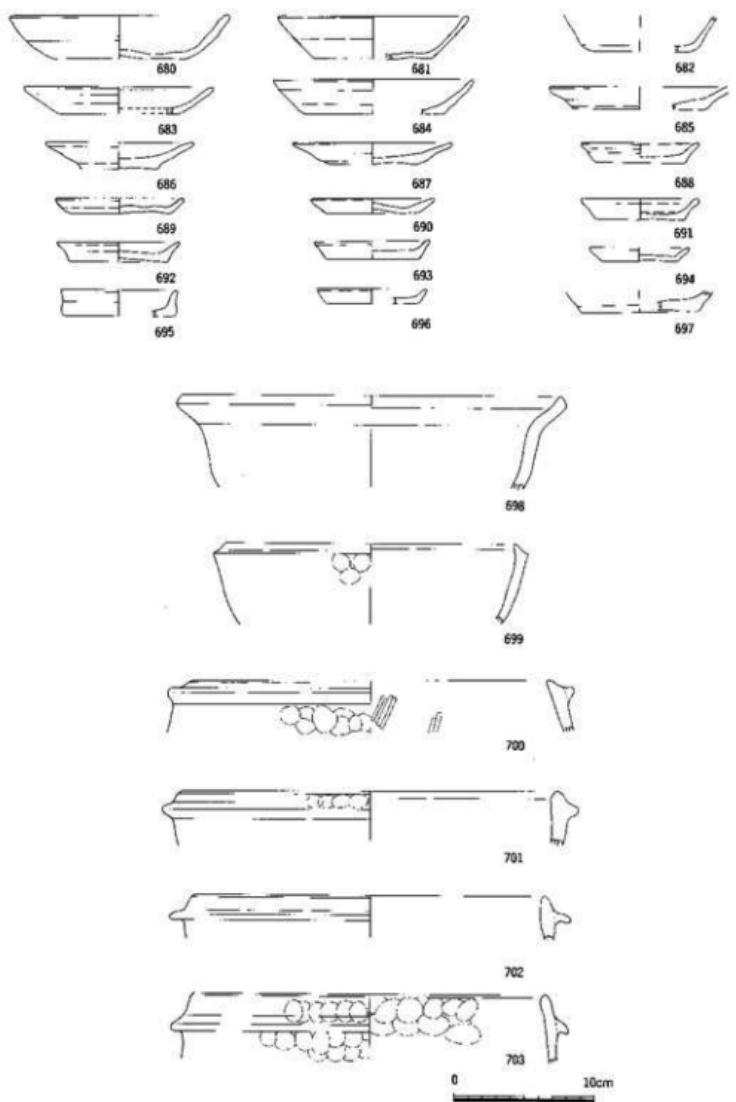
710,711は和泉型瓦器椀、712は瓦器小皿である。710は体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ口縁部は外反する。体部外面は指頭圧痕、体部内面は粗いヨコヘラミガキを施す。711は体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ、口縁部はやや外反する。体部外面は部分的に指頭圧痕を施し、体部内面は部分的にヘラミガキが認められる。712は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめ、口縁部は外反する。口縁部外面には一条の沈線を施している。これらの瓦器椀は尾上分類のIII期<sup>(3)</sup>に位置付けられるものと思われる。

713は瓦質土器の大鉢である。口縁端部はやや拡張し、丸くおさめる。口縁部外面には一条の沈線を施している。口縁部内外面はヨコナデである。

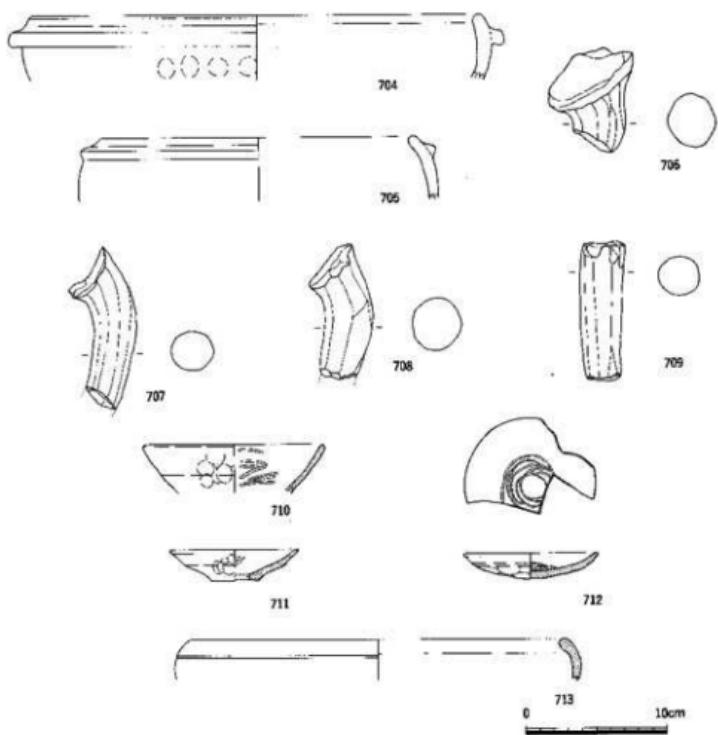
714は東播系須恵器のこね鉢である。口縁端部は上方に拡張し、方形におさめる。口縁部外面に強いヨコナデによる凹みを持つ。口縁部の形態より12世紀後半から13世紀初頭に位置付けられる。

715～718は備前焼のすり鉢である。715は口縁端部を上下に拡張し、方形におさめている。716は口縁端部を下方に拡張し、先端部は鋭く尖る。717は口縁部は直立し、口縁部内面に突起を持ち、口縁端部は丸くおさめる。口縁部外面に2状の沈線を施す。718は備前焼の底部である。体部内面に7条単位の柳描条線を施している。715,717は岡壁編年<sup>(3)</sup>のIV期（15世紀代）、717はV期（16世紀）に位置付けられるものと思われる。

719は白磁の碗である。口縁部を外反し、端部を水平にする。体部内面上位に浅い沈線を

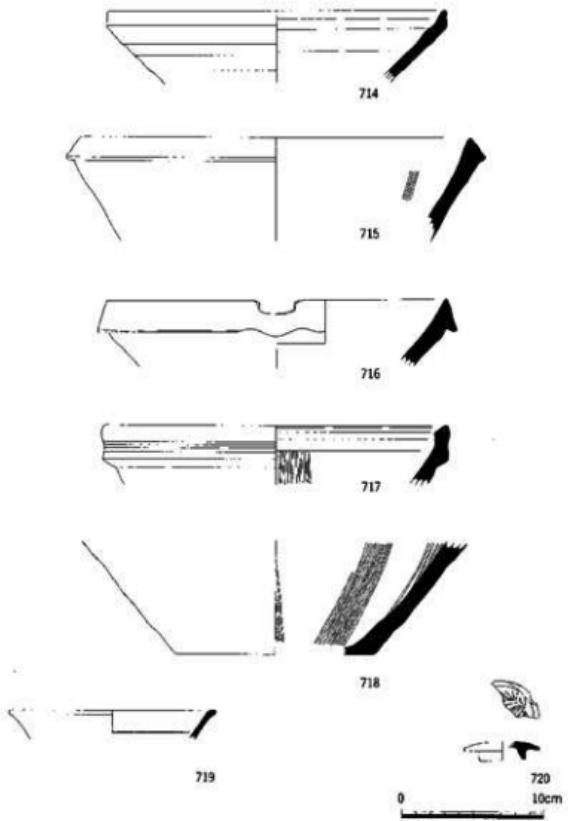


第268図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



第269図 遺物包含層出土遺物実測図(2)

持っている。720は青磁小壺蓋である。上面には片影りによる文様らしき物が彫られている。



第270図 遺物包含層出土遺物実測図(3)

注

- (1) 森田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』四 1987
- (2) 森島康夫「幾内産瓦器碗の併行関係と曆年代」『大和の中世土器II』 1992  
尾上実「南河内の瓦器碗」『藤沢一大先生古希記念古文化論叢』 1983
- (3) 間壁忠彦「備前」『世界陶磁全集3 日本中世』 小学館 1977

### 3 まとめ

#### (1) 日吉谷遺跡出土の旧石器石器群について

この項では調査区西側で確認されたブロックの石器群を中心として、日吉谷遺跡遺跡出土の旧石器群の位置付け・遺跡形成に至る背景などについて若干の検討を行い、まとめとした。なお個々の石器・石核・剥片の観察については、すでに前項で詳述しているため、ここでは省略させていただく。

#### 1 遺跡の立地

まず遺跡の立地について述べてみたい。遺跡の立地は旧石器文化研究のうえで重要な視点である。たとえば立地する地形の問題としては、台地あるいは段丘の選択があげられる。このことは河原での採集や河岸段丘の礫層中に含まれている礫そのものを抜き取るなどして、石材を調達することが可能だったと言えるのである。つまり石器石材の供給に関するリスクを軽減するために石器石材の入手の容易な地点に集落や石器製作場を形成したと考えられる。

徳島県内における旧石器遺跡の立地については、大小の河川によって形成された低位～中位段丘に立地しており、中位段丘では集中して遺跡が占地し、低位段丘では散在的な分布状況を示している<sup>(1)</sup>。このことは四国の他地域においても類似している。日吉谷遺跡は吉野川中流域左岸、阿讃山脈南麓に形成された扇状地礫層が、狭小な谷地形によって樹枝状に分断された標高約60mの中位段丘面上に占地している。また日吉谷遺跡の立地する長峰台地と呼ばれる南北幅1～2km、海拔50m～150mの緩やかな中位河岸段丘上には多くの旧石器遺跡が近在しており、遺跡間の関連が注目される。

徳島県においては、本遺跡をはじめとして板野郡土成町椎ヶ丸遺跡<sup>(2)</sup>など吉野川中流域北岸の中位段丘面上に遺跡が集中して分布している。これらの遺跡群は石器石材を獲得する一連の行動、サヌカイト入手に関わる集団の回帰運動の途上で形成されたものであると思われる。これらの遺跡から出土する石器石材はほとんどがサヌカイトである。これらのサヌカイトは香川県五色台周辺の産と思われる。いわゆる吉野川北岸遺跡群とサヌカイト原産地である五色台周辺との距離は直線距離にして約35kmであり、石器石材の搬入ルートとしては、現在も香川県側に抜ける重要な交通路となっている日開谷川、曾江谷川、宮川内谷川などの水系に沿って石材を搬入したものと推定される<sup>(3)</sup>。

徳島県内の旧石器遺跡は石材原産地から離れた、生業・生産活動を営んだとされる消費地遺跡<sup>(4)</sup>の様相を示している。遺跡の立地条件には狩猟・採集などの生業を中心とした日常生活と原石採集の便を兼ね備えた地点が選択されたと思われ、これら遺跡を構成した集団は、河

川に面した山麓の平坦面（中位段丘）をベースキャンプとして、山麓裾に広がる低位の平野部（低位段丘）を活動の拠点として、結果的に長期に渡る遺跡が形成されたといえる。

## 2 ブロック1出土の石器について

日吉谷遺跡では調査区西側において約半径2mのブロックが1ヵ所確認された。ユニットからの出土点数は286点であり、ナイフ形石器・スクレイパー・剥片・碎片類で構成され、石材は圧倒的にサヌカイトを利用している。石器組成は一側縁加工の国府型ナイフ形石器を中心として、若干のスクレイパー類が伴うといった単純な様相を示している。出土したナイフ型石器は国府型ナイフ形石器を中心として、剥片生産技術には、いわゆる瀬戸内技法を技術基盤としている。

本石器群は角錐状石器を伴っておらず、一側縁加工の国府型ナイフ形石器のみの純粹な国府石器群とみなすことができよう。時期的には、AT降灰前後、ナイフ形石器文化後半期いわゆる「国府期」の石器群に該当する。徳島県において、ほぼ原位置をとどめた状態で石器群が検出されたのは初例のことである。県内での遺跡間の対比は困難であるが、上成町椎ヶ丸遺跡の石器群の組成等からみて、ほぼ同時期のものと考えられる。

剥片類の中には、翼状剥片とは異質な横長剥片がみられるが、これらは盤状剥片の形状等の石材供給の制約によって剥片剥離工程上生じたものであり、あくまでも翼状剥片剥離の継続を意図している以上、瀬戸内技法の範疇に含めてよいように思われる。消費地遺跡においては限られた石器石材を有効に活用するため、時として変則的な手法が用いられたり、製作途上のアクシデントに対処する補正技術の要求も必然的に強くなるものと思われる。また三条黒島遺跡<sup>(5)</sup>・八尾南遺跡第3地点<sup>(6)</sup>の例のように翼状剥片石核の横長剥片石核への転用も考慮しておく必要があろう。瀬戸内技法第2工程は瀬戸内技法を最も特徴づける工程であるが、原産地・消費地という石材獲得環境の相違により、石器素材の運用形態に差異が存在することにも留意する必要があろう。

日吉谷遺跡ブロック1の石器群では、盤状剥片素材の翼状剥片石核・ファーストフレーク素材の国府型ナイフ形石器・同石核転用のスクレイパーの存在から瀬戸内技法第2工程以降の製作工程が指摘できるが、直接的に瀬戸内技法第1工程を示す資料は認められない。このような技術的構造は、石器石材の搬出・搬入形態に寄与するものであろう。つまり、サヌカイトという单一石材への依存度の高い消費地遺跡（地域）において、原産地より盤状剥片・翼状剥片・国府型ナイフ形石器といった搬入形態がとられ、遠隔地への便や、石器製作工程の省力化、石器製作ミスによる石材消費などのリスクを回避するという側面があったと言えよう<sup>(7)</sup>。第1工程を示す資料は、原産地遺跡においては集中する傾向がある。原産地における盤状剥片・翼状剥片・国府型ナイフ形石器の効率的な生産は、結果的に大規模遺跡（石器製

作跡)を形成し、サヌカイト供給圏内においては、瀬戸内技法の技術的安定化・器種組成の齊一化など、国府石器群の遺跡間における差異を最小限にとどめ得たのであろう<sup>(1)</sup>。

### 3 日吉谷遺跡の瀬戸内技法関連資料

瀬戸内技法関連の資料は、国府型ナイフ形石器11点、翼状剥片石核3点、翼状剥片が多数出土しているが、瀬戸内技法第1工程から第3工程を示す完結的な石器生産の痕跡はみられない。本石器群は瀬戸内技法を技術基盤としている。出土資料の中には現存長で8cmを超える大形のナイフ形石器が出土しており、他のナイフ形石器と様相を異にしている。これは石材原産地周辺からの単独搬入であると思われる。またスクレイパーの中には残核となった翼状剥片石核を半剖したものを素材として用いている。

日吉谷遺跡における国府石器群は、瀬戸内技法を主たる技術基盤とし、国府型ナイフ形石器を主要な生産用具としている。こういったナイフ形石器を主体とし、それに若干のスクレイパー類を伴うという石器組成上の特徴は、瀬戸内地域の原産地遺跡・消費地遺跡ともに共通して認めることができる。しかしながら、遺跡の性格という点で、原産地遺跡と消費地遺跡では根本的な相違がある。两者ともに共通した技術基盤に立脚しながらも、原産地遺跡では、剥片・石核・未製品等の比率が高く、また盤状剥片などの石核素材が多く認められる。このような状況は、松藤和人氏のいうアトリエ的性格を反映しているものといえる<sup>(2)</sup>。一方、消費地遺跡においては、原石単位というよりも、盤状剥片・翼状剥片・国府型ナイフ形石器という単位でサヌカイトが搬入されていたと推察される。また日吉谷遺跡のナイフ形石器は最大長が5cm前後と比較的小形のものが主体を占める中で、客体的な様相をみせる最大長10cmを越す大形のナイフ形石器がこのことを示唆するものと言えるだろう。

日吉谷遺跡のナイフ形石器は、一側縁加工で、長さ5cm前後、幅2cm前後のものが多く、小形で細身の傾向を示している。瀬戸内技法のように連続して定型的な剥片を生産する技術によるナイフ形石器の大きさは、素材となる翼状剥片およびそれを生産する翼状剥片石核の大きさに敏感に反応する。とすれば、このことは、消費地遺跡的様相である石器石材の効率的な利用の結果であると同時に石材原産地から消費地遺跡に搬入されるサヌカイトの大きさ(単位)を示唆するものと捉えることができる。

出土資料の中には、いわゆる石器のリダクション<sup>(3)</sup>を示すものがある。第8図5と6は接合する。接合した状態が第8図4である。石器の製作途中で欠損したものに再加工を施し、製品に仕上げている。通常ナイフ形石器のリダクションは打点を中心に器体の上下両端にプランティングを施して形態を整えるが、第5図6のリダクションは国府型ナイフ形石器は本来の基部を先端部とし、折断面を腹面側からプランティングを施して器体を整えている。第1図5と接合する第5図6を観察してみると意図した折断ではなく、ナイフ形石器製作工程途

中で生じたものであり、その不慮の事故に対する緊急避難的措置であろう。また第5図6は打点側の一側縁は2枚の剥離面で構成され、一つは翼状剥片石核の調整剥離痕の残存であろう。もう1点の接合資料第13図30~32のナイフ形石器はリダクションではなく、明らかに石器製作上の折損である。

他の石器類については、スクレイバー類が特徴的である。日吉谷遺跡においては石核転用の製品がみられる。7・8は翼状剥片石核を半剖して器体を整え、縁辺部に急斜度な調整加工によりスクレイバーエッジを作出している。このような石核を半剖するスクレイバーは本石器群の中で特徴的な形態を示し、これは消費地遺跡の様相を示唆するものと思われ、石器石材の効率的な利用の結果であると考えられる。

#### 4 石材獲得と遺跡形成に至る背景

日吉谷遺跡のナイフ形石器は概して長さ5cm前後、幅2cmのものが多く、国分台周辺の原産地遺跡と比較して小形で細身の傾向を示しており、消費地遺跡の様相を呈している。翼状剥片石核も概して小形である。このことは周辺の椎ヶ丸~芝生遺跡と共に通している。これらは消費地遺跡における盤状剥片の形状等の石材供給の制約上生じた石材の効率的な利用の結果であると考えられる。

一つの解釈として、日吉谷遺跡のような石材原産地（国分台周辺など）から遠く離れた消費地遺跡では、サヌカイトの入手は容易ではなく、次回の入手までの期間も長くなると考えられる。1回のサヌカイト搬出量にはおのずと限界があると考えれば、当然、搬出する石材（サヌカイト）の形状もその周期的スケジュールに適応したものとなる。石材原産地から遠く離れた消費地遺跡においては、国府型ナイフ形石器や翼状剥片といった目的的な石器素材よりも、多目的な盤状剥片を重点的に持ち込むという石器石材の運搬技術の選択が存在したと思われる<sup>(11)</sup>。1回における石器石材の入手・消費サイクルが長期間になればなるほど、国府型ナイフ形石器や翼状剥片といった目的的な石器素材より、盤状剥片のような、より多目的な利用に供しやすい素材を選択的に搬出することによって、石材消費によるリスクを少なく使用としたことは十分に考えられる。日吉谷遺跡のように石材原産地から遠距離にありながら、石器石材のほとんどをサヌカイトに依存しているような遺跡では、上記のような状況下にあった可能性は想像にたやすい。

各集団の移動範囲は、その周期的および回帰的な生業・生産活動領域を対象としたとき、その領域は小河川に限定されるものではなく、平野をとりまく段丘および山地周辺にまで広がっていた可能性が考えられる<sup>(12)</sup>。つまり、サヌカイトの獲得が広域におよぶ年間の周期的生業・生産（狩猟・採集）活動の一部に埋め込まれていた<sup>(13)</sup>と考えるなら、サヌカイトの分布範囲が集団の生業・生産活動領域であったと考えることが可能であろう。サヌカイトの分

布は集団間の交易ではなく、原産地を中心とした集団の回帰的生業活動による所産であると考えられる。そういうたて石器石材を中心とした回帰的な生業・生産活動の積み重ねの結果として遺跡または遺跡群を形成するに至ったものと推測できよう。

サヌカイトを主要石材とする瀬戸内技法による石器群（いわゆる国府石器群）は、後期旧石器時代前半期には、すでに固定化された地域性を確立した石器群として出現することが板井寺ヶ谷遺跡<sup>(14)</sup>下層の石器組成から窺い知る事ができる。サヌカイトを主要石材として選択し、石器石材の供給システムを早くに完成させたことが瀬戸内技法の特異性を形成し、長期に渡り保守性を継続し得た背景として推測できる。

瀬戸内技法と国府型ナイフ形石器は二上山と五色台・金山の二大サヌカイト産地を包括した形で分布している。瀬戸内周辺のサヌカイトは淡路島の岩屋付近で分布範囲に線引きされ、東は二上山産、西は五色台・金山産が用いられている。黒曜石が200～500kmの移動距離をもつとの比較して、サヌカイトは移動範囲が80kmと短く限定されることから<sup>(15)</sup>、サヌカイトの分布は集団間の交易ではなく、原産地を中心とした集団の回帰的生業活動による所産であると考えられる。ただし、冠高原のサヌカイト分布域には、冠技法と原石の関連性が考えられる。原石の分布と文化圏の広がりは一致する例が多い。つまり、原石の行き渡る範囲に石器作りの情報が流布し<sup>(16)</sup>、しかも原石の物理的属性にある程度規制された石器製作が行われた当然の現象といえる。

四国は基本的に瀬戸内技法の文化圏に包括されるが、中央構造線を境に瀬戸内（四国北部）と太平洋（四国南部）で石器石材の様相に相違がみられる。石材の選択には、1. 石器の機能・用途 2. 石器の形態 3. 石器の製作技術 4. 石材の石質が要因として機能したと考えられ、また石材選択の規制要因としては、1. 集団の文化系統 2. 石器製作技術 3. 地質分布が考えられる。四国地方においては国府型ナイフ形石器などの打製石器の石材としてサヌカイトが盛用され、他の石器石材はほとんど利用されていない状況である。いわゆる在地的石材であるチャートを産する秩父帯は、四国を縦断する格好で形成され広域的な地域を包括している。また、チャートそのものは和泉層群や領家層の中にも認められる。にもかかわらず四国地方においてはチャートを普遍的に利用出来得る状況にありながら、サヌカイトを圧倒的に利用する点に石器石材の選択に特異性がみられる。これらのこととは規格的な剥片生産技術基盤である瀬戸内技法とサヌカイトという特定の石材の持つ物理的属性と密接な関連があるのであろう。なお瀬戸内側は石材にサヌカイト主体とし、その瀬戸内技法を技術基盤として、太平洋側は石材に若干サヌカイトを用いているが、在地的石材であるチャートを主体として、縦長剝片剥離技術を技術基盤とするという相違がみられる。しかしながら、これら石材利用の相違が集団の文化系統に起因するものなのか、あるいは時期的・地域的相違であるのかは、四国における旧石器時代の調査事例に地域的な粗密があるため、推論の域

を出ないのが現状である。

## 5 まとめ

これまで日吉谷遺跡の旧石器石器群について概観してきたが、今後の検討すべき点をいくつか挙げてまとめとしたい。

日吉谷遺跡の旧石器石器群は、瀬戸内技法を技術基盤に持ち、一側縁加工の原則的な形態の国府型ナイフ形石器を主要な生産道具とする国府石器群であるといえる。縦的にはナイフ形石器の形態や若干のスクレイパーを伴うといった単純な石器組成等から、時期的に瀬戸内技法の盛行期とされるAT上位に位置付けられよう。しかしながら、瀬戸内技法の縦的位置はAT降灰前後に捉えられているが、出現時期・盛行期・終焉時期については仮説の域をでない状況にある。また、一般的に単純だといわれる瀬戸内技法の石器群の石器組成についても角錐状石器との関連をはじめとして、遺跡の性格と関連した具体的な検討を行う必要性が唱えられている。今後、資料の増加を待ち、周辺遺跡との対比を行い、これら地域的・縦的な空白を積極的に埋めていくことが急務である。さらに遺跡の形成過程を総合的に検討し、出土遺物の定量的な分析を進めていく必要があろう。また考古学的検討と同時に理科学的方法による原産地同定を意識的に進めていくことにより、集団の生業・生産活動の実態、換言すれば旧石器文化の具現化につながっていくことだろう。

また県南の廿枝遺跡<sup>(17)</sup>に代表されるチャートを主体とした石器群との関係についても今後検討していかなければならない課題である。讃瀬戸地域においては石器石材にサヌカイトを圧倒的に利用する中で、本遺跡からはチャート製のナイフ形石器も出土している。チャート（在地石材）を主体とした遺跡は、徳島県南部の阿南市廿枝遺跡の他には、金蔵～上井遺跡<sup>(18)</sup>があるが、その他の例として量的に極めて少量ではあるものの上板町柿谷遺跡においてもチャート製ナイフ形石器<sup>(19)</sup>が、また椎ヶ丸遺跡においてもチャート製剝片が見られ、井島Ⅰ段階以前にも石器石材にチャートを用いていたことが示唆される。このことはサヌカイト製のナイフ形石器（瀬戸内技法またはそれに準ずる石器製作技術）が県南部に伝播した可能性を示唆するものといえる<sup>(20)</sup>。吉野川北岸地域においては弓島西方遺跡の段階（宮田山期）以降の遺跡は希薄であり、金蔵～上井遺跡の他は確認されていない。今後、吉野川流域および徳島県南部の勝浦川・那賀川流域において井島Ⅰに後続する段階の遺跡の存在が予想される。

廿枝遺跡・金蔵～上井遺跡では、小形の二側縁加工のナイフ形石器が石器組成の主体を占めている。石器群の組成には明確な細石核・細石刃はみられず、時期的には従米吉われている井島Ⅰの段階である。この時期から、本県においては主体となる石器石材の変容がみられ、チャート等の、いわゆる在地石材が増加する。このことは石材原産地である香川県の因分台

遺跡群でも類似した様相を示し、また備讃瀬戸島嶼部においても出土する細石核の石材に大半がハリ質安山岩で占められる様になる<sup>(21)</sup>。これらのことから、いわゆる井島Ⅰ段階以降、備讃瀬戸周辺部ではハリ質安山岩を、古野川流域においてはチャートへの石器石材の転換があったと推測できよう。地質分布では、良質のチャートは吉野川左岸の和泉層群では産出されず、徳島県南部の勝浦川流域（秩父帯）で産出されることから<sup>(22)</sup>、井島Ⅰ段階以降に石器石材を求める動きの変化が生じたことが指摘できよう。これには石器製作の技術的側面も考慮にいれねばならないが、主要因としては、AT以後、旧石器遺跡数が増加していることから、生産力の発展を背景とした人口の増加に対応するため、新たな生業・生産活動の場の開拓を余儀なくされ、集団の移動があったと解釈できる。移動するなわち生業・生産活動の場を希求するに伴い原産地から遠くなるに従い、それまで使用していた石材が入手困難になると想定できよう。また福田孝司氏は石材が多様化する要因として、最終氷期（ヴェルム期）における波動的な気候変動は、狩猟対象獣の変化などの集団の環境適応に大きな影響を及ぼしたと考え、その結果、石器製作技術の進歩を促し、石材に規制されなくなるとした<sup>(23)</sup>。つまり備讃瀬戸の集団が環境の変化に適応する手段として、石材獲得の周期的スケジュールに即し、阿讃山脈を越えて南下し、それまで捕获的な石材であったチャート等の在地石材を主体的に石器石材として利用するようになったと解釈できるだろう。このことを示す資料として、古野川の支流の一つである鮎喰川右岸下流域に位置する名東遺跡でサヌカイト製の国府型ナイフ形石器が1点採集されていること<sup>(24)</sup>、また阿南市廿枝遺跡において、いわゆるチャート製の国府型ナイフ形石器が1点出土<sup>(25)</sup>しており、石器石材にサヌカイトを用いる集団（文化圏）とチャートを用いる集団（文化圏）の接点（交流点）であると考えるならば、徳島県南部に在地石材を用いた国府石器群またはそれに後続する石器群の存在が予想される。

すでに多くの光学諸氏も指摘するように、いわゆる在地石材の大半が日常的な狩猟採集活動に伴って獲得されたものであり、したがってまた集団の移動に応じて刻々と変化する行動圏の地理的条件に銳敏に反応するものであることに疑義はないであろう。さらに獲得された原石の一部はその場で消費され尽くされることなく、ある場所から別の場所へ持ち運ばれ、その結果として、集団の保持する石材の部分的な廃棄が個々の遺跡において反復されることも個別遺跡の石器群、換言すれば個々の具体的事實により集団の生業・生産活動の実態が導きだせよう。最終氷期（ヴェルム期）における波動的な気候変動は集団の短期的な環境適応のパターンに大きな影響を及ぼしたに違いない。諸集団の移動領域は、その適応行動の転換に伴って拡大と縮小を繰り返し、集団間の社会的・政治的連帯にも緊張と弛緩の周期的反復を生じさせ、その周期的スケジュールに即し、生業・活動領域を遊動していく過程においてチャート等の在地的な石器石材への変換が生じたものと考えられる。

## 注

- (1) 早瀬隆人 「旧石器遺跡立地についての一視点——吉野川北岸域を中心として——」徳島県埋蔵文化財センター研究紀要『真朱』創刊号 徳島県埋蔵文化財センター 1992
  - (2) 久保賀美朗 他 「椎ヶ丸・芝生遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol.2 徳島県埋蔵文化財センター 1991  
高橋正則 「徳島県土成町椎ヶ丸遺跡の旧石器」「旧石器考古学』27 旧石器文化談話会 1983
  - (3) 天羽利夫 「徳島県の遺跡」「日本の旧石器文化』3 雄山閣 1976 また網川一徳氏は阿讃山脈の標高350mを越える地点に立地する、椎ヶ塙遺跡・大久保遺跡などの旧石器遺跡の存在から尾根上の搬入ルートを指摘している。網川一徳 「徳島県上柱周辺の旧石器」「旧石器考古学』39 旧石器文化談話会 1989
  - (4) いわゆる原産地遺跡と消費地遺跡の諸特徴を挙げてみる
- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 石材(石器) 原産地遺跡     | 消費地(遠隔地) 遺跡               |
| 1 原石出土(角礫等)。     | 1 石核の残り具合が小さく、石核転用の石器が多い。 |
| 2 出土点數多量。        | 2 盤状剥片・石核の占有率が低い。         |
| 3 盤状剥片・石核の占有率が高  | 3 ナイフ形石器の小型化。             |
| 4 大形の石器が多い。      | 4 ナイフ形石器の定型化。             |
| 5 未製品の割合が多い。(幅広) | 5 ナイフ形石器先端部の尖鋭化。          |
|                  | 6 二側錐加工のナイフ形石器の割合が多い。     |
- (5) 香川県教育委員会 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報——昭和63年度——」香川県教育委員会 1989
  - (6) 福田英人 「八尾南遺跡——旧石器出土第3地点——大阪府埋蔵文化財調査報告書第36輯」大阪府教育委員会 1989
  - (7) 網川一徳 「瀬戸内におけるサヌカイト旧石器政策」「考古学ジャーナル』315号 ニューサイエンス社 1990  
山口卓也 「近畿地方における旧石器時代遺跡の立地——遺跡立地の差と地域性の発生について——」「関西大学考古学資料室紀要』第8号 等。
  - (8) 網川一徳 「瀬戸内技法に関する二、三の考察」「岡山大学文学部紀要』第19号 岡山大学 1993
  - (9) 松藤和人 「瀬戸内技法・国府石器群の現状と課題」「旧石器考古学』30 旧石器文化談話会 1985
  - (10) いわゆる消費地遺跡においては、石器が小形の傾向を示すが、これらは遠隔地になればなるほど石材の補給が困難になるため、石器の器種再生(リダクション)が行われた結果

であると思われる。その器種再生に際しては、オリジナルの工糸をトレースする。また砂田佳弘氏は、器種再生が行われた理由の一つとして、石器は消耗品であり、替え刃としての石器形態が常態的に補給されていたためであるとしている。砂田佳弘「相模野の石器再生——器種形態の存続と改変——」『神奈川考古』第29号 神奈川考古同人会 1993

- (1) 前掲注(7) 細川 1990
- (2) 国分台周辺が集団の日常的生業・生産活動領域とした場合、この狭い範囲の領域では、植物採集をはじめ食料の確保が困難になる冬場に限らずとも、狩猟対象獣など食料の一定量の確保が困難であった可能性を考えられる。またアフリカのセントラル・ブッシュマンの一部の行動領域は、半径50kmの行動領域をもち、年間移動距離は平均300km、行動領域面積は4000km<sup>2</sup>になるといわれている(前掲注(1) 田中二郎 「ブッシュマン」第2版 思索社 1980)。このことについては相互の地理的環境の差を考慮する必要があるが、集団の広域的な移動領域を想定する一つの指標にはなろう。
- (3) 未開社会あるいは非市場社会にあっては、商品市場とか商業活動は存在せず、経済人類学者カール・ボランニーによれば「生計(生産)は社会的諸制度のなかに“埋め込まれ”ている」という。K.ボランニー、工野井芳郎・平野健一郎 訳 「経済の文明史」 日本経済新聞社 1975
- (4) 山口卓也 編 「板井寺ヶ谷遺跡発掘調査報告書——旧石器時代の調査——」 1991
- (5) 理科学的検討によると、サヌカイトは二上山や五色台・金山とも80kmほどの文化圏をもつことが知られている。藤井哲男 他 「石器石材の产地分析」「鎌木義昌先生古希記念論集 考古学と関連科学」 鎌木義昌先生古希記念論文集刊行会 1988
- (6) 小野 昭氏は石器製作技法の共通性について、隣接した地域の接触が無限に達なった結果であるとした。小野 昭 「遺跡分布からみた旧石器時代の社会——ナイフ形石器群を例とした分布の現象と実態——」『第四紀研究』26-3 1988
- (7) 高橋正則 「徳島県阿南市・廿枝遺跡採集の石器再考」『旧石器考古学』29旧石器文化談話会 1984
- (8) 久保脇英朗 「金蔵～上井遺跡」「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1」 徳島県埋蔵文化財センター 1993
- (9) 池淵 茂 他 「柿谷遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol.2 徳島県埋蔵文化財センター 1993
- (10) 同一母岩の石核・剥片・碎片等の具体的なチャートを用いた石器製作を示す痕跡はなく、逆に県南部からの単独の搬入と捉えることもできる。
- (11) 香川県教育委員会 「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅰ～VI」 香川県教育委員会 1977～1989

- (22) この点について早瀬隆人氏が指摘している。前掲注(1)。
- (23) 和泉層群北部の砂岩疊層中には散在的にチャートが包藏しているが、露頭している地点は不明である。徳島県南部の地質は秩父帯が分布しており、勝浦川流域では良質の緑色チャートが採集できる。
- (24) 稲田孝司 「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」『考古学研究』22-4 考古学研究会 1976
- (25) 氏家敏之 「名東遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報』Vol. 4 徳島県埋蔵文化財センター 1993
- (26) 前掲注(8)

## (2) 弥生土器の様相

今回の調査によって出土した弥生土器は細片が多く全体のプロポーションを伺うものは、わずかな数最しか認められなかつたが、機種のわかるものでは、壺形土器、壺形土器、高环形土器などがある。全体の状況からは壺形土器が量的に多く、次いで壺形土器、高环形土器の順である。本遺跡は、遺構の出土数の割には遺物は細片が多いが、壺形土器の口縁部や頭部、壺形土器、高环形土器の口縁部の形態と施文された文様を概観し機種分類を行ない、本遺跡の営まれた年代を追いたい。

本遺跡出土土器は完形品がほとんど認められないため、形態により壺(A~D)、甕(A~B)、高环土器とする。

壺Aは筒状の頭部につづいて、大きく口縁部がひらく上器。口縁部は水平にひらくもの(79、133、143、234~237、239~241、243)と斜め上にひらく(144、238、242、244、247~249、251)がある。口縁端部は方形におさめるもの(79、133、240、241など)と、上下にやや肥厚ぎみのもの(143、234~239、244)、口縁端部を下方に拡張(238、243)が認められる。口縁端部には、刻目文(107、133、134、236、240~242、244)、ヘラによる斜格子文(79、237)が認められる。243は四線文と刻目文が交互に3重施されている。口縁部内面には竹管文を3重に施すもの(233)、貼付突帯と刻目文を施すもの(236)、ヘラによる斜格子文と刻目文を施すもの(237)、貼付突帯を2条施し、その1条に刻目文を施すもの(239)、2~3条の帯による斜格子文を施す(243)が認められる。細部の調整は土器の依存状態がよくなく不明瞭であるが、これらの土器は紫雲出遺跡<sup>(1)</sup>、矢ノ塚遺跡<sup>(2)</sup>の壺Aに相当する。

甕Bはやや開き気味に立ち上がる頭部から外反する口縁部を持つもの(134、151、250)である。口径は20cmを越える。134は口縁端部をやや上下に拡張し、口縁部内外にはやや幅広のヨコナデ、外面にはタテヘラミガキ、内面にヨコヘラミガキが認められる。151は口縁端部をやや下方に拡張し、端部には上下に刻目文、頭部にはヘラによる列状圧痕文、簾状文、波状文を施す。内面は口縁部にやや幅広のヨコナデ、頭部より下にヨコヘラミガキを施している。

壺Cは直線的でわずかに外反する口縁部を持つもの(62、118)である。62は口縁端部を方形におさめ、口縁端部に刻目文を持つ。118は口縁端部を上下に拡張する。口縁部下には強いヨコナデによる凹みを持つ。体部中位に最大径を持つ。紫雲出遺跡壺Cに当たる。

壺Dは口縁部が内彎気味に立ち上がるもの(246)である。口縁端部を上方にやや拡張し平坦面を造り出す。口縁下には貼付突帯を2条施し、その上に刻目文を持つ。紫雲出遺跡甕B、矢ノ塚遺跡の壺Eに対応する。

甕Aは頸部から口縁部の屈曲が緩やかなもので、口縁端部は丸いもの(95、96、129、145、146、152、162、189、226、231、273、274、276、278、279、282、284、285~287)と方形を呈する(128、138、153、154、275、277、280、281、283、290、292、296、298~300)もの、271、272は逆L字状口縁を呈している。口縁端部には刻目文を施す(138、152、162、279~284)もの、口縁端部に刻目文と口縁下に多条の櫛描直線文を施す(95、271~273、276)、口縁端部に刻目文と口縁下に多条の櫛描直線文、刺突文を施す275、口縁部に刻目文、口縁下に櫛描による波状文を施す277、278がある。また、口縁端部は、無文であるが口縁部下に多条の櫛描直線文と櫛描波状文を施す129、口縁下に多条の櫛描直線文と刺突文を施す225がある。全体の器形の明瞭なものは129、146のみであるが胸部の膨らみは明瞭に認められず、胴長である。底部は平底である。体部外面にはタテハケメかタテヘラミガキ、体部中位よりタテヘラミガキ、内面はヨコヘラミガキか、タテハケメが認められる。櫛描文の出現を持って第II様式が特徴づけられているが、口縁部直下に櫛描文が認められ、体部の形態もあまり顕著な膨らみが胴部に認められないことより正岡編年II-1様式<sup>(3)</sup>に当たるものと思われる。

甕Bは頸部から口縁部の屈曲が「く」の字状に外反するものである。口縁端部は方形におさめるもの(132、147、168、304、305、308、309、310)、上方に拡張するもの(72、306、307)、下方に拡張するもの(108)、上下に拡張するもの(109~115、309、311~317)がある。口縁端部を上下に拡張したものには凹線文が認められる(109~115、314~317)。体部外面には刺突文(304、305、308)、頸部には指頭压痕文突帯をめぐらした311もある。体部外面には上位にタテハケメとタテヘラミガキ、中位以下にタテヘラミガキが認められるものがある。器形に関しては完形品は認められず全体をうかがえないが、体部の膨らみは明瞭に認められるものと思われる。これらの土器は紫雲出遺跡甕<sub>1</sub>、矢ノ塚遺跡甕<sub>1</sub>に対応する。また、凹線文A種<sup>(4)</sup>を持つものに関しては紫雲出遺跡甕<sub>1</sub>、矢ノ塚遺跡甕<sub>1</sub>に対応する。

高环は体部は半球形状を呈し、口縁部は直立して立ち上がる(72、74、331)。口縁端部は拡張され平坦面が造られる。口縁端部には凹線文が2条施されている。体部外面はタテヘラミガキが施される。紫雲出遺跡高环A<sub>1</sub>、矢ノ塚遺跡A<sub>1</sub>-2に對応する。

本遺跡における遺構出土の遺物は先に述べたとおり、出土数が少なく一括資料と言い難いものも認められるが、遺構内でやまとまって遺物の出土が認められるものはSB1005、SK1063、SK1132、SK1171・1172 SK1185が上げられる。

SB1005からは口縁部上方に拡張した甕B、凹線文を持つ高环、壺の体部が出土し、胸部の張りはかなり顕著なものと成り、体部外面には上位にタテハケメ、中位にヨコヘラミガキ、下位にタテヘラミガキを施し、底部は平底を呈している。

SK1063は甕Bが出土し口縁端部を拡張するものと、端部を拡張し凹線文を施すものが一括出土している。

S K1132は口縁端部に櫛描文を施したものと端部を方形におさめた壺Aが出上している。S K1171・1172は壺Aと壺A、S K1185から壺Cと壺Bが出土している。中期の土器は、ヘラ描文から櫛描文への変化によって第II様式の前期とし、凹線文の出現を第III様式の中葉にすえ、第IV様式に凹線文の盛行期としてとらえられている事から、これらの事について見れば、S K1132・1171・1172・1185とS B1005・S K1063の2期に分かれる。しかし、遺構内遺物が先に述べたように遺構出土数の割に一括性のあるものが少ない事から、周辺地域の資料の増加によりさらに検討を加える必要がある。本遺跡の年代であるが、前段階が正岡編年II-1様式に併行、後の段階が紫雲出山II式、正岡編年III-2様式に併行するものと考えられる。しかし、包含層出土遺物からは紫雲出山I式に併行する土器の出土が認められ、実年代としては弥生時代中期前葉（第II様式）～中期中葉（第III様式）に位置するものと思われる。

#### 注

- (1) 小林行雄・佐原真「紫雲出」 1964 香川県教育委員会他
- (2) 菊田耕作他「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三冊欠ノ塚遺跡」 1987 香川県教育委員会他
- (3) 正岡睦夫「備前地域」『弥生土器の様式と編年－山陰・山陽編－』 1992
- (4) 前掲(1)

## 4 自然科学的分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### (1) 炭化材同定

#### はじめに

日吉谷遺跡（阿波郡阿波町山吉谷26-1ほか所在）は、吉野川中流域左岸の段丘上に立地する。これまでの発掘調査により旧石器時代～中世にわたる遺構や遺物が検出されている。とくに古墳時代後期（6世紀後半）の住居址が1軒検出されており、その床面上から柱材と推定された炭化材が検出されている。

今回は古墳時代後期の住居址から検出された柱材の樹種を明らかにするために材同定を実施することとした。

#### 1. 試料

試料は、古墳時代後期（6世紀後半）の住居址（SB001）から検出された炭化材3点（試料名：炭化材①～③）である。

#### 2. 方法

試料を乾燥させたのち、木口（横断面）・桿口（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

#### 3. 結果

炭化材①はモミ属の一種、炭化材②はシイ属の一種に同定された（表4）。また、炭化材③は針葉樹であることは判断できたが、保存状態が悪く、種類の同定は困難であった。モミ属とシイ属の主な解剖学的特徴や現生種の一般的性質等を以下に記す。なお、和名・学名等は「原色日本植物図鑑 木本編〈II〉」（北村・村田、1971, 1979）にしたがい、現生種の一般的性質等については「木の事典 第3, 5巻」（平井、1981）も参考にした。

表1 日吉谷遺跡炭化材同定結果

試料名	用途	時代	樹種名
SB001 炭化材①	柱材	古墳時代後期（6世紀後半）	モミ属の一種
SB001 炭化材②	柱材	古墳時代後期（6世紀後半）	シイ属の一種
SB001 炭化材③	柱材	古墳時代後期（6世紀後半）	針葉樹

・モミ属の一種 (*Abies* sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は薄く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はないが、傷害樹脂道が認められることがある。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は粗く、末端壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

モミ属には、モミ (*Abies firma* Sieb. et Zucc.)、ウラジロモミ (*A. homolepis* Sieb. et Zucc.)、アオモリトドマツ (*A. mariesii* Masters)、シラベ (*A. veitchii* Lindley)、アカトドマツ (*A. sachalinensis* (Fr. Schmidt) Masters) の5種があり、アカトドマツを除く4種はいずれも日本特産種である。モミは本州（秋田・岩手県以南）・四国・九州の低地～山地に、ウラジロモミは本州中部（福島県以南）・紀伊半島・四国の山地～亜高山帯に、アオモリトドマツは本州（福島県以北）の亜高山～高山帯に、シラベは本州中部（福島県以南）・奈良県・四国に、アカトドマツは北海道に分布する常緑高木である。モミを除いては山地～高山・寒冷地に生育する。モミの材はやや軽軟で、強度は小さく、割裂性は大きい。加工は容易で、保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか、建具・器具・家具・建築材など各種の用途が知られている。

・シイ属の一種 (*Castanopsis* sp.) ブナ科

環孔材～放射孔材で孔周部は3~4裂、孔周外で急激に管径を減じたち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形、小道管は単独および2~3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形、ともに管壁厚は中庸～薄い。道管の穿孔は單穿孔で、内壁の壁孔は交互状に配列する。放射組織は同姓、単列、1~20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。年輪界は明瞭。

シイ属には、ツブラジイ（コジイ） (*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) とその変種スダジイ (*C. cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) がある。この内、典型的なツブラジイは集合～複合放射組織が存在することで分けられる。しかし、ツブラジイの

中にも集合～複合放射組織の出現頻度が少なく、作成した切片に観察できないときがある。したがって、集合～複合放射組織が確認できればツブラシイと同定できるが、確認できないからスダジイであるとはいえない。

シイ属は、カシ類とともに、暖温帯常緑広葉樹林の主要構成種である。ツブラシイは本州（伊豆半島以西南）・四国・九州に、スダジイは本州（福島・新潟県以南）・四国・九州・琉球に分布し、また植栽される高木である。一般には、スダジイが沿海地、ツブラシイが内陸地に生育する。材はやや重硬で、割裂性は大きく、加工はやや容易、耐朽性は中程度～低い。材質的にはツブラシイはスダジイより劣るものとされている。薪炭材としての用途が最も多く、器具・家具・建築材などにも用いられる。種子は食用となり、樹皮はタンニン原料となる。

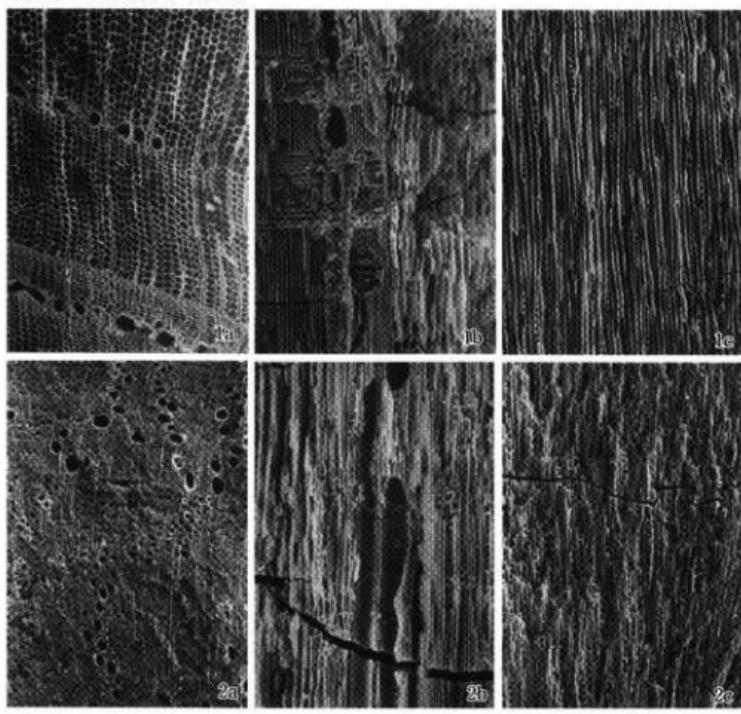
#### 4. 古墳時代後期の建築材

今回検出された炭化材3点は、モミ属・シイ属・針葉樹が各1点であった。これらのうち、モミ属とシイ属では、材質が大きく異なる。住居の柱材に使用する材は、強度がより高いものが適していると思われる。また、できるだけ同じ樹種を使用した方が強度のバランスも良いと考えられる。同定された樹種のうち、シイ属は強度も高く柱材として使用された可能性がある。モミ属については、柱材として使用される例もあるが、強度のバランス等を考えると、シイ属と同じ用途に用いられたとは断定できない。

今回の試料は、住居壁面近くより検出され、全てが柱材と推定されているが、壁面近くという位置から考えると柱材以外の部材（例えば垂木等）も含まれている可能性がある。特に住居の垂木に使用する木材は、それに適した大きさ（長さ・形状・径等）を有しているものであれば、柱ほどの強度は要求されなかった可能性がある。これらのことを考慮すると、今回の結果は部材により使用する木材の種類が異なっていた可能性もある。しかし、試料数が少ないとから現時点では断定できない。

徳島県をはじめ、四国地方では住居構築材などに関する材同定の報告例は少なく、現時点では資料がほとんど無い。したがって、今後さらに調査事例の蓄積することにより、住居建築材の用材選択に関する検討が可能となるだろう。今回の分析結果は、資料蓄積の第一段階と言える。

図版1 日吉谷遺跡 炭化材



1. モミ属の一種 (炭化材①)
2. シイ属の一種 (炭化材②)

a : 木口, b : 杠目, c : 板目

— 200 $\mu$ m : 2a  
— 200 $\mu$ m : 1a-c, 2b-c

第3表 遺構一覧表

遺構名	出 土 地 点	基 板 (cm)	出 土 遺 物				時 期	備 考	博物 館番号
			長軸	短軸	深さ				
SB1001	A区 I・J-9・10	430 410	29	弥生土器、土師器、陶器片、石器、土師質土器、石器、古石、打製石器			古代		223 224
SB1002	B区 L・M-13・14	525 315	15	弥生土器、土師質土器、瓦質土器、チャート片、砂輪等、サヌカイト片、結晶片岩片、石英片、板状石器、石器、磨製石片、砾石、打製石器、磨製石器			弥生中期		24
SB1004	C区 G-15	340 115	14	弥生土器、土師器、サヌカイト片、結晶片岩片、石器、土師質土器			弥生中期		27
SB1005	E区 M・N-10・11	450 275	8	弥生土器、サヌカイト片、結晶片岩片、陶器片			弥生中期		28

遺構名	出 土 地 点	基 板				傾 方 向	出 土 遺 物	時 期	博物 館番号
		面 敷	深間(m)	幅(m)	面積(m <sup>2</sup> )				
SA1001	A区 F・E-9・10	1 × 3	2.14	6.72	14.38	N 30° E	弥生土器	弥生	30
SA1002	D区 K・L-19・20	1 × 2	2.28	2.96	6.75	N-38°-W	弥生土器	弥生	32
SA1003	D区 J・K-20	1 × (2)	(1.32)	(2.36)	(3.89)	N-3°-E	弥生土器	弥生	33
SA1004	E区 L-10	1 × 2	1.36	1.68	2.28	N-28°-E	弥生土器、砾石	弥生	31
SA1005	E区 L・M-7	1 × 2	1.40	3.24	4.54	N-20°-W	弥生土器	弥生	35
SA1006	E区 J-30・11	1 × (2)	(2.4)	(2.12)	(5.68)	N 5° E	弥生土器	弥生	37
SA1007	E区 M・N 9・10	1 × 2	2.08	3.12	6.49	N-5°-E	弥生土器	弥生	38
SA1008	E区 N・O-11・12	1 × (3)	(2.00)	(1.6)	(3.20)	N 5° E	弥生土器	弥生	39
SA1009	E区 J-10・11	1 × 3	1.52	3.56	5.41	N-80°-E	弥生土器	弥生	40
SA1010	E区 L-8	1 × 2	2.12	3.44	7.29	N 88° E	弥生土器、石片	弥生	41
SA1011	E区 N-10・11	1 × (4)	(0.92)	(2.2)	(4.22)	N-67°-W	弥生土器	弥生	42
SA1012	E区 J-10・11	1 × (2)	(1.40)	(1.84)	(2.63)	N 5°-W	弥生土器	弥生	43
SA1013	E区 M・N-9・10	1 × 2	1.89	4.68	8.42	N-20°-W	弥生土器	弥生	44
SA1014	E区 J・K-10・11	1 × (2)	(2.24)	(4.12)	(4.61)	N 5° S	弥生土器	弥生	45
SA1015	F区 P・Q-18	1 × 4	2.84	3.68	10.45	N-1°-W	弥生土器	弥生	46
SA1016	F区 Q・R-15・16	1 × 3	2.12	2.92	6.19	N 5°-W	弥生土器、打製石器、石器、印石	弥生	47
SA1017	F区 P・Q-16・17	1 × 2	3.64	6.16	22.42	N-1°-W	弥生土器	弥生	49
SA1018	F区 P-17	1 × 2	1.64	3.44	5.64	N 4° W	弥生土器	弥生	50
SA1019	F区 Q-15	1 × 2	1.84	2.96	5.45	N-13°-W	弥生土器	弥生	51
SA1020	F区 Q・R-17・18	1 × 4	2.26	4.00	8.64	N-4° E	弥生土器	弥生	52
SA1021	F区 P・Q-15	1 × 3	2.32	3.64	8.44	N-4°-E	弥生土器、打製石器、結晶片岩片	弥生	54
SA1022	F区 P・Q-17・18	1 × 3	3.40	4.28	14.55	N 5° E	弥生土器	弥生	56
SA1023	F区 P-17	1 × 3	1.76	4.08	7.18	N-83°-E	弥生土器	弥生	57
SA1024	F区 Q-18	1 × 3	1.40	2.76	3.86	N 66° E	弥生土器	弥生	58
SA1025	F区 Q-16	1 × 3	1.82	3.88	5.89	N-65°-E	弥生土器	弥生	59
SA1026	F区 P・Q-14	1 × 2	2.22	2.96	7.46	N 82°-W	弥生土器	弥生	60
SA1027	F区 P・Q-14・15	2 × 3	3.32	4.08	14.36	N-43°-W	弥生土器	弥生	61
SA1028	F区 P-17・18	1 × 3	1.76	4.12	7.25	N 87° W	弥生土器	弥生	62
SA1029	G区 M・N-19	1 × 3	2.64	4.12	8.40	N-15°-W	弥生土器、土師質土器、印石、サヌカイト片	弥生	64

( ) は残存部

遺構名	出上地点	規 模				傾 方 向	出 土 遺 物	時 期	辨 識 番 号
		面 積	横 間(m)	縱 行(m)	面積(m <sup>2</sup> )				
S A1036	I 区 T-18・19	1 × 3	1.72	4.6	7.91	N-88°-E	陶生土器	陶生	66
S A1031	I 区 T-18	1 × (2)	(1.92)	(1.76)	(3.38)	N-53°-W	陶生土器	陶生	67
S A1032	I 区 T-19	1 × 2	1.80	3.56	6.40	N-15°-E	陶生土器	陶生	68
S A1033	I 区 T-19	(2) × (3)	(3.84)	(2.6)	(9.98)	N-16°-E	陶生土器、サヌカイト片	陶生	69
S A1034	A 区 K-F-9+10	2 × 3	3.88	6.88	26.69	N-86°-E	土師質土器、瓦質土器	中世	236
S A1035	B 区 J-15-16	1 × (1)	(2.56)	(1.36)	(3.48)	N-S	土師質土器	中世	240
S A1036	D 区 I-J-19-20	(2) × (3)	(4.16)	(2.84)	(11.81)	N-4°-E	土師質土器	中世	241
S A1037	G 区 M-N-20-21	1 × 2	2.48	4.20	10.41	N-10°-W	土師質土器、瓦質土器	中世	242
S A1038	G 区 M-N-19-20	2 × 2	2.56	4.56	11.67	N-86°-E	土師質土器	中世	243
S A1039	G 区 I-M-20-21	1 × 2	1.96	3.08	6.03	N-83°-E	土師質土器	中世	245
S A1040	G 区 L-M-20-21	1 × 2	2.44	5.24	12.79	N-53°-E	土師質土器	中世	247

( ) は既存値。

遺構名	出上地点	規 模 (cm)			出 土 遺 物	時 期	備 考	辨 識 番 号
		長軸	短軸	深さ				
S K1001	A 区 I-11	95	85	32	陶生土器、酒器、土師質土器、結晶片岩片、チャート石、打製石器	陶生中期		70
S K1002	A 区 II-10	70	49	20		陶生		
S K1003	A 区 H-10	133	77	24	陶生土器、土師質土器	陶生		
S K1004	A 区 H-10	135	88	16	陶生土器	陶生中期		72
S K1005	A 区 G-10	360	115	28	陶生土器	陶生		74
S K1006	A 区 G-11	100	65	15	陶生土器、土師質土器	中世		
S K1007	A 区 G-12	70	55	18	陶生土器、瓦質土器	陶生		
S K1008	A 区 G-12	100	50	10	陶生土器	陶生		
S K1009	A 区 G-H-11	133	72	13	陶生土器	陶生中期		
S K1010	A 区 H-11	55	45	13	陶生土器	陶生		
S K1011	A 区 H-11	105	85	12	陶生土器	陶生		
S K1012	A 区 H-11	100	95	15	陶生土器	陶生		
S K1013	A 区 I-11	122	78	30	陶生土器、結晶片岩片	陶生中期		
S K1014	A 区 I-10	70	70	5		不明		
S K1015	A 区 E-10	90	87	23	陶生土器、土師器、結晶片岩片	陶生中期		
S K1016	A 区 D-10	145	55	10	陶生土器、土師質土器、瓦質土器、結晶片岩片	中世		
S K1017	A 区 D-10+II	133	89	17	陶生土器、瓦質土器	中世		
S K1018	A 区 D-11	95	50	12	陶生土器、土師器、結晶片岩片	中世		
S K1019	A 区 D-11	130	89	22	陶生土器、土師質土器	中世		
S K1020	A 区 E-11	95	35	12	陶生土器、土師質土器	中世		254
S K1021	A 区 F-11	105	40	24	陶生土器	陶生		
S K1022	A 区 F-11	220	140	10	陶生土器、結晶片岩片、土師質土器、サヌカイト片	陶生中期		76
S K1023	A 区 F-11	65	25	23	陶生土器、結晶片岩片	陶生		
S K1024	A 区 E-11	80	50	16	陶生土器	陶生		
S K1025	A 区 F-12	133	90	12	陶生土器、土師質土器	中世		

( ) は既存値。

遺構名	出上地点	厘 横 (cm)			出土遺物	時期	層 号	特徴 番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1026	A区 E-12	95	43	12	発生土器	弥生		
SK1027	A区 F-12	130	80	15	赤土器、土師質土器、瓦質土器、不明陶器	中世		
SK1028	A区 E-13	95	95	12	発生土器、土師質土器、サヌカイト片	中世		
SK1029	A区 H-12	85	75	22	発生土器、石英片	弥生		
SK1030	A区 H-11	130	70	10	赤土器、結晶片岩片	弥生中期		
SK1031	A区 H-12	130	95	10	発生土器、結晶片岩片	弥生中期	78	
SK1032	A区 G-12	165	45	12	発生土器	弥生中期	80	
SK1033	A区 J-9	150	70	24	赤土器、土師質土器	弥生中期		
SK1034	A区 G-12	50	40	12	発生土器、サヌカイト片	弥生中期		
SK1035	B区 L-M-14	205	110	16	赤土器、サヌカイト片、結晶片岩片、石英片	弥生中期		
SK1036	B区 N-15	130	35	15	発生土器、土師質土器、サヌカイト片、結晶片岩片、発生不明石器	弥生中期	82	
SK1037	B区 M-15	110	90	14	発生土器	弥生中期		
SK1038	B区 L-14-15	75	50	37	発生土器、結晶片岩片	弥生中期		
SK1039	B区 L-15	45	40	66	赤土器	弥生中期		
SK1040	B区 J-K-14	95	65	8		不明		
SK1041	B区 L-15	35	50	15	赤土器	弥生		
SK1042	B区 L-15	30	50	45	発生土器、結晶片岩片	弥生中期		
SK1043	B区 L-K-15-16	130	65	16	赤土器	弥生中期		
SK1044	B区 L-15	120	50	14		弥生		
SK1045	B区 L-15-16	75	70	40	発生土器、サヌカイト片、結晶片岩片	弥生中期		
SK1046	B区 M-16	110	100	16	発生土器、サヌカイト片	弥生	84	
SK1047	B区 M-16	125	125	9	発生土器	弥生中期	85	
SK1048	B区 M-16-17	70	70	10	発生土器	弥生		
SK1049	B区 M-17	90	85	10		不明		
SK1050	B区 M-17	130	80	8	赤土器	弥生中期		
SK1051	B区 M-17	150	130	8	発生土器、結晶片岩片	弥生		
SK1052	B区 L-17	200	120	10	発生土器、サヌカイト片、チャート片、結晶片岩片、発生不明石器	弥生中期	87	
SK1053	B区 L-17	75	45	11		不明		
SK1054	B区 K-17	90	40	16	発生土器、結晶片岩片	弥生	90	
SK1055	B区 K-L-16	170	135	18	発生土器、結晶片岩片、発生石器(その他)	弥生中期	92	
SK1056	B区 K-15-16, L-16	200	50	11	発生土器、サヌカイト片	弥生中期		
SK1057	B区 K-16	125	65	9	赤土器、結晶片岩片、石礫	弥生	93	
SK1058	B区 K-15	65	60	12	発生土器、サヌカイト片、結晶片岩片	弥生		
SK1059	B区 J-K-15	80	35	14	赤土器	弥生中期		
SK1060	B区 J-15	110	95	14	発生土器、土師質土器	中世		
SK1061	B区 J-15	110	90	12		不明		
SK1062	B区 J-15-16	155	135	12	発生土器、J薄質土器	中世		
SK1063	B区 J-K-16	190	165	56	発生土器、サヌカイト片、砂岩片、結晶片岩片、石英片、結晶片岩器、田石器(不明)、石礫、砾石、小型円柱状石片	弥生中期	95	

( ) は残存例

地名	出土地点	高さ(cm)			地物	時期	備考	種別 番号
		高さ	幅	深さ				
SK1064	B区 K-17	55	45	12	海生上層	海生中期		
SK1065	B区 K-17	80	45	8	海生上層, サメカイト片	海生中期		
SK1066	B区 J-16	105	60	6	海生土層, 土師質土層, サメカイト片	中世		
SK1067	B区 J-16	65	60	25	海生上層	海生中期		
SK1068	B区 J-16	95	75	10	礫石土層, 海生土層, 結晶片岩片	海生		
SK1069	B区 J-16・17	175	70	28	海生上層, サメカイト片, 結晶片岩片	海生中期	97	
SK1070	B区 J-16, I-17	340	60	12	海生上層, 上師質土層	海生		
SK1071	B区 I・J-16	160	45	19	海生土層, 土師質土層, サメカイト片	中世		
SK1072	B区 J-16	95	60	13	海生上層, 上師質土層, 瓦質土層	中世		
SK1073	B区 I・J-16	125	40	15	海生土層, 磁鐵層, 土師質土層, 瓦質土層	中世		
SK1074	B区 I-16	200	48	26	海生上層, 土師質土層, 瓦質土層, 結晶片岩片	海生		
SK1075	B区 I-15・16	170	40	16	海生土層, 土師質土層, 瓦質土層, 結晶片岩片, 小型柱狀石岸	海生	99	
SK1076	B区 I-16	100	50	20	海生上層, 上師質土層	中世		
SK1077	B区 I-15	145	120	52	海生上層, サメカイト片, 結晶片岩片	海生		
SK1078	B区 J-17	180	75	42	海生上層	海生		
SK1079	B区 J・K-15・16	65	30	20	海生上層	海生		
SK1080	B区 J-16	45	35	9	土師質土層	中世	256	
SK1081	B区 J-16	50	45	15	海生上層, 上師質土層	海生		
SK1082	B区 II-15	95	55	20	海生上層	海生		
SK1083	B区 H-14	100	55	20	海生土層, 土師質土層, サメカイト片, 結晶片岩片, 手マーク片	海生		
SK1084	B区 J-13	85	45	19	海生上層	海生		
SK1085	C区 G-16	78	45	18	海生土層, 土師質土層, 瓦質土層	中世		
SK1086	C区 G-16	60	43	17	海生上層, サメカイト片, 石砾	海生	101	
SK1087	C区 G-16	55	40	26	海生土層, 土師質土層	海生		
SK1088	C区 G-16	45	40	10	海生上層, 磁鐵層, 上師質土層, 結晶片岩片	中世		
SK1089	C区 G-16	60	31	19	海生上層, 土師質土層, サメカイト片	中世		
SK1090	A区 D-11	88	63	5	海生上層, 上師質土層	中世		
SK1091	A区 D-11	120	75	5		不明		
SK1092	A区 D-11	80	50	19	海生上層, サメカイト片	海生		
SK1093	A区 D-11	63	58	11	土師質土層, 鋼釘	中世	257	
SK1094	A区 D-11	55	55	6		不明		
SK1095	E区 L-7	135	100	10	海生上層, 土師質土層	海生		
SK1096	E区 L-K-8	125	90	20	上師質土層	中世	258	
SK1097	E区 M-7・8	70	65	15		不明		
SK1098	E区 M-8	70	35	15		不明		
SK1099	E区 M-8	110	105	16	土師質土層, 瓦質土層, 結晶片岩片	中世	259	
SK1100	E区 M-9	80	60	14		不明		
SK1101	E区 M-L-8	70	40	24	海生土層, 土師質土層	海生		
SK1102	E区 M-L-8	70	60	11	海生土層, 上師質土層, 瓦質土層	中世		

( ) は残存値

送標名	出上地点	底 横 (cm)			落 上 遺 物	時 期	層 号	標識番号
		長軸	短軸	深さ				
SK1103	E区 L-8	75	75	18		不明		
SK1104	E区 L-8	65	30	6		不明		
SK1105	E区 L-8	125	50	16		不明		
SK1106	E区 K·L-8	60	40	2		不明		
SK1107	E区 K-8	120	55	3	弥生土器、土師質土器、石質土器	中世		
SK1108	E区 K-8	100	40	12		不明		
SK1109	E区 N-9	150	65	70	骨角器	古代	227	
SK1110	E区 N-9	100	70	24	土燒質土器、サヌカイト片	中世	260	
SK1111	E区 M-10	115	70	11	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片、精晶片岩片	弥生		
SK1112	E区 M·L-10	195	95	12	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片、精晶片岩片、チャーフ片、石英片、スクレイバー、石鏃、磨製石斧、打制石砧、小形凹柱狀石斧	弥生中期	103	
SK1113	E区 M-10	125	35	28	弥生土器、鐵頭石器	弥生中期		
SK1114	欠番	ピットに変更						
SK1115	E区 L-9·10	95	60	22	弥生土器、サヌカイト片、石英片	弥生中期		
SK1116	E区 L-9·10	55	40	14		不明		
SK1117	E区 L-10	90	70	24	弥生土器	弥生		
SK1118	E区 K-10	70	45	8		不明		
SK1119	E区 K-10	105	55	12		不明		
SK1120	E区 K-10	90	85	8	骨角器、サヌカイト片	古代	229	
SK1121	E区 K-10	150	60	21		不明		
SK1122	E区 K-10	130	75	17		不明		
SK1123	E区 J·K-10	100	80	18		不明		
SK1124	E区 J-10	95	70	18		不明		
SK1125	E区 J-10	100	95	21		不明		
SK1126	E区 J-10	35	35	3		不明		
SK1127	E区 J-10	70	35	10	土師器	古代	230	
SK1128	E区 J-10	70	40	26		不明		
SK1129	E区 N-11	90	60	24	弥生土器、精晶片岩片	弥生中期		
SK1130	E区 J-10	125	75	—	弥生土器、砾石	弥生	168	
SK1131	E区 N-11	130	85	14	弥生土器	弥生		
SK1132	E区 N-11	180	75	12	弥生土器、石英片	弥生中期	110	
SK1133	E区 O-11	90	55	44	弥生土器	弥生中期		
SK1134	E区 K-11	100	60	—		不明		
SK1135	E区 J-9	50	20	23	土師器	古代	231	
SK1136	I区 U-20	80	40	16		不明		
SK1137	I区 U-19·20	100	60	20	弥生土器	弥生		
SK1138	I区 U-19	75	40	14	弥生土器、土師質土器	中世		
SK1139	I区 U-19	70	55	20	土師器	古代	232	
SK1140	I区 U-19	(45)	60	8	弥生土器	弥生		
SK1141	I区 U-19	60	135	20	弥生土器、土師質土器、瓦質土器、サヌカイト片、石器(その他の)	弥生	112	

( ) は既存値

地層名	出上地点	厚 機 (cm)			出 土 通 物	時 期	備 考	標 本 号
		尺	忽	溝				
SK1142	I区 T-19	170	70	25	海生土器, 石斧片	先 生		
SK1143	I区 T-19	110	60	23		先 生		
SK1144	I区 T-19	135	95	28 (75)	海生土器	先 生		
SK1145	I区 T-18	70	60	24	海生土器	先 生		114
SK1146	I区 T-18	150	80	18	海生土器, 土師質土器	中 世		
SK1147	I区 T-S-17・18	(40)	65	18		不 明		
SK1148	I区 S-19	80	35	28 (64)	海生土器, 精品片岩片	海生中期		116
SK1149	F区 F区-1区間の道路表面	140	—	10	上野器, サヌカイト片	古 代		
SK1150	F区 S-17	120	73	12		不 明		
SK1151	F区 S-17	90	60	12	海生土器, 土師器, 順応器	古 代		
SK1152	F区 R-17・18	120	120	22	海生土器, サヌカイト片	先 生		118
SK1153	F区 R-18	115	55	15	海生土器, サヌカイト片, 魚形石器	先 生		120
SK1154	F区 S-R 18	180	75	21	海生土器, サヌカイト片	先 生		
SK1155	F区 S-18	110	60	20		不 明		
SK1156	F区 F-18	90	65	24	海生土器	海生中期		
SK1157	F区 F-16	80	55	10		不 明		
SK1158	F区 F-16	90	65	30	海生土器, サヌカイト片, 刻印石器(その他)	先 生		122
SK1159	F区 Q-14	—	—	14		不 明		
SK1160	F区 Q-14	145	70	18		不 明		
SK1161	F区 P・Q-15	90	50	12		不 明		
SK1162	F区 Q-16	110	50	22	海生土器, 精品片岩片, 打製石器	先 生		
SK1163	F区 Q-17	105 (60)	—	16	海生土器, 順応器, 細錐器, サヌカイト片, 精品片岩片, 石器, 石ノミ	先 生		124
SK1164	F区 Q-17	85	80	28	海生土器	海生中期		
SK1165	F区 Q-17	(100)	78	46	海生土器, サヌカイト片	先 生		
SK1166	F区 Q-17	80	50	20		不 明		
SK1167	F区 Q-17	(50)	45	18	海生土器	先 生		
SK1168	F区 Q-17	120	60	10		不 明		
SK1169	F区 Q-17	110	55	20	海生土器	先 生		126
SK1170	F区 Q-17	75	50	24	海生土器	海生中期		
SK1171	F区 Q-17・18	140	50	5	海生土器, サヌカイト片, 精品片岩片, 砂岩片, 石器	先 生		128
SK1172	F区 Q-17・18	140	50	8	海生土器	先 生		128
SK1173	F区 Q-17	100	45	25	海生土器	先 生		130
SK1174	F区 P・Q-17	75	70	16		不 明		
SK1175	F区 Q-17・18	90	70	16	海生土器	先 生		
SK1176	F区 Q-18	70	40	10		不 明		
SK1177	F区 Q-18	75	65	24	海生土器	海生中期		
SK1178	F区 P-15	95	50	13	海生土器	先 生		
SK1179	F区 P-15・16	(50)	45	13		不 明		

( ) は既存値

遺物名	出 土 地 点	規 模 (cm)			出 土 通 物	時 期 類 型	排 列 番 号
		長軸	短軸	深さ			
SK1180	F区 P-16	100	35	24		不明	
SK1181	F区 P-16	90	55	18		不明	
SK1182	F区 P・Q-16	60	45	19		不明	
SK1183	F区 P-16・17, Q-17	100	60	23	弥生土器、銅刀石器(その他の)	弥 生	
SK1184	F区 P-17	100	75	26	弥生土器	弥 生	
SK1185	F区 P-17	85	40	32 (48)	弥生土器	弥生中期	132
SK1186	F区 N・O-16	85	60	12		不明	
SK1187	F区 O-18	95	60	19	弥生土器、サヌカイト片	弥 生	
SK1188	F区 N-17	100	70	12		不明	
SK1189	G区 Q-18	180	60	16	弥生土器、土師質土器、結晶片岩片	中 世	261
SK1190	G区 Q-20	110	30	20	弥生土器、土師質土器	中 世	
SK1191	F区 P-19	115	70	10	弥生土器、土師器、サヌカイト片、結晶片岩片	古 代	
SK1192	G区 P・Q-19	210	90	10	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片、石瓶	弥 生	134
SK1193	G区 P-21	100	85	8	弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、生産遺物(不明)	中 世	
SK1194	G区 P・Q-22	100	75	12	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片	中 世	
SK1195	G区 O-19・20	165	55	20	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片、砂岩片、楔形石器	弥 生	136
SK1196	G区 N-20	125	30	8	弥生土器、土師質土器、石器	弥 生	138
SK1197	G区 N-21	105	55	10	土師質土器	中 世	263
SK1198	G区 M・N-21・22	125	75	10	弥生土器、土師質土器、鐵質質土器	中 世	
SK1199	G区 M・N-21	150	50	12	弥生土器	弥 生	
SK1200	G区 N-18	70	40	12	弥生土器	弥 生	
SK1202	G区 L-20	210	120	12	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片、結晶片岩片	中 世	264
SK1203	G区 M-21	100	45	20	弥生土器、瓦質土器	中 世	
SK1204	G・H区 L-21	80	60	16	土師器、石器片	古 代	233
SK1205	H区 M-22	60	60	34	弥生土器	弥 生	
SK1206	H区 N-22	165	40	15	弥生土器、土師質土器、結晶片岩片	中 世	
SK1207	H区 N-23	75	40	20		不明	
SK1208	H区 N-23	90	45	37		不明	
SK1209	H区 M-23	90	50	10		不明	
SK1210	H区 O-22・23	150	45	20	サヌカイト片	不明	
SK1211	H区 N・O-23	105	45	34		不明	
SK1212	H区 O-23	180	80	62	結晶片岩片	不明	
SK1213	H区 N-23・24	140	100	40		不明	
SK1214	H区 O-24	85	55	33		不明	
SK1215	D区 J-17・18	120	70	18	弥生土器、土師質土器、打製石器	弥 生	140
SK1216	D区 I・J-19	90	40	12		不明	
SK1217	D区 K-20	95	45	12	弥生土器、土師質土器	中 世	
SK1218	D区 K-21	95	30	14		不明	

( ) は残存数

遺構名	出上地点	規格(cm)			出土遺物	時期	備考	辨認番号
		長軸	短軸	高さ				
SK1219	D区 K-21	65	30	7		不明		
SK1220	D区 O・P-20	90	80	—	弥生土器、罐器(不明)、銅鏡等。サヌカイト片、結晶片岩片	不明		

( ) は現存値

SD1011	G区 Q-21	180	40	12	弥生土器、土師質土器、結晶片岩片	弥生		142
SD1012	G区 Q-21	240	45	20	弥生土器、土師質土器、石英片	弥生		143
SD1013	G区 Q-22	190	40	10	弥生土器、結晶片岩片	弥生		144
SD1014	G区 Q-22	215	40	20	弥生土器、土師質土器、陶質土器、サヌカイト片、結晶片岩片、板形石器	弥生		145

( ) は現存値

SX1001	E区 L-8	70	65	14		不明		
SX1002	E区 K-8	70	(60)	13		不明		
SX1003	E区 M-9	95	30	12		不明		
SX1004	E区 N-11	—	—	60		不明		
SX1006	F区 S-17・18、R-18	330	260	10	弥生土器、土師質土器、瓦質土器、サヌカイト片、結晶片岩片	弥生		
SX1007	F区 R-18・19	260	140	22	弥生土器、結晶片岩片、田石器	弥生		147
SX1008	F区 F-S-16・17	450	330	10	弥生土器、土師器、陶器等、瓦質土器、植物遺体、サヌカイト片、結晶片岩片、弥生石器(不明)、板形石器、磨製石斧	弥生		148
SX1009	F区 —	—	—	18	弥生土器	弥生		
SX1010	H区 Q-18	75	40	7		不明		
SX1011	F区 P-16	170	60	18	弥生土器、結晶片岩片	弥生		
SX1012	F区 P-17	190	50	32	弥生土器、土師質土器	弥生		
SX1013	F区 P-17	110	45	23	弥生土器	弥生		
SX1014	G区 Q-20	520	200	15	弥生土器、陶器等、土師質土器、陶質土器、瓦質土器、サヌカイト片、結晶片岩片、青瓦	不明		
SX1015	G区 P-20	600	(420)	(12)	弥生土器、土師質土器、結晶片、サヌカイト片、結石	弥生		151
SX1016	G区 X-19	650	(330)	—	弥生土器、サヌカイト片、結晶片岩片	弥生		152
SX1017	G区 N-20、O-20	680	(430)	—	弥生土器、土師質土器、サヌカイト片、結晶片岩片、砂岩片、石器刷毛器、板形石器、石器、打製石器、石研磨器、擦り石、粘土塊	弥生		153
SX1018	G区 O-P-22	635	390	25	弥生土器、サヌカイト片、土師質土器、瓦質土器	不明		
SX1019	H区 N-23	210	80	22		不明		
SX1020	H区 P-25	170	100	18	結晶片岩片	不明		
SX1021	G区 M-19	220	60	12	弥生土器、土師器、土師質土器、陶土器、瓦質土器、破瓶、サヌカイト片、結晶片岩片、石英片、ナイフ形石器、スクレイバー、擦り石器、石器、石器、打製石器、石研磨器	弥生		155
SX1022	D区 L-26、K-19・20・21	820	250	25	弥生土器、陶器等、土師質土器、陶土器、瓦質土器、破瓶、サヌカイト片、結晶片岩片、石英片、石器、石器、打製石器、全圓器(不明)、植物遺体(不明)	弥生		157
SX1023	D区 J-K-17・18	175	110	10	弥生土器、土師質土器	弥生		

( ) は現存値

遺構名	出 土 地 点	基 標 (cm)			出 土 遺 物	時 期	考 参	標 誌 号
		長軸	短軸	厚さ				
SX1024	D区 J-17・18	230	170	14	泥生土器、土師質土器、磁器、サヌカイト片、結晶片岩片、細石器(剥片)、スクリューパー	新 生		160
SX1025	D区 I-17・18	130	30	10	泥生土器、土師質土器	中 世		
SX1026	D区 J-26	60	35	26	結晶片岩片	不 明		
SX1027	D区 J-26	125	70	62	泥生土器、結晶片岩片、土師質土器、粘土塊	中 世		
SX1028	D区 K-19	90	45	10	土師質土器	中 世		
SX1029	D区 K-19	160	90	12	泥生土器	新 生		
SX1030	G区 O-26	180	35	—		不 明		

( ) は残存値

第4表 旧石器出土遺物観察表

番号	部	種	遺 売 位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	石 材	考 参
1	ナイフ	形 石 刀	A区 K-9 1層	6.1	3.1	1.2	19.0	サヌカイト	
2	ナイフ	形 石 刀	A区 E-9 1層	3.0	2.2	0.4	3.35	サヌカイト	
3	ナイフ	形 石 刀	A区 D-9 2層	4.2	1.8	0.5	2.60	サヌカイト	
4	ナイフ	形 石 刀	A区 E-9 1層	7.0	1.8	0.6	5.02	サヌカイト	
5	ナイフ	形 石 刀	A区 E-9 1層	5.9	1.7	0.6	2.89	サヌカイト	
6	ナイフ	形 石 刀	A区 E-9 2層	3.2	1.1	0.7	2.13	サヌカイト	
7	ス ク レ イ パ ー	ア リ	A区 F-9 1層	4.5	3.9	1.6	35.46	サヌカイト	
8	ス ク レ イ パ ー	ア リ	E-8 2層	6.6	3.7	1.3	26.8	サヌカイト	
9	實 状 刺 片	ア リ	E-9 1層	5.9	3.1	0.6	10.35	サヌカイト	
10	實 状 刺 片	ア リ	K-9 1層	5.0	2.5	0.9	8.08	サヌカイト	
11	實 状 刺 片	ア リ	E-9 1層	4.4	2.6	0.7	8.25	サヌカイト	
12	横 先 刺 片	ア リ	E-8 1層	4.2	1.8	0.9	4.53	サヌカイト	
13	實 状 刺 片	ア リ	E-8 2層	3.7	1.9	0.3	3.0	サヌカイト	
14	實 状 刺 片	ア リ	D-8 2層	3.9	2.0	0.9	5.42	サヌカイト	
15	實 状 刺 片	ア リ	E-9 2層	3.9	1.5	0.4	1.65	サヌカイト	
16	刺 片	ア リ	K-9 2層	2.3	2.3	0.4	2.5	サヌカイト	
17	刺 片	ア リ	E-9 1層	4.7	3.9	1.2	13.43	サヌカイト	
18	刺 片	ア リ	E-8 2層	3.5	3.9	0.7	7.65	サヌカイト	
19	刺 片	ア リ	E-8 2層	3.8	3.0	0.7	8.89	サヌカイト	
20	横 先 刺 片	ア リ	E-9 2層	2.9	1.2	0.5	1.18	サヌカイト	
21	刺 片	ア リ	E-9 2層	4.2	3.0	0.6	6.02	サヌカイト	
22	横 先 刺 片	ア リ	F-9 1層	2.1	1.1	0.4	0.86	サヌカイト	
23	刺 片	ア リ	E-9 1層	3.2	2.3	0.9	7.9	サヌカイト	
24	刺 片	ア リ	E-9 2層	2.4	2.0	0.6	2.62	サヌカイト	
25	刺 片	ア リ	E-9 2層	2.6	1.7	0.5	2.85	サヌカイト	
26	刺 片	ア リ	K-9 1層	2.0	1.5	1.0	3.17	サヌカイト	
27	刺 片	ア リ	E-9 2層	2.4	0.8	0.7	3.08	サヌカイト	
28	石 極	ア リ	E-8 2層	6.6	4.0	1.6	26.37	サヌカイト	
29	石 極	ア リ	E-9 1層	5.7	4.2	1.9	38.69	サヌカイト	
30	ナイフ 形 石 刀	ア リ	E-9	6.5	1.8	0.6	6.65	サヌカイト	

番号	名	固	地	点位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石	材	備考
31	ナイフ形石	■	A区	E-9	4.5	1.9	0.6	5.29	サスカイト		
32	ナイフ形石	■	A区	E-9	2.4	1.0	0.4	1.36	サスカイト		
33	ナイフ形石	■	A区	E-9	5.0	2.2	0.7	9.2	サスカイト		
34	ナイフ形石	■	B区	N-14	3.3	1.5	0.4	3.42	サスカイト		
35	ナイフ形石	■	B区	K-16	8.9	2.2	0.9	17.49	サスカイト		
36	ナイフ形石	■	B区	N-10	4.6	1.5	1.0	5.91	サスカイト		
37	ナイフ形石	■	A区		2.8	1.7	0.4	2.45	サスカイト		
38	ナイフ形石	■	A区	E-9	2.1	2.3	0.5	1.9	サスカイト		
39	ナイフ形石	■	A区	G-9	1.9	1.3	0.4	0.70	チャート		
40	スクレイバー	-	A区	E-9	6.8	3.8	2.0	42.17	サスカイト		
41	スクレイバー	-	A区	E-9	5.0	4.9	1.4	27.37	サスカイト		
42	スクレイバー	-	A区		3.1	2.4	0.7	5.28	サスカイト		
43	板形石	■	D区		2.7	2.5	0.5	4.06	サスカイト		
44	板形石	■	E区	N-10	4.8	4.9	1.2	39.31	サスカイト		
45	葉状剥片	■	A区	E-9	3.9	2.0	0.7	5.25	サスカイト		
46	葉状剥片	■	A区	E-9	2.6	4.5	0.6	6.89	サスカイト		
47	葉状剥片	■	A区	D	3.8	1.5	0.4	2.73	サスカイト		
48	葉状剥片	■	A区	E-9	3.0	2.7	0.6	3.75	サスカイト		
49	葉状剥片	■	A区		3.0	1.9	0.6	2.86	サスカイト		
50	板瓦剥片	■	A区	E-9	5.1	3.3	1.4	38.62	サスカイト		
51	板瓦剥片	■			2.1	1.9	0.6	2.20	サスカイト		
52	板瓦剥片	■	A区		2.8	1.7	0.4	1.86	サスカイト		
53	板瓦剥片	■	E区	O-11	2.3	2.0	0.6	2.41	サスカイト		
54	板瓦剥片	■	A区	E-9	2.0	2.5	0.6	2.35	サスカイト		
55	板瓦剥片	■	B区	M-17	6.2	3.3	1.6	39.81	サスカイト		
56	板瓦剥片	■	E区		3.2	2.1	1.0	4.47	サスカイト		
57	石	■	A区		4.7	2.9	2.0	14.71	サスカイト		
58	石	■	A区	E-9	8.9	4.6	2.4	95.59	サスカイト		

第5表 SP1798出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
29	繩文土器 深鉢	I区 SP1798	器厚 0.8	瓦形文1条施す。	体部内面部分的に指痕压痕。 砂粒 石英 結晶片等	1~3mm	(内) 黄褐色 (外) 黄褐色	

第6表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	器 種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
60	石鉢	B区	4.7	2.1	0.6	3.51	サヌカイト	

第7表 SB1002出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
61	骨生土器 盆	B区 鉢底 泥炭	体部最大径 21.0	体部中位より内面しながら腹面 へ向う。	体部外面上に約1角/mmのタテハ ケメ。 体部外面上位ヨコヘラミガキ。	砂粒 石英 結晶片等	(内) 黄褐色 (外) に赤褐色	
62	骨生土器 盤	B区 SK1 層土	H径 13.5	口縁部平滑におきめる。腹部 から口縁部にかけてゆるやかに 外弧する。口縁端部に削目を施 す。腹部に1条の比縫。	口縁部外側ヨコナダ。 口縁部外側より腹部外側にかけ て約9角/mmのタテハケメ。 口縁部内面ヨコナダ。 腹部内面タテナダ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片等	に赤褐色	
63	骨生土器 盤	B区 D 層土	底径 5.5	底部はあげ窓を見る。体部へ 向い直線的に立ち上がる。	体部内面ヨコナダ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片等	浅橙色	

番号	器 種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
64	楔形石器	II区 層土	3.6	2.9	0.8	7.15	サヌカイト	完形。 下部剥離痕。
65	楔形石器	B区 層土	2.7	1.0	0.6	1.81	サヌカイト	両側底面断面。 下部剥離痕。
66	楔形石器	B区 層土	2.0	1.2	0.5	1.47	サヌカイト	一側底面断面。 下部剥離痕。
67	石磨工	B区 層土	(4.7)	(4.9)	(0.6)	(21.06)	結晶片等	月部両面研磨板。
68	石磨工	B区 層土	(5.0)	(1.9)	(0.6)	(7.20)	結晶片等 石英片岩	上部欠損。
69	砾石	B区 層土	(23.3)	(20.0)	(8.6)	(5,150)	砂岩	圓錐一部を残す。 内外面研磨板。

（ ）は現存値

第8表 S B 1005出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
70	陶生土器 壺	覆土	底径 7.6 体部最大径 21.9	底部は平底を呈する。 体部中位に最大径。	腹部外面より体部中位まで 6 条/cm のテナハケメ。体部外面 中位にヨコヘラミガキ。体部外 面中位より底部までタテハラミ ガキ。腹部内面より体部内面中 位まで 7 条/cm のテナハケメ。 体部内面中位より底部まで板ナ テ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内) 明赤褐色 (外) 赤褐色	
71	陶生土器 壺	覆土	直径 6.2 体部最大径 20.3	底部は平底を呈する。 体部中位に最大径。	腹部外面より体部中位まで 6 条/cm のテナハケメ。体部外面 中位より底部タテヘラミガキ。 腹部内面より体部内面中位痕跡 序記。体部内面中位より底部 6 条/cm のテナハケメ。	1 mm 以下 砂粒含 結晶片岩	(内) 黄灰色 (外) 棕色	
72	陶生土器 壺	覆土	口径 17.9	口縁端部下方におさめ罐部上方 に板張する。口縁部「く」の字 状に外度する。口縁部はやや外 溝しながら罐部へ向う。体部は やや内溝しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナゲ。体部外 面 6 条/cm のテナハケメ。	1~2 mm 砂粒多含 石英	(内) 黑褐色 (外) 明褐色	
73	陶生土器 壺	覆土	口径 17.0	口縁端部平側におさめる。罐部 は兩端に板張する。口縁部外側 2 条の凹溝。	体部外面タテヘラミガキ。	石英 結晶片岩	明褐色	
74	陶生土器 高杯	覆土	口径 27.4	口縁罐部ややへこむ。罐部両端 に板張する。口縁部やや内溝す る。口縁部外側 1 条の凹溝。	体部外面タテヘラミガキ。	2 mm 大砂粒含 石英	明褐色	
75	陶生土器 壺	覆土	底径 5.3	底部は平底を呈する。体部中位 に向い凹溝的に立ち上がる。底 部穿孔。	体部外面タテヘラミガキ。体部 内面タテヘラミガキ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内) 明褐色 (外) 赤褐色	

第9表 S A 1001内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
76	陶生土器 壺	A区 F-10 P 8 覆土	底径 5.5	底部は上げ底を呈する。底出や や板張する。体部はやや内溝し ながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	淡褐色	

第10表 S A 1004内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備考
77	リッパッドフレイク	E区 L-10 P 1 覆土	4.0	1.6	0.4	2.42	サスカイト	下部両面に調整痕
78	砾石	E区 L-10 P 2 覆土	(17.8)	(15.1)	(11.0)	(3,800)	砂岩	表面に研磨痕

( ) は残存値

第11表 S A 1016内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	状 法	胎 土	色 調	備考
79	先生上器 座	F区 R 16 P 1 覆土	口径 15.4	口縁端部方形におさめる。口縁 部端面に鉛子文を施す。底部 より口縁部はラッパ形に広がる。	内外面剥離のため不明。	1~4 mm 砂粒多含 石英 結晶片岩	橙色	
80	先生上器 座	F区 R 16 P 2 覆土	高厚 0.8	体部外側上から簡状文1条。波 状文1条、點絵文1条。	体部内部ユビオサエのちナデ。 体部外側8条/cmのテテハケメ を施す。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黒色 (外)に近い橙 色	
81	先生上器 座	F区 R 16 P 1 覆土	口径 32.9	口縁端部方形におさめ、下に 拡張する。口縁部「く」の字状 に外反。体部はゆるやかに内湾 しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1 mm大砂粒含 石英	(内)淡黃褐色 (外)に近い淡 褐色	

番号	器種	地 点 層 位	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
82	石瓶	F区 R 15 P 5 覆土	(1.8)	(1.5)	(0.3)	(0.86)	サヌカイト	基部欠損
83	石瓶丁	F区 R 16 P 2 覆土	11.6	4.3	1.0	85.80	結晶片岩	端部抉りなし
84	印石	F区 R 15 P 6 覆土	(8.5)	(4.0)	(2.0)	(129)	結晶片岩	上部欠損。 側面に敲打痕あり。

( ) は残存部

第12表 S A 1020内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	状 法	胎 土	色 調	備考
85	先生上器 座	F区 R 17 P 8 覆土	口径 19.7	口縁端部方形におさめる。口縁 部はゆるやかに外反する。口縁 部に刻目文。体部に斜板直線 文3条。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	

第13表 S A 1021内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	状 法	胎 土	色 調	備考
86	先生上器 座	F区 P 14 P 6 覆土	口径 8.4 底径 5.4	底部は上げ底を有する。両面は 内側的に立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 結晶片岩 長石	(内)黑色 (外)褐色	

番号	器種	地 点 層 位	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
87	石瓶丁	F区 P 14 P 6 覆土	(5.8)	(4.1)	(0.4)	(11.10)	結晶片岩	両端欠損。

( ) は残存部

第14表 SA 1028内柱穴出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	法量 (cm)	形 異 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
88	先生土器 底部	F区 P-17 覆上	底径 7.2	底面は平造を示す。体部は直 線的に立ち上がる。	体部外側テヘラミガキ。	砂粒 石英 結晶片岩	(内)橙色 (外)暗赤褐色	

第15表 SA 1029内柱穴出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
89	叩き石	G区 M-19 P-5 底土	14.0	7.0	4.9	550	チャート	下端部に敲打痕あり。

第16表 SK 1001出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
90	石筒丁	覆上	(3.8)	(4.3)	(0.8)	(17.63)	結晶片岩	一部欠損。 端部抉りあり。

（ ）は残存値

第17表 SK 1004出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	法量 (cm)	形 異 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
91	先生土器 底部	覆上	底径 8.6	底部は上げ底を示す。底部や 内側を削る。体部はやや内削し ながら立ち上がる。	体部外側テヘラミガキ。底部 内側ヨコナギ。	1~3mm 砂粒 石英	淡赤褐色	

第18表 SK 1005出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	法量 (cm)	形 異 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
92	先生土器 底部	覆土	底径 3.2	底部は上げ底を示す。体部は 直線的に立ち上がる。	底部内側指捻り底。	砂粒多含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)暗赤褐色	

第19表 SK 1022出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	法量 (cm)	形 異 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
93	先生土器 底部	覆土	底径 7.2	底部はやや上ヶ底を呈する。体 部は直線的に立ち上がる。	体部外側テヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)橙色	

番号	基 種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
94	叩き石	覆土	15.1	6.8	3.9	64.5	砂岩	周囲に敲打痕あり。

第20表 SK 1031出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	性　法	胎　土	色　調	備　考
95	先生上器 底	覆土	口径 15.1	口縁部は外方にゆるやかに弧曲する。口縁部剖面直角点文、腹部側底線直角文3条。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~2 mm 砂粒多 石英 結晶片岩	(内)淡褐色 (外)墨褐色	
96	先生上器 底	覆土	口径 34.6	口縁部膨らむおさめる。口縁部はゆるやかに外弧する。	口縁部外面ヨコナデ。	1~3 mm 砂粒多 石英 結晶片岩	淡褐色	

第21表 SK 1032出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	性　法	胎　土	色　調	備　考
97	先生上器 底	覆土	口径 10.9	口縁部平底におさめる。口縁部内面、強いヨコナデによりヘコミを持つ。腹部に指壓痕突起文。	口縁部内外面ヨコナデ。	2 mm弱砂粒多 石英 結晶片岩	淡黃褐色	

第22表 SK 1036出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	性　法	胎　土	色　調	備　考
98	先生上器 底部	覆土	底径 8.4	底面は上げ底を呈する。体部は内面的に立ち上がる。	内面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒多 石英 結晶片岩	淡黄色	

第23表 SK 1047出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	性　法	胎　土	色　調	備　考
99	先生上器 底	覆土	口径 13.4	口縁端面下に延張する。口縁端部に不明瞭な凹痕2条。口縁部「く」の字状に外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。	砂粒多 石英 結晶片岩	明褐色	

第24表 SK 1052出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	性　法	胎　土	色　調	備　考
100	先生上器 底	覆土	—	体部はやや内凹しながら立ち上がる。	口縁部外面ヨコナデ。体部外側内面直角のタテハケメ。	1~4 mm 砂粒多 石英	(内)墨褐色 (外)にぼいね 色	
101	先生上器 底	覆土	口径 22.2	口縁部部分におさめる。口縁部は外方に傾曲する。体部は内凹しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外側内面直角のタテハラミカキ。	1~3 mm 砂粒多 石英 結晶片岩	(内)暗褐色 (外)褐色	
102	先生上器 底	覆土	底径 6.4	底面は平底を呈する。体部はやや内凹しながら立ち上がる。	体部外側タテハラミカキ。	砂粒多 石英 結晶片岩 チャート	(内)にぼいね 色 (外)明褐色	
103	先生上器 底	覆土	底径 8.6	底面はやや上げ底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外側タテハラミカキ。体部内面直角/cmのタテハケメと9度/cmのヨコハケメ。底面内面斜面直角。	1~4 mm 砂粒多 石英 結晶片岩	淡黄色	

番号	基	種	地点	高さ	幅	厚さ	重量	石	材	備	考
			層位	(cm)	(cm)	(cm)	(g)				
104	石窓下	表土		(7.4)	(6.2)	(1.0)	(72.10)	結晶片岩		欠損 端部折りなし。	( ) は残存値

第25表 SK 1054出土遺物観察表

番号	基	種	地点	高さ	形	特徴	技	法	地	土	色	調	備
			層位	(cm)									
105	先生土器 裏	表土	—		口縁部「く」の字状に外反する。 体部は内湾しながら立ち上がる。	腹部外側に強いヨコナギ。体部 外面6条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒合 石英 結晶片岩						

第26表 SK 1057出土遺物観察表

番号	基	種	地点	高さ	長さ	幅	厚さ	重量	石	材	備	考
			層位	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(g)				
106	木頭		表土		(2.4)	1.95	5.0	2.04	サスカイト		先端部欠損 円基無	( ) は残存値

第27表 SK 1063出土遺物観察表

番号	基	種	地点	高さ	形	特徴	技	法	地	土	色	調	備
			層位	(cm)									
107	先生土器 底	表土	II層	20.0	口縁部平頂におきめる。縫部 上に板張する。縫部に斜口。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部上に板張する。	1mm大砂粒合 石英						
108	先生土器 裏	表土	II層	22.0	口縫部方形におきめる。II縫 部は下方へやや外張する。II縫 部は「く」の字状に外反する。 体部は内湾しながら立ち上がる。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。 縫部は「く」の字状に外反する。 体部は内湾しながら立ち上がる。	1~3mm 砂粒合 結晶片岩						
109	先生土器 裏	表土	口径	14.6	口縫部平頂におきめ上下に板張 する。II縫部は「く」の字状に外 反する。II縫部は内湾しながら立 ち上がる。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。 縫部は内湾しながら立 ち上がる。	1mm大砂粒合 (内)に弱い 褐色 (外)暗褐色						
110	先生土器 裏	表土	口径	15.5	II縫部上下に板張される。II 縫部は「く」の字状に外反する。 II縫部に1条の不明確な凹縫 文。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。	石英 結晶片岩	(内)浅黄色 (外)灰白色					
111	先生土器 裏	表土	II群	18.2	II縫部上下に板張する。II縫 部は「く」の字状に外反する。 II縫部に1条の凹縫文。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。	1mm大砂粒合 石英 結晶片岩	(内)浅黄色 (外)灰白色					
112	先生土器 裏	表土	II群	19.1	II縫部内外面ヨコナギにより、 II縫部上下に板張する。II縫部 は「く」の字状に外反する。 II縫部に2条の凹縫文。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。	砂粒 石英	浅黃褐色					
113	先生土器 裏	表土	口径	15.6	II縫部方形におきめる。縫部 上に板張する。II縫部は「く」 の字状に外反する。II縫部に 2条の凹縫文。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。	1mm大砂粒合 石英	に弱い 褐色					
114	先生土器 裏	表土	口径	19.5	II縫部方形におきめ上下に板 張する。II縫部は「く」の字状 に外反する。II縫部に2条の 凹縫文。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。	1~5mm 砂粒合 石英	(内)明赤褐色 (外)橙					
115	先生土器 裏	表土	II群	25.6	II縫部方形におきめ上下に板 張する。II縫部は「く」の字状 に外反する。II縫部に2条の 凹縫文。	II縫部内外面ヨコナギ。 縫部外 面に強いヨコナギによるへこみ。	1~3mm 砂粒 石英 結晶片岩	淡黃褐色					

番号	部	種	地点	層位	長さ	幅	厚さ	重量	石	材	備	考
116	石頭		覆土		1.9	1.2	0.4	0.74	サヌカイト		円錐	
117	小形四柱状石斧		覆土		(2.9)	(2.3)	(0.6)	7.69	結晶片岩		下部欠損 刃部に研削痕。	( ) は残存値

第28表 SK 1069出土遺物観察表

番号	部	種	地点	層位	法算	(cm)	形態の特徴	性	法	粒	土	色	調	備
118	陶生土器	壺	覆土	口径	16.8		口縁端部両端を括弧する。端面	口縫端内外面ココナシ。底部外	1~2mm		赤褐色			
				底径	6.1		はヨコナナにより、へこみをも	面に10mm/cmのタテハケメ波テ						
				体部最大径	23.1		ツ。口縫部は底部よりやや外側	ナヘラミガキ。作成外端上段5						
				器高	36.0		に凹曲しながら直線的に口縫端	mm/cmのタテハケメ。拵部外端						
							部へ伸びる。底面はやや上傾度	中位より底部にかけタテハラミ						
							を呈する。体部最大径は器高中	ガキ。体部内面ココナシか?						
							段よりや上にある。							

第29表 SK 1075出土遺物観察表

番号	部	種	地点	層位	長さ	(cm)	幅	(cm)	厚さ	(cm)	重量	(g)	石	材	備
119	小形四柱状石斧		覆土		(2.7)		(2.6)		(0.7)		(8.29)		結晶片岩		方向に研削痕。 ( ) は残存値

第30表 SK 1086出土遺物観察表

番号	部	種	地点	層位	長さ	(cm)	幅	(cm)	厚さ	(cm)	重量	(g)	石	材	備
120	石頭		覆土		(1.5)		(2.6)		(0.4)		(2.77)		サヌカイト		先端部欠損 平基

( ) は残存値

第31表 SK 1112出土遺物観察表

番号	部	種	地点	層位	長さ	(cm)	幅	(cm)	厚さ	(cm)	重量	(g)	石	材	備
121	石頭		覆土		2.2		6.9		0.4		0.78		サヌカイト		平基有茎
122	スクレイパー		覆土		7.5		6.3		1.0		55.58		サヌカイト		片面に商加工を施し刃部彫出。
123	石磨丁		覆土		(10.0)		(6.7)		(0.5)		(38.08)		結晶片岩		両端欠損
124	小形四柱状石斧		覆土		(1.5)		(1.5)		(0.2)		(1.00)		結晶片岩		両面研磨底
125	小形四柱状石斧		覆土		2.0		1.0		0.3		1.92		結晶片岩		両面削磨底

( ) は残存値

第32表 SK 1113出土遺物観察表

番号	部	種	地点	層位	長さ	(cm)	幅	(cm)	厚さ	(cm)	重量	(g)	石	材	備
126	楔形石器		覆土		2.6		2.1		0.6		4.06		サヌカイト		両側面に斜削面。 上下両面に削磨底。

( ) は残存値

第33表 SK 1130出土遺物観察表

番号	部	種	地点	層位	長さ	(cm)	幅	(cm)	厚さ	(cm)	重量	(g)	石	材	備
127	棒石		覆土		(26.0)		(22.6)		(6.3)		(5,300)		砂岩		下部欠損。 表面前面に研磨底。

第34表 SK 1132出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
128	共生土器 裏	覆土	口径 18.6	口縁部方形におさめる。口縁部は外方に屈曲する。体部は今や内凹しながら立ち上がる。	体部外縁 5 条/cm のタチハケメ。 胎部内面 4 条/cm のヨコハケメ。	1~5 mm 砂粒含 石英 結晶片含	(内)に黄褐色 (外)赤褐色	
129	共生土器 裏	覆土	口径 13.6	口縁部丸くおさめる。口縁部は外方に屈曲する。体部はやや内凹しながら立ち上がる。底部は平底を呈する。外縁は 4 条單位の横縞直線又は 2 条施し、下に細縞波状文を施す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外 面 7 条/cm のタチハケメ後あら いたタチラミガキ。	1~5 mm 砂粒含 石英 結晶片含	浅黄色	

第35表 SK 1141出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
130	磨石	覆土	(8.1)	(2.3)	(0.2)	(49.42) 結晶片含	上部灰褐色 下部に削痕	

( ) は残存量。

第36表 SK 1145出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
131	共生土器 長部	覆土	口径 6.1	底部はやや上傾きを呈する。体部は強烈的に立ち上がる。	体部外縁タチラミガキ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片含	(内)棕 (外)に赤褐色	

第37表 SK 1148出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
132	共生土器 裏	覆土	口径 19.6	口縁部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片含	に赤褐色	

第38表 SK 1152出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
133	共生土器 広口型	覆土	口径 21.4	口縁部方形におさめ上下間に割れ目。口縁部内面に崩形。頂部より口縁部へ向ってゆるやかに外方に屈曲する。	頂部外縁 11 条/cm のタチハケメ。 胎部内面 4 条/cm のヨコハケメ。	1~5 mm 砂粒含 石英 結晶片含	棕褐色	
134	共生土器 広口型	覆土	口径 15.2	口縁部方形におさめ上下間に割れ目。腹部より口縁部に内側に外方に屈曲する。	口縁部内外面ヨコナデ。腹部内面のちタチラミガキ。 口縁部内面から胎部内面にかけヨコナデのちナナメヨコヘラミガキ。	1~5 mm 砂粒含 石英	(内)赤褐色 (外)に赤褐色	
135	共生土器 弧形	覆土	底径 6.5	底部はやや上傾きを呈する。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片含	微色	

第39表 SK 1153出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
136	骨生土器 底部	覆土	底径 11.0	底部は上げ窓を有する。	底部外面タテヘラミガキのちヨコナデ。	1~5 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰褐色 (外)青褐色	

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
137	楔形石器	覆土	3.0	1.5	0.7	2.76	サヌカイト	両側面に斜面面。 上下両面に溝空孔。

第40表 SK 1158出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
138	骨生土器 底	口付	口付 29.8	口縁端方形におさめる。口縁端部に斜面。口縁端部に削目。	内外面剥離のため調整不明。	砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
139	骨生土器 底部	後七	底径 7.3	底部は平底を有する。底部は直線的に立ち上がる。	底部外面3角/cmのテチハケメ。	1~4 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	暗褐色	

第41表 SK 1163出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	胎土	色調	備考
140	筋綱車	覆土	4.2	—	0.55	9.07	2~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(底)灰褐色 (底)褐色	欠損

番号	器種	地点層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	胎土	色調	備考
141	石鏡	覆土	(2.7)	(1.5)	(0.6)	(1.64)	サヌカイト		基部欠損

( ) は残存底

第42表 SK 1169出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量(cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
142	骨生土器 底	覆土	—	断面上位より7条半位の墨線文3条、刻文1条、直線文1条を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英	灰白色	

第43表 SK 1171・1172出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
143	先生土器 広口器	覆土	口径 16.4	口縁部方形におさめ縁部上下に弧状する。端部上・下両端に刻目文。直すする跡部からゆるやかに外反し口縁部に至る。	口縁部外側コナデ。縫合部にタテヘラミガキ。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)明褐色 (外)に近い黄褐色	
144	先生土器 甕	覆土	口径 18.1	口縁部方形におさめる。口縁部は圓部よりゆるやかに外反する。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明赤褐色	
145	先生土器 甕	覆土	口径 15.1	口縁部丸くおさめる。口縁部は外側に傾く。体部は内凹しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	に近い褐色	
146	先生土器 甕	覆土	口径 25.4 底径 6.4 体部最大径 19.1 部高 25.4	底部は平底を呈する。口縁部丸くおさめる。口縁部ゆるやかに外方に弧曲する。体部は外湾気味に立ち上がる。	体部外側コナデヘラミガキ。体部内面5条/cmのナナメコハケメのちタテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)に近い黄褐色 (外)明褐色	
147	先生土器 甕	覆土	口径 35.1	口縁部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。	口縁部外側コナデ。体部外側ナデもしくはハケメ。	1~2mm 砂粒 石英	浅黃褐色	
148	先生土器 底部	覆土	底径 9.0	底部は平底を呈する。	体部外側タテヘラミガキ。	砂粒 石英 結晶片岩	(内)褐色 (外)帶褐色	

( ) は残存部

第44表 SK 1173出土遺物観察表

番号	器種	地點 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
149	複形石器	覆土	(2.2)	(3.2)	(0.4)	(3.72)	サヌカイト	一方側縁を欠損。 刃部は直線状。 下端に調整痕。

第45表 SK 1185出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	形態の特徴	技法	地 土	色	備考
151	発生上器 底部	風土	口径 20.8	口縁端部下方におさめる。端部を下方に傾斜する。底部より刃縫部に向て外反する。口縁端部上下内側に刻目。底部外側上部より側状底窓。底状灰、底状灰を呈す。	口縁部内外面ヨコナタ。底部外より体部内面にかけ 3 条/cm のタテハケメ。底部内面 4 条/cm のヨコハケメ。底部内面から体部内面にかけヨコヘリガキ。	2 mm 人の 砂粒含 石英 結晶片岩	黄褐色	
152	発生上器 底	覆土	口径 18.7	口縁部大きくおさめる。口縁部はゆるやかに削開する。口縁端部には刻目。体部は外周気味に立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナタ。体部外ヨコタテヘリガキ。底部内面 7 条/cm のタテハケメ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩 長石	赤褐色	
153	発生土器 底	風土	口径 35.5	口縁端部下方におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。底部は内側しながら立ち上がる。	底部外側 10 条/cm ヨコハケメ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
154	発生上器 底	風土	口径 26.5	口縁端部下方におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。底部は内側ながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナタ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)オリーブ 青色 (外)黄褐色	
155	発生上器 底部	覆土	底径 9.1	底部は平底を呈する。体部は直線的に立ち上がる。	底部外側 6 条/cm タテハケメ。 底部内面ヨコナタ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)赤褐色 (外)明黄褐色	

第46表 SK 1192出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
156	石器	風土	(1.6)	(1.5)	(0.4)	(1.03)	サヌカイト	尖端と基部欠損。 ( ) は残存値

第47表 SK 1195出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
157	楔形石器	覆土	3.8	1.6	0.9	6.02	サヌカイト	両側面最断面。 下部内面に調査紙。

第48表 SK 1196出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
158	石器	覆土	(2.5)	(1.1)	(0.3)	(0.63)	サヌカイト	本部欠損。 ( ) は残存値

第49表 SK 1215出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
159	石器	覆土	7.8	3.6	1.0	34.25	結晶片岩	端部丸りなし。

第50表 SD 1014出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
160	楔形石器	覆土	1.9	3.6	0.6	4.10	サヌカイト	側方に微断面。 両面に調整紙。

第51表 S X 1007出土遺物観察表

番号	器種	地點層位	法算・形態・技法の特徴			色調	備考
			長さ	幅	厚さ		
161	管玉	覆土	長さ7mm 直径2.5mm 重量0.06g	丸棒1.2mm	片側穿孔か?	緑灰	

第52表 S X 1008出土遺物観察表

番号	器種	地點層位	法算 (cm)	形態の特徴		技法	胎土	色調	備考
				長さ	幅				
162	赤生土器 裏	覆土	口径43.2	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内凹しながら立ち上がる。 口縁端面に刻目文。		内外面削除のため不明。	1~5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
163	赤生土器 底部	覆土	底径12.8	底面は平底を有する。体部は直線的に立ち上がる。		体部外縁クテヘラミガキ。	1~5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)に赤い橙色 (外)緑色	

番号	器種	地點層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備考	
								(内)に削痕有。	(外)に削痕無。
164	菱形石器	覆土	3.1	4.1	0.6	8.59	サスカイト		
165	菱形石器	覆土	3.5	2.4	0.8	9.64	サスカイト		一側面に抜断面あり。 両面に削痕有。
166	柱状片刀石斧	覆土	(4.0)	(3.9)	(1.2)	35.85	結晶片岩		下半分欠損。 全面に削痕有。

( ) は残存値

第53表 S X 1015出土遺物観察表

番号	器種	地點層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	備考
167	紺織車	覆土	5.1	—	0.55	20.07	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(表)暗褐色 (裏)墨褐色	

第54表 S X 1017出土遺物観察表

番号	器種	地點層位	法算 (cm)	形態の特徴			技法	胎土	色調	備考
				長さ	幅	厚さ				
168	赤生土器 裏	覆土	口径17.8	口縁端部方形におさめる。口縁部「く」の字状に外反する。体部は内凹しながら立ち上がる。	11縫部外縁ヨコナナ。体部外縁は7条/cmのタチハケメの後和 ヨココヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩		(内)淡青色 (外)朱赤褐色		

番号	器種	地點層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備考	
								(高)	(幅)
169	石鏡	覆土	(1.6)	(1.2)	(0.4)	(0.86)	サスカイト		
170	石鏡	覆土	2.1	1.8	0.6	2.48	サスカイト		
171	楕円石器	覆土	2.2	1.8	0.6	3.56	サスカイト		
172	石鏡	覆土	(5.5)	(4.4)	(1.0)	(36.02)	結晶片岩		
173	砾石	覆土	15.8	12.6	5.3	1,350	砂岩		

( ) は残存値

第55表 S X 1021出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
174	スレーブ	裏土	4.2	3.5	0.7	11.78	サヌカイト	両面に調節板。
175	石塗丁	裏土	(8.6)	(5.4)	(1.0)	(58.14)	結晶片岩	端部作りなし。 一部欠損。
176	石塗丁	裏土	(5.3)	(4.7)	(0.7)	(25.10)	結晶片岩	両端欠損。

( ) は残存値

第56表 S X 1022出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	地 上	色 調	備 考
177	粗器 小豆	裏土	口径 7.8	——	圓柱ナメ。角受規則無し。内 外面施釉。外面墨文有?	微粉粒食	灰白色	青磁

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
178	ナイフ形石器	裏土	(2.3)	1.6	0.9	(2.24)	サヌカイト	
179	石劍	裏土	3.7	2.0	0.7	5.49	サヌカイト	凸基。
180	石劍	裏土	(2.3)	(1.7)	(0.3)	(0.91)	サヌカイト	凹基。
181	石劍	裏土	(1.4)	(1.7)	(0.3)	(0.91)	サヌカイト	両端部欠損。
182	石劍	S K 2 裏土	(1.8)	(0.9)	(0.2)	(0.37)	サヌカイト	凸基。
183	石劍	裏土	(1.6)	(0.6)	(0.3)	(0.36)	サヌカイト	先端部欠損。

( ) は残存値

第57表 S X 1024出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
184	鉢片	裏土	3.4	2.3	1.1	9.16	サヌカイト	

第58表 S P 1029出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	地 上	色 調	備 考
185	海生七基 底盤	裏土 底盤	口径 7.8	底盤は平底を有する。体部は直 線的に立ち上がる。	体部外側タケヘラミガキ。体部 内面ヨコナナ。	1~3 mm 砂粒食 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)に赤い赤 褐色	

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
186	円錐状石斧	A区 G-10-II 裏土	19.1	2.5	0.8	68.45	結晶片岩	完形。

( ) は残存値

第59表 S P 1031出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
187	印石	A区 F-9 裏土	9.8	2.5	2.1	105.26	結晶片岩	完形。

第60表 S P 1048出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
188	石底丁	A区 F-9 覆土	8.5	3.9	1.1	16.48	結晶片岩	遺物扱いなし。

第61表 S P 1059出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色	調 査 考
189	先生土器 蓋	A区 F-9 覆土	17.8	口縁部頗るくびきめる。口縁部は外方に曲屈する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	口縁部内外面ヨコナタ。体部外 面上位にヒメ/cmのタテハケメ。 下位にタテヘラミガキ。	2mm弱の砂粒 含 石英 結晶片岩	褐色	

第62表 S P 1102出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色	調 査 考
190	七輪質土器 蓋	A区 D-10 覆土	6.8 6.2	口縁部外反し、端部わずかに尖らせる。	内外面同軸ナナ。	1~3mm 砂粒含	淡黃褐色	

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
191	石鏡	A区 D-10 覆土	62.0	11.0	10.4	(0.70)	サヌカイト	基部欠損。

( ) は残存値

第63表 S P 1122出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色	調 査 考
192	先生土器 蓋	A区 E-11 覆土	7.6	底盤は上向きを示す。体部は 表面的に立ち上がる。	体部外向タテナナ。体部内面ナ ナ。	石英 結晶片岩	(内) 暗褐色 (外) 明赤褐色	

第64表 S P 1131出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色	調 査 考
193	先生土器	A区 F-11 覆土	—	丸底を呈する。	内外面削離のため不明。	1mm大の砂粒 含	(内) ない青 色 (外) 喜潤色	

第65表 S P 1153出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色	調 査 考
194	先生土器 蓋	A区 E-12 覆土	13.0	口縁部方形をおさめる。口縁部は頂部よりゆるやかに外反しながら立ち上がる。口縁端部上位に斜め文を施す。	口縁部内外面にヨコナタ。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	褐色	

第66表 S P 1158出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
195	スクレイバー	A区 E-12 覆土	4.3	3.7	0.5	9.83	サヌカイト	両面削形を施す。

第67表 SP 1184出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
196	石刀T	E区 I-1-13 覆上	(5.5)	(4.0)	(0.7)	(17.43)	結晶片岩	一部欠損。 端部折りなし。

( ) は残存値

第68表 SP 1195出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
197	石錐	B区 H-14 覆土	(5.5)	3.9	0.7	(20.47)	結晶片岩	

( ) は残存値

第69表 SP 1230出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
198	石錐	B区 J-16 覆上	3.0	2.3	0.5	3.86	サヌカイト	凸基1。

第70表 SP 1264出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
199	石錐	C区 G-15 覆上	2.2	1.6	0.3	1.10	サヌカイト	

第71表 SP 1383出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	底量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
200	佛坐土器 底部	E区 L-8 覆土	底径 6.6	底部は平底を呈する。体部は外 湾しながら立ち上がる。	体部外側9条/cmのタテハケメ。 体部内面タテナメ。底部内面微 凹状。	砂粒含 石英 結晶片岩	1~3mm (内)褐色 (外)青色	

第72表 SP 1449出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	底量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
201	佛坐土器 底部	E区 M-9 覆土	底径 8.8	底部は平底を呈する。体部は直 線的に立ち上がる。	体部外側タテハリカキ。体部 内面6条/cmのヨコハケメ。	1~4mm 砂粒含 石英 長石	(内)褐色 (外)青色	

第73表 SP 1462出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	底量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
202	佛坐土器 底部	E区 L-9 覆土	底径 7.5	底部は上げ底を呈する。体部は直 線的に立ち上がる。	体部外側タテナメ。体部内面微 凹状。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)豊褐色 (外)褐色	

第74表 SP 1478出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎	土色	調査 考
203	絆錠車	E区 M-10 覆土	4.2	—	0.66	15.68	1~5 mm 砂粒合 石英	(内)にいわゆる (外)褐色	

第75表 SP 1481出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	調査 考
204	リッチャードレイク	E区 M-10 覆土	2.7	2.1	0.4	3.8	結晶片岩	下部に刀状剥成。

第76表 SP 1482出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	調査 考
205	石鉗	E区 M-10 覆土	2.8	1.4	0.4	1.48	サヌカイト	凸基

第77表 SP 1603出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法線 (cm)	形態の特徴			技 法	胎 土	色 調 査 考
206	先生土器 底部	E区 M-10 覆土	底径 6.6	底部は平底を有する。体部は直 線的に立ち上がる。			体部外側イカナデ。	1~3 mm 砂粒合 石英 結晶片岩	褐色

第78表 SP 1688出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法線 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	調 査 考
207	綱張鉢片	E区 L-M 11 覆土	4.2	2.2	1.2	—	9.39	サヌカイト	

第79表 SP 1780出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法線 (cm)	形態の特徴			技 法	胎 土	色 調 査 考
208	先生土器 底部	I区 T-18-19 覆土	底径 6.0	底部は平底を有する。体部は直 線的に立ち上がる。			体部外側カテラミガキ。底部 内面カテ方向のイカナデ。	砂粒 石英 結晶片岩	赤褐色

第80表 SP 1887出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法線 (cm)	形態の特徴			技 法	胎 土	色 調 査 考
209	先生土器 底部	F区 R-16 覆土	底径 9.2	底部は平底を有する。体部は直 線的に立ち上がる。			体部外側カテナデ。体部内面カ テナデ。	砂粒 石英 結晶片岩	(内)浅黄褐色 (外)にいわゆる 褐色

第81表 SP 1890出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法線 (cm)	形態の特徴			技 法	胎 土	色 調 査 考
210	先生土器 底部	F区 R-17 覆土	底径 6.6	底部は平底を有する。底部はやや 斜面とする。体部はやや外向し ながら立ち上がる。			内面剥離のため不明。	1~2 mm 砂粒合 石英 結晶片岩	(内)褐色 (外)褐色

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	粒 径	色	調 査 者
211	劫鉢車	F区 R-17 覆土	3.8	—	0.7	15.19	1~3mm 砂粒含 石英	褐色	表面に直線文。

第82表 S P 1940出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法長 (cm)	形態の特徴	技 法	粒 土	色	調 査 者
212	陶牛土器 裏	F区 R-18 覆土	11.5 17.8	口縁端部上に軽度する。口縁 部「く」の字形に外反する。端 面に2条の細線文。	口縁部内面ヨコナナ。 端面ヨコナナ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄褐色	

第83表 S P 10123出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法長 (cm)	形態の特徴	技 法	粒 土	色	調 査 者
213	弥生土器 底	F区 Q-17 覆土	11.5 17.4	口縁端部方形に近似する。口縁 部はゆるやかに外方に屈曲する。	口縁部外縁ヨコナナ。瓶部内面 タテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	

第84表 S P 10136出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
214	石刀	F区 Q-17 覆土	10.6	3.5	0.6	31.9	結晶片岩	端部锐なし。

第85表 S P 10484出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法長 (cm)	形態の特徴	技 法	粒 土	色	調 査 者
215	弥生土器 底	G区 P-19 覆土	—	全体外周より直線文、竹背文 2条を施す。	全体外周ヨコハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明黄褐色	
216	弥生土器 裏	G区 P-19 覆土	11.5 17.0	口縁端部は丸くおきめる。口縁 部はゆるやかに外方に屈曲する。	内外側縫のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	

第86表 S P 10487出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	粒 土	色	調 査 者
217	劫鉢車	G区 P-19-20 覆土	3.7	—	0.55	7.97	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(表)明黄褐色 (裏)に赤褐色	

第87表 S P 10491出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
218	棒状片刀石斧	G区 Q-21 覆土	(14.2)	(3.5)	(3.0)	(327)	結晶片岩	下部欠損。 全面に研磨痕。

( ) は残存部

第88表 SP 10534出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
219	石瓶 I	G区 P-19 覆土	(10.5)	(5.2)	(0.8)	(69.0)	結晶片岩	一部欠損。 端部折りなし。

( )は残存部

第89表 SP 10573出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
220	石錐	I区 P-23 覆土	3.4	2.2	0.6	3.35	サヌカイト	未製作。

第90表 SP 10632出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
221	石錐	G区 N-19 覆土	2.8	1.3	0.3	0.96	サヌカイト	凸起。
222	短形石器	G区 N-19 覆土	2.7	2.1	0.6	2.80	サヌカイト	両側縁に裁断面。 下部両面に調整加工。

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 上	色 調	備 考
223	兔生土器 底部	G区 N-19 覆土	横径 6.2	底盤を平底を呈する。全体は直 線的に立ち上がる。	全体外周テハラミガキ。底部 内面タナデ。	砂粒 石英 結晶片岩	褐色	

第91表 SP 10661出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 上	色 調	備 考
224	兔生土器 立	G区 N-20 覆土	口径 19.8	I区縁部方形におさめる。口縁 部ゆるやかに外方に傾く。	口縁部内面ココナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	褐色	
225	兔生土器 裏	G区 N-20 覆土	口径 24.0	I区縁部方形におさめる。口縁 部ゆるやかに外方に屈曲する。 全体に5全の筋隔と竪突 文を施す。	口縁部内外面ココナデ。全体外 面5mm/cmのテハラミガキ。底部 内面ココナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
226	兔生土器 裏	G区 N-20 覆土	口径 32.3	口縁部丸くおさめる。 口縁部ゆるやかに外方に屈曲す る。全体は直線的に立ち上がる。	内外面制削のため調整小削。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	

第92表 SP 10664出土遺物観察表

番号	器種	地点層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
227	磨石	G区 N-20 覆土	(10.0)	(8.7)	(3.10)	(380)	砂岩	下部欠損。 表面に研磨痕。

( )は残存部

第93表 S P 10677出土遺物観察表

番号	名	種 類	地點 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
228	石地丁		G区 N-21 覆土	3.3	2.9	0.4	4.89	結晶片岩	両端欠損。 下部に直線状刀部形成。
229	甲石		G區 K-21 覆土	9.1	10.6	6.2	900	砂岩	完形。 両面に研磨面。 側縁全面に斜め面。

第94表 S P 10808出土遺物観察表

番号	名	種 類	地點 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
230	石製品		H区 P-24-25 覆土	(2.3)	(0.9)	(0.6)	(0.75)	サヌカイト	両端折欠損。

（ ）は推定値

第95表 S P 10982出土遺物観察表

番号	器 種	地點 部位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
231	粘土土器 甕	G区 O-20 覆土	口径 25.2	口縁端部丸くおさめる。口縁部 は「く」の字状に外反する。体 部は直線的に立ち上がる。	内外面削離りため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	

第96表 S P 10984出土遺物観察表

番号	器 種	地點 部位	法量・形態・技法の特徴	色 調	備 考
232	管玉	G区 O-20 覆土	長さ1.15cm 重さ0.36cm 孔径0.11cm 重さ0.24g 片側穿孔か?	粉紅灰	

第97表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	基 種	地点 層位	法量 (ml)	形 異 の 特 徴	技 法	粒 上	色 調	備 考
233	陶土器 壺	F区 S-17 包含層	口径 15.2	口縁部上部はやや膨張し、方形にときめる。口縁部内面に竹管文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2 mm 砂粒含 石英	褐色	
234	陶土器 壺	F区 Q-15 包含層	口径 14.6	口縁部は上下に膨張し、方形にときめる。口縁部内面に滑溜直文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~2 mm 砂粒含 石英	褐色	
235	陶土器 壺	B区 M-16 包含層	口径 16.2	口縁部は外反する。口縁部は上下に膨張し、方形にときめる。口縁部内面に滑溜直文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	灰白色	
236	陶土器 壺	F区 Q-19 包含層	口径 29.9	口縁部は上下に膨張し、方形にときめる。口縁部に刻印文を施す。口縁部内面に粘付大字文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
237	陶土器 壺	F区 N-17 包含層	口径 17.7	口縁部は上下に膨張し、方形にときめる。口縁部に斜削下文と円形浮文を施す。口縁部内面に斜削大字文と内凹を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	
238	陶土器 壺	F区 Q-17 包含層	口径 26.2	口縁部は下方に膨張し、方形にときめる。口縁部上位に刻印文、下位に竹管文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	2mm前 砂粒含 石英 結晶片岩	灰褐色	
239	陶土器 壺	F区 Q-18 包含層	口径 15.4	口縁部は上下にやや膨張し、垂直に化して刻印文を施す。口縁部内面に2条の斜削突起刻印文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英	(内)淡黄色 (外)褐色	
240	陶土器 壺	C区 Q-19 包含層	口径 26.6	口縫部は方形にときめる。口縫部上下端に刻印文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
241	陶土器 壺	B区 M-17 包含層	口径 13.6	口縫部は外方へのびる。口縫部は丸くときめる。口縫部に刻印文を施す。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英 赤色鉱物	淡黄褐色	
242	陶土器 壺	F区 N-M 包含層	口径 15.3	口縫部はゆるやかに外反する。口縫部は方形にときめる。口縫部に刻印文を施す。	口縫部外側から強烈外側10/mmのタテハケメ。腹面内側ヨコナデ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	に近い黄褐色	
243	陶土器 壺	A区 H-II-12 包含層	口径 24.4	口縫部はやや外反する。口縫部は下方に膨張する。口縫部に刻印文3条と圓形文3条を交互に施す。口縫部内面に斜削大字文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3 mm 砂粒含	に近い褐色	
244	陶土器 壺	F区 Q-16 包含層	口径 20.6	口縫部は上下に膨張する。口縫部はヨコナデによるくぼみができる。下位に刻印文を施す。	口縫部外側7名/cmのタテハケメのちヨコナデ。	1mm弱 砂粒含 石英 結晶片岩	に近い褐色	
245	陶土器 壺	A区 H-10 包含層	口径 23.4	口縫部は外反する。口縫部は丸くときめる。	口縫部外面ヨコヘラミがキ。口縫部内面ヨコナデ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	に近い褐色	
246	陶土器 壺	G区 O-10 包含層	口径 14.8	口縫部はゆるやかに外方へのびる。口縫部でやや外反する。口縫部は上方に膨張し、平底におさめる。口縫部外側に粘付突起を巡らし、刻印文を施す。	内外面ヨコナデ。	1~5 mm 砂粒含 石英	暗褐色	

番号	部 領	地点 層位	深度 (cm)	形 異 の 特 徴	性 法	粒 I.	色 深	備 考
247	先生土器 座	B区 M-16 包含層	口徑 17.0	I)縫部はゆるやかに外反する。 II縫端部は方角におさめる。	口縫部外側ヨコナテ。面部外側 8条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい褐色	
248	先生土器 座	F区 N-16 包含層	口徑 12.4	I)縫部はゆるやかに外反する。 II縫端部は方角におさめる。	口縫部外側ヨコナテ。面部に 9条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英	褐色	
249	先生上器 座	F区 N-16 包含層	口徑 10.6	I)縫部はゆるやかに外反する。 II縫端部は方角におさめる。腹 部外側に波状文X条を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄褐色	
250	先生土器 座	A区 F-11 包含層	口徑 13.8	I)縫部は凹凸して外方にのびる。 II縫端部は方角におさめる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明褐色	
251	先生土器 座	F区 K-11 包含層	口徑 24.6	I)縫部はゆるやかに外方にのび る。II縫端部は方角におさめる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	明褐色	
252	先生上器 座	F区 O-16 包含層	—	体部外側に上位より6条単位の 直線文を3条、その下に、波状 文を施す。	体部外側タテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
253	先生土器 座	E区 K-10 包含層	—	腹部外側に上位より6条単位の 横縞直線文、その下に2条の削 文字を施す。	腹部外側に9条/cmのタテハケ メ。	1~3mm 砂粒含 石英	にぶい褐色	
254	先生土器 座	H区 H-15 包含層	—	I)縫部外側に直線文を7条施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
255	先生土器 座	A区 H-10 包含層	—	I)縫部はゆるやかに外反する。 腹部外側に6条単位の直線文を 施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英	浅黃褐色	
256	先生土器 座	F区 包含層	—	縫部外側に削文字を施す。	縫部外側に7条/cmのタテハケ メ。	1~2mm 砂粒含 石英	淡褐色	
257	先生上器 座	H区 包含層	—	外面に「からめ羽根状化直線文、 直線文を施す。	内外面剥離のため不明。	2mm弱 砂粒含 石英 結晶片岩	淡黃褐色	
258	先生土器 座	B区 J-16 包含層	—	外面に上から削状文、2条の波 状文、7条単位の直線文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~4mm 砂粒含 石英	浅黃褐色	
259	先生土器 座	F区 C-17 包含層	—	外面に上から削痕直線文、波状 文を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英	赤褐色	
260	先生土器 座	B区 M-16 包含層	—	外面に11条単位の横縞直線文と 削文字を交互に施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英	褐色	
261	先生上器 座	A区 包含層	—	外面に5条の波状文を施す。	外縫ヨコナテ。	1~2mm 砂粒含 石英	(内) 明褐色 (外) 浅黃褐色	
262	先生土器 座	B区 M-15 包含層	—	外面に上から波状文、直線文、 波状文、削文字を施す。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含	褐色	

番号	基 種	地点 層位	法値 (cm)	形 狀 の 特 徴	特 質	組 土	色・調 値	考
263	発生土基 盤	A区 D-11 包含層	—	底部に指端付灰沈炭を2条施す。	体部外側7条/cmのテハケメ。	1mmの大砂粒 含 石英 結晶片岩	赤褐色	
264	発生土基 盤	B区 I-15 包含層	—	無地に指端付灰沈炭を1条施す。	体部外側8条/cmのテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	赤褐色	
265	発生土基 盤	F区 K-10 包含層	底径 6.1	底部は平底を有する。	体部外側8条/cmのテハケメ。	砂粒含 石英 結晶片岩	(内)灰白色 (外)浅黄褐色	
266	発生土基 盤	A区 H-10 包含層	底径 10.4	底部はやや上凸を呈する。体部は、底部でわずかに拡張し直線的に立ち上がる。	体部外側8条/cmのテハケメ。	1~6mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅灰褐色 (外)灰色	
267	発生土基 盤	G区 N-19 包含層	式径 9.0	底部はやや上凸を呈する。体部はやや内凹しながら立ち上がる。	体部外側テハラミガキ。底部 内面にユビオサエ。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	灰色	
268	発生土基 盤	G区 Q-21 包含層	底径 9.0	底部は上凸を呈する。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英	浅灰褐色	
269	発生土基 盤	B区 J-16 包含層	底径 6.0	底部は上凸を呈する。底部に穿孔をもつ。	体部外側に沿継平底のちヨコナ デ。	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	黄褐色	
270	発生土基 盤	F区 O-16 包含層	底径 9.2	底部はやや上凸を呈する。体部はやや内凹しながら立ち上がる。	体部外側テハラミガキ。体部 内面チタナデ。	2mm弱の砂粒 含 石英 結晶片岩	(内)ぶい黄 褐色 (外)赤褐色	
271	発生土基 盤	A区 包含層	口径 24.4	口縁部は貼付突起を施す。口縁 端部に刻印文を施す。口縁部に 2角の直線文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)浅黄褐色 (外)灰白色	
272	発生土基 盤	F区 Q-15 包含層	口径 25.2	口縫部に貼付突起を施す。口縫 部に5条単位の横縞直線文を 施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黄褐色 (外)黒褐色	
273	発生土基 盤	F区 N-16 包含層	口径 26.8	口縫部は「く」の字状に外反す。 口縫端部は丸くおさめる。 端部に10条単位の直線文を2条 施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部内 面ユビオサエのちヨコナデ。	1mmの大砂粒 含 石英 結晶片岩	褐色	
274	発生土基 盤	B区 M-16 包含層	口径 27.5	体部は直線的に立ち上がる。口 縫部は「く」の字状に外反す。 口縫端部は丸くおさめる。体部 外側に10条単位の直線文を2条。 その下に刻印文1条を施す。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	灰白色	
275	発生土基 盤	F区 N-16 包含層	口径 18.7	体部は内凹しながら立ち上がる。 口縫部は緩やかに外反す。 口縫端部は方角におさめられ て直線文を施す。 体部に5条単位の直線文2条。 その下に刻印文1条を施す。	口縫部外面ヨコナデ。体部外側 8条/cmのテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	明黄褐色	
276	発生土基 盤	B区 M-16 包含層	口径 21.7	口縫部はゆるやかに外反す。 口縫端部は丸くおさめられ て直線文を施す。体部に被状文を 施す。	体部外側テハラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にぶい褐色	
277	発生土基 盤	E区 L-11 包含層	口径 14.6	口縫部は「く」の字状に外反す。 口縫端部は方角におさめられ て直線文を施す。体部に被状文を 施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	灰色	

番号	基種	地点 層位	法貫 (cm)	形態の特徴	技 法	始 J.	色 調 標 考
278	先生土器 甕	A区 H-10 包含層	口徑 16.8	口縁部は「く」の字状に外反する。 口縁端部は丸くおさめ、削り文を施す。体部外側に波状文を2 束施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部内 面ヨコヘラミガキ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色
279	先生土器 甕	H区 K-11 包含層	口徑 22.4	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は丸くおさめ、削 り文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面9条/cmのタテハケメ。	1~2 mm 砂粒含 石英	黄褐色
280	先生土器 甕	B区 H-15 包含層	—	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は方形におさめ、削 り文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面タテハケメ。口縫部内面~体部 内面にヨコヘラミガキ。	1~2 mm 砂粒含 石英	浅黃褐色
281	先生土器 甕	B区 M-17 包含層	口徑 16.6	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は方形におさめ、削 り文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~2 mm 砂粒含 石英	褐色
282	先生土器 甕	E区 M-17 包含層	口徑 11.0	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は丸くおさめ、削 り文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面10条/cmのタテハケメ。体部 内面9条/cmのヨコハケメ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黃褐色
283	先生土器 甕	F区 N-17 包含層	口徑 21.2	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は方形におさめ、削 り文を施す。作部は直腹的に立ち上 がる。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面10条/cmのタテハケメの中 間に幾へテラミガキ。体部内面 10条/cmのタテハケメ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐褐色
284	先生土器 甕	G区 P-19 包含層	口徑 24.0	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめの削 り文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面4条/cmのタテハケメ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色
285	先生土器 甕	A区 I-11-12 包含層	口徑 17.8	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	体部外面11条/cmのタテハケメ。	1~2 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	帶赤褐色
286	先生土器 甕	F区 P-17 包含層	口徑 19.6	体部は内凹しながら立ち上がる。 口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面7条/cmのタテハケメ。体部 内面ヨコナデ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色
287	先生土器 甕	B区 M-16 包含層	口徑 24.4	作部は内凹しながら立ち上がる。 口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面9条/cmのタテハケメ。	1mm側の砂粒 含 石英 結晶片岩	褐色
288	先生土器 甕	B区 M-16 包含層	口徑 24.4	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。 体部は内凹しながら立ち上がる。	口縫部内外面ヨコナデ。窓器外 面ヨコナデのち損滅底。体部外 面9条/cmのヨコハケメ。体 部内面8条/cmのヨコハケメ。	1~2 mm 砂粒含 石英	浅黃褐色
289	先生土器 甕	B区 K-13 包含層	口徑 23.5	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。 体部は直腹的に立ち上がる。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外 面9条/cmのタテハケメ。体部 内面8条/cmのヨコハケメ。	1~3 mm 砂粒含 石英	褐色
290	先生土器 甕	H区 M-16 包含層	口徑 24.8	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。 体部は内凹しながら立ち上 がる。口縫端部丸くおさめる。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~3 mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)浅黃褐色 (外)褐褐色
291	先生土器 甕	A区 I-J-11 包含層	口徑 19.6	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英	にくい青褐色
292	先生土器 甕	B区 M-16 包含層	口徑 17.9	作部は直腹的に立ち上がる。口 縫部は「く」の字状に外反す。 口縫端部はやや方形におさめる。	内外面剥離のため不明。	1mm大の砂粒 含 石英	浅黃褐色

番号	基 種	地 点	法 量 (ml)	形 态 の 特 徴	核 法	粒 上	色 調	備 考
293	先生土器 裏	B区 H-16 包含層	口径 13.8	口縫部は外反する。口縫端部は丸くおさめる。体部は内湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
294	先生土器 裏	B区 M-16 包含層	口径 12.6	口縫部は外反する。口縫端部は丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
295	先生土器 裏	B区 M-16 包含層	口径 13.8	体部は直線的に立ち上がる。口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は丸くおさめる。	口縫部内外面ヨコナタ。体部外 面15条/cmのタテハケメ。体部 口縫端部は丸くおさめる。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内) 黄褐色 (外) にい黄 褐色	
296	先生土器 裏	E区 L-10 包含層	口径 13.9	体部はやや内湾しながら立ち上 がる。口縫部は丸くおさめ る。口縫端部は方形容におさ める。	口縫部内外面ヨコナタ。体部外 面10条/cmのタテハケメ。体部 口縫端部は丸くおさめる。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	
297	先生時代 裏	F区 N-17 包含層	口径 28.4	体部はやや内湾しながら立ち上 がる。口縫部は「く」の字状に 外反する。口縫端部は丸くお さめる。	口縫部内外面ヨコナタ。体部外 面10条/cmのタテハケメ。口縫部 口縫端部は丸くおさめる。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	にい褐色	
298	先生土器 裏	E区 L-10 包含層	口径 23.3	体部は内湾しながら立ち上 がる。口縫部は「く」の字状に外 反する。口縫端部は方形容におさ める。	口縫部内外面ヨコナタ。体部外 面ヨコハラミガキ。口縫部内外面 ヨコナタのちヨコヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄褐色	
299	先生土器 裏	F区 包含層	口径 23.2	体部は内湾しながら立ち上 がる。口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は方形容におさめる。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
300	先生土器 裏	F区 N-17 包含層	口径 25.2	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は方形容におさめる。	内外面剥離のため不明。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	淡黃褐色	
301	先生土器 裏	B区 M-N列 包含層	口径 21.4	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英	淡黃褐色	
302	先生土器 裏	B区 M-16 包含層	口径 18.3	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	口縫部内外面ヨコナタ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
303	先生土器 裏	A区 I-J-H 包含層	口径 14.8	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。	体部内面に脂膜平敷。	1~2mm 砂粒含 石英	(内) にい褐 色 (外) 黄褐色	
304	先生土器 裏	F区 R-18-19 包含層	口径 16.1	体部は内湾しながら立ち上 がる。口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は方形容。体部外 面に脂膜平敷。	口縫部内外面ヨコナタ。体部外 面15条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内) 黄褐色 (外) にい黄 褐色	
305	先生土器 裏	B区 N-13-14 包含層	口径 18.2	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は方形容におさめる。 体部は内湾しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1mm大の砂粒 含 石英	灰褐色	
306	先生土器 裏	B区 包含層	口径 17.8	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は丸くおさめる。 体部は内湾ながら立ち上がる。	口縫部内外面ヨコナタ。体部外 面15条/cmのタテハケメ。体部 内面ヨコヘラミガキ。	2mm前の大砂粒 含 石英 結晶片岩	にい黄褐色	
307	先生土器 裏	E区 C-8 包含層	口径 17.0	口縫部は「く」の字状に外反す る。口縫端部は上方に抵觸し、 やや方形容におさめる。	山縫部内外面ヨコナタ。体部外 面7条/cmのタテハケメ。	2mm前の大砂粒 含 石英 結晶片岩	(内) 淡白色 (外) 褐色	

番号	部種	地點 層位	計量 (cm)	形態の特徴	技法	地土	色調	備考
308	共生土苔 雲	A区 G-11-12 包含層	口径 19.4	体部は内凹しながら立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口縫端部は方形におさめる。体部外側中軸に斜紋文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外側中軸から下位にタテヘラミガキ。体部内面ナナメヘラミガキ。	1~2mm 砂粒含 石英	褐色	
309	共生土苔 雲	A区 F-11 包含層	口径 18.9	口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は方形におさめる。体部外側中軸に斜紋文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外側中軸/cmのタテハケメ。体部内面ヨコヘラミガキ。	1mm大の砂粒 多含	褐色	
310	共生土苔 雲	E区 M-8 包含層	口径 25.7	口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は方形におさめる。体部は内凹しながら立ち上がる。	口縫部内外面ヨコナデ。体部内面ヨコナメヘラミガキ。	1mm大の砂粒 含 石英	に近い黄褐色	
311	共生土苔 雲	B区 J-16 包含層	口径 24.5	口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部はやや上方に傾張し、方形におさめる。表面外面に複数の疣突文を施す。	内外面削削のため不明。	石英 赤色植物の細 胞含	赤褐色	
312	共生土苔 雲	A区 H-11 包含層	口径 20.0	体部は内凹しながら立ち上がる。口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は上下に傾張し、方形におさめる。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外側中軸ヨコナデ。体部内面ナナメヘラミガキ。	1~2mm砂粒 含 石英 結晶片岩	褐色	
313	共生土苔 雲	F区 R-18 包含層	口径 10.5	口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は上下に傾張し、方形におさめる。	口縫部内外面ヨコナデ。	1mm大の砂粒 含 石英	(内)に近い棕 色 (外)褐色	
314	共生土苔 雲	B区 J-16 包含層	口径 14.4	口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は上下に傾張し、方形におさめる。口縫端部に1条の回紋文を施す。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	浅黃褐色	
315	共生土苔 雲	F区 O-15 包含層	口径 15.4	体部は直線的に立ち上がる。口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は上下に傾張し、方形におさめる。口縫端部に回紋文を2条ずつ。	口縫部内外面ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	明赤褐色	
316	共生土苔 雲	E区 J-19 包含層	口径 21.0	口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は上下に傾張し、方形におさめる。口縫端部に回紋文を2条ずつ。	口縫部内外面ヨコナデ。体部外側中軸/cmのナナメハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)に近い棕 色 (外)褐色	
317	共生土苔 雲	G区 O-22 包含層	口径 19.9	体部は内凹しながら立ち上がる。口縫部は「く」の字状に外反する。口縫端部は上下に傾張し、方形におさめる。	体部外側ヨコハケメ。体部内面ヨコナデ。	砂粒含 石英 結晶片岩	(内)に近い赤 褐色 (外)赤褐色	
318	共生土苔 底部	H区 K-16 包含層	底径 6.3	底部は平底を呈する。	外側タテヘラミガキ。内面タテヘラケズリ	1mm大の砂粒 含 石英 結晶片岩	暗赤褐色	
319	共生土苔 底部	E区 J-10 包含層	底径 6.3	底部は平底を呈する。	体部外側タテヘラミガキ。体部内面タテナデ。	1~5mm 砂粒含 石英	明赤褐色	
320	共生土苔 底部	C区 包含層	底径 5.6	底部は平底を呈する。	内外面削削のため不明。	砂粒含 石英	明赤褐色	
321	共生土苔 底部	G区 Q-20 包含層	底径 4.8	底部は平底を呈する。	体部外側7条/cmのタテハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩 長石	に近い黄褐色	
322	共生土苔 底部	E区 M-10 包含層	底径 5.6	底部は上向きを呈する。体部は直線的に立ち上がる。	体部外側タテヘラミガキ。体部内面タテナデ。底部外側ヨコナデ。	1~2mm 砂粒含	(内)暗褐色 (外)褐色	

番号	品種	地点 部位	法量 (ml)	形態の特徴	栽培法	粉上	色調	備考
323	秀生上春 底部	C区 包含層	底径 4.5	底部は上げ底を呈する。体部は内凹しながら立ち上がる。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	に近い紫色	
324	秀生上春 底部	A区 H-1~ 11~12 包含層	底径 5.0	底部は上げ底を呈する。体部は内凹しながら立ち上がる。	体部外側タテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
325	秀生上春 底部	A区 包含層	底径 6.0	底部はやや上げ底を呈する。体部は内凹しながら立ち上がる。	体部外側タテヘラミガキ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
326	秀生上春 底部	F-1区 包含層	底径 6.1	底部は平底を呈する。底部に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色	
327	秀生上春 底部	E区 N-8 包含層	底径 5.8	底部は平底を呈する。底部に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	砂粒含 石英 結晶片岩	(内)淡褐色 (外)褐色	
328	秀生上春 底部	B区 1~15 包含層	底径 7.4	底部は上げ底を呈する。底部に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	黄褐色	
329	秀生上春 底部	F区 M-N-17 包含層	底径 7.8	底部はやや上げ底を呈する。体部はやや内凹しながら立ち上がる。底部に穿孔を持つ。	内外面剥離のため不明。	2mm弱の砂粒 含 石英 結晶片岩	に近い褐色	
330	秀生上春 幹	A区 H-11~12 包含層	底径 4.8	底部は上げ底を呈する。体部はゆるやかに内凹しながら立ち上がる。	体部外側ココナデ。底部外側指 頭圧痕。体部内側ココナデのち タテナシのミガキ。底部内面指 頭圧痕。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)褐色 (外)に近い褐 色	
331	秀生上春 高杯	F区 P-14 包含層	口径 16.8 脚部径 8.8 基部高 9.6	体部は直立を呈する。口縁部はやや内側に凹曲し表面に立ち上がる。口縁部は肉瘤を呈し、平坦にときめる。口縫部には2条の鋸歯状を施す。脚部はゆるやかに外下方へひろがる。	脚部内面外側ココナデ。体部外 側タテナシのミガキ。脚部外側タ テヘラミガキのちココナデ。体 部内面ココナデ。脚部内 面ヘラクズリのちココナデ。	1mm弱の砂粒 含 石英	に近い褐色	
332	秀生上春 高杯	G区 P-23 包含層	脚部径 8.8	脚部はゆるやかに外下方へひろがる。脚縫部は方形におきめる。	脚部内面タコヘラケズリ。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)黑赤褐色 (外)に近い褐 色	
333	秀生上春 茎	A区 G-9 包含層	頂部径 6.5	頂部はややへこむ。体部はゆるやかに外方へのびる。	体部外側ユビオサエのちコナ デ。体部内面ココナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	に近い褐色	
334	秀生上春 茎	F区 J-10 包含層	頂部径 7.2	頂部は平坦。体部は外方へのびる。	頂部外側ココナデ。体部外側 8 mm/cmのタテハケメのちココナ デ。内面ユビオサエのちタテナ デ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	

番号	名	種	地点 部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形	土	色	測 定 値
335	筋織草		F・I区 中間点 包含層	2.1	—	0.45	2.05	1~3mm 砂粒 石英	に赤い褐色		
336	筋織草		B区 M-15 包含層	2.1	—	0.5	4.03	1~3mm 砂粒 石英	(内)に赤い褐色 (外)褐色	内面ハケメ	
337	筋織草		F区 包含層	2.1	—	0.35	2.41	1mmの砂粒含	(内)褐色 (外)黑色	外側ヘラミガキ	
338	筋織草		B区	2.3	—	0.55	2.96	1~5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	赤褐色	内外面ヘラミガキ	
339	筋織草		F区 P-14	3.1	—	0.41	5.13	1~2mm 砂粒含 石英	に赤い褐色		
340	筋織草		B区 M-15	2.1	—	0.65	4.14	1mmの砂粒含 石英	に赤い褐色	外側ヘラミガキ	
341	筋織草		B区	3.2	—	0.75	11.82	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	暗赤褐色	外側ヘラミガキ	
342	筋織草		B区 M-16 包含層	3.25	—	0.55	7.58	1~3mm 砂粒含 石英	(内)褐色 (外)赤褐色	外側ヘラミガキ 内面ハケメ	
343	筋織草		B区 L-15 包含層	4.4	—	0.65	11.15	1~5mm 砂粒含 石英 結晶片岩	褐色		
344	筋織草		B区 H-15 包含層	4.0	—	0.85	19.06	1mmの砂粒含 石英	(内)に赤い褐色 (外)淡赤褐色	内面横縞直線文	
345	筋織草		A区 I-11-12 包含層	3.75	—	0.7	11.93	1~4mm 砂粒含 石英	褐色		
346	筋織草		B区 M-9 包含層	4.25	—	0.65	12.64	1~3mm 砂粒含 結晶片岩	(内)に赤い褐色 (外)に赤い褐色	外側ヘラミガキ	
347	筋織草		G区 O-18 包含層	5.1	—	0.65	18.86	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)黑色 (外)褐色		
348	筋織草		E区 N-12 包含層	4.65	—	0.55	(10.52)	1~2mm 砂粒含 石英	(内)淡褐色 (外)褐色	欠缺	
349	筋織草		I区	4.5	—	0.47	(8.06)	1mmの砂粒含 石英	(内)無褐色 (外)暗赤褐色	内外面ヘラミガキ 欠缺	

番号	基 準 種	地 点 名	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	石 材	規 格
350	石板	G区 P-19 包含層	2.0	1.5	0.4	1.03	サスカイト	完形。 平基。
351	石板	F区 E-18-19 包含層	2.2	0.60	0.3	(1.34)	サスカイト	基部欠損欠損。 平基。
352	石板	B区 包含層	(1.8)	(1.4)	0.4	(0.73)	サスカイト	先端部、基部一端欠損。 平基。
353	石板	B区 H-16 包含層	2.4	2.2	0.3	1.38	サスカイト	完形。 平基。
354	石板	E・I 中間区	2.4	1.4	0.4	1.45	サスカイト	完形。 平基。
355	石板	B区 包含層	(2.1)	1.5	0.4	(1.34)	サスカイト	先端部欠損。 平基。
356	石板	D区 包含層	(2.1)	(1.3)	0.4	(1.24)	サスカイト	先端部、高部欠損。 平基。
357	石板	G区 O-29 包含層	2.9	1.5	0.5	1.61	サスカイト	完形。 平基。
358	石板	B区 包含層	(2.1)	1.9	0.4	(1.83)	サスカイト	先端部欠損。 平基。
359	石板	G区 P-23 包含層	2.0	1.6	0.4	2.02	サスカイト	完形。 平基。
360	石板	B区 H-15	3.15	1.65	0.5	2.63	サスカイト	完形。 平基。
361	石板	B区 K-17 包含層	(2.2)	2.25	0.5	(2.33)	サスカイト	先端部欠損。 平基。
362	石板	B区 L-15 包含層	3.1	1.55	0.5	1.80	サスカイト	完形。 平基。
363	石板	B区 K-16 包含層	3.1	1.9	1.6	3.24	サスカイト	完形。 平基。
364	石板	B区 包含層	(2.6)	1.8	0.6	(2.54)	サスカイト	先端部欠損。 平基。
365	石板	B区 J-16 包含層	1.9	1.5	0.3	0.73	サスカイト	完形。 凹基。
366	石板	F区 N-17 包含層	1.9	1.5	0.2	0.46	サスカイト	完形。 凹基。
367	石板	E区 包含層	1.9	1.6	0.4	0.87	サスカイト	完形。 凹基。
368	石板	G区 包含層	2.15	1.5	0.3	1.00	サスカイト	完形。 凹基。
369	石板	B区 M-16 包含層	2.6	1.7	0.3	1.16	サスカイト	完形。 凹基。
370	石板	E区 L-10 包含層	2.3	1.3	0.4	1.21	サスカイト	完形。 凹基。
371	石板	B区 包含層	3.0	1.6	0.5	2.12	サスカイト	完形。 稍基。

番号	名	種	地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
372	石繩		A区 包含層	(3.1)	(1.7)	1.5	(1.38)	サヌカイト	基部一端欠損。 凹基。
373	石繩		B区 H-15 包含層	3.25	1.7	0.5	2.57	サヌカイト	完形。 凹基。
374	石繩		包含層	(2.0)	1.5	0.4	(1.13)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
375	石繩		F-1 中間区 包含層	(2.4)	1.5	0.4	(1.13)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
376	石繩		G区 包含層	(2.3)	1.7	0.5	(1.58)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
377	石繩		包含層	3.2	1.9	0.7	0.95	サヌカイト	完形。 凹基。
378	石繩		A区 E-11 包含層	3.7	2.0	0.5	3.39	サヌカイト	完形。 凹基。
379	石繩		B区 H-16 包含層	3.4	1.6	0.3	1.55	サヌカイト	完形。 凹基。
380	石繩		B区 M-16 包含層	(1.8)	1.5	(0.3)	(0.92)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
381	石繩		C区 包含層	(2.0)	(1.4)	0.3	(0.61)	サヌカイト	基部両端欠損。 凹基。
382	石繩		B区 包含層	1.7	1.45	4.0	0.95	サヌカイト	完形。 凹基。
383	石繩		F区 Q-18 包含層	(1.9)	1.4	(0.3)	(0.76)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
384	石繩		B区 包含層	(1.8)	1.5	(0.3)	(0.89)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
385	石繩		G区 P-23 包含層	(1.8)	1.9	(0.4)	(1.26)	サヌカイト	先端部欠損。 凹基。
386	石繩		C区 包含層	(2.25)	1.85	(5.1)	(1.60)	サヌカイト	基部一端欠損。 凹基。
387	石繩		B区 M-15 包含層	(2.3)	(2.2)	4.0	(1.56)	サヌカイト	基部両端欠損。 凹基。
388	石繩		B区 L-17 包含層	(2.4)	1.65	3.0	(1.32)	サヌカイト	基部一端欠損。 凹基。
389	石繩		B区 I-17 包含層	(2.5)	(2.4)	(5.8)	(3.04)	サヌカイト	先端部、基部一端欠損。 凹基。
390	石繩		B区 I-17 包含層	3.0	1.25	0.4	1.65	サヌカイト	完形。 凸基。
391	石繩		E区 L-9 包含層	3.0	1.1	0.5	1.58	サヌカイト	完形。 凸基。
392	石繩		G区 包含層	2.5	1.6	0.6	2.59	サヌカイト	完形。 凸基。
393	石繩		H区 J-16 包含層	3.1	1.4	0.5	2.01	サヌカイト	完形。 凸基。

番号	部	種	測定部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
391	石頭		I区 包含層	2.0	1.6	0.5	1.95	サヌカイト	完形。 凸基。
395	石頭		B区 包含層	1.9	1.3	0.2	0.67	サヌカイト	完形。 凸基。
396	石頭		I区 包含層	2.2	1.4	0.3	0.79	サヌカイト	完形。 凸基。
397	小鏡		A区 F-9 包含層	0.20	1.2	(0.5)	(1.25)	サヌカイト	先端部欠損。 凸基。
398	石頭		A区 J-9 包含層	2.3	1.0	0.5	0.78	サヌカイト	完形。 凸基。
399	石頭		包含層	2.6	0.9	3.0	0.84	サヌカイト	完形。 凸基。
400	石頭		B区 包含層	2.3	1.4	0.2	0.83	サヌカイト	完形。 凸基。
401	石頭		B区 J-17 包含層	2.8	(1.3)	0.4	(0.97)	サヌカイト	底部一部欠損。 凸基。
402	石頭		E区 L-9 包含層	4.2	2.3	0.6	3.31	サヌカイト	完形。 凸基。
403	石頭		C区 包含層	3.1	1.4	0.4	1.18	サヌカイト	完形。 凸基。
404	石頭		B区 M-16 包含層	3.6	1.3	0.4	1.66	サヌカイト	完形。 有基。
405	石頭		B区 M-13 包含層	3.2	1.5	0.5	2.27	サヌカイト	完形。 有基。
406	石頭		B区 J-17 包含層	(3.0)	2.7	(0.4)	(3.64)	サヌカイト	先端部欠損。 有基。
407	スクレイパー		E区 包含層	3.4	3.3	0.5	8.05	サヌカイト	下端部に両面調整による刃部形成。
408	スクレイパー		B区 J-13-14 包含層	2.8	3.4	0.6	5.82	サヌカイト	上・下端に両面調整加工。
409	スクレイパー		D区 包含層	4.2	2.0	0.6	8.16	サヌカイト	下端部に両面調整による刃部形成。
410	スクレイパー		F区 包含層	3.3	2.2	0.6	4.27	サヌカイト	下端部に両面調整による刃部形成。
411	スクレイパー		G区 O-30°- 21°-22° 包含層	4.4	2.4	0.4	4.46	サヌカイト	下端部に両面調整による刃部形成。
412	スクレイパー		F区 包含層	3.5	2.5	0.6	5.96	サヌカイト	下端部に両面調整による刃部形成。
413	スクレイパー		F区 E-17 包含層	4.5	3.7	0.7	12.0	サヌカイト	下端部分面に調整加工。
414	スクレイパー		G区 O-19 包含層	5.0	2.3	0.4	5.14	サヌカイト	下端部分面に調整加工。
415	スクレイパー		G区 M-N-38 包含層	6.4	3.0	0.4	9.53	サヌカイト	下端部内面に調整加工。

番号	部	種	地点 部位	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	施 工
416	スクリーパー	A区 F-9 包含層		4.1	3.4	0.7	11.09	サヌカイト	上・下縁部両面に削整加工。
417	スクリーパー	F区 H-18-19 包含層		5.3	6.1	1.0	36.11	サヌカイト	上・下縁部に両面調整加工。
418	スクリーパー	G区 P-19 包含層		6.3	4.6	0.7	27.78	サヌカイト	上・下縁部に両面調整加工。
419	スクリーパー	I区 包含層		6.1	3.6	0.6	16.31	サヌカイト	下縁部に両面調整加工。
420	スクリーパー	E区 包含層		7.3	4.1	0.8	21.76	サヌカイト	下縁部に片面削整加工。
421	スクリーパー	C区 包含層		4.6	3.3	0.7	13.98	サヌカイト	上・下縁部に両面削整加工。
422	スクリーパー	A区 D-9 包含層		4.1	3.8	1.0	18.85	サヌカイト	下縁部に両面削整加工。
423	スクリーパー	B区 包含層		4.5	3.2	0.8	9.41	サヌカイト	下縁部に両面調整加工。
424	スクリーパー	A区 H-11 包含層		4.5	2.9	0.5	8.01	結晶片岩	下縁部に両面調整加工。
425	スクリーパー	C区 包含層		9.4	5.4	1.3	110.15	結晶片岩	下縁部に両面調整加工。
426	楔形石幕	D区 包含層		2.6	2.3	0.5	2.43	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面削整加工。
427	楔形石幕	E区 包含層		2.4	2.9	0.7	3.83	サヌカイト	内側縁に裁断面。 下縁部に片面削整加工。
428	楔形石幕	F区 P-17 包含層		0.9	2.7	0.4	1.95	サヌカイト	内側縁に裁断面。 下縁部に両面削整加工。
429	楔形石幕	B区 包含層		3.3	1.8	0.8	4.27	サヌカイト	一側縁に裁断面。
430	楔形石幕	B区 K-14 包含層		2.0	3.0	0.7	4.55	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面削整加工。
431	楔形石幕	K区 K-10 包含層	(1.8)	2.4	0.7	(3.68)	サヌカイト	一側縁に裁断面。 上部欠損。 下縁部に片面削整加工。	
432	楔形石幕	A区 包含層		5.7	2.0	0.9	10.80	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面削整加工。
433	楔形石幕	A区 包含層		3.2	3.5	1.2	14.30	サヌカイト	内側縁に裁断面。 上下両面に削整加工。
434	楔形石幕	G区 P-19 包含層		3.4	4.8	0.8	10.39	サヌカイト	内側縁に裁断面。 上下縁部両面に削整加工。
435	楔形石幕	D区 包含層		3.5	2.6	0.8	8.85	サヌカイト	内側縁に裁断面。 上・下縁部に両面削整加工。
436	楔形石幕	F区 P-16 包含層		2.4	2.3	0.6	4.02	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面削整加工。
437	楔形石幕	D区 包含層		2.4	2.2	0.6	3.28	サヌカイト	一側縁に裁断面。 下縁部に両面削整加工。

番号	器	種	地質層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
438	彫形石器		B区 I-17 包含層	2.8	3.2	1.3	17.52	サヌカイト	両側面に裁断面。 両端部に背面調整加工。
439	彫形石器		F区 包含層	2.6	2.9	0.6	5.76	サヌカイト	一側面に裁断面。
440	彫形石器		D区 包含層	3.2	2.7	0.8	8.10	サヌカイト	一側面に裁断面。 両端部に両面調整加工。
441	彫形石器		E区 L-7 包含層	3.4	(2.99)	0.5	(5.32)	サヌカイト	一端欠損。 下端部に両面調整加工。
442	彫形石器		E区 N-10 包含層	3.4	(3.6)	0.9	(11.35)	サヌカイト	一端欠損。 下端部に両面調整加工。
443	彫形石器		E区 L-10 包含層	3.0	(3.0)	0.8	(6.85)	サヌカイト	一端欠損。 下端部に両面調整加工。
444	彫形石器		D区 包含層	3.6	1.6	0.6	5.12	サヌカイト	一側面に裁断面。 下端部に両面調整加工。
445	彫形石器		F区 包含層	4.5	3.5	0.7	15.57	サヌカイト	両側斜面部に両面調整加工。
446	彫形石器		E区 包含層	2.9	(3.3)	0.6	(6.39)	サヌカイト	一側面に裁断面。 下端部に両面調整加工。
447	彫形石器		B区 L-17 包含層	2.5	2.8	0.7	6.86	サヌカイト	一側面に裁断面。 上下両面に調整加工。
448	彫形石器		D区 包含層	3.8	3.4	0.7	12.11	サヌカイト	下端部に両面調整加工。 一側面に裁断面。
449	彫形石器		F区 M-10 包含層	3.1	4.5	1.0	24.8	サヌカイト	一側面に裁断面。 下端部に両面調整加工。
450	彫形石器		G区 P-18 包含層	4.9	3.1	1.4	33.73	サヌカイト	下端部に両面調整加工。
451	石器		E区 M-9 包含層	(4.6)	(2.6)	(0.9)	(11.59)	サヌカイト	下部欠損。 両側面に両面調整加工。
452	石器		B区 包含層	(3.1)	(3.9)	(0.9)	(4.41)	サヌカイト	下部欠損。 両側面に両面調整加工。
453	磨製石削		B区 包含層	(7.3)	3.5	0.5	(20.60)	結晶片岩	下部欠損。 内側面に研磨を施し、刃部作成。
454	磨製石削		G区 N-20 包含層	(5.6)	3.3	0.7	(24.13)	結晶片岩	下部欠損。 両面に研磨痕。
455	石器		B区 M-16 包含層	10.1	4.0	0.9	58.45	結晶片岩	端部抜りなし。 完形。
456	石器		B区 M-16 包含層	(10.5)	(4.0)	(0.9)	(58.53)	結晶片岩	端部抜りなし。 一端欠損。
457	石器		A区 I-I-11 包含層	(9.0)	(3.0)	(0.9)	(38.97)	結晶片岩	端部抜りなし。 一端欠損。
458	石器		C区 包含層	(10.0)	(4.0)	(0.8)	(49.85)	結晶片岩	端部抜りなし。 一端欠損。
459	石器		F区 N-17 包含層	(8.3)	(4.7)	(0.9)	(60.97)	結晶片岩	端部抜りなし。 一端欠損。

番号	基 礎 種	地 点 層 位	高 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
460	石炭丁	B区 K-17 包含層	(5.2)	(3.6)	(0.5)	(12.31)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
461	石炭丁	B区 M-16 包含層	6.3	3.5	0.5	19.67	結晶片岩	両端欠損。
462	石炭丁	A区 H-10 包含層	(8.5)	(4.3)	(0.4)	(16.58)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
463	石炭丁	F-1 中間区 包含層	(10.2)	(3.6)	(1.0)	(45.31)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
464	石炭丁	F区 R-18 包含層	(9.6)	(4.2)	(0.9)	(49.10)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
465	石炭丁	C区 包含層	(7.9)	(3.6)	(0.6)	(22.35)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
466	石炭丁	E区 M-10 包含層	(8.6)	(3.6)	(0.8)	(30.65)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
467	石炭丁	B区 M-15 包含層	(8.5)	(4.5)	(3.5)	(33.68)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
468	石炭丁	F区 P-18 包含層	(9.6)	(4.5)	(1.4)	(73.51)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
469	石炭丁	F区 Q-18 包含層	10.8	4.7	1.0	44.95	結晶片岩	端部抉りなし。
470	石炭丁	G区 包含層	12.3	4.3	1.0	86.8	結晶片岩	完形。 端部抉りなし。
471	石炭丁	F区 N-50 包含層	12.9	4.2	1.0	71.66	結晶片岩	完形。 端部抉りなし。
472	石炭丁	G区 包含層	3.5	3.7	0.6	13.8	結晶片岩	両端欠損。
473	石炭丁	G区 P-19 包含層	(7.2)	(3.3)	(1.2)	(40.1)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
474	石炭丁	F区 R-18-19 包含層	(8.3)	(5.1)	(1.0)	(63.56)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
475	石炭丁	D区 包含層	(9.9)	(3.3)	(0.7)	(25.29)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
476	石炭丁	F区 N-16 包含層	(12.0)	(5.2)	(1.0)	(55.98)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
477	石炭丁	A区 I-1-11 包含層	(12.0)	(5.4)	(1.4)	(99.67)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
478	石炭丁	F区 P-18 包含層	13.9	5.4	0.9	96.18	結晶片岩	端部抉りなし。 完形。
479	石炭丁	F区 N-11 包含層	10.2	6.7	1.0	128	結晶片岩	端部抉りあり。 完形。
480	石炭丁	G区 O-22 包含層	10.6	5.5	1.5	94.6	結晶片岩	端部抉りあり。 完形。
481	石炭丁	F区 P-17 包含層	(6.1)	(3.2)	(1.1)	(29.64)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。

番号	部	種	地點 層位	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	石 材	備 考
482	石塹丁		F区 P-16 包含層	(6.2)	(4.0)	(0.8)	(20.37)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
483	石塹丁		F区 M-10 包含層	(8.0)	(4.0)	(1.2)	(66.78)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
484	石塹丁		A区 I-J II 包含層	(9.2)	(4.4)	(0.6)	(43.01)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
485	石塹丁		F区 S-16 包含層	(10.1)	(4.0)	(1.1)	(59.54)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
486	石塹丁		F区 M-10 包含層	(9.0)	(4.5)	(0.7)	(42.31)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
487	石塹丁		F区 N-17 包含層	(9.8)	(3.8)	(0.5)	(31.02)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
488	石塹丁		F区 Q-18 包含層	(9.0)	(4.2)	(1.2)	(58.64)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
489	石塹丁		F区 N-9 包含層	(9.0)	(9.3)	(1.3)	(191.10)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
490	石塹丁		F区 R-10-12 包含層	(8.5)	(4.2)	(1.1)	(31.09)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
491	石塹丁		I区 包含層	(7.0)	(4.5)	(1.3)	(43.25)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
492	石塹丁		G区 L-M-21 包含層	(9.2)	(3.8)	(0.7)	(38.73)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
493	石塹丁		F区 R-10-12 包含層	(8.7)	(3.2)	(0.65)	(30.55)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
494	石塹丁		B区 包含層	(10.1)	(4.0)	(1.2)	(88.34)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
495	石塹丁		F区 R-17 包含層	(8.9)	(2.5)	(0.30)	(32.27)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
496	石塹丁		E区 L-9 包含層	(8.0)	(3.7)	(1.1)	(45.72)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
497	石塹丁		I区 J-11 包含層	(8.7)	(4.0)	(0.7)	(40.30)	結晶片岩	両端欠損。
498	石塹丁		F区 Q-17 包含層	(9.0)	(5.1)	(0.9)	(63.54)	結晶片岩	両端欠損。
499	石塹丁		F区 P-16 包含層	(9.0)	(3.0)	(0.8)	(48.49)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
500	石塹丁		A区 F-12 包含層	(11.1)	(3.7)	(0.95)	(60.76)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
501	石塹丁		I区 包含層	(12.1)	(4.0)	(1.0)	(71.27)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
502	石塹丁		F区 N-16 包含層	(13.1)	(6.0)	(1.4)	(137.0)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
503	石塹丁		F区 N-17 包含層	(8.0)	(4.0)	(0.7)	(43.80)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。

番号	場所	種類	地点 部位	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	石 材	備 考
504	石庭丁		F区 N-17 包含層	(11.5)	(3.0)	(1.0)	(40.71)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
505	石庭丁		E区 包含層	(10.6)	(4.1)	(1.1)	(73.90)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
506	石庭丁		E区 包含層	(11.1)	(5.4)	(1.0)	(99.05)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
507	石庭丁		B区 M-15 包含層	(6.5)	(3.5)	(0.5)	(16.60)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
508	石庭丁		F区 N-16 包含層	(7.3)	(4.1)	(0.9)	(32.46)	結晶片岩	端部抉りなし。 一端欠損。
509	石庭丁		F区 N-16 包含層	(7.2)	(6.6)	(0.8)	(86.61)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
510	石庭丁		F区 S-18 包含層	10.5	4.8	1.2	99.57	結晶片岩	端部抉りあり。 完形。
511	石庭丁		F区 N-15 包含層	(12.9)	(4.1)	(0.9)	(62.22)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
512	石庭丁		F区 P-15 包含層	(6.6)	(3.5)	(0.5)	(16.90)	結晶片岩	端部抉りあり。 端欠損。
513	石庭丁		B区 包含層	(5.5)	(3.8)	(0.8)	(23.62)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
514	石庭丁		A区 D-8 包含層	(5.6)	(4.9)	(0.9)	(29.91)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
515	石庭丁		C区 包含層	(6.2)	(4.0)	(0.5)	(17.90)	紅葉石綿雲母	端部抉りあり。 一端欠損。
516	石庭丁		B区 J-16 包含層	(5.3)	(3.8)	(0.7)	(25.25)	結晶片岩 石英片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
517	石庭丁		F区 包含層	(7.9)	(4.5)	(0.6)	(37.22)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
518	石庭丁		A区 F-11 包含層	(3.7)	(2.8)	(0.4)	(6.00)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
519	石庭丁		G区 M-N-26 包含層	(4.8)	(3.9)	(0.8)	(28.07)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
520	石庭丁		A区 II-I- 11-12 包含層	(5.0)	(2.3)	(0.5)	(9.30)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
521	石庭丁		I区 包含層	(6.8)	(3.5)	(0.6)	(20.95)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
522	石庭丁		G区 L-M-21 包含層	(9.0)	(4.7)	(0.7)	(38.09)	結晶片岩	端部抉りあり。 一端欠損。
523	石庭丁		G区 O-18 包含層	(12.4)	(5.1)	(1.0)	(92.34)	結晶片岩	一部欠損。 端部抉りあり。
524	石庭丁		B区 K-17 包含層	(6.0)	(3.1)	(0.8)	(17.23)	結晶片岩	一端欠損。 端部抉りなし。
525	石庭丁		B区 L-17 包含層	(7.3)	(3.0)	(0.6)	(20.57)	結晶片岩	両端欠損。

番号	部	級	地點 位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
526	石塹丁		F区 N-16 包含層	(8.8)	(3.6)	(0.7)	(25.36)	結晶片岩	上部欠損。
527	石塹丁		A区 包含層	(9.1)	(4.7)	(0.6)	(42.02)	結晶片岩	両端欠損。
528	石塹丁		B区 I-17 包含層	(5.9)	(3.3)	(0.6)	(15.20)	結晶片岩	両端欠損。
529	石塹丁		B区 I-15 包含層	(6.4)	(3.7)	(0.8)	(27.74)	結晶片岩	両端欠損。
530	石塹丁		E区 L-11 包含層	(6.4)	(4.9)	(0.6)	(25.54)	結晶片岩	両端欠損。
531	石塹丁		F区 P-16 包含層	(6.5)	(6.1)	(0.8)	(38.37)	結晶片岩	両端欠損。
532	石塹丁		E区 包含層	(9.3)	(6.2)	(0.8)	(59.31)	結晶片岩	両端欠損。
533	石塹丁		F区 包含層	(4.9)	(3.6)	(0.4)	(8.39)	結晶片岩	両端欠損。
534	石塹丁		F区 P-17 包含層	(5.4)	(3.0)	(0.7)	(12.94)	結晶片岩	両端欠損。
535	石塹丁		E区 S-18-19 包含層	(5.6)	(4.2)	(1.1)	(41.85)	結晶片岩	両端欠損。
536	石塹丁		F区 P-17 包含層	(5.7)	(3.8)	(0.8)	(36.02)	結晶片岩	両端欠損。
537	石塹丁		F区 P-17 包含層	(8.3)	(5.3)	(1.1)	(54.83)	結晶片岩	両端欠損。
538	石塹丁		F区 P-14 包含層	(8.5)	(2.1)	(0.5)	(13.90)	結晶片岩	上部欠損。
539	石塹丁		F区 C-15 包含層	(7.7)	(3.7)	(0.7)	(28.81)	結晶片岩	上部欠損。
540	石塹丁		F区 E-16-19 包含層	(5.3)	(3.7)	(0.8)	(6.53)	結晶片岩	両端欠損。
541	石塹丁		D区 包含層	(6.3)	(3.8)	(1.0)	(36.47)	結晶片岩	両端欠損。
542	石塹丁		F区 E-18-19 包含層	(9.1)	(4.0)	(1.0)	(45.49)	結晶片岩	両端欠損。
543	石塹丁		B区 包含層	(9.3)	(5.3)	(1.0)	(54.90)	結晶片岩	両端欠損。
544	石塹丁		G区 N-20 包含層	(9.1)	(4.1)	(1.1)	(51.36)	結晶片岩	両端欠損。
545	石塹丁		F区 E-16 包含層	(5.6)	(3.4)	(0.9)	(22.98)	結晶片岩	両端欠損。
546	石塹丁		G区 P-22 包含層	(6.6)	(4.3)	(0.8)	(31.40)	結晶片岩	両端欠損。
547	石塹丁		E区 O-11 包含層	(7.2)	(6.0)	(0.7)	(45.6)	結晶片岩	両端欠損。

番号	器	種	地點 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
548	石盾丁		E区 包含層	(11.0)	(5.2)	(0.5)	(57.13)	結晶片岩	一端欠損。
549	石盾丁		F区 P-16 包含層	(10.3)	(6.0)	(0.8)	(76.63)	結晶片岩	一端欠損。
550	石盾丁		F区 包含層	(6.7)	(4.0)	(0.5)	(22.22)	サヌカイト	端部缺りあり。 一端欠損。
551	石盾丁		包含層	(11.0)	(5.0)	(1.0)	(116.48)	結晶片岩	片面に研磨痕あり。 一端欠損。
552	石盾		F区 O-16 包含層	7.9	4.1	0.8	32.07	サヌカイト	一端欠損。 両側縁、両面に調整加工。
553	石盾		A区 G-11-12 包含層	10.9	4.7	1.2	87.82	結晶片岩	一端欠損。 両側縁、両面に調整加工。
554	石盾		G区 包含層	13.0	3.4	1.4	67.46	結晶片岩	両側縁片面に調整加工。
555	石盾		A区 I-11 包含層	14.9	3.7	0.8	64.75	結晶片岩	両側縁両面調整加工。
556	小形方針状片刃石斧		G区 O-20 包含層	9.3	2.8	1.9	107.75	結晶片岩	全面に研磨底。 上部側面と表面に抉り施す。
557	柱狀片刃石斧		B区 M-17 包含層	14.5	4.3	2.7	366.0	結晶片岩	全面に研磨底。
558	小形方針状片刃石斧		A区 D-8 包含層	10.8	3.1	2.6	194.0	結晶片岩	全面に研磨底。
559	柱狀片刃石斧		E区 L-8 包含層	(10.6)	2.7	2.5	(188.0)	結晶片岩	上下端部欠損。 表面と側面に研磨底。
560	柱狀片刃石斧		F区 N-17 包含層	(6.4)	(3.5)	1.2	(41.0)	結晶片岩	上部欠損。 側面に研磨底。
561	太形船刃石斧		F区 P-15 包含層	(15.3)	(7.8)	(5.6)	(1190.0)	ハンレイ岩	上部欠損。 下部に敲打痕。
562	太形船刃石斧		B区 包含層	(14.7)	(7.2)	(3.4)	(580.0)	結晶片岩	上部欠損。 下部に研磨底。 側縁に敲打痕。
563	太形船刃石斧		F区 O-15 包含層	(16.2)	(9.1)	(5.0)	(1140.0)	片岩	下半部欠損。 全面に敲打痕。
564	柱狀片刃石斧		A区 包含層	11.0	2.9	1.3	73.35	結晶片岩	側面に研磨底。
565	柱狀片刃石斧		A区 I-11 包含層	10.5	3.1	1.8	105.3	結晶片岩	全面に研磨底。
566	扁平圓刃石斧		G区 O-21 包含層	(7.1)	(5.0)	(1.1)	(80.35)	結晶片岩	上部欠損。 全面に研磨底。
567	扁平圓刃石斧		B区 II-15 包含層	3.8	2.4	0.6	8.57	結晶片岩	両面に研磨底。
568	扁平圓刃石斧		B区 N-15 包含層	(5.3)	3.0	1.1	(61.65)	結晶片岩	上部欠損。 裏面に研磨底。
569	扁平刃石斧		E区 包含層	4.5	3.9	1.2	38.22	結晶片岩	両面に研磨底。

番号	形 種	地質 部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
570	扁状石斧	F区 N-16 包含層	7.7	6.5	1.8	123.0	結晶片岩	
571	凹柱狀石斧	F区 O-16 包含層	9.9	2.8	0.8	43.67	結晶片岩	尖側鋸面に調整加1。
572	凹柱狀石斧	I区 包含層	(10.0)	2.1	(0.9)	(23.76)	結晶片岩	下端欠損。
573	凹柱狀石斧	G区 O-20 包含層	(9.3)	2.8	(1.2)	(51.1)	結晶片岩	上下両端欠損。
574	凹柱狀石斧	H区 M-15 包含層	(8.9)	2.6	(0.9)	(27.65)	サヌカイト	上下両端欠損。
575	小形凹柱狀石斧	H区 M-16 包含層	5.7	2.1	0.7	14.29	結晶片岩	下部両面に研磨痕。
576	小形凹柱狀石斧	G区 O-20 包含層	(7.3)	2.2	(1.0)	(21.90)	結晶片岩	上・下両端欠損。
577	小形凹柱狀石斧	E区 L-16 包含層	(2.8)	2.5	(0.6)	(4.94)	結晶片岩	下部欠損。 両面に研磨痕。
578	小形凹柱狀石斧	A区 I-11 包含層	(2.9)	2.0	(0.4)	(3.86)	結晶片岩	上部欠損。 両面に研磨痕。
579	小形凹柱狀石斧	E区 L-9 包含層	(3.4)	2.3	(0.8)	(7.34)	結晶片岩	上部欠損。 両面に研磨痕。
580	小形凹柱狀石斧	C区 包含層	5.7	2.3	0.8	17.67	結晶片岩	下部両面に研磨を施し、刃部作成。
581	小形凹柱狀石斧	E区 N-11 包含層	5.7	1.9	1.2	21.5	結晶片岩	下部両面に研磨痕。
582	小形凹柱狀石斧	E区 O-11 包含層	(4.4)	1.6	(0.9)	(6.88)	サヌカイト	上部欠損。 下部両面に研磨痕。
583	石鎌	E区 包含層	15.5	6.5	1.5	194.0	結晶片岩	完形。
584	石鎌	E区 M-8 包含層	4.3	2.2	0.6	4.07	サヌカイト	完形。
585	石鎌	G区 MN-20 包含層	4.4	1.5	0.5	2.2	サヌカイト	完形。
586	石鎌	G区 L-H-29 包含層	(2.9)	(0.9)	(0.4)	(1.10)	サヌカイト	上・下端部欠損。
587	研石	F区 N-16 包含層	11.8	8.5	5.9	960.0	チャート	完形。 上・下両端に敲打痕。
588	研石	A区 H-11 包含層	12.8	8.2	4.0	750.0	結晶片岩	完形。 片方の側面と下部に敲打痕。
589	研石	E区 L-10 包含層	10.8	7.2	4.8	549.0	砂岩	側面の研磨石を使用。 上下両側面に敲打痕。
590	研石	B区 M-15 包含層	(13.8)	7.4	3.8	(639.0)	砂岩	上部欠損。 下部と両側面に敲打痕。
591	研石	I区 包含層	8.6	9.5	3.4	760.0	砂岩	完形。 側面に部分的に敲打痕。

番号	石種	地名 通称	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
592	砂岩	F区 包含層	16.7	10.5	6.2	910.0	砂岩	完形。 上面と裏面に部分的に敲打痕。
593	砾石	E区 N-16 包含層	(14.7)	(6.8)	(3.7)	(650.0)	砂岩	1/2を欠損。 表面と裏面に研磨痕と敲打痕。
594	砾石	G区 包含層	(11.2)	(15.3)	(5.6)	(1250.0)	砂岩	上部欠損。 表面と裏面に研磨痕。
595	砾石	F区 P-15 包含層	(18.2)	(7.5)	(4.1)	(1200.0)	結晶片岩	1/2を欠損。 表面と裏面に研磨痕。
596	砾石	A区 G-11-12 包含層	(17.2)	(10.9)	(5.8)	(1250.0)	砂岩	下部欠損。 表面に研磨痕。
597	砾石	E区 M-7 包含層	(22.1)	(8.4)	(2.3)	(770.0)	結晶片岩	1/2を欠損。 表面と裏面に研磨痕。
598	砾石	E区 包含層	21.4	28.1	3.6	2500.0	結晶片岩	完形。 表面と裏面に研磨痕。 上下縁に敲打痕。
599	砾石	F区 Q-15 包含層	23.9	18.3	7.5	5430.0	砂岩	完形。 表面と裏面に研磨痕。
600	砾石	G区 Q-20 包含層	15.9	12.4	7.1	1650.0	砂岩	完形。 表面と裏面に研磨痕。 下部に敲打痕。
601	砾石	包含層	(12.3)	(19.3)	(8.6)	(1350.0)	砂岩	表面と裏面に研磨痕。

第98表 S B 1001出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
602	土師器 蓋	覆土	口径 19.0 蓋高 11.5	体部はやや内側乳突に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁部はややとがり乳突におきめる。	体部外削上位へラミガキ。体部外削中位から底部へラミガキ。 口縁部内面ヨコナナ。体部内面上位から中位は斜削下位へラミガキ(斜削法)、体部内面中位から底部タテへラミガキ(斜削法)。	砂粒含 有	褐色	
603	土師器 鉢	覆土	口径 20.5 鉢高 11.5	体部はやや内側しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。口縁部は丸くおきめる。	口縁部内外ヨコナナ。体部外 面ヨコナナ。/cmのタテハケメのら 指痕。体部内面タテ方向のイ タナナ。	1~3mm 砂粒含 有無	褐色	
604	土師器 鉢	覆土	口径 22.0	体部はやや外方に傾きながら直 線的に立ち上がる。口縁部はや や外反する。口縁部は丸くお きめる。	体部外削 6 条/cmのタテハケメ。 口縁部内面ヨコナナ。体部内削 タテ方向のイタナナ。	1~2mm 砂粒含 有無 結晶片岩	褐色	
605	土師器 蓋	覆土	口径 12.8	体部より腹部にかけて内削しな がら立ち上がる。頭部より口縫 部にかけてゆるやかに外反する。 口縫部は千筋状を呈する。	口縫部外削から体部外削 6 条/ cmのタテハケメ。口縫部内面ヨ コナナ。口縫部内面と強いイ タナナ。体部内面ヨコナナのら 指痕所在。	1mm弱の砂粒 含	に赤褐色	
606	土師器 蓋	覆土	口径 14.4	体部より腹部にかけてやや内側 乳突に立ち上がる。腹部より口 縫部はやかに外反する。口縫部 は丸くおきめる。	口縫部内外ヨコナナ。体部外 面ヨコナナ。/cmのタテハケメ。体部 内面タテナナのら指痕所在。	1~2mm 砂粒含 有無	褐色	
607	土師器 蓋	覆土	口径 12.6	体部より腹部にかけてやや内側 乳突に立ち上がる。頭部より口 縫部にかけてゆるやかに外反す る。口縫部は丸くおきめる。	口縫部内外ヨコナナ。体部外 面ヨコナナ。/cmのタテハケメ。体部 内面タテ方向のイタナナのら指 痕所在。粘土被膜あり。	1mm大の砂粒 含	赤褐色	
608	土師器 蓋	覆土	口径 12.4 体部最大径 14.9	体部はやかに内削しながら 立ち上がる。腹部より口縫部に 向かいゆるやかに外方に屈曲す る。口縫部外反する。口縫部 は丸くおきめる。	口縫部内外ヨコナナ。体部外 面ヨコナナ。/cmのタテハケメ。体部 内面板ナナのら指痕所在。粘土 被膜あり。	1~3mm 砂粒含 有無 結晶片岩	褐色	
609	土師器 蓋	覆土	口径 6 体部最大径 19.8	體部は丸底を呈する。体部は直 線的に立ち上がる。	体部外削 9 条/cmのタテハケメ。 /cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 有無 結晶片岩	明赤褐色	
610	須恵器 身	覆土	口径 12.0 体部最大径 14.3	口縫部は内削して立ち上がり。 縫部は丸い。受部はやや上方へ のび縫部は丸い。底部は浅い。	口縫ナナ。	1~2mm 砂粒含 有無	灰白色	
611	須恵器 身	覆土	口径 11.0 体部最大径 13.1	口縫部は内削して立ち上がり。 縫部は丸い。受部はやや上方へ のび縫部は丸い。	口縫ナナ。	1mm弱の砂粒 含 結晶片岩	灰白色	
612	須恵器 身	覆土	口径 10.8 体部最大径 13.2	口縫部は内削して立ち上がり。 縫部は丸い。受部はやや上方へ のび縫部は丸い。	口縫ナナ。	1mm弱の砂粒 含	灰褐色	

番号	器種	層	地點 層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
613	石鏡	覆土		2.7	1.4	0.6	1.98	サヌカイト	完形
614	石鏡	覆土		3.4	1.3	0.5	1.6	サヌカイト	完形
615	石鏡T	覆土		10.6	4.4	0.9	34.36	結晶片岩	完形 両側縁内面に調整加工を 施す。

第99表 SK1109出土遺物観察表

番号	器種	出土地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	耕土	色調	備考
616	土師器 甕	甕土	口径 18.3	体部は内溝しながら立ち上がる。口縁部はゆるやかに外反しながら縦面に向う。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。体部外 面8条/cmのタテハケメ。底部 内面8条/cmのヨコハケメ。体 部内面側壓痕。	1~3mm 砂粒含 石英	明赤褐色	
617	土師器 甕	甕土	口径 16.0	口縁部はゆるやかに外反しながら縦面に向う。口縁端部丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。	1~3mm 砂粒含 石英	橙色	
618	泥生土器 底部	甕土	底径 10.9	底部は平底を呈する。体部は、直線的に立ち上がる。	体部外表面方向のイナギ。 底部内面ヨコナギ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)に赤い 色 (外)褐色	

第100表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	器種	出土地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技法	耕土	色調	備考
619	土師器 高台有輪 甕	B区 L-16 包含層	底径 11.6	高台部は丸くおさめる。高台部 はやや外方向き。	高台部隨り付け高台。高台部外 面ヨコナギ。高台部内面ナメ。 底部側面切切り。	1~3mm 砂粒含 石英	に赤い 色	
620	土師器 甕	F区 S-17 包含層	口径 23.1	口縁部はゆるやかに外反する。 口縁端部は方形におさめる。	口縁部外面ヨコナギ。腹部外 面8条/cmのタテハケメ。口縁部 内面8条/cmのヨコハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	(内)赤色 (外)に赤い 色	
621	土師器 甕	F区 包含層	口径 15.6	体部は内溝しながら立ち上がる。 口縁部は直立する。口縁端部は 丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。体部外 面8条/cmのタテハケメ。	1~3mm 砂粒含 石英	に赤い 色	
622	土師器 甕	E区 L-10 包含層	口径 16.2	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部はやや内側に弧張 し、半円におさめる。	口縁部外面ヨコナギ。腹部外 面10条/cmのタテハケメ。口縁部 内面から底面内面8条/cmのヨ コハケメ。	1~2mm 砂粒含 石英	橙色	
623	土師器 甕	E区 L-10 包含層	口径 11.6	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面から腹部外面ヨコナ ギ。体部外表面10条/cmのタテハ ケメ。口縁部内面ヨコナギ。体 部内面ヨコナギ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
624	土師器 甕	F-I 中間区 包含層	口径 26.6	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は方形におさめる。	口縁部外面から腹部外面ヨコナ ギ。体部外表面10条/cmのタテハ ケメ。口縁部内面ヨコナギ。体 部内面ヨコナギ。	1~2mm 砂粒含 石英 結晶片岩	に赤い 色	
625	土師器 甕	E区 L-10 包含層	口径 19.8	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部はやや尖らせる。	口縁部外面ヨコナギ。口縁部外 面から腹部外表面8条/cmのタテ ハケメ。口縁部内面8条/cmのヨ コハケメ。腹部内面タテナギ。	1mm弱の砂粒 含 石英 結晶片岩	浅灰褐色	
626	土師器 甕	F区 O-15 包含層	口径 14.1	体部は直線的に立ち上がる。口 縁部は三方に回曲する。口縁端 部は方形におさめる。	体部外表面10条/cmのタテハケメ。 口縁部内外面ヨコナギ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	淡黄褐色	
627	土師器 甕	A区 包含層	口径 15.6	口縁部は「く」の字状に外反す る。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部外面ヨコナギ。体部外 面8条/cmのタテハケメ。口縁部 内面8条/cmのヨコハケメ。体 部内面ハケザリ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片岩	橙色	
628	陶器器 杯蓋	A区 G-II 包含層	口径 10.6	体部外表面に施點。口縁部は直立 に下る。口縁端部は丸くおさめ る。	内外面 ロクロナギ。	1mm弱の砂粒 含 石英	(内)灰白色 (外)に赤い 色	
629	陶器器 杯蓋	I区 包含層	口径 9.8 底径 11.8	口縁部は外方に立ち上がる。受 部は直線的に外方に傾く。	内外面 ロクロナギ。	1mm弱の砂粒 含 石英	明赤褐色	

番号	器種	地点 番号	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
630	灰陶器 壺	G区 L・M-29 包含層	口径 9.2	口縁部は外方へ膨らむ。口縁 端部は上下に傾斜し、端面は方 形におさめる。	内外面 ロクロナデ。	1~3mm 砂粒含 石英 結晶片混	灰褐色	
631	灰陶器 壺	F区 R-16 包含層	底径 11.4	底部は高台を持つ。	内外面 ロクロナデ。	1mm大の砂粒 含	オリーブ灰色	
632	灰陶器 壺	A区 D-7 包含層	底径 7.2	底面は平底を呈する。体部はや や内凹しながら立ち上がる。	内外面 ロクロナデ。	1~3mm 砂粒含	灰色	
633	灰陶器 壺	E区 N-10	底径 11.9	体部外側に施釉。体部はやや内 凹しながら立ち上がる。	内外面 ロクロナデ。	1mm大の砂粒 含	灰褐色	
634	灰陶器 壺	F区 O-15 包含層	底径 7.4	底部はハリケ高台。		1mm大の砂粒 含 石英	灰白色	

番号	器種	被 塗	塗 部位	法量・形態・技 法 の 特 徴	備 考
635	瓦瓶		F区 Q-15 包含層	底2.4cm、腰2.8cm、断面幅0.6cm、断面厚0.55cm 重量9.60g	

第101表 S A 1034内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 番号	法量 (cm)	形態の特徴	技法	胎土	色調	備考
636	土師質土 器 杯	板土 P10	口径 13.8 底径 10.4 基高 2.7	底面より口縁部に向い直線的に 立ち上がる。口縁部はやや外度 する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面凹輪ナデ。底部ヘラ切り。 微細粒含		淡黄色	
637	土師質土 器 小皿	板土 P11	底径 6.8	底面のみ。	内外面凹輪ナデ。	1mm大の砂粒 含 石英	褐色	
638	土師質土 器 盤	板土 P2	口径 23	口縁部は底部で外方に屈曲して、 直線的に立ち上がる。口縁端部は方 形に対さめる。	口縁部内外面ヨコナデのち擦頭 仕拭。	1mm大の砂粒 含 石英	海灰色	
639	土師質土 器 盤	板土 P2	口径 27.2	口縁部は底部で外方に屈曲し、 やや外方に傾きながら直線的に 立ち上がる。口縁端部は直角にお さめる。	口縁部内外面ヨコナデのち擦頭 仕拭。体部外表面指痕压痕のちタ ナデ。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)灰白色 (外)黒色	
640	土師質土 器 盤	板土 P2	口径 28.8	口縁部は「く」の字状に外反す。 口縁端部は直角におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1mm大の砂粒 含 石英	(内)淡黃褐色 (外)灰褐色	
641	土師質土 器 盤	板土 P2 板土	口径 32.8	体部は内凹弧形に立ち上がる。 口縁部は「く」の字状に外反す。 「縫合部」は直角におさめる。	体部外表面指痕压痕のちタナデ。 口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	(内)淡黃褐色 (外)灰褐色	
642	土師質土 器 盤	板土 P2	口径 45.0 基高 14.7	口縁部は「く」の字状に外反す。 口縁端部は直角におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外 面と半指痕压痕のちタナデ。 体部外表面下平滑子目タタキ。体 部内表面指痕压痕のちタナデ。	微細粒含	(内)灰白色 (外)淡黃褐色	
643	瓦質土器 盤	板土 P2	口径 28.9	体部は内凹弧形に立ち上がる。 口縁部はやや外方に傾く。口縁 端部は直角におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外 面指痕压痕。	1~2mm 砂粒含 石英	(内)灰褐色 (外)三色	
644	瓦質土器 盤	板土 P2	口径 28.2	口縁部は「く」の字状に外反す。 口縁端部は直角におさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。	1~3mm 砂粒含 石英	灰白色	

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	物 土 色	調	備考
645	土師質土器 蓋	陶土 P 2	口径 19.7	口縁部は内湾し、全体は半球形 状を呈する。肩は断面台形状を 呈し、やや上向きにつく。口縁 部は平坦におさめる。	口縁部外周から肩面ヨコナデ。 全体外縁粗面に刷毛。口縁部内周 から全体内面ヨコナデ。	粗砂粒合	に赤い實色	
646	土師質土器 三足羽茎	陶土 P 2	口径 25.0	全体は底部より内湾しながら立 て、肩は断面台形状を呈し、やや上 向きにつく。口縁部は方形容におさ める。	口縁部内外面ヨコナデのち粗面 压毛。肩の上下両面ヨコナデ。 全体外面上部から中位沿線平底 のヨコナデ。全体外面中位から 底部底子目タタキ。全体内面 横面压毛。	粗砂粒合	に赤い實色	
647	土師質土器 三足羽茎	陶土 P 2	口径 17.8 腹内径深 3.7 体部底径 22.4 器高 25.8	全体は半球形状を呈し、口縁部 にいたる。肩は断面台形状を 呈し、やや上向きにつく。口縁部 は方形容におさめる。脚付き。	口縁部外周から肩上部ヨコナデ。 脚下部から全体外周中位指頭正 面のヨコナデ。全体外面上部 から下部底子目タタキ。内面ヨ コナデのち指頭正面。	1~2 mm 砂粒合	に赤い實色	

第102表 S A 1038内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	物 土 色	調	備考
648	土師質土器 杯	陶土 P 6	口径11.9 底径 7.5 器高 3.6	全体は外反しながら立ち上がる。 口縁部は外反する。口縁端面 は丸くおさめる。	内外面同軸ナデ。底部系切り。	1 mm大の砂粒 多合	に赤い實色	

第103表 S A 1039内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	物 土 色	調	備考
649	土師質土器 脚部	陶土 P 3	全体最大径 3.6	全体中位より下方にひび。形 状は円錐状を呈する。	全体全面にケズリ。	1~2 mm 砂粒合 石英	浅黃褐色	
650	土師質土器 脚 脚部	陶土 P 3	全体最大径 3.7	全体中位より下方にひび。形 状は円錐状を呈する。	全体全面にケズリ。	1 mm大の砂粒 合 石英 長石	褐色	

第104表 S A 2001内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	物 土 色	調	備考
651	土師質土器 杯	陶土 P 4	口径 11.2	全体はやや内湾しながら立ち上 がる。口縁部はやや外反する。 口縁端部丸くおさめる。	内外面同軸ナデ。	粗砂粒合	淡褐色	
652	瓦質土器 杯	陶土 P 4	口径 27.8	全体は外方へ弧曲的に立ち上 がる。口縁端部は平坦におさめる。	全体内面 5 条/cm のヨコハケノ テクスチャ。	1~3 mm 砂粒合 石英	(外)灰白色 (外)明青灰色	
653	砂器 瓶	陶土 P 5	口径 6.6	全体内面に施釉。見込み部に比 較を当す。	全体外面ヘラケズリ。	1 mm大の砂粒 合 石英	明緑灰色	白

第105表 S A 2003内柱穴出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	物 土 色	調	備考
654	土師質土器 小皿	陶土 P 3	口径 9.0 底径 7.4 器高 1.3	全体は直線的に外方へ立ち上 がる。口縁部は外反する。口縁端 部は丸くおさめる。	内外面同軸ナデ。	1~2 mm 砂粒合	に赤い實色	

第106表 SK 11020出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
655	土師質土器	陶土	口径 12.6 底径 8.6 高さ 2.7	外縁はやや内側しながら立ち上る。口縁部は丸くおさめる。	内外面同様ナナ。底部は削り。砂粒含		(内)浅黄褐色 (外)にぶい褐色	

第107表 SK 1189出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
656	土師質土器	陶土	口径 27.8	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は下方に延長し、端部は半周におさめる。	口縁部外端ヨコナナ。底部へラ切り。	1~3mm 砂粒含	褐色	

第108表 SK 1202出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
657	土師質土器	陶土	口径 13.4 底径 4.9 高さ 3.6	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面同様ナナ。底部へラ切り。のら根ナナ。	1~2mm 砂粒含	にぶい褐色	

第109表 SP 1020出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
658	土師質土器	陶土	口径 8.8 底径 6.8 高さ 1.4	口縁部はやや内側する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面同様ナナ。底部へラ切り。	1~3mm 砂粒含	にぶい褐色	

第110表 SP 1049出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
659	土師質土器	陶土	口径 14.2 底径 9.0 高さ 2.9	口縁部は丸くおさめる。体部は直線的に立ち上がる。	内外面同様ナナ。底部へラ切り。	1~3mm 砂粒含	灰白色	

第111表 SP 1054出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
660	土師質土器	陶土	口径 28.4	体部は外傾しながら直線的に立ち上がる。口縁部はやや上方に傾斜する。	内外面同様ナナ。底部へラ切り。	1~2mm 砂粒含	灰白色	東腰系

第112表 SP 1078出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
661	土師質土器	陶土	口径 10.0 底径 6.2 高さ 1.1	体部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナナ。底部へラ切り。	微砂粒含	淡褐色	

第113表 SP 1098出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備考
662	土師質土器	陶土	口径 8.9 底径 3.8 高さ 1.2	口縁部はやや外反する。底部は丸くおさめる。	内外面同様ナナ。底部へラ切り。	微砂粒含	黃褐色	

第114表 S P 1101出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
663	瓦器 鉢	覆土	口径: 13.4 底径: 7.6 基高: 4.4	口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。 内外面に施釉。内面に施釉による文様。	内外面削離のため不明。	1mmの大砂粒 含	(内)灰白色 (外)灰色 青褐色	
664	磁器 皿	覆土	底径: 7.6			微砂粒含	青オリーブ灰 色	青褐色

第115表 S P 1123出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
665	土師質土 器 鉢	覆土	口径: 13.8 底径: 7.8 基高: 4.4	全体部はやや内凹しながら立ち上がる。口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。	内外面削離ナシ。	1mmの大砂粒 含	淡黃褐色	

第116表 S P 1126出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
666	土師質土 器 杯	覆土	口径: 12.0 底径: 6.5 基高: 0.9	口縁端部はやや外反し、丸くおさめる。	内外面削離ナシ。	1mmの大砂粒 含	淡黃褐色	
667	土師質土 器 盤	覆土	口径: 32.8 底径: 10.8 基高: 9.6	口縁部は「K」の字状に外反する。口縁端部は方形におさめる。	口縁部内外面ヨコナナ。	移栓含	青灰色	

第117表 S P 1127出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
668	七輪質土 器 盤	覆土	口径: 8.4 底径: 6.5 基高: 0.9	体部は直線的にのびる。口縁端部は外反し、丸くおさめる。	内外面削離ナシ。底部へ切り。 移栓含		灰白色	
669	土師質土 器 小皿	覆土	口径: 10.9 底径: 9.6 基高: 3.4	口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面削離ナシ。	1mmの大砂粒 含	灰白色	

第118表 S P 1132出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
670	土師質土 器 杯	覆土	口径: 12.2 底径: 8 基高: 3.4	体部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面削離ナシ。底部削離ヘラ 切り。	1mmの大砂粒 含	灰白色	

第119表 S P 1138出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
671	瓦質土器 底部	覆土	底径: 13.4	底部は平底を呈する。体部は直線的にのびる。	体部外側削離ナシタタキ。底部外 面ハラケツリ。内面ヨコナナ。	微砂粒含	(内)青オリー ブ灰色 (外)青灰色	

第120表 S P 1205出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法量 (cm)	形態の特徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
672	瓦器 鉢	覆土	口径: 14.2 底径: 4.8 基高: 4.4	体部はやや内向する。口縁部は外反する。口縁端部は丸くおさめる。底部は貼りつけ高台。	口縁部内外面ヨコナナ。体部外 面ヒビオサズ。内面ヨコ方向の 粗いヘラミカキ(鉛文)。	1mmの大砂粒 含 石英	灰白色 青灰色	

第121表 S P 1284出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 長 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
673	土師質土 器 小瓶	灰土	口径 底径 器高	8.1 6.8 1.2	体部は直線的に立ち上がる。口 縁部は外反しながら立ち上がる。	内外面同板ナテ。底面ヘラ切り。	1~3mm 砂粒含	に赤い橙色

第122表 S P 1285出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 長 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
674	土師質土 器 小瓶	灰土	口径 底径 器高	7.8 6.5 1.1	体部は外反しながら立ち上がる。 口縁部は外反し、丸くおさめる。	内外面同板ナテ。	1mmの砂粒 含 石英	淡黄褐色

第123表 S P 1759出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 長 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
675	土師質土 器 小瓶	灰土	底径	6.6	底部のみ。	内外面同板ナテ。底面ヘラ切り。	砂粒含	淡黄褐色

第124表 S P 1960出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 長 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
676	土師質土 器 小瓶	灰土	口径 底径 器高	8.2 6.2 1.0	体部は直線的に立ち上がる。口 縁部は外反する。口縁部は 丸くおさめる。	内外面同板ナテ。底面ヘラ切り。	砂粒含	淡黄褐色

第125表 S P 10727出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 長 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
677	土師質土 器 小杯	灰土	口径 底径	10.4 8.2	口縁部は外反する。口縁部は 丸くおさめる。	内外面同板ナテ。	砂粒含	褐色
678	土師質土 器 小杯	灰土	底径	8.2	底部のみ。	内外面同板ナテ。	砂粒含	に赤い橙色

第126表 S P 10756出土遺物観察表

番号	器種	地点 層位	法 長 (cm)	形 態 の 特 徴	技 法	胎 土	色 調	備 考
679	土師質土 器 小瓶	灰土	底径	6.4	体部は直線的にのびる。	内外面同板ナテ。底面ヘラ切り のち板ナテ。	1mmの大砂 含 石英	褐色

第127表 遺物包含層出土遺物観察表

番号	部種	底点 解剖位	計量 (cm)	形態の特徴	執法	胎土	色調	備考
680	土師質土器	A区 H-15 包含層	口径 15.2 底径 9.2 高さ 3.1	体部はやや内凹しながら立ち上る。口縁部はやや外反する。口縁端部は尖り、直線端部はやや尖る。	内外面ヨコナデ。底部へタ切り。 1mm大の砂粒含	白色 金		
681	土師質土器	B区 L-17 包含層	口径 13.2 底径 8.2 高さ 3.0	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は丸く尖らせる。	内外面同軸ナデ。底部削除後切 り。	1mm大の砂粒含	浅黄褐色	
682	土師質土器	C区 M-19 包含層	口径 7.0	体部は直線的に立ち上がる。	内外面ナデ。	1mm大の砂粒含	浅黄褐色	
683	土師質土器	D区 K-15 包含層	口径 12.8 底径 8.4 高さ 1.95	体部は直線的に立ち上がる。口縁部はやや内凹する。口縁端部は丸く尖らせる。	内外面同軸ナデ。	1mm大の砂粒含	白色	
684	土師質土器	E区 L-15 包含層	口径 12.5 底径 9.4 高さ 2.4	体部はやや内凹する。口縁部は丸く尖らせる。	内外面同軸ナデ。	1mm大の砂粒含	(内)浅黄褐色 (外)灰白色	
685	土師質土器	F区 P-18 包含層	口径 12.8 底径 9.2 高さ 2.17	体部は直線的に外傾する。口縁部はやや尖らせる。丸くおきめ	内外面同軸ナデ。	砂粒含	に赤い褐色	
686	土師質土器	G区 M-10 包含層	口径 15.0 底径 9.7 高さ 1.97	体部は直線的にのげる。口縁部は丸くおきめる。底部はやや肥厚し、高台状を呈する。	内外面ナデ。	微砂粒含	褐色	
687	土師質土器	H区 M-10 包含層	口径 11.2 底径 6.21 高さ 1.57	体部はやや外反しながら立ち上る。口縁部は丸く尖らせる。	内外面同軸ナデ。底部へタ切り。 微砂粒含	褐色		
688	土師質土器	I区 S-19 包含層	口径 8.3 底径 6.21 高さ 1.4	体部は直線的に立ち上る。口縁部は丸くおきめる。	内外面同軸ナデ。底部削除へタ 切り。	1~3mm 砂粒含	灰白色	
689	土師質土器	J区 F-11 包含層	口径 8.9 底径 7.0 高さ 1.1	体部はやや外反する。口縁部は丸くおきめる。	内外面同軸ナデ。底部削除へタ 切り。	1mm大の砂粒含	に赤い褐色	
690	土師質土器	K区 D-10 包含層	口径 8.8 底径 6.8 高さ 1.3	体部は直線的に立ち上る。口縁部は丸くおきめる。	内外面ヨコナデ。底部へタ切り。 砂粒含	1~2mm 砂粒含	浅黄褐色	
691	土師質土器	L区 S-19 包含層	口径 8.7 底径 6.5 高さ 1.31	体部は直線的に立ち上る。口縁部は丸くおきめる。	内外面削除へタ切り。	1~3mm 砂粒含	浅黄褐色	
692	土師質土器	M区 包含層	口径 8.7 底径 6.9 高さ 1.4	体部はやや外反しながら立ち上る。口縁部は丸く尖らせる。	内外面同軸ナデ。底部削除。	微砂粒含	褐色	
693	土師質土器	N区 I-16 包含層	口径 8.3 底径 6.6 高さ 1.3	体部は直線的に立ち上る。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおきめる。	内外面同軸ナデ。底部削除。	微砂粒含	に赤い褐色	
694	土師質土器	O区 包含層	口径 7.0 底径 5.4 高さ 1.0	体部はやや外反しながら立ち上る。口縁部は丸くおきめる。	内外面同軸ナデ。	1~3mm 砂粒含	浅黄褐色	
695	土師質土器	P区 M-19 包含層	口径 8.3 底径 7.8 高さ 1.95	体部は直立倒れに立ち上る。口縁部はやや外反する。口縁端部は丸くおきめる。	内外面同軸ナデ。	微砂粒含	浅黄褐色	
696	土師質土器	Q区 包含層	口径 7.5 底径 6.6 高さ 1.1	体部は直線的に立ち上る。口縁部は丸くおきめる。	内外面同軸ナデ。	1mm大の砂粒含	浅黄褐色	

番号	基 標	地 点	法 量 (cm)	形 異 の 特 徴	枝 法	粒 度	色 調	備 考
697	土師質土 器 皿	A区 包含層	底径 8.3	体部は直線的に立ち上がる。	内外面回転ナギ。底部条のり。	1mm大の砂粒含	にぶい褐色	
698	土師質土 器 皿	F区 包含層	口径 26.0	口縁部「く」の字状に外反する。体部はやや膨らむ。	口縁部内外面ヨコナギ。 口縁部は丸くおさめる。	1~3mm 砂粒含	淡褐色	
699	土師質土 器 皿	D区 包含層	口径 20.8	体部はやや内湾しながら立ち上がる。口縁部はやや内湾する。 口縁部は圓錐をなし、丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。 口縁部は圓錐をなし、丸くおさめる。	1~2mm 砂粒含	(内) 棕色 (外) 淡米褐色	
700	土師質土 器 皿	B区 K-17 包含層	口径 25.0	口縁部は内湾する。脇部は断面 三角形状を呈し、水平につく。 口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面と鈍にヨコナギ。 体部外表面傾斜底のちヨコナギ。 口縁部は丸くおさめる。	1~3mm 砂粒含	褐色	
701	土師質土 器 皿	B区 K-17 包含層	口径 26.4	口縁部は直立する。脇部は断面 三角形状を呈し、水平につく。 口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。	1mm弱の砂粒含	淡黃褐色	
702	土師質土 器 皿	B区 K-17 包含層	口径 25	口縁部は丸くおさめる。脇部は断面 三角形状を呈し、やや下向きにつく。 口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。	微砂粒含	灰白色	
703	土師質土 器 皿	G区 O-12 包含層	口径 25.2	口縁部はやや内湾する。脇部は 断面三角形状を呈し、やや下向 きにつく。口縁部は丸くおさ める。	口縁部内外面ヨコナギのち傾斜底。	1~3mm 砂粒含	褐色	
704	土師質土 器 皿	B区 K-17 包含層	口径 13.9	口縁部はやや内湾する。脇部は 断面三角形状を呈し、やや下向 きにつく。口縁部は丸くおさ める。	口縁部外から押下ヨコナギ。 体部外表面傾斜底。内面ヨコナ ギ。	1mm弱の砂粒 含	黃褐色	
705	土師質土 器 皿	B区 K-17 包含層	口径 21.8	口縁部は内湾する。脇は段丘 形をなし、やや上向きにつく。 口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。体部外 面傾斜底。	1~3mm 砂粒含	にぶい黃褐色	
706	土師質土 器 皿	D区 包含層	体部最大径 3.4	体部下半よりのびる。凹陥状を 呈する。	ケズリ。	1~3mm 砂粒含	褐色	
707	土師質土 器 皿	B区 包含層	体部最大径 3.0	体部下半よりのびる。凹陥状を 呈する。	ケズリ。	1mm大砂粒含	淡米褐色	
708	土師質土 器 皿	H区 K-17 包含層	体部最大径 3.4	体部下半よりのびる。凹陥状を 呈する。	ケズリ。	1~3mm 砂粒含	褐色	
709	土師質土 器 皿	D区 包含層	体部最大径 2.8	凹陥状を呈する。	ケズリ。	1~3mm 砂粒含	帶黃褐色	
710	瓦器 碗	F区 包含層	口径 12.7	体部はやや内湾しながら立ち上 がる。口縁部はやや外反する。 口縁部は丸くおさめる。	体部外表面傾斜底。体部内面和 いヨコヘラミガキ(略文)。	1mm大の砂粒含	黑色	
711	瓦器 碗	E区 N-8 包含層	口径 9 3.4 2.2	底部は貼りつけ高台。体部はや や内湾しながら立ち上がる。口 縁部はやや外反する。口縁部は 丸くおさめる。	体部外表面部分的に傾斜底。 体部内面部分的にヘラミガキ (略文)。	砂粒含	灰色	
712	瓦器 小皿	G区 包含層	口径 9.5 1.8	体部はゆるやかに内湾しながら 立ちかる。口縁部は外反する。 口縁部外面に1条の沈窓を有す。 口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナギ。体部外 面傾斜底のち低いナギ。	微砂粒含	褐灰色	

番号	巻 級	地名 部位	法縫 (mm)	形態の特徴	核 法	胎 土	色 調	備考
713	瓦質土器 大鉢	B区 包含層	口径 25.8	口縁部はやや斜張し、よくおさめる。口縁部外側に1条の比較を施す。	内外面ヨコナデ。	1~2 mm 砂粒含	(内)灰白色 (外)灰色	
714	質造土器 器 こね鉢	F区 包含層	口径 23.4	口縁部内面に強いヨコナデによる比較を施す。口縁部は上方に膨張し、方形におさめる。	内外面ヨコナデ。	1 mmの砂粒 含	灰白色	束縛系
715	陶器 盤体	B区 K-17 包含層	口径 27.1	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は下方に膨張し、先端部は既く尖る。	内外面ナデ。	1 mm大の砂粒 含	(内)において 褐色 (外)明赤褐色	偏南型
716	陶器 盤体	B区 包含層	口径 24.1	口縁部は下方に膨張し、先端部は既く尖る。	内外面ヨコナデ。	1~4 mm 砂粒含	において赤褐色	偏南型
717	陶器 盤体	B区 H・I- 13・14 包含層	口径 24.0	口縁部は直立する。口縁部内面に突唇をもつ。口縁部はよくおさめる。口縁部外側に2条の比較を施す。体部内面に4条早いの横接条痕を施す。	内外面ヨコヨコナデ。	1~3 mm 砂粒含	褐色 赤褐色	偏南型
718	陶器 盤体	B区 K-17 包含層	底径 14.0	体部は直線的に立ち上がる。体部内面に7条早いの横接条痕を施す。	体部内外面ヨコナデ。	1 mm大の砂粒 含	(内)灰褐色 (外)において赤 褐色	偏南型
719	陶器 瓶	A区 K-16 包含層	口径 14.6	口縁部は外反する。口縁部を丸くおさめ、水平にする。体部内面に浅い凹線。	凹輪ナデ。	1 mmの砂粒 含	灰白色	白磁
720	陶器 小壺	E区 包含層	口径 3.2	身受部に施跡。外腹片取りによる文様。	圓輪ナデ。	1 mm大の砂粒 含	綠灰色	青緑

写 真 図 版

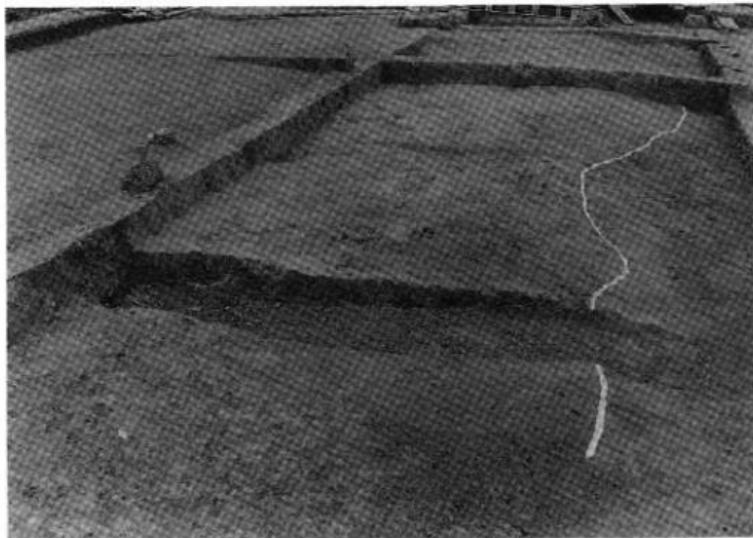


(1) 調査区遠景 南より



(2) 調査前全景

図版 2



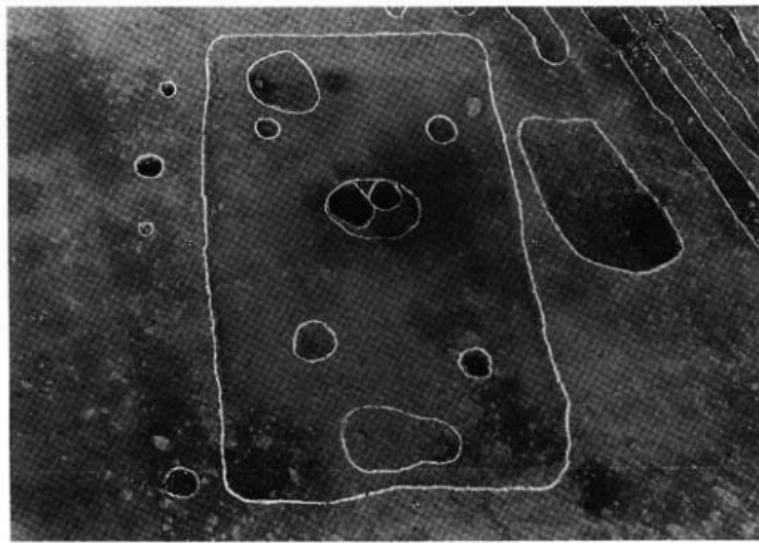
(1) 旧石器出土地点完掘状況



(2) 剥片出土状況

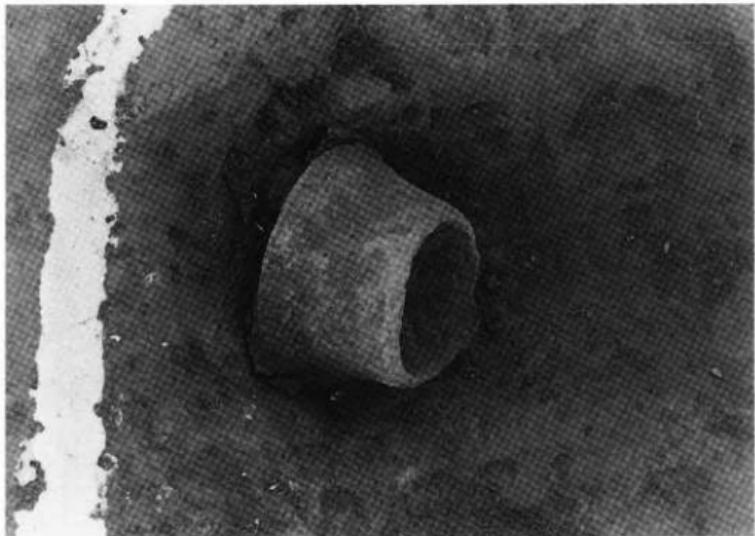


(1) 剥片出土状况

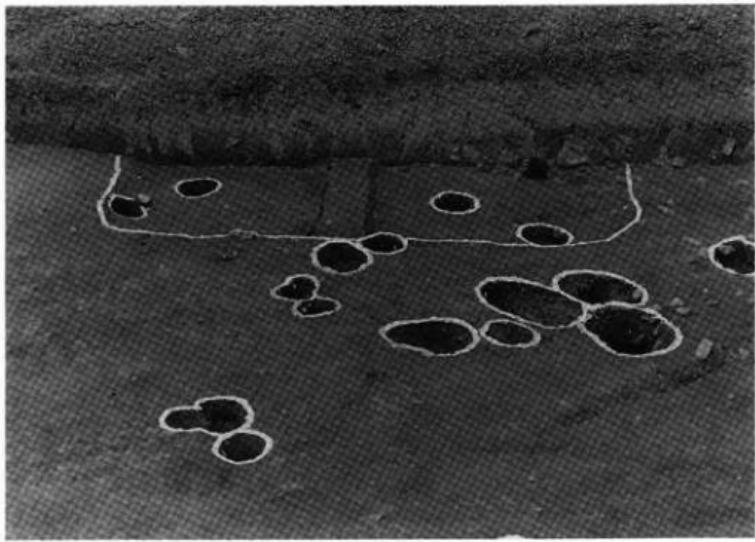


(2) S B 1002完掘状况

図版4



(1) S B 1002遺物出土状況



(2) S B 1004掘り下げ状況

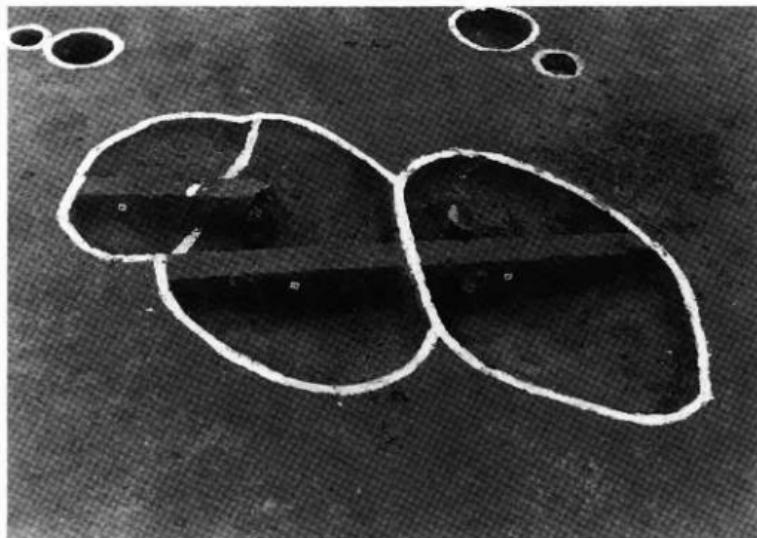


(1) S B 1005完掘状況

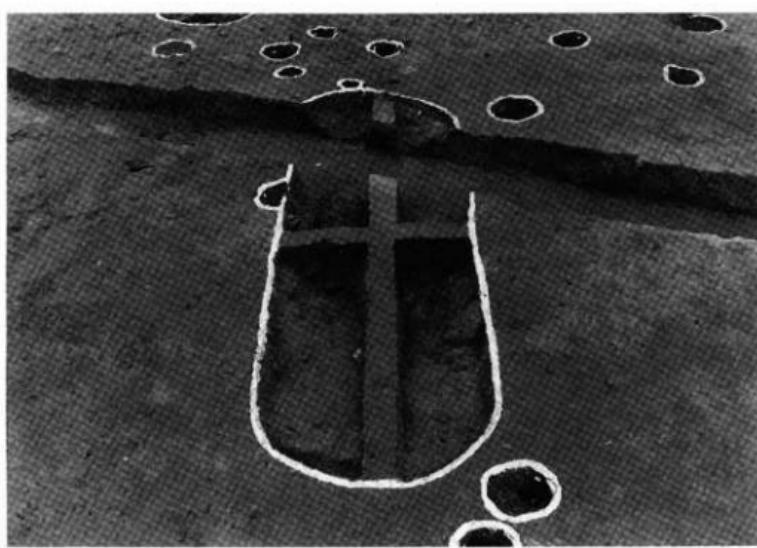


(2) S B 1005遺物出土状況

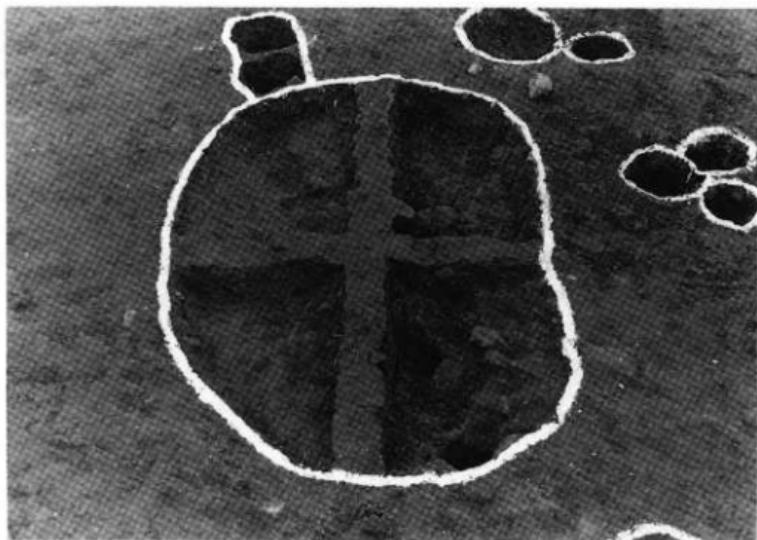
図版 6



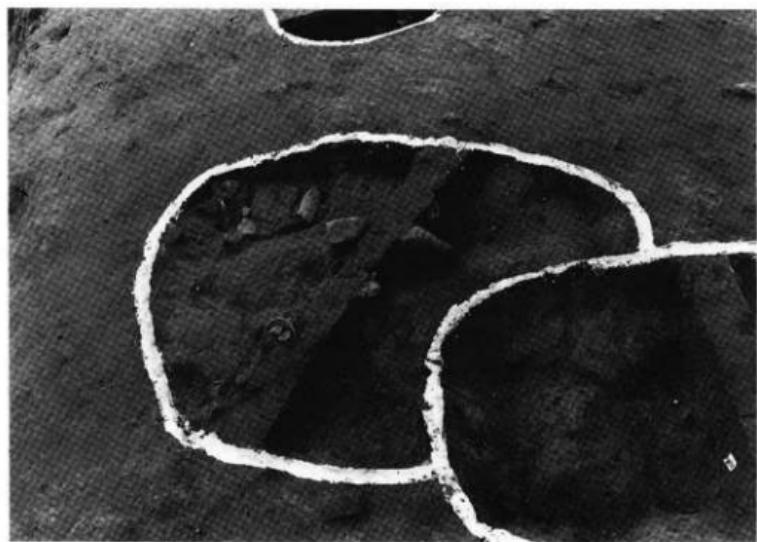
(1) SK 1002、1003、1004掘り下げ状況



(2) SK 1005掘り下げ状況

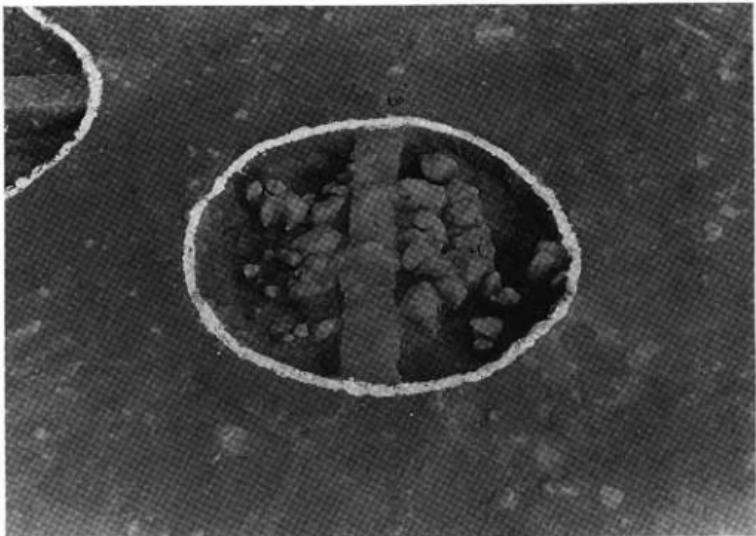


(1) SK 1022掘り下げ状況

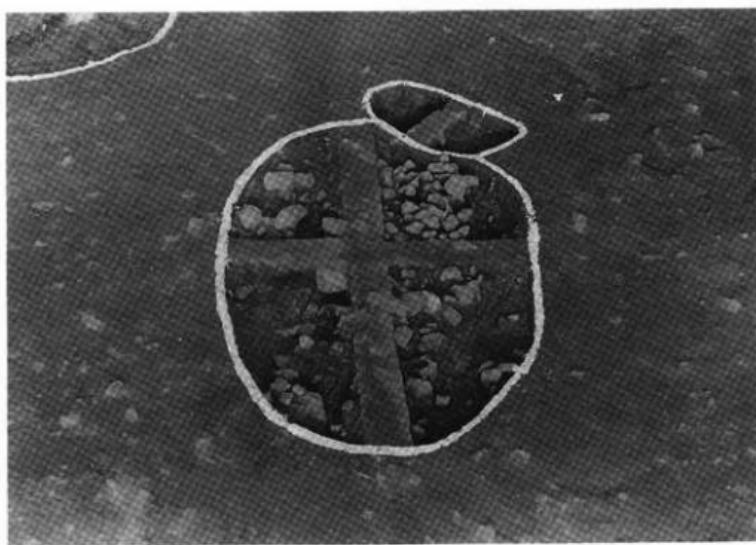


(2) SK 1031掘り下げ状況

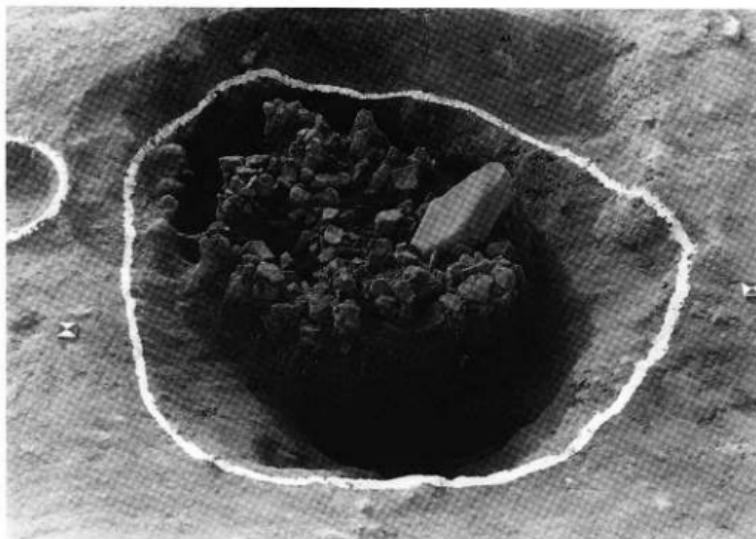
図版 8



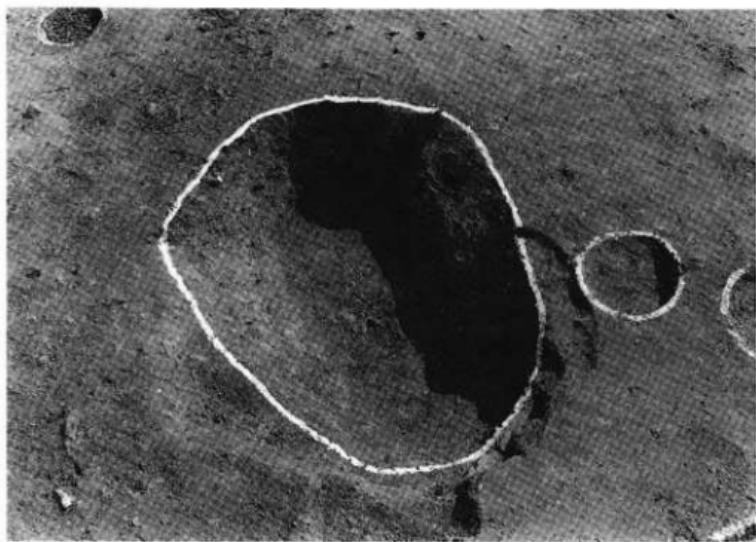
(1) SK 1046掘り下げ状況



(2) SK 1052掘り下げ状況

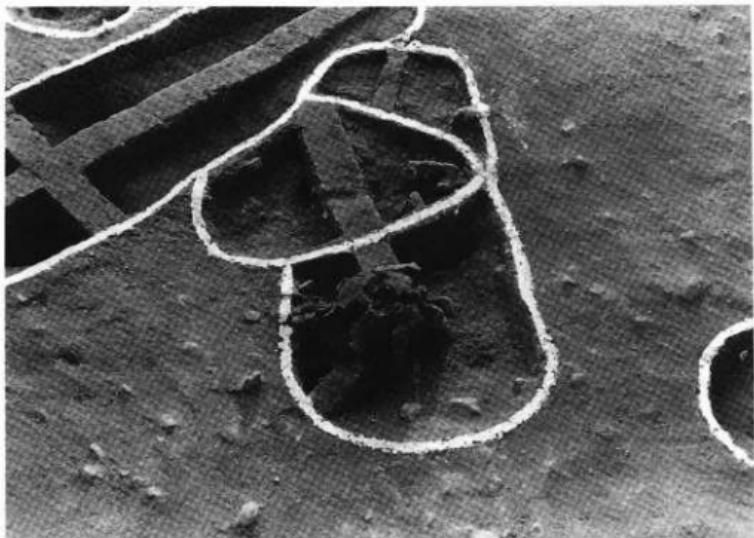


(1) SK 1063掘り下げ状況

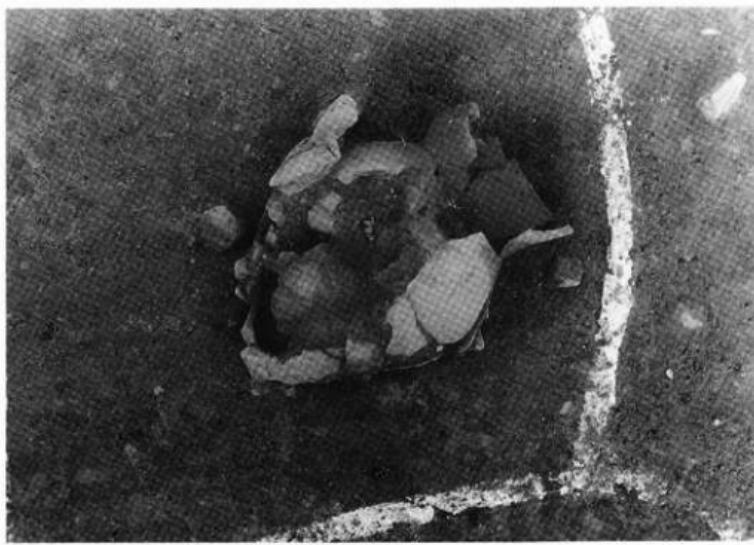


(2) SK 1063発掘状況

図版10



(1) SK 1069掘り下げ状況



(2) SK 1069遺物出土状況